2020年度
スポーツ健康学部
講義概要（シラバス）

法政大学

EDU400IA

教職実践演習

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション (人の前に立つこと) の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習 (事前指導)」になっている
その場にも参加することがあるため、できる限り、教育実習 (事前指導) 及び教職実践演習を連続で参加できること
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】
4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】
This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future.These classes make up for a deficiency of knowledge,skill,caliber and capability of teachers.The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

科目一覧［発行日：2020/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

総合教育科目_外国語科目【M0070】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］春学期授業/Spring 1
総合教育科目_外国語科目【M0080】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］秋学期授業/Fall . . 1
総合教育科目_外国語科目【M0010】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［衣川　清子］年間授業/Yearly 2
総合教育科目_外国語科目【M0071】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］春学期授業/Spring 3
総合教育科目_外国語科目【M0081】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］秋学期授業/Fall . . 4
総合教育科目_外国語科目【M0011】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［鈴木　美穂］年間授業/Yearly 4
総合教育科目_外国語科目【M0072】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］春学期授業/Spring 5
総合教育科目_外国語科目【M0082】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］秋学期授業/Fall . . 6
総合教育科目_外国語科目【M0012】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［松下　晴彦］年間授業/Yearly 7
総合教育科目_外国語科目【M0073】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］春学期授業/Spring 8
総合教育科目_外国語科目【M0083】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］秋学期授業/Fall 9
総合教育科目_外国語科目【M0013】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［村井　三千男］年間授業/Yearly . . . 10
総合教育科目_外国語科目【M0074】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［桑原　洋］春学期授業/Spring . . 11
総合教育科目_外国語科目【M0084】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［桑原　洋］秋学期授業/Fall 12
総合教育科目_外国語科目【M0014】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［桑原　洋］年間授業/Yearly 13
総合教育科目_外国語科目【M0075】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］春学期授業/Spring 14
総合教育科目_外国語科目【M0085】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］秋学期授業/Fall 15
総合教育科目_外国語科目【M0015】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［川田　アマンディーン］年間授業/Yearly 16
総合教育科目_外国語科目【M0076】総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］春学期授業/Spring 17
総合教育科目_外国語科目【M0086】総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］秋学期授業/Fall . . 18
総合教育科目_外国語科目【M0016】総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】［大塚　孝一］年間授業/Yearly 19
総合教育科目_外国語科目【M0090】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］春学期授業/Spring 21
総合教育科目_外国語科目【M0100】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］秋学期授業/Fall . . 22
総合教育科目_外国語科目【M0020】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［相馬　美明］年間授業/Yearly . . . 23
総合教育科目_外国語科目【M0091】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］春学期授業/Spring 24
総合教育科目_外国語科目【M0101】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］秋学期授業/Fall 25
総合教育科目_外国語科目【M0021】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［式町　眞紀子］年間授業/Yearly . . 26
総合教育科目_外国語科目【M0092】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［小川　真也］春学期授業/Spring 27
総合教育科目_外国語科目【M0102】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［小川　真也］秋学期授業/Fall . . 28
総合教育科目_外国語科目【M0022】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［小川　真也］年間授業/Yearly . . . 29
総合教育科目_外国語科目【M0093】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］春学期授業/Spring . . 30
総合教育科目_外国語科目【M0103】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］秋学期授業/Fall 31
総合教育科目_外国語科目【M0023】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［石井　創］年間授業/Yearly 32
総合教育科目_外国語科目【M0094】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］春学期授業/Spring 34
総合教育科目_外国語科目【M0104】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］秋学期授業/Fall . . 34
総合教育科目_外国語科目【M0024】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［浦川　智子］年間授業/Yearly . . . 35
総合教育科目_外国語科目【M0095】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］春学期授業/Spring 36
総合教育科目_外国語科目【M0105】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］秋学期授業/Fall . . 37
総合教育科目_外国語科目【M0025】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［蒔田　裕美］年間授業/Yearly . . . 38
総合教育科目_外国語科目【M0096】総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA Jana］春学期授業/Spring 39
総合教育科目_外国語科目【M0106】総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA Jana］秋学期授業/Fall 40
総合教育科目_外国語科目【M0026】総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】［URBANOVA Jana］年間授業/Yearly 41
総合教育科目_外国語科目【M0110】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［桑原　洋］春学期授業/Spring . . 42
総合教育科目_外国語科目【M0120】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［桑原　洋］秋学期授業/Fall 43
総合教育科目_外国語科目【M0030】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［桑原　洋］年間授業/Yearly 44
総合教育科目_外国語科目【M0111】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］春学期授業/Spring 45
総合教育科目_外国語科目【M0121】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［村井　三千男］秋学期授業/Fall 46
総合教育科目_外国語科目【M0031】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［村井　三千男］年間授業/Yearly . . 47
総合教育科目_外国語科目【M0112】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］春学期授業/Spring 48

総合教育科目_外国語科目【M0122】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［大塚　孝一］秋学期授業/Fall .. 49
総合教育科目_外国語科目【M0032】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［大塚　孝一］年間授業/Yearly ... 50
総合教育科目_外国語科目【M0113】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］春学期授業/Spring 51
総合教育科目_外国語科目【M0123】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［松下　晴彦］秋学期授業/Fall .. 52
総合教育科目_外国語科目【M0033】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［松下　晴彦］年間授業/Yearly ... 53
総合教育科目_外国語科目【M0114】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］春学期授業/Spring 54
総合教育科目_外国語科目【M0124】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［衣川　清子］秋学期授業/Fall .. 54
総合教育科目_外国語科目【M0034】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［衣川　清子］年間授業/Yearly ... 55
総合教育科目_外国語科目【M0115】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］春学期授業/Spring 56
総合教育科目_外国語科目【M0125】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［鈴木　美穂］秋学期授業/Fall .. 57
総合教育科目_外国語科目【M0035】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［鈴木　美穂］年間授業/Yearly ... 58
総合教育科目_外国語科目【M0116】総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］春学期授業/Spring ... 59
総合教育科目_外国語科目【M0126】総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】［川田　アマンディーン］秋学期授業/Fall ... 60
総合教育科目_外国語科目【M0036】総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】［川田　アマンディーン］年間授業/Yearly ... 61
総合教育科目_外国語科目【M0130】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］春学期授業/Spring.. 62
総合教育科目_外国語科目【M0140】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［石井　創］秋学期授業/Fall 63
総合教育科目_外国語科目【M0040】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［石井　創］年間授業/Yearly 64
総合教育科目_外国語科目【M0131】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］春学期授業/Spring 65
総合教育科目_外国語科目【M0141】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［浦川　智子］秋学期授業/Fall .. 66
総合教育科目_外国語科目【M0041】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［浦川　智子］年間授業/Yearly ... 67
総合教育科目_外国語科目【M0132】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］春学期授業/Spring 68
総合教育科目_外国語科目【M0142】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［蒔田　裕美］秋学期授業/Fall .. 69
総合教育科目_外国語科目【M0042】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［蒔田　裕美］年間授業/Yearly ... 70
総合教育科目_外国語科目【M0133】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］春学期授業/Spring 71
総合教育科目_外国語科目【M0143】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［相馬　美明］秋学期授業/Fall .. 72
総合教育科目_外国語科目【M0043】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［相馬　美明］年間授業/Yearly ... 73
総合教育科目_外国語科目【M0134】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［小川　真也］春学期授業/Spring 74
総合教育科目_外国語科目【M0144】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［小川　真也］秋学期授業/Fall .. 75
総合教育科目_外国語科目【M0044】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［小川　真也］年間授業/Yearly ... 76
総合教育科目_外国語科目【M0135】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA Jana］春学期授業/Spring ... 77
総合教育科目_外国語科目【M0145】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［URBANOVA Jana］秋学期授業/Fall ... 78
総合教育科目_外国語科目【M0045】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［URBANOVA Jana］年間授業/Yearly 79
総合教育科目_外国語科目【M0136】総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］春学期授業/Spring 81
総合教育科目_外国語科目【M0146】総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】［式町　眞紀子］秋学期授業/Fall 82
総合教育科目_外国語科目【M0046】総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】［式町　眞紀子］年間授業/Yearly.. 83
総合教育科目_外国語科目【M0150】英語コミュニケーションⅠ（a）［URBANOVA Jana］春学期授業/Spring 84
総合教育科目_外国語科目【M0160】英語コミュニケーションⅠ（b）［URBANOVA Jana］秋学期授業/Fall..... 85
総合教育科目_外国語科目【M0050】英語コミュニケーションⅠ［URBANOVA Jana］年間授業/Yearly..... 86
総合教育科目_外国語科目【M0170】英語コミュニケーションⅡ（a）［Nemes Roland］春学期授業/Spring 88
総合教育科目_外国語科目【M0180】英語コミュニケーションⅡ（b）［Nemes Roland］秋学期授業/Fall 89
総合教育科目_外国語科目【M0060】英語コミュニケーションⅡ［Nemes Roland］年間授業/Yearly 90
総合教育科目_外国語科目【M0190】日本語 1-Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 91
総合教育科目_外国語科目【M0200】日本語 1-Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall..... 92
総合教育科目_外国語科目【M0191】日本語 1-Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 92
総合教育科目_外国語科目【M0201】日本語 1-Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall..... 93
総合教育科目_外国語科目【M0192】日本語 1-Ⅰ［李　址遠］春学期授業/Spring 94
総合教育科目_外国語科目【M0202】日本語 1-Ⅱ［李　址遠］秋学期授業/Fall..... 95
総合教育科目_外国語科目【M0193】日本語 1-Ⅰ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 95
総合教育科目_外国語科目【M0203】日本語 1-Ⅱ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall..... 96
総合教育科目_外国語科目【M0210】日本語 2-Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 96
総合教育科目_外国語科目【M0220】日本語 2-Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall..... 97
総合教育科目_外国語科目【M0211】日本語 2-Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 97

総合教育科目_外国語科目【M0221】日本語 2-Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 98
総合教育科目_外国語科目【M0212】日本語 2-Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 98
総合教育科目_外国語科目【M0222】日本語 2-Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 99
総合教育科目_外国語科目【M0213】日本語 2-Ⅰ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 99
総合教育科目_外国語科目【M0223】日本語 2-Ⅱ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 100
総合教育科目_外国語科目【M0230】日本語 3-Ⅰ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 100
総合教育科目_外国語科目【M0240】日本語 3-Ⅱ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 101
総合教育科目_外国語科目【M0231】日本語 3-Ⅰ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 102
総合教育科目_外国語科目【M0241】日本語 3-Ⅱ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 103
総合教育科目_外国語科目【M0233】日本語 3-Ⅰ［宮本　典以子］春学期授業/Spring 103
総合教育科目_外国語科目【M0243】日本語 3-Ⅱ［宮本　典以子］秋学期授業/Fall 104
総合教育科目_外国語科目【M0232】日本語 3-Ⅰ［村上　佳恵］春学期授業/Spring 105
総合教育科目_外国語科目【M0242】日本語 3-Ⅱ［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 105
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0330】スポーツ健康学入門［安藤 正志］春学期授業/Spring 106
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0331】スポーツ健康学入門［泉　重樹］春学期授業/Spring 107
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0332】スポーツ健康学入門［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 108
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0333】スポーツ健康学入門［井上　尊寛］春学期授業/Spring 109
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0334】スポーツ健康学入門［鬼頭　英明］春学期授業/Spring 110
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0335】スポーツ健康学入門［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 111
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0336】スポーツ健康学入門［高見 京太］春学期授業/Spring 112
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0337】スポーツ健康学入門［山本 浩］春学期授業/Spring 113
総合教育科目_視野形成科目（必修）【M0320】スポーツとキャリア形成［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 114
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0520】数学［坂本　寛］春学期授業/Spring 115
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0530】経営学［新海 貴弘］春学期授業/Spring 116
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0540】法学（日本国憲法）［森　浩寿］春学期授業/Spring 117
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0550】コミュニケーション論［山本 浩］春学期授業/Spring 118
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0560】人間とスポーツ［成田 道彦］秋学期授業/Fall 120
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0570】女性とスポーツ［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall 121
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0600】情報リテラシーⅠ［新海 貴弘］春学期授業/Spring 122
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0610】情報リテラシーⅡ［新海 貴弘］秋学期授業/Fall 124
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0601】情報リテラシーⅠ［新海 貴弘］春学期授業/Spring 125
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0611】情報リテラシーⅡ［新海 貴弘］秋学期授業/Fall 127
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0602】情報リテラシーⅠ［新海 貴弘］春学期授業/Spring 128
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0612】情報リテラシーⅡ［新海 貴弘］秋学期授業/Fall 130
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0630】スポーツレクリエーション論［谷本　都栄］秋学期授業/Fall 131
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0680】統計学Ⅰ［笹井　浩行］春学期授業/Spring 132
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0690】統計学Ⅱ［笹井　浩行］秋学期授業/Fall 133
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0660】哲学［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 134
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0670】生命倫理［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 135
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0700】保健体育概論［永木　耕介］春学期授業/Spring 136
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0710】障害者福祉論［山岸　倫子］春学期授業/Spring 137
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0720】音楽文化論［関野　直樹］春学期授業/Spring 138
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0730】基礎科学［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 139
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0740】多摩地域形成論［池田　寛二］秋学期授業/Fall 140
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0750】キャリアデザイン論春学期授業/Spring 141
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0751】キャリアデザイン論春学期授業/Spring 142
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0760】ＪＵＤＯ［永木　耕介］春学期授業/Spring 143
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0770】スポーツ健康学海外演習［泉　重樹、伊藤　真紀］秋学期授業/Fall144
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0800】スポーツ健康学特講［ＨＡＮＳ－ＪＯＥＲＧ　ＳＴＩＥＨＬＥＲ］
秋学期授業/Fall 145
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0801】スポーツ健康学特講［Sungick Min］春学期授業/Spring 146
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0803】スポーツ健康学特講［村上　佳恵］春学期授業/Spring 147
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0804】スポーツ健康学特講［村上　佳恵］秋学期授業/Fall 147
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0790】アスリートキャリア論［成田 道彦］秋学期授業/Fall 148
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0780】オリンピック・パラリンピックを考える［鈴木　良則 ］秋学期授
業/Fall 149
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1150】生理学［高見 京太］春学期授業/Spring 150

専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1010】生理学 A ［高見 京太］春学期授業/Spring 151
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1160】機能解剖学Ａ［泉　重樹］春学期授業/Spring 152
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1020】機能解剖学［泉　重樹］春学期授業/Spring 153
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1040】スポーツ哲学［早瀬 健介］春学期授業/Spring 154
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1630】スポーツ社会学［海老島　均］春学期授業/Spring 156
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1050】スポーツ運動学Ⅰ ［工藤 裕仁］春学期授業/Spring 157
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1170】ヘルスデザイン論［安藤 正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall . 158
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1130】健康科学［安藤 正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall 159
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1070】スポーツ心理学Ａ［本郷　由貴］秋学期授業/Fall 160
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1140】スポーツ史［山本 浩］秋学期授業/Fall 161
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1080】運動生理学概論［高見 京太］春学期授業/Spring 163
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］春学期授業/Spring . 164
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1120】スポーツマネジメント論［川崎　登志喜］秋学期授業/Fall 166
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ ［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 167
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1790】スポーツコーチング論 A　［平野　裕一］秋学期授業/Fall 167
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1461】スポーツ実習入門［苅部　俊二］春学期授業/Spring 169
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1465】スポーツ実習入門［苅部　俊二］春学期授業/Spring 170
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1460】スポーツ実習入門［川田　尚弘］春学期授業/Spring 171
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1464】スポーツ実習入門［川田　尚弘］春学期授業/Spring 172
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1462】スポーツ実習入門［永木　耕介］春学期授業/Spring 173
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1466】スポーツ実習入門［永木　耕介］春学期授業/Spring 174
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1463】スポーツ実習入門［成田 道彦］春学期授業/Spring 175
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1467】スポーツ実習入門［成田 道彦］春学期授業/Spring 176
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1420】陸上競技実習［苅部　俊二］春学期授業/Spring 177
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1471】ラケットスポーツ実習［植村　直己］春学期授業/Spring 178
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1470】ラケットスポーツ実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring 179
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1441】スイミング実習［金田　和也］春学期授業/Spring 180
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1440】スイミング実習［八塚　明憲］春学期授業/Spring 181
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1480】ボールスポーツ実習［Nemes Roland］春学期授業/Spring 182
専門教育科目_専門基礎科目（実技科目）【M1481】ボールスポーツ実習［Nemes Roland］秋学期授業/Fall 182
専門教育科目_専門基幹科目【M1610】スポーツコーチング論Ⅰ　［平野　裕一］秋学期授業/Fall 183
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】スポーツトレーニング論Ⅰ ［平野　裕一］春学期授業/Spring 184
専門教育科目_専門基幹科目【M1760】スポーツ法学Ⅰ ［森　浩寿］秋学期授業/Fall 185
専門教育科目_専門基幹科目【M1750】スポーツビジネス論Ⅰ　［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 186
専門教育科目_専門基幹科目【M1670】生理学Ｂ［高見 京太］秋学期授業/Fall 186
専門教育科目_専門基幹科目【M1780】予防医学概論［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 188
専門教育科目_専門基幹科目【M1030】衛生学［鬼頭　英明］秋学期授業/Fall 189
専門教育科目_専門基幹科目【M1100】スポーツ栄養学［長谷川　祐子］春学期授業/Spring 190
専門教育科目_専門基幹科目【M1110】スポーツバイオメカニクス［工藤 裕仁］春学期授業/Spring 191
専門教育科目_専門基幹科目【M1700】公衆衛生学［鬼頭　英明］秋学期授業/Fall 192
専門教育科目_専門基幹科目【M1770】体力測定・評価論［高見 京太、泉　重樹］春学期授業/Spring 193
専門教育科目_専門基幹科目【M1740】学校保健［鬼頭　英明］春学期授業/Spring 194
専門教育科目_専門基幹科目【M1800】機能解剖学Ｂ［加藤　基］秋学期授業/Fall 194
専門教育科目_専門基幹科目【M3070】スポーツ産業論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 196
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ ［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 197
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2010】運動療法総論［安藤 正志、林田　はるみ］秋学期授業/Fall 198
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2020】リハビリテーション概論［昇　寛］春学期授業/Spring 199
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2230】健康と疾患［安藤 正志］春学期授業/Spring 200
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2040】アスレティックトレーナー概論［泉　重樹］秋学期授業/Fall201
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1680】スポーツコンディショニング論Ⅰ ［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 202
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2050】スポーツコンディショニング論Ⅱ ［春日井　有輝］春学期授業/Spring 203
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2350】テーピング・コンディショニング指導論Ⅰ　［春日井　有輝］春学期授業/Spring 204
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2360】テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ　［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 205

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2240】テーピング・コンディショニング指導論　［春日井　有輝］年間授業/Yearly 206
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2060】運動処方・負荷テスト［木下　訓光］春学期授業/Spring . . 207
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2370】スポーツ医学A［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 208
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2250】スポーツ医学（内科系）［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring . 209
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2080】生活習慣病と身体活動［木下　訓光］春学期授業/Spring . . 211
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2090】運動生理学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 213
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2380】アスレティックリハビリテーションⅠ［泉　重樹］春学期授業/Spring 214
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2390】アスレティックリハビリテーションⅡ［春日井　有輝］秋学期授業/Fall 215
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2110】アスレティックリハビリテーション［泉　重樹］春学期授業/Spring 216
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2400】スポーツ医学B［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 217
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2260】スポーツ医学（外科系）［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 218
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］春学期授業/Spring219
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2130】ジョギング・ウォーキング実習［成田 道彦］春学期授業/Spring221
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2131】ジョギング・ウォーキング実習［成田 道彦］秋学期授業/Fall222
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2140】フィットネス・トレーニング実習［伊藤　良彦、高見 京太］春学期授業/Spring 223
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2141】フィットネス・トレーニング実習［伊藤　良彦、高見 京太］春学期授業/Spring 224
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2150】エアロビック運動実習［林田　はるみ］秋学期授業/Fall . . . 225
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2280】健康増進施設実習　［高見 京太］年間授業/Yearly 226
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2291】スポーツ現場実習 A［泉　重樹］年間授業/Yearly 227
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2292】スポーツ現場実習 B　［春日井　有輝］年間授業/Yearly . . 228
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2170】スポーツリハビリテーション実習［安藤 正志］春学期授業/Spring 229
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2270】体力測定・評価実習［高見 京太、泉　重樹］秋学期授業/Fall230
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2271】体力測定・評価実習［高見 京太、泉　重樹］秋学期授業/Fall231
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2190】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 232
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2191】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 233
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2310】運動学実習　［安藤 正志］秋学期授業/Fall 234
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2320】スポーツ医科学実習　［木下　訓光、瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 235
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2321】スポーツ医科学実習　［木下　訓光、瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 237
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2330】Health and Exercise Sciences［笹井　浩行］秋学期授業/Fall239
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2340】Strength training［泉　重樹］秋学期授業/Fall 240
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3010】レジャー論［谷本　都栄］春学期授業/Spring 241
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3020】スポーツ経済論［宮下　量久］秋学期授業/Fall 242
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3160】地域スポーツ経営論［川田　尚弘］春学期授業/Spring . . 243
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3210】スポーツ組織論［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall 244
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M0620】スポーツとまちづくり［伊藤　真紀］秋学期授業/Fall . . . 245
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M1650】スポーツ文化論［早瀬 健介］春学期授業/Spring 246
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3040】スポーツ取材論［増島 みどり］秋学期授業/Fall 248
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3050】スポーツと政治［赤堀　宏幸］春学期授業/Spring 249
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3060】スポーツマーケティング論［井上　尊寛］春学期授業/Spring250
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3070】スポーツ産業論［吉田　政幸］春学期授業/Spring 251
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論［山本 浩］秋学期授業/Fall 252
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3090】スポーツ行政論［川崎　登志喜］秋学期授業/Fall 254
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3220】スポーツ消費者行動論［吉田　政幸］秋学期授業/Fall . . . 255
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3100】スポーツイベント論［吉田　政幸］秋学期授業/Fall 256
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3170】スポーツビジネス論Ⅱ［伊藤　真紀］春学期授業/Spring 257
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3180】スポーツ法学Ⅱ［飯田　研吾］秋学期授業/Fall 258
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3120】スポーツジャーナリズム論（新聞）［荻田　則夫］秋学期授業/Fall 259

専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3130】スポーツジャーナリズム論（放送）［佐塚　元章］秋学期授業/Fall 260
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3140】スポーツ政策論［森岡　裕策］秋学期授業/Fall 262
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3190】スポーツビジネス論Ⅲ［町田　樹］春学期授業/Spring . 263
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3150】マーケティングリサーチ実習［井上　尊寛］春学期授業/Spring264
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3250】マーケティングリサーチ実習［井上　尊寛］年間授業/Yearly265
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】マーケティングリサーチ演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall266
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3200】Sport Consumer Behavior［吉田　政幸］秋学期授業/Fall267
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3250】スポーツビジネス海外演習［吉田　政幸、伊藤　真紀］春学期授業/Spring 268
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4010】トップアスリート論［増島 みどり］春学期授業/Spring 270
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4020】スポーツトレーニング論Ⅱ［平野　裕一］秋学期授業/Fall271
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4490】スポーツ運動学［工藤 裕仁］春学期授業/Spring 272
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4030】スポーツ運動学Ⅱ［工藤 裕仁］春学期授業/Spring . . . 273
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4500】スポーツコーチング論Ｂ［Nemes Roland］秋学期授業/Fall 274
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4040】スポーツコーチング論Ⅱ［Nemes Roland］秋学期授業/Fall 275
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4050】スポーツ戦略・戦術論［平野　裕一、Nemes Roland］春学期授業/Spring 276
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M1690】スポーツ心理学Ｂ［本郷　由貴］秋学期授業/Fall 277
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M0700】保健体育概論［永木　耕介］春学期授業/Spring 278
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4510】スポーツ戦術論（サッカー）［川田　尚弘］秋学期授業/Fall279
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4520】スポーツ戦術論（ハンドボール）［Nemes Roland］春学期授業/Spring 279
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4530】ダンス実習［町田　樹］春学期授業/Spring 280
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4250】ダンス指導論演習［小川　洋子］秋学期授業/Fall 282
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4251】ダンス指導論演習［小川　洋子］秋学期授業/Fall 283
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4540】剣道実習［山﨑　廣道］春学期授業/Spring 284
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4541】剣道実習［山﨑　廣道］春学期授業/Spring 285
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4281】剣道指導論実習［山﨑　廣道］春学期授業/Spring 286
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4280】剣道指導論実習［山﨑　廣道］春学期授業/Spring 287
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4550】剣道指導論演習［古澤　伸晃］秋学期授業/Fall 288
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4551】剣道指導論演習［古澤　伸晃］秋学期授業/Fall 289
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4561】器械運動実習［佐藤　彩乃］春学期授業/Spring 290
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4560】器械運動実習［佐藤　彩乃］春学期授業/Spring 291
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4290】器械運動指導論実習［佐藤　彩乃］春学期授業/Spring 292
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4291】器械運動指導論実習［佐藤　彩乃］春学期授業/Spring 293
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4570】器械運動指導論演習［小野田　桂子］秋学期授業/Fall . 294
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4580】体つくり運動実習［新海　萌子］春学期授業/Spring . . 295
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4581】体つくり運動実習［新海　萌子］春学期授業/Spring . . 296
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4300】体つくり運動指導論実習［新海　萌子］春学期授業/Spring297
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4301】体つくり運動指導論実習［新海　萌子］春学期授業/Spring298
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4590】体つくり運動指導論演習［小野田　桂子］秋学期授業/Fall299
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4600】サッカー実習［川田　尚弘］春学期授業/Spring 300
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4601】サッカー実習［川田　尚弘］春学期授業/Spring 301
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4310】サッカー指導論実習［川田　尚弘］春学期授業/Spring 302
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4311】サッカー指導論実習［川田　尚弘］春学期授業/Spring 303
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4320】サッカー指導論演習［井上　尊寛］秋学期授業/Fall . . . 304
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4321】サッカー指導論演習［川田　尚弘］秋学期授業/Fall . . . 305
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4610】バレーボール実習［山田　稔］春学期授業/Spring 306
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4430】バレーボール指導論実習［山田　稔］春学期授業/Spring308
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4440】バレーボール指導論演習［山田　稔］秋学期授業/Fall . 310
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4620】バスケットボール実習［清水　貴司］春学期授業/Spring312
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4621】バスケットボール実習［山口　良博］春学期授業/Spring313
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4460】バスケットボール指導論演習［清水　貴司］秋学期授業/Fall 314

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4461】バスケットボール指導論演習［山口　良博］秋学期授業/Fall 315
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4450】バスケットボール指導論実習［清水　貴司］春学期授業/Spring 316
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4451】バスケットボール指導論実習［山口　良博］春学期授業/Spring 317
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4630】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring 318
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4631】テニス実習［植村　直己］春学期授業/Spring 319
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4330】テニス指導論実習［植村　直己］春学期授業/Spring . . 320
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4331】テニス指導論実習［植村　直己］春学期授業/Spring . . 321
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4340】テニス指導論演習［植村　直己］秋学期授業/Fall 322
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4640】バドミントン実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring . . 323
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4370】バドミントン指導論実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring324
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4380】バドミントン指導論演習［升　佑二郎］秋学期授業/Fall325
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4650】ソフトボール実習［佐藤　理恵］春学期授業/Spring . . 326
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4390】ソフトボール指導論実習［佐藤　理恵］春学期授業/Spring327
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4400】ソフトボール指導論演習［大田　穂］秋学期授業/Fall . 328
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4760】陸上競技実習［苅部　俊二］春学期授業/Spring 329
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4350】陸上競技指導論実習［苅部　俊二］春学期授業/Spring 330
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4360】陸上競技指導論演習［苅部　俊二］秋学期授業/Fall . . . 331
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4660】野外教育実習（スノー）［高見 京太］秋学期授業/Fall . 332
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4470】野外教育指導論演習（スノー) ［高見 京太］秋学期授業/Fall 333
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4670】柔道実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring 334
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4671】柔道実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring 334
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4260】柔道指導論実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring . . 335
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4261】柔道指導論実習［佐藤　伸一郎］春学期授業/Spring . . 336
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4270】武道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 337
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4271】武道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 338
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4680】柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 339
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4681】柔道指導論演習［佐藤　伸一郎］秋学期授業/Fall 340
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4771】スイミング実習［金田　和也］春学期授業/Spring 340
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4770】スイミング実習［八塚　明憲］春学期授業/Spring 342
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4421】スイミング指導論演習［金田　和也］秋学期授業/Fall . 343
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4410】スイミング指導論実習［八塚　明憲］春学期授業/Spring344
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4411】スイミング指導論実習［金田　和也］春学期授業/Spring345
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4420】スイミング指導論演習［八塚　明憲］秋学期授業/Fall . 346
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4690】ハンドボール実習［Nemes Roland］春学期授業/Spring347
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4700】ハンドボール指導論演習［Nemes Roland］秋学期授業/Fall 348
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4710】青少年指導実習（サッカー）［川田　尚弘］秋学期授業/Fall349
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4720】青少年指導実習（陸上）［苅部　俊二］春学期授業/Spring349
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4730】野外教育実習（マリン）［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 350
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4480】野外教育指導論演習（マリン）［井上　尊寛］秋学期授業/Fall 351
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4740】野外教育実習（キャンプ）［永木　耕介、井上　尊寛、鬼頭　英明］春学期授業/Spring 352
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4750】スポーツコーチング海外演習［井上　尊寛、川田　尚弘］秋学期授業/Fall 353
専門教育科目_専門演習【M5010】専門演習Ⅰ［安藤 正志］年間授業/Yearly 354
専門教育科目_専門演習【M5020】専門演習Ⅰ［飯村　周平］年間授業/Yearly 355
専門教育科目_専門演習【M5011】専門演習Ⅰ［泉　重樹］年間授業/Yearly 356
専門教育科目_専門演習【M5030】専門演習Ⅰ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 357
専門教育科目_専門演習【M5012】専門演習Ⅰ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 358
専門教育科目_専門演習【M5014】専門演習Ⅰ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 359
専門教育科目_専門演習【M5015】専門演習Ⅰ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 360
専門教育科目_専門演習【M5016】専門演習Ⅰ［木下　訓光］年間授業/Yearly 361

専門教育科目_専門演習【M5028】専門演習Ⅰ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 362
専門教育科目_専門演習【M5018】専門演習Ⅰ［高見 京太］年間授業/Yearly 363
専門教育科目_専門演習【M5019】専門演習Ⅰ［永木　耕介］年間授業/Yearly 364
専門教育科目_専門演習【M5021】専門演習Ⅰ［成田 道彦］年間授業/Yearly 365
専門教育科目_専門演習【M5029】専門演習Ⅰ［Nemes Roland］年間授業/Yearly 366
専門教育科目_専門演習【M5024】専門演習Ⅰ［平野　裕一］年間授業/Yearly 367
専門教育科目_専門演習【M5022】専門演習Ⅰ［林　容市］年間授業/Yearly 368
専門教育科目_専門演習【M5026】専門演習Ⅰ［山本 浩］年間授業/Yearly 369
専門教育科目_専門演習【M5027】専門演習Ⅰ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 371
専門教育科目_専門演習【M5110】専門演習Ⅱ［安藤 正志］年間授業/Yearly 373
専門教育科目_専門演習【M5120】専門演習Ⅱ［飯村　周平］年間授業/Yearly 374
専門教育科目_専門演習【M5111】専門演習Ⅱ［泉　重樹］年間授業/Yearly 375
専門教育科目_専門演習【M5130】専門演習Ⅱ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 376
専門教育科目_専門演習【M5112】専門演習Ⅱ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 377
専門教育科目_専門演習【M5114】専門演習Ⅱ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 379
専門教育科目_専門演習【M5115】専門演習Ⅱ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 380
専門教育科目_専門演習【M5116】専門演習Ⅱ［木下　訓光］年間授業/Yearly 381
専門教育科目_専門演習【M5128】専門演習Ⅱ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 382
専門教育科目_専門演習【M5118】専門演習Ⅱ［高見 京太］年間授業/Yearly 383
専門教育科目_専門演習【M5119】専門演習Ⅱ［永木　耕介］年間授業/Yearly 384
専門教育科目_専門演習【M5121】専門演習Ⅱ［成田 道彦］年間授業/Yearly 385
専門教育科目_専門演習【M5129】専門演習Ⅱ［Nemes Roland］年間授業/Yearly 386
専門教育科目_専門演習【M5124】専門演習Ⅱ［平野　裕一］年間授業/Yearly 387
専門教育科目_専門演習【M5122】専門演習Ⅱ［林　容市］年間授業/Yearly 388
専門教育科目_専門演習【M5126】専門演習Ⅱ［山本 浩］年間授業/Yearly 389
専門教育科目_専門演習【M5127】専門演習Ⅱ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 391
専門教育科目_専門演習【M5210】専門演習Ⅲ［安藤 正志］年間授業/Yearly 392
専門教育科目_専門演習【M5211】専門演習Ⅲ［泉　重樹］年間授業/Yearly 393
専門教育科目_専門演習【M5230】専門演習Ⅲ［伊藤　真紀］年間授業/Yearly 394
専門教育科目_専門演習【M5212】専門演習Ⅲ［井上　尊寛］年間授業/Yearly 395
専門教育科目_専門演習【M5214】専門演習Ⅲ［苅部　俊二］年間授業/Yearly 396
専門教育科目_専門演習【M5215】専門演習Ⅲ［鬼頭　英明］年間授業/Yearly 397
専門教育科目_専門演習【M5216】専門演習Ⅲ［木下　訓光］年間授業/Yearly 398
専門教育科目_専門演習【M5228】専門演習Ⅲ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 399
専門教育科目_専門演習【M5218】専門演習Ⅲ［高見 京太］年間授業/Yearly 400
専門教育科目_専門演習【M5219】専門演習Ⅲ［永木　耕介］年間授業/Yearly 401
専門教育科目_専門演習【M5220】専門演習Ⅲ［中澤　史］年間授業/Yearly 402
専門教育科目_専門演習【M5221】専門演習Ⅲ［成田 道彦］年間授業/Yearly 403
専門教育科目_専門演習【M5229】専門演習Ⅲ［Nemes Roland］年間授業/Yearly 404
専門教育科目_専門演習【M5224】専門演習Ⅲ［平野　裕一］年間授業/Yearly 405
専門教育科目_専門演習【M5222】専門演習Ⅲ［林　容市］年間授業/Yearly 406
専門教育科目_専門演習【M5226】専門演習Ⅲ［山本 浩］年間授業/Yearly 407
専門教育科目_専門演習【M5227】専門演習Ⅲ［吉田　政幸］年間授業/Yearly 408
専門教育科目_専門演習【M5080】英語演習Ⅰ［相馬　美明］年間授業/Yearly 410
専門教育科目_専門演習【M5090】英語演習Ⅱ［松下　晴彦］年間授業/Yearly 411
【M9010】保健体育科教育法Ⅰ［林　園子］春学期授業/Spring 412
【M9011】保健体育科教育法Ⅰ［林　園子］春学期授業/Spring 413
【M9020】保健体育科教育法Ⅱ［林　園子］秋学期授業/Fall 414
【M9021】保健体育科教育法Ⅱ［林　園子］秋学期授業/Fall 415
【M9030】保健体育科教育法Ⅲ［永木　耕介］秋学期授業/Fall 416
【M9040】保健体育科教育法Ⅳ［林　園子］春学期授業/Spring 417
【M9210】教育実習（事前指導）［林　園子］秋学期授業/Fall 418
【M9211】教育実習（事前指導）［林　園子］秋学期授業/Fall 419
【M9310】教育実習（高）［林　園子］年間授業/Yearly 420
【M9320】教育実習（中・高）［林　園子］年間授業/Yearly 421
【M9120】教職実践演習［林　園子］秋学期授業/Fall 422
【M9121】教職実践演習［林　園子］秋学期授業/Fall 423

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々の辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事③前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事③後半
11	時制（進行形）	記事④前半
12	時制（完了形）	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち込める PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
なお、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】
Students will be trained to read relatively easy sports articles in English and understand what they are about. They will also learn how to make use of dictionaries, typical expressions and rules of news media English.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】
①比較的平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
比較的最近のスポーツ記事（Japan News, VOA News, Breaking News English 等）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
2	英語らしい表現とは	記事①
3	無生物主語	記事①のつづき
4	言い換え表現	記事①のつづき・読了
5	仮定法過去	記事②前半
6	仮定法過去完了	記事②後半
7	句と節	記事①・②のまとめ
8	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
9	中間テスト返却、講評	記事③前半
10	直接話法と間接話法	記事③後半
11	分詞構文	記事④前半
12	付帯状況	記事④後半
13	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい記事を読むため、教員が配布するプリントを使用する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持込できる PC やタブレット等。

【その他の重要事項】
学生の興味関心、理解度、授業の進展状況等によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】
Based on the knowledge and skills learned in the spring semester, students will be encouraged to read more sports articles on the Internet. They will become used to reading a variety of English articles.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期
スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々の辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。
秋学期
インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】
春学期
①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる
秋学期
①比較的平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期
最近のスポーツ記事（英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。
秋学期
比較的最近のスポーツ記事（Japan News, VOA News, Breaking News English 等）のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成（見出し、リード、本文）	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評；前置詞	記事③前半
10	時制（現在・過去・未来）	記事③後半
11	時制（進行形）	記事④前半
12	時制（完了形）	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ
15	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
16	英語らしい表現とは	記事①
17	無生物主語	記事①のつづき
18	言い換え表現	記事①のつづき・読了
19	仮定法過去	記事②前半
20	仮定法過去完了	記事②後半
21	句と節	記事①・②のまとめ
22	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
23	中間テスト返却、講評	記事③前半
24	直接話法と間接話法	記事③後半
25	分詞構文	記事④前半
26	付帯状況	記事④後半
27	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。
秋学期
日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。
授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。

【テキスト（教科書）】
なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち込める PC、タブレット等。

【その他の重要事項】
なお、学生の興味関心、理解度、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

【Outline and objectives】
Spring Semester
Students will be trained to read relatively easy sports articles in English and understand what they are about. They will also learn how to make use of dictionaries, typical expressions and rules of news media English.
Fall Semester
Based on the knowledge and skills learned in the spring semester, students will be encouraged to read more sports articles on the Internet. They will become used to reading a variety of English articles.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く練習を積む。

【到達目標】
CEFR B1 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2~3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
※ 4 月 19 日追記：　4 月 21 日にみなさんの Web 環境を把握するためのアンケートを、学習支援システム Hoppi より発信する予定です。課題などの配信は最初 Hoppi 上で行いますが、その後様子を見て使用するプラットフォームを変更する可能性もあります。また最初の課題の送信については 4 月 28 日ごろを予定しています。
※ 4 月 21 日追記：本日 Hoppi からアンケートを配信する予定でしたが、hoppi がアクセスしにくい状態が続いているため、「アンケートあるいは講師からの連絡を、22 日～ 25 日の間に発信する」と変更いたします。大学のメールアドレスをよく使っている携帯などのメールアドレスに転送し、hoppi からの連絡が可能なようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Unit1	Finding the Ideal Job	Reading : Finding the Ideal Job
Unit 1	Finding the Ideal Job	Reading : The Ideal Job
Unit 1	Finding the Ideal Job	Writing a descriptive paragraph
Unit 2	Creative Thinking	Reading : Can we Teach Creative Thinking
Unit 2	Creative Thinking	Reading : Tips for Success in College: How to be Creative
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 3	Making Money	Reading : Making Money
Unit 3	Making Money	Reading : I Did It Myself
Unit 3	Making Money	Writing a well organized paragraph
Unit 4	Subway Etiquette	Reading : A Civilized Suggestion
Unit 4	Subway Etiquette	Reading : Riding the Subway in Japan
Unit 4	Subway Etiquette	Writing a blog post
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 2 5th edition(Pearson)
4 月 22 日追記：上記のテキストは通年で用いるため、必ず購入すること。

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 % 、小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より開講のため特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will also have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く練習を積む。

【到達目標】
CEFR B1 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2~3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 5	Sensory Perception	Reading: Is Blue Always Blue?
Unit5	Sensory Perception	Reading : The Dress that Almost Broke the Internet
Unit 5	Sensory Perception	Writing a personal experience paragraph
Unit 6	The Heart of a Hero	Reading : What is a Hero?
Unit 6	The Heart of a Hero	Reading : Book Review: Harry Potter and the Sorcerer's Stone
Unit 6	The Heart of a Hero	Writing a one paragraph story
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 7	What's Your Medicine	Reading : Leeches
Unit 7	What's Your Medicine	Reading : Gross Medicine
Unit 7	What's Your Medicine	Writing a narrative paragraph
Unit 8	Endangered Cultures	Reading :Will Indigenous Cultures Survive?
Unit 8	Endangered Cultures	Reading : Touring Penan Country
Unit 8	Endangered Cultures	Writing a prediction paragraph
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 2 5th edition(Pearson)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より開講のため特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will also have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ【2017 年度以前入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、読解力、幅広い語彙を身につけることを目指す。
また英語のライティングに慣れ、文法的に正しい英文を書く練習を積む。

【到達目標】
CEFR B1 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う自然な語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2~3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
※ 4 月 19 日追記： 4 月 21 日にみなさんの Web 環境を把握するためのアンケートを、学習支援システム Hoppi より発信する予定です。課題などの配信は最初 Hoppi 上で行いますが、その後様子を見て使用するプラットフォームを変更する可能性もあります。また最初の課題の送信については 4 月 28 日ごろを予定しています。
※ 4 月 21 日追記：本日 Hoppi からアンケートを配信する予定でしたが、hoppi がアクセスしにくい状態が続いているため、「アンケートあるいは講師からの連絡を、22 日～ 25 日の間に発信する」と変更いたします。大学のメールアドレスをよく使っている携帯などのメールアドレスに転送し、hoppi からの連絡が可能なようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Unit1	Finding the Ideal Job	Reading: Finding the Ideal Job
Unit 1	Finding the Ideal Job	Reading: The Ideal Job
Unit 1	Finding the Ideal Job	Writing a descriptive paragraph
Unit 2	Creative Thinking	Reading: Can we Teach Creative Thinking
Unit 2	Creative Thinking	Reading: Tips for Success in College: How to be Creative
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 3	Making Money	Reading: Making Money
Unit 3	Making Money	Reading: I Did It Myself
Unit 3	Making Money	Writing a well organized paragraph
Unit 4	Subway Etiquette	Reading: A Civilized Suggestion
Unit 4	Subway Etiquette	Reading : Riding the Subway in Japan
Unit 4	Subway Etiquette	Writing a blog post
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 5	Sensory Perception	Reading : Is Blue Always Blue?
Unit 5	Sensory Perception	Reading : The Dress that Almost Broke the Internet
Unit 5	Sensory Perception	Writing a personal experience paragraph
Unit6	The Heart of a Hero	Reading : What is a Hero?
Unit6	The Heart of a Hero	Reading : Book Review: Harry Potter and the Sorcerer's Stone
Unit6	The Heart of a Hero	Writing a one paragraph story
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit7	What's Your Medicine	Reading : Leeches
Unit 7	What's Your Medicine	Reading : Gross Medicine
Unit 7	What's Your Medicine	Writing a narrative paragraph
Unit 8	Endangered Cultures	Reading : Will Indigenous Cultures Survive?

Unit 8	Endangered Cultures	Reading : Touring Penan Country
Unit 8	Endangered Cultures	Writing a prediction paragraph
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 2 5th edition(Pearson)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より開講のため特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles. Students will have opportunities to learn how to write English with proper grammar.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで習得した英語能力をさらに発展させ、英語圏の人々の考え方を理解し、現代社会の様々な問題に対して各自の意見を構築することを目標とする。また、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、復習単語テストを行い、その後、テキストを深く読み進める。
英語の授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
春学期の少なくとも前半はオンライで開講となる。それにともなう各回の授業計画変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とする。学習方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	英字新聞の特徴、Headline のルールを確認し演習を行う。
第 3 回	教育	Bright Future to Children
第 4 回	文化	Brew Sake with Fresh Ideas!
第 5 回	観光	Unique Tour Guide
第 6 回	食料	Banana with an Edible Peel
第 7 回	ファッション	Too Crowded to Carry it on our Backs!
第 8 回	科学技術	Monitoring Kid's Phone Use
第 9 回	社会・芸術	Learn about your Pet Dog at the Museum
第 10 回	宇宙	Dream of Space Tourism Comes True
第 11 回	環境	Save the World from Garbage!
第 12 回	高齢化	Manga Featuring the Elderly
第 13 回	総合演習	最新記事を使用
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Insights 2020』村尾純子 (金星堂:2020) ￥ 1,900+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。
春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで習得した英語能力をさらに発展させ、英語圏の人々の考え方を理解し、現代社会の様々な問題に対して各自の意見を構築することを目標とする。また、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、復習単語テストを行い、その後、テキストを深く読み進める。
英語の授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	英字新聞の特徴、Headline のルールを確認し演習を行う。
第 3 回	就活	Why Not Go to Kyoto?
第 4 回	環境	To Be More Eco-friendly
第 5 回	観光	A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel
第 6 回	健康	Healthy Lifestyles Discount Premium
第 7 回	ビジネス	Stylish Sweden vs. Traditional India
第 8 回	科学技術	Silent Speech Recognition App to Help People
第 9 回	ハイテク	Real vs. Artificial Christmas Trees
第 10 回	レジャー	Take Them to the Ski Resort
第 11 回	食品	Impossible Made Possible
第 12 回	ビジネス	Yet Another Step of the Giant
第 13 回	総合演習	最新記事を使用
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Insights 2020』村尾純子 (金星堂:2020) ￥ 1,900+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe100IA

総合英語Ⅰ 【2017 年度以前入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで習得した英語能力をさらに発展させ、英語圏の人々の考え方を理解し、現代社会の様々な問題に対して各自の意見を構築することを目標とする。また、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、復習単語テストを行い、その後、テキストを深く読み進める。
英語の授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
春学期の少なくとも前半はオンライで開講となる。それにともなう各回の授業計画変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とする。学習方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	英字新聞の特徴、Headline のルールを確認し演習を行う。
第 3 回	教育	Bright Future to Children
第 4 回	文化	Brew Sake with Fresh Ideas!
第 5 回	観光	Unique Tour Guide
第 6 回	食料	Banana with an Edible Peel
第 7 回	ファッション	Too Crowded to Carry it on our Backs!
第 8 回	科学技術	Monitoring Kid's Phone Use
第 9 回	社会・芸術	Learn about your Pet Dog at the Museum
第 10 回	宇宙	Dream of Space Tourism Comes True
第 11 回	環境	Save the World from Garbage!
第 12 回	高齢化	Manga Featuring the Elderly
第 13 回	総合演習	最新記事を使用
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	英字新聞の特徴	英字新聞の特徴、Headline のルールを確認し演習を行う。
第 17 回	就活	Why Not Go to Kyoto?
第 18 回	環境	To Be More Eco-friendly
第 19 回	観光	A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel
第 20 回	健康	Healthy Lifestyles Discount Premium
第 21 回	ビジネス	Stylish Sweden vs. Traditional India
第 22 回	科学技術	Silent Speech Recognition App to Help People
第 23 回	ハイテク	Real vs. Artificial Christmas Trees
第 24 回	レジャー	Take Them to the Ski Resort
第 25 回	食品	Impossible Made Possible
第 26 回	ビジネス	Yet Another Step of the Giant
第 27 回	総合演習	最新記事を使用
第 28 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Insights 2020』村尾純子 (金星堂:2020)￥ 1,900+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。
春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的知識を増すとともに、コミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 No Moon at All?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
3	Unit 1 No Moon at All?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
4	Unit 2 Tackling Violent Wildfires	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
5	Unit 2 Tackling Violent Wildfires	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
6	Unit 3 Check the Soil First	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
7	Unit 3 Check the Soil First	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
8	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
9	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
10	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
11	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
12	微調整・特別言語活動	Unit 1 - Unit 5
13	定期考査・復習	Unit 1-Unit 5
14	定期考査返却・特別言語活動	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。（２時間）

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KIN-SEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的な知識を増すとともにコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 6 Is Love an Addiction?	Course guideline
2	Unit 6 Is Love an Addiction?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
3	Unit 6 Is Love an Addiction?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
4	Unit 7 Self-Driving Future	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
5	Unit 7 Self-Driving Future	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
6	Unit 8 No Needle, No Thread?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
7	Unit 8 No Needle, No Thread?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
8	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
9	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
10	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
11	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
12	Unit 11 Sensory Judgement is Important	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
13	定期考査・復習	Unit 6 - Unit 11
14	定期考査返却・特別言語活動	Unit 6-Unit 11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。(２時間)

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KINSEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe100IA

総合英語Ⅰ 【2017 年度以前入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的知識を増すとともに、コミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1: No Moon at All?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
3	Unit 1: No Moon at All?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
4	Unit 2: Tackling Violent Wildfires	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
5	Unit 2: Tackling Violent Wildfires	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
6	Unit 3 Check the Soil First	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
7	Unit 3 Check the Soil First	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
8	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
9	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
10	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
11	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
12	Unit 1- Unit 5 総復習・微調整・特別言語活動	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
13	定期考査	Unit 1-Unit 5
14	定期考査返却・特別言語活動	Unit 1-Unit 5
15	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
16	Unit 6: Is Love an Addiction?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
17	Unit 6: Is Love an Addiction?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
18	Unit 7: Self-Driving Future	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
19	Unit 7: Self-Driving Future	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
20	Unit 8 No Needle, No Thread?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
21	Unit 8 No Needle, No Thread?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
22	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
23	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
24	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
25	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise
26	Unit 11 Sensory Judgement is Important	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
27	定期考査・復習	Unit 6-11
28	定期考査返却・特別言語活動	Unit 6-11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading (Lesson A) は予習を前提としますので、内容に目を通した上で授業に出席しましょう。TED Talks (Lesson B) は予習せずに授業に参加して下さい。授業後はプレゼンテーションのスクリプトを使って、しっかり復習しましょう。訳読は行いませんので、授業後によく復習し、わからないところがあれば質問して下さい。（２時間）

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KINSEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 50%、授業内課題 25%, 授業外課題 25%

【学生の意見等からの気づき】
語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のコミュニケーション力のうち、主にリーディング力、そしてリスニング力、語彙力の伸張を目指す。学生は世界で発生している様々な社会問題について学び、内容を整理し、自分の考えをまとめ、発信できる力（スピーキング力あるいはライティング力）をも育成する。

【到達目標】
・社会問題に関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・理解した内容に関して、自分の考えを平易な英語で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２３日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、speaking & writing activities
2	Smart Phones Deserve Smart Users	listening, reading, speaking & writing activities
3	The Animals in Our Lives	Quiz(1), listening, reading, speaking & writing activities
4	Reforming Japan's Education System	Quiz(2), listening, reading, speaking & writing activities
5	A Hungry Future	Quiz(3),listening, reading, speaking & writing activities
6	No More Unwelcome Advertisements	Quiz(4),listening, reading, speaking & writing activities
7	Review 及び考査１	listening, reading & writing activities
8	考査１の解説、A Living Wage	listening, reading, speaking & writing activities
9	Keeping Mothers on the Payroll	Quiz(5),listening, reading, speaking & writing activities
10	Slow Life	Quiz(6),listening, reading, speaking & writing activities
11	Volunteering	Quiz(7),listening, reading, speaking & writing activities
12	Longevity: a Mixed Blessing	Quiz(8),listening, reading, speaking & writing activities
13	Review 及び考査 2	listening, reading & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、論理展開を正確に把握し、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
準備復習には１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
David Peaty 他著「未来へ続く道」成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。また、ニュースなども適宜活用し、新しい社会問題の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外に無し。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop their communication skills through reading & listening to various passages concerning social problems in the world. They are encouraged to express their own ideas about each problem.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のコミュニケーション力のうち、主にリーディング力、リスニング力及び語彙力の伸張を目指す。学生は世界で発生している様々な社会問題について学び、内容を整理し、自分の考えをまとめ、発信できる力（スピーキング力あるいはライティング力）をも育成する。

【到達目標】
・社会問題に関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・理解した内容に関して、自分の考えを平易な英語で表現できるようになる。
・上記の目標に加え、春学期より長い英文を読み、聞き、内容を理解し、自分の考えをさらに長い英語で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で進め、与えられたテーマに関する各自の口頭発表やレポート提出も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation, The Importance of Biodiversity	reading, listening, writing & speaking activities
2	A Home for Endangered Storks	Quiz(1), reading, listening, writing & speaking activities
3	Japan's Future Energy Supply	Quiz(2), reading, listening, writing & speaking activities
4	Green Transportation	Quiz(3), reading, listening, writing & speaking activities
5	How Much Is Nature Worth?	Quiz(4), reading, listening, writing & speaking activities
6	Business Can Be Green	Quiz(5), reading, listening, writing and speaking activities
7	Review 及び考査１	reading, listening & writing activities
8	考査１の解説、ニュースの理解	reading, listening, writing & speaking activities
9	Storing Energy	reading, listening, writing & speaking activities
10	A Dollar a Day	Quiz(6), reading, listening, writing & speaking activities
11	Beyond Fair Trade	Quiz(7), reading, listening, writing and speaking activities
12	Shrink the Economy, Not the Earth	Quiz(8), reading, listening, writing & speaking activities
13	Review 及び考査２	reading, listening & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	reading, listening, writing & speaking activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、論理展開を正確に把握し、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
本授業の準備復習には合わせて１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
David Peaty 他著、「未来へ続く道」成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材を用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
①平常点、speaking 及び writing により自分の考えをまとめた課題提出 25 %。
② reading, listening 及び vocabulary に関する小テスト 25 %。
③２回実施する考査 50 %。
100 点満点で、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。また、ニュースなども適宜活用し、新しい社会問題の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop thier communication skills through reading & listening to various passages concerning social problems in the world. They are encouraged to express their own ideas about each problem.

LANe100IA

総合英語Ⅰ 【2017 年度以前入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のコミュニケーション力のうち、主にリーディング力、リスニング力、そして語彙力の伸張を目指す。学生は世界で発生している様々な社会問題について学び、内容を整理し、自分の考えをまとめ、発信できる力（スピーキング力あるいはライティング力）をも育成する。

【到達目標】
春学期
・社会問題に関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・社会問題に関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・理解した内容に関して、自分の考えを平易な英語で表現できるようになる。
秋学期
・上記の目標に加え、春学期より長い英文を読み、聞き、内容を理解し、自分の考えをさらに長い英語で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２３日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、speaking & writing activities
2	Smart Phones Deserve Smart Users	listening, reading, speaking & writing activities
3	The Animals in Our Lives	Quiz(1), listening, reading, speaking & writing activities
4	Reforming Japan's Education System	Quiz(2), listening, reading, speaking & writing activities
5	A Hungry Future	Quiz(3),listening, reading, speaking & writing activities
6	No More Unwelcome Advertisements	Quiz(4),listening, reading, speaking & writing activities
7	Review 及び考査１	listening, reading & writing activities
8	考査１の解説、A Living Wage	listening, reading, speaking & writing activities
9	Keeping Mothers on the Payroll	Quiz(5),listening, reading, speaking & writing activities
10	Slow Life	Quiz(6),listening, reading, speaking & writing activities
11	Volunteering	Quiz(7),listening, reading, speaking & writing activities
12	Longevity: a Mixed Blessing	Quiz(8),listening, reading, speaking & writing activities
13	Review 及び考査２	listening, reading & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities
15	The Importance of Biodiversity	reading, listening, writing & speaking activities
16	A Home for Endangered Storks	Quiz(9), reading, listening, writing & speaking activities
17	Japan's Future Energy Supply	Quiz(10), reading, listening, writing & speaking activities
18	Green Transportation	Quiz(11), reading, listening, writing & speaking activities
19	How Much Is Nature Worth?	Quiz(12), reading, listening, writing & speaking activities
20	Business Can Be Green	Quiz(13),reading, listening, writing & speaking activities
21	Review 及び考査３	reading, listening & writing activities
22	考査３の解説、ニュースの理解	reading, listening, writing & speaking activities
23	Storing Energy	reading, listening, writing & speaking activities
24	A Dollar a Day	Quiz(14), reading, listening, writing & speaking activities
25	Beyond Fair Trade	Quiz(15), reading, listening, writing & speaking activities
26	Shrink the Economy, Not the Earth	Quiz(16), reading, listening, writing & speaking activities
27	Review 及び考査４	reading, listening & writing activities
28	考査４の解説及びまとめ	reading, listening & writing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、論理展開を正確に把握し、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
本授業の準備復習には合わせて１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
David Peaty 他著、「未来へ続く道」成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材を用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は, 授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。また、ニュースなども適宜活用し、新しい社会問題の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop their communication skills through reading & listening to various passages concerning social problems in the world. They are encouraged to express their own ideas about each problem.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・グループ分け	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	Sport(1) プレゼンテーション（Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	Sport(1) 確認テスト（Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間から 1 時間半前後を標準とします。

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅰ 【2017 年度以前入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力はじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。
15	ガイダンス・グループ分け	後半の授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方について確認する。
16	Sport(1) プレゼンテーション（Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
17	Sport(1) 確認テスト（Adventure Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
18	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
19	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
20	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
21	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
22	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
23	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
24	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
25	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
26	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
27	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テーマに関する確認テストを実施する
28	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe100IA

総合英語Ⅰ（a）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は本授業において、
○ 国際連合の提案による「持続可能な開発目標 (SDGs)」に触れ、その内容を理解し、今後の自らの行動を考えるきっかけを作る。
○ 大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、主に英語における「聞く」「読む」能力の向上を目指す。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 様々な話題の英文に触れ、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリスニング力とリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○ 基本的に、毎回の授業を 2～3 部構成にし、教科書の内容だけではなく、英文法、日本語と英語のズレ、英和辞典の使い方なども学習する。
○ 教科書内容は全て予習前提として進める。週ごとの予習ハンドアウトに沿って準備をすること。
○ 場合によってはグループでアクティビティをすることもある。
【遠隔授業に伴う変更点】
本授業の開始日は 4 月 27 日とする。詳細は学習支援システム（HOPPII）に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容や評価方法、クラスルールの説明など
第 2 回	Lesson 1 Donate what you don't use (1)	Listening
第 3 回	Lesson 1 Donate what you don't use (2)	Reading
第 4 回	Lesson 2 Avoid throwing away food (1)	Listening
第 5 回	Lesson 2 Avoid throwing away food (2)	Reading
第 6 回	Lesson 3 Vaccinate your family to protect them and improve public health (1)	Listening
第 7 回	Lesson 3 Vaccinate your family to protect them and improve public health (2)	Reading
第 8 回	Lesson 4 Help children in your community to read (1)	Listening
第 9 回	Lesson 4 Help children in your community to read (2)	Reading
第 10 回	Lesson 5 Call out sexist language and behavior (1)	Listening
第 11 回	Lesson 5 Call out sexist language and behavior (2)	Reading
第 12 回	Lesson 6 Avoid wasting water (1)	Listening
第 13 回	Lesson 6 Avoid wasting water (2)	Reading
第 14 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を目安とする。
【予習】
《翌週がリスニング週》

1. 小テストの準備
2. 各課の Listening Practice 2 の空所補充をし、各話者の内容を把握し、書き留めておく。なお、空所補充は DVD ではなく、CD を用いること。
3. 各課のテーマについて、身近な例を挙げられるようにすること。

《翌週がリーディング週》
1. 小テストの準備
2. 各課の Reading セクションにある素材文に関するハンドアウトに取り組み、全ての設問に対して自分の力で解答を作成する。
3. Vocabulary Check のセクションの問題を解き、文の構造と意味を把握する。

【復習】
1. リスニング素材文、あるいはリーディング素材文を最低 10 回は音読する。その際、文構造や意味の切れ目、発音などに気を配る。
2. 授業で扱った文法が用いられている英文を見聞きし、文構造を理解する。
3. E-learning 教材を指定した日時までに行う。（教員から指示があった場合）

【テキスト（教科書）】
書名： AFP ニュースで見る世界５ (ISBN ： 9784791972111)
著者：宍戸　真 / Kevin Murphy / 高橋　真理子　著
本体価格： 2,500 円（税込 2,750 円）
出版社：株式会社成美堂

【参考書】
「国際連合広報センター 2030 アジェンダ」
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 20%
平常点（発言、提出物など）： 20%
課題（E-learning など）： 20%
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
1. 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
2. 課題として、教科書付属の E-learning 教材「リンガポルタ」を行うため、授業外で PC やスマートフォンを使える環境を整えること。
3. 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend English texts on Sustainable Development Goals (SDGs) by treating them analytically.

LANe100IA

総合英語Ⅰ（b）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は本授業において、
○ 国際連合の提案による「持続可能な開発目標 (SDGs)」に触れ、その内容を理解し、今後の自らの行動を考えるきっかけを作る。
○ 大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、主に英語における「聞く」「読む」能力の向上を目指す。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 様々な話題の英文に触れ、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリスニング力とリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○ 基本的に、毎回の授業を 2～3 部構成にし、教科書の内容だけではなく、英文法、日本語と英語のズレ、英和辞典の使い方なども学習する。
○ 教科書内容は全て予習前提として進める。週ごとの予習ハンドアウトに沿って準備をすること。
○ 場合によってはグループでアクティビティをすることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容や評価方法、クラスルールの説明など
第 2 回	Lesson 7 Use only energy efficient appliances and light bulbs (1)	Listening
第 3 回	Lesson 7 Use only energy efficient appliances and light bulbs (2)	Reading
第 4 回	Lesson 8 Buy from green companies (1)	Listening
第 5 回	Lesson 8 Buy from green companies (2)	Reading
第 6 回	Lesson 9 Think of innovative new ways to repurpose old material (1)	Listening
第 7 回	Lesson 9 Think of innovative new ways to repurpose old material (2)	Reading
第 8 回	Lesson 10 Raise your voice against discrimination (1)	Listening
第 9 回	Lesson 10 Raise your voice against discrimination (2)	Reading
第 10 回	Lesson 11 Bike, walk, or use public transportation (1)	Listening
第 11 回	Lesson 11 Bike, walk, or use public transportation (2)	Reading
第 12 回	Lesson 12 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum (1)	Listening
第 13 回	Lesson 12 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum (2)	Reading
第 14 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を目安とする。

【予習】
《翌週がリスニング週》
1. 小テストの準備
2. 各課の Listening Practice 2 の空所補充をし、各話者の内容を把握し、書き留めておく。なお、空所補充は DVD ではなく、CD を用いること。
3. 各課のテーマについて、身近な例を挙げられるようにすること。
《翌週がリーディング週》
1. 小テストの準備
2. 各課の Reading セクションにある素材文に関するハンドアウトに取り組み、全ての設問に対して自分の力で解答を作成する。
3. Vocabulary Check のセクションの問題を解き、文の構造と意味を把握する。
【復習】
1. リスニング素材文、あるいはリーディング素材文を最低 10 回は音読する。その際、文構造や意味の切れ目、発音などに気を配る。
2. 授業で扱った文法が用いられている英文を見聞きし、文構造を理解する。
3. E-learning 教材を指定した日時までに行う。（教員から指示があった場合）

【テキスト（教科書）】
書名： AFP ニュースで見る世界５ (ISBN ： 9784791972111)
著者：宍戸　真 / Kevin Murphy / 高橋　真理子　著
本体価格： 2,500 円（税込 2,750 円）
出版社：株式会社成美堂

【参考書】
「国際連合広報センター 2030 アジェンダ」
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 20%
平常点（発言、提出物など）： 20%
課題（E-learning など）： 20%
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
1. 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
2. 課題として、教科書付属の E-learning 教材「リンガポルタ」を行うため、授業外で PC やスマートフォンを使える環境を整えること。
3. 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend English texts on Sustainable Development Goals (SDGs) by treating them analytically.

LANe100IA

総合英語Ⅰ 【2017 年度以前入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（7）
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：年間授業/Yearly ｜ 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は本授業において、
○ 国際連合の提案による「持続可能な開発目標 (SDGs)」に触れ、その内容を理解し、今後の自らの行動を考えるきっかけを作る。
○ 大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、主に英語における「聞く」「読む」能力の向上を目指す。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 様々な話題の英文に触れ、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリスニング力とリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
○ 基本的に、毎回の授業を 2～3 部構成にし、教科書の内容だけではなく、英文法、日本語と英語のズレ、英和辞典の使い方なども学習する。
○ 教科書内容は全て予習前提として進める。週ごとの予習ハンドアウトに沿って準備をすること。
○ 場合によってはグループでアクティビティをすることもある。
【遠隔授業に伴う変更点】
本授業の開始日は 4 月 27 日とする。詳細は学習支援システム（HOPPII）に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容や評価方法、クラスルールの説明など
第 2 回	Lesson 1 Donate what you don't use (1)	Listening
第 3 回	Lesson 1 Donate what you don't use (2)	Reading
第 4 回	Lesson 2 Avoid throwing away food (1)	Listening
第 5 回	Lesson 2 Avoid throwing away food (2)	Reading
第 6 回	Lesson 3 Vaccinate your family to protect them and improve public health (1)	Listening
第 7 回	Lesson 3 Vaccinate your family to protect them and improve public health (2)	Reading
第 8 回	Lesson 4 Help children in your community to read (1)	Listening
第 9 回	Lesson 4 Help children in your community to read (2)	Reading
第 10 回	Lesson 5 Call out sexist language and behavior (1)	Listening
第 11 回	Lesson 5 Call out sexist language and behavior (2)	Reading
第 12 回	Lesson 6 Avoid wasting water (1)	Listening
第 13 回	Lesson 6 Avoid wasting water (2)	Reading
第 14 回	Review	まとめ・試験
第 15 回	Introduction	授業内容や評価方法、クラスルールの説明など
第 16 回	Lesson 7 Use only energy efficient appliances and light bulbs (1)	Listening

第 17 回	Lesson 7 Use only energy efficient appliances and light bulbs (2)	Reading
第 18 回	Lesson 8 Buy from green companies (1)	Listening
第 19 回	Lesson 8 Buy from green companies (2)	Reading
第 20 回	Lesson 9 Think of innovative new ways to repurpose old material (1)	Listening
第 21 回	Lesson 9 Think of innovative new ways to repurpose old material (2)	Reading
第 22 回	Lesson 10 Raise your voice against discrimination (1)	Listening
第 23 回	Lesson 10 Raise your voice against discrimination (2)	Reading
第 24 回	Lesson 11 Bike, walk, or use public transportation (1)	Listening
第 25 回	Lesson 11 Bike, walk, or use public transportation (2)	Reading
第 26 回	Lesson 12 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum (1)	Listening
第 27 回	Lesson 12 Recycle paper, plastic, glass, and aluminum (2)	Reading
第 28 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を目安とする。
【予習】
《翌週がリスニング週》
1. 小テストの準備
2. 各課の Listening Practice 2 の空所補充をし、各話者の内容を把握し、書き留めておく。なお、空所補充は DVD ではなく、CD を用いること。
3. 各課のテーマについて、身近な例を挙げられるようにすること。
《翌週がリーディング週》
1. 小テストの準備
2. 各課の Reading セクションにある素材文に関するハンドアウトに取り組み、全ての設問に対して自分の力で解答を作成する。
3. Vocabulary Check のセクションの問題を解き、文の構造と意味を把握する。
【復習】
1. リスニング素材文、あるいはリーディング素材文を最低 10 回は音読する。その際、文構造や意味の切れ目、発音などに気を配る。
2. 授業で扱った文法が用いられている英文を見聞きし、文構造を理解する。
3. E-learning 教材を指定した日時までに行う。（教員から指示があった場合）

【テキスト（教科書）】
書名： AFP ニュースで見る世界 5（ISBN ： 9784791972111 ）
著者：宍戸　真 / Kevin Murphy / 高橋　真理子　著
本体価格： 2,500 円（税込 2,750 円）
出版社：株式会社成美堂

【参考書】
「国際連合広報センター 2030 アジェンダ」
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 20%
平常点（発言、提出物など）： 20%
課題（E-learning など）： 20%
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
1. 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
2. 課題として、教科書付属の E-learning 教材「リンガポルタ」を行うため、授業外で PC やスマートフォンを使える環境を整えること。
3. 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting. Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend English texts on Sustainable Development Goals (SDGs) by treating them analytically.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings	Film ①～②,Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③～④
6	Requesting Information	Film ④～⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤～⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧～⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1～4 まとめ	Film ⑨～⑩
13	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となる。
具体的な方法と基準に関しては、今後、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①
3	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film ①
4	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ①〜②
5	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
6	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
7	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②〜③
8	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
9	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
10	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③〜④
11	思いを表現する	プレゼンテーション 1
12	思いを表現する	プレゼンテーション 2
13	思いを表現する	プレゼンテーション 3
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】
読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings	Film ①～②,Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③～④
6	Requesting Information	Film ④～⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤～⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧～⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1～4 まとめ	Film ⑨～⑩
13	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ
15	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①
17	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film ①
18	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ①～②
19	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
20	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
21	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②～③
22	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
23	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
24	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③～④
25	思いを表現する	プレゼンテーション 1
26	思いを表現する	プレゼンテーション 2
27	思いを表現する	プレゼンテーション 3
28	リスニング　既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
To Be a Good Communicator Daily English（金星堂）, およびプリントを使用

【参考書】
必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），プレゼンテーション (10%), 平常点（20 %），また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となる。
具体的な方法と基準に関しては、今後、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline and objectives】
This course gives you a good chance to know the cultural differences between Japanese and Americans, and will provide a key to think about the daily life in a different way.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーディング、リスニング、ライティング、そしてスピーキングの 4 技能は、それぞれが独立して存在するのではなく、互いに関係することによってコミュニケーションの手段として機能します。そして、それら 4 技能が適切に運用されるために橋渡しをするのが「文法」です。
本授業では、平易でありながら汎用性の高い語彙によって英語で書かれている日本各地の情報を、文法の裏付けを伴った上で正しく理解し、蓄積した情報を英語によって発信できることを目指します。

【到達目標】
（1）基本的な文法事項について、理解が深まる。
（2）基本語彙について、実際的な英文単位で増強することができる。
（3）日本各地について、その地理的・歴史的な基本事項に加えて、各種行事や風俗、また名物などを理解し、英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
変更点
（5 月 1 日更新）
課題に関することや諸連絡などは、学習支援システムの「お知らせ」経由で行います。個別に連絡を取る場合は、大学支給のメールアドレスで行いますので、通常使用しているメールアドレスに通知が行くよう、設定することを推奨します。
（4 月 21 日更新）
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、使用テキストの著作権保護の制度改正施行日に合わせて、4 月 28 日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
（以下、テキスト使用に基づいた進め方）
各 Chapter は、Regional Information と Grammar Check の二つの項目からなります。Regional Information では、日本各地の情報を Reading と Listening を併用し、Q&A で内容確認をし、Tabit（豆知識）で締めくくります。そして、Grammar Check では、各 Chapter が設定している文法項目について、Exercise 形式で学習し、理解の定着を図ります。さらに表現力を高めるために、語彙力の確認問題とその応用である英作文を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法、授業外学習の方法や進め方、参考図書などについて変更点を中心に説明します。
2	Chapter 1: "Let's Enjoy Fukuoka" 動詞の種類と文型	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
3	Chapter 2: "Let's Enjoy Niigata" 文の種類（命令文・感嘆文・各種疑問文）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
4	Chapter 3: "Let's Enjoy Shimane" 動詞（時制）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
5	Chapter 4: "Let's Enjoy Iwate" 助動詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
6	Chapter 5: "Let's Enjoy Kagoshima" 名詞と冠詞・数詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
7	Mid-term Review	これまでの学習内容の理解度の確認。
8	Feedback & Workshop	Mid-term Review を踏まえて、ふりかえりを実践形式で行う。
9	Chapter 6: "Let's Enjoy Kochi" 代名詞（含・It の特別用法）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
10	Chapter 7: "Let's Enjoy Osaka" 接続詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
11	Chapter 8: "Let's Enjoy Miyazaki" 前置詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
12	Chapter 9: "Let's Enjoy Saga" 能動態・受動態	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
13	Chapter 10: "Let's Enjoy Tokyo" 形容詞・副詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
14	Term-end Review	春学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoyable Tourist Brochure for English Writing
『観光を愉しみながら学べる英文法を通してのライティング』
著者:　佐藤哲三ほか　出版社: 南雲堂

【参考書】
マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。
ほかにも語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。参考までに、従来行われてきた対面型授業での成績評価の方法と基準を以下に示しておく。
（参考）
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う単語テスト、ディクテーションなど 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。
学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
To practice and improve English skills in a variety of reading topics. Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of Japanese regional information in English. Students will learn grammar points and realize how every grammar rule works to organize or express their ideas.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーディング、リスニング、ライティング、そしてスピーキングの 4 技能は、それぞれが独立して存在するのではなく、互いに関係することによってコミュニケーションの手段として機能します。そして、それら 4 技能が適切に運用されるために橋渡しをするのが「文法」です。
本授業では春学期に引き続き、平易でありながら汎用性の高い語彙によって英語で書かれている日本各地の情報を、文法の裏付けを伴った上で正しく理解し、蓄積した情報を英語によって発信できることを目指します。

【到達目標】
(1) 基本的な文法事項について、理解が深まる。
(2) 基本語彙について、実際的な英文単位で増強することができる。
(3) 日本各地について、その地理的・歴史的な基本事項に加えて、各種行事や風俗、また名物などを理解し、英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各 Chapter は、Regional Information と Grammar Check の二つの項目からなります。Regional Information では、日本各地の情報を Reading と Listening を併用し、Q&A で内容確認をし、Tabit（豆知識）で締めくくります。そして、Grammar Check では、各 Chapter が設定している文法項目について、Exercise 形式で学習し、理解の定着を図ります。さらに表現力を高めるために、語彙力の確認問題とその応用である英作文を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期のふりかえりを行い、学習面での継続事項や、学生の状況を鑑みた改善点を確認します。
2	Chapter 11: "Let's Enjoy Hiroshima" 比較	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
3	Chapter 12: "Let's Enjoy Miyagi" 不定詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
4	Chapter 13: "Let's Enjoy Aichi" 分詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
5	Chapter 14: "Let's Enjoy Kyoto" 動名詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
6	Chapter 15: "Let's Enjoy Kumamoto" 関係詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
7	Mid-term Review	これまでの学習内容の理解度の確認。
8	Feedback & Workshop	Mid-term Review を踏まえて、ふりかえりを実践形式で行う。
9	Chapter 16: "Let's Enjoy Hokkaido" 仮定法	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
10	Chapter 17: "Let's Enjoy Yamanashi" 時制の一致・話法	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
11	Video Day and Workshop 1	日本の観光名所・食べ物などを紹介す内容のビデオをもとに、リスニング、ディクテーション、ペアワーク等を行う。
12	Video Day and Workshop 2	日本の観光名所・食べ物などを紹介す内容のビデオをもとに、リスニング、ディクテーション、ペアワーク等を行う。
13	Video Day and Workshop 3	日本の観光名所・食べ物などを紹介す内容のビデオをもとに、リスニング、ディクテーション、ペアワーク等を行う。
14	Term-end Review	秋学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoyable Tourist Brochure for English Writing
『観光を愉しみながら学べる英文法を通してのライティング』
著者:　佐藤哲三ほか　出版社: 南雲堂

【参考書】
マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。
ほかにも語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う単語テスト、ディクテーションなど 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。
学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of Japanese regional topics. Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of Japanese regional information in English. Students will learn grammar points and realize how every grammar rule works to organize or express their ideas.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーディング、リスニング、ライティング、そしてスピーキングの 4 技能は、それぞれが独立して存在するのではなく、互いに関係することによってコミュニケーションの手段として機能します。そして、それら 4 技能が適切に運用されるために橋渡しをするのが「文法」です。
本授業では、平易でありながら汎用性の高い語彙によって英語で書かれている日本各地の情報を、文法の裏付けを伴った上で正しく理解し、蓄積した情報を英語によって発信できることを目指します。

【到達目標】
(1) 基本的な文法事項について、理解が深まる。
(2) 基本語彙について、実際的な英文単位で増強することができる。
(3) 日本各地について、その地理的・歴史的な基本事項に加えて、各種行事や風俗、また名物などを理解し、英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
変更点（4 月 21 日更新）
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、使用テキストの著作権保護の制度改正施行日に合わせて、4 月 28 日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
（以下、テキスト使用に基づいた進め方）
各 Chapter は、Regional Information と Grammar Check の二つの項目からなります。Regional Information では、日本各地の情報を Reading と Listening を併用し、Q&A で内容確認をし、Tabit（豆知識）で締めくくります。そして、Grammar Check では、各 Chapter が設定している文法項目について、Exercise 形式で学習し、理解の定着を図ります。さらに表現力を高めるために、語彙力の確認問題とその応用である英作文を行います。
各 Chapter は、Regional Information と Grammar Check の二つの項目からなります。Regional Information では、日本各地の情報を Reading と Listening を併用し、Q&A で内容確認をし、Tabit（豆知識）で締めくくります。そして、Grammar Check では、各 Chapter が設定している文法項目について、Exercise 形式で学習し、理解の定着を図ります。さらに表現力を高めるために、語彙力の確認問題とその応用である英作文を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法、授業外学習の方法や進め方、参考図書などについて説明します。
2	Chapter 1: "Let's Enjoy Fukuoka" 動詞の種類と文型	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
3	Chapter 2: "Let's Enjoy Niigata" 文の種類（命令文・感嘆文・各種疑問文）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
4	Chapter 3: "Let's Enjoy Shimane" 動詞（時制）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
5	Chapter 4: "Let's Enjoy Iwate" 助動詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
6	Chapter 5: "Let's Enjoy Kagoshima" 名詞と冠詞・数詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
7	Mid-term Review	これまでの学習内容の理解度の確認。
8	Feedback & Workshop	Mid-term Review を踏まえて、ふりかえりを実践形式で行う。
9	Chapter 6: "Let's Enjoy Kochi" 代名詞（含・It の特別用法）	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
10	Chapter 7: "Let's Enjoy Osaka" 接続詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
11	Chapter 8: "Let's Enjoy Miyazaki" 前置詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
12	Chapter 9: "Let's Enjoy Saga" 能動態・受動態	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
13	Chapter 10: "Let's Enjoy Tokyo" 形容詞・副詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
14	Term-end Review	春学期の学習事項のまとめと理解度の確認。
15	オリエンテーション	春学期のふりかえりを行い、学習面での継続事項や、学生の状況を鑑みた改善点を確認します。
16	Chapter 11: "Let's Enjoy Hiroshima" 比較	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
17	Chapter 12: "Let's Enjoy Miyagi" 不定詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
18	Chapter 13: "Let's Enjoy Aichi" 分詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
19	Chapter 14: "Let's Enjoy Kyoto" 動名詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
20	Chapter 15: "Let's Enjoy Kumamoto" 関係詞	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
21	Mid-term Review	これまでの学習内容の理解度の確認。
22	Feedback & Workshop	Mid-term Review を踏まえて、ふりかえりを実践形式で行う。
23	Chapter 16: "Let's Enjoy Hokkaido" 仮定法	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
24	Chapter 17: "Let's Enjoy Yamanashi" 時制の一致・話法	Regional Information: Q&A and Dictation Grammar Check: Exercises and Vocabulary Building
25	Video Day and Workshop 1	日本の観光名所・食べ物などを紹介する内容のビデオをもとに、リスニング、ディクテーション、ペアワーク等を行う。
26	Video Day and Workshop 2	日本の観光名所・食べ物などを紹介する内容のビデオをもとに、リスニング、ディクテーション、ペアワーク等を行う。
27	Video Day and Workshop 3	日本の観光名所・食べ物などを紹介する内容のビデオをもとに、リスニング、秋学期の学習事項のまとめと理解度の確認。ディクテーション、ペアワーク等を行う。
28	Term-end Review	秋学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoyable Tourist Brochure for English Writing
『観光を愉しみながら学べる英文法を通してのライティング』
著者:　佐藤哲三ほか　出版社: 南雲堂

【参考書】
マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。
ほかにも語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

参考までに、従来行われてきた対面型授業での成績評価の方法と基準を以下に示しておく。
（参考）
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う単語テスト、ディクテーションなど 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
To practice and improve English skills in a variety of reading topics. Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of Japanese regional information in English. Students will learn grammar points and realize how every grammar rule works to organize or express their ideas.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。
①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
②上記の知識を用いて英語で表現する。
③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	Unusual Weather:主語の選択
3	Unit 2	Terrorism:名詞（1）
4	Unit 3	Vacation Abroad:名詞（2）
5	Unit1-3 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Fame and Fortune:代名詞
7	Unit 5	Hosting the Olympics:冠詞
8	Unit 6	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles:形容詞（1）
9	Unit 7	The perfect Export:形容詞（2）
10	Unit4-7 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	Still Addicted to Junk Food:副詞
12	Unit 9	A Graying Society:比較
13	Unit 10	Waiting for “Mr. Right":動詞（1）
14	Unit8-10 のまとめと期末テスト	質疑応答と期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
木塚晴夫、Roger Northridge 著　Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing（金星堂，2008 年，定価 1800 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.

Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。
①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
②上記の知識を用いて英語で表現する。
③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
下記のテキストを使用し、 1 回の授業で 1 つの Unit に取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用したリスニング問題と読解に取り組み、高校までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。テキストの練習問題のほかに、プリントを使用し英作文の問題を解く。また、各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも 1 本はまとまった分量のエッセイを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 11	Manners Make Us Brighter:動詞（2）
3	Unit 12	Seeing What Isn't There:時制
4	Unit 13	Cybercrime:態
5	Unit11-13 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 14	Looking for a Job:動名詞
7	Unit 15	To Smoke or Not to Smoke:不定詞
8	Unit 16	Cats and Dogs:接続詞
9	Unit 17	World Heritage Sites:前置詞
10	Unit14-17 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 18	Keeping the Peace:関係詞
12	Unit 19	But for the Distance:仮定法
13	Unit 20	Clean, Green Cities:語順
14	Unit8-10 のまとめと期末テスト	質疑応答と期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
木塚晴夫、Roger Northridge 著　Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing（金星堂，2008 年，定価 1800 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの）

【成績評価の方法と基準】
小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。
小テスト 15 %　授業での発表 15 %　課題 20 %　授業内テスト 50 %
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。
学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

【Outline and objectives】

Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.

Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。
①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
②上記の知識を用いて英語で表現する。
③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	Unusual Weather:主語の選択
3	Unit 2	Terrorism:名詞（1）
4	Unit 3	Vacation Abroad:名詞（2）
5	Unit1-3 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Fame and Fortune:代名詞
7	Unit 5	Hosting the Olympics:冠詞
8	Unit 6	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles:形容詞（1）
9	Unit 7	The perfect Export:形容詞（2）
10	Unit4-7 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	Still Addicted to Junk Food:副詞
12	Unit 9	A Graying Society:比較
13	Unit 10	Waiting for “Mr. Right":動詞（1）
14	Unit8-10 のまとめと期末テスト	質疑応答と期末テスト
15	イントロダクション	授業方法などの説明
16	Unit 11	Manners Make Us Brighter:動詞（2）
17	Unit 12	Seeing What Isn’t There:時制
18	Unit 13	Cybercrime:態
19	Unit11-13 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
20	Unit 14	Looking for a Job:動名詞
21	Unit 15	To Smoke or Not to Smoke:不定詞
22	Unit 16	Cats and Dogs:接続詞
23	Unit 17	World Heritage Sites:前置詞
24	Unit14-17 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
25	Unit 18	Keeping the Peace:関係詞
26	Unit 19	But for the Distance:仮定法
27	Unit 20	Clean, Green Cities:語順
28	Unit8-10 のまとめと期末テスト	質疑応答と期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
木塚晴夫、Roger Northridge 著　Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing（金星堂，2008 年，定価 1800 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.
Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.
Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：**（4）**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、ある程度の長さをもった論理的なエッセイを英語で書けるようになることです。ゆえに、演習や課題を通じて、これまで学んできた英文法を復習してもらうこと、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを理解してもらうこと、の２点を主な柱とします。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習により定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、複数の paragraph からなるある程度の長さのエッセイを、そのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit １つを、２回分の授業で消化していく予定です。
１回目では、まずその Unit の passage を読解しながら、そこで使用されている文法の解説を行います。その後、語彙と文法の演習問題を解き、学んだ知識の定着を促していきます。読解・演習問題ともに、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。
２回目では、１回目に読解した passage を例にして、paragraph writing を始めとする、英語で自分の意見を説得的に述べるために必要となる作文の方法を学びます。その後、学んだ方法を実際に使えるようになるために、writing の演習問題を解いてもらいます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。最後に、その Unit のまとめとして、writing の課題に取り組み、出来上がった課題を提出してもらいます。この課題は授業内で終わらない場合には宿題となります。
また、Unit を３つ終えるごとに小テスト（語彙・文法が中心）を実施し、履修者の理解度チェックを行います。

【更新】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化により授業計画にも多少の変更が生じますが、その旨は学習支援システムにてその都度お知らせしていきます。受講者の学習環境や理解度を考慮したうえで、計画は柔軟に変更していきます。
本授業は４月 21 日開始を予定しています。この日以降、授業に関わる情報や指示は学習支援システム上で配信していきますので、学習支援システムをきちんと確認するようにしてください（【学生が準備すべき機器他】でも記した通り、学習支援システムからのお知らせを受信できるように、自分が普段使用するメールアドレスを支援システムに登録しておいてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1.Right Is Right, and Left Is Left Behind?	「見なす」の表現、関係代名詞
第 3 回	Unit 1.Right Is Right, and Left Is Left Behind?	パラグラフの基本構造
第 4 回	Unit 2.The Heavily Taxing Great Buddha	皇室関連の表現、比較
第 5 回	Unit 2.The Heavily Taxing Great Buddha	トピック文の書き方
第 6 回	Unit 3.Mammon Is Mightier Than 46 Swords	争いに関する表現、使役
第 7 回	Unit 3.Mammon Is Mightier Than 46 Swords	支持文の書き方
第 8 回	Unit 4.Stiff Neck	傾向を表す表現、分詞
第 9 回	Unit 4.Stiff Neck	結論文の書き方
第 10 回	Unit 5.Prevention of Cancer	英語の病名表記、現在完了

第 11 回	Unit 5.Prevention of Cancer	順接と逆接の表現を使いこなす
第 12 回	Unit 6.Video Games	give を用いた表現、仮定法
第 13 回	Unit 6.Video Games	結論から各論へ展開する
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。特にその Unit の授業１回目ならば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら passage を読んで大意を把握しておく、演習問題を解いてくる、などの予習を必ず行ってきてください。「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習
その日の学習内容を教科書・ノートなどを見直して整理し、3 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また各 Unit のまとめ課題が授業内で終わらない場合には宿題となりますので、それを完成させて提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
石井隆之 他. (2010).『Comprehensive Writing －ライティング総合マスター』東京：センゲージラーニング.（税抜き 2,000 円）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際には、ハンドアウトを配布することもあります。

【更新】
法政大学生協にて通信販売が行われますので、下記 URL から手続きを行ってください。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験 50%、提出課題（宿題） 25 %、小テスト 5%、平常点（授業態度、予習状況など）20%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【更新】
少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、上記の成績評価の方法と基準もおそらく変更されます。現在その方法と基準を検討しており、決定され次第、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
２．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit １つの消化にかける時間を調節したり、演習問題や課題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
This course places emphasis on reviewing the grammar which you have acquired and learning how to write paragraphs in English. The goal is to help students write a logical essay based on the rules of paragraph writing.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、ある程度の長さをもった論理的なエッセイを英語で書けるようになることです。ゆえに、演習や課題を通じて、これまで学んできた英文法を復習してもらうこと、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを理解してもらうこと、の２点を主な柱とします。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習により定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、複数の paragraph からなるある程度の長さのエッセイを、そのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit １つを、２回分の授業で消化していく予定です。
１回目では、まずその Unit の passage を読解しながら、そこで使用されている文法の解説を行います。その後、語彙と文法の演習問題を解き、学んだ知識の定着を促していきます。読解・演習問題ともに、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。
２回目では、１回目に読解した passage を例にして、paragraph writing を始めとする、英語で自分の意見を説得的に述べるために必要となる作文の方法を学びます。その後、学んだ方法を実際に使えるようになるために、writing の演習問題を解いてもらいます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。最後に、その Unit のまとめとして、writing の課題に取り組み、出来上がった課題を提出してもらいます。この課題は授業内で終わらない場合には宿題となります。
また、Unit を３つ終えるごとに小テスト（語彙・文法が中心）を実施し、履修者の理解度チェックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 2 回	Unit 7.Space	宇宙・天文の表現、助動詞
第 3 回	Unit 7.Space	目的をはっきり述べる
第 4 回	Unit 8.Grand Sumo: Traditional Values or Internationalization	客を表す表現、不定詞
第 5 回	Unit 8.Grand Sumo: Traditional Values or Internationalization	伝えたい情報を具体的に述べる
第 6 回	Unit 9.Lay Judge System and Education: Anxiety about the Future	身近な法律表現、多機能語
第 7 回	Unit 9.Lay Judge System and Education: Anxiety about the Future	結論・理由、繰り返しのパターン
第 8 回	Unit 10.Hot Springs	効果や影響の表現、接続詞
第 9 回	Unit 10.Hot Springs	読み手により書き方を変化させる
第 10 回	Unit 11.Cellular Phones and Children	動詞＋ A from doing、受動態
第 11 回	Unit 11.Cellular Phones and Children	問題点と背景を述べる
第 12 回	Unit 12.Pets and Apartment Houses	慣用的な分詞構文、動名詞
第 13 回	Unit 12.Pets and Apartment Houses	客観的だと思わせる書き方
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習

その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。特にその Unit の授業１回目ならば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら passage を読んで大意を把握しておく、演習問題を解いてくる、などの予習を必ず行ってきてください。「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習
その日の学習内容を教科書・ノートなどを見直して整理し、3 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また各 Unit のまとめ課題が授業内で終わらない場合には宿題となりますので、それを完成させて提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
石井隆之 他. (2010).『Comprehensive Writing －ライティング総合マスター』東京：センゲージラーニング.（税抜き 2,000 円）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際には、ハンドアウトを配布することもあります。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験 50%、提出課題（宿題） 25 %、小テスト 5%、平常点（授業態度、予習状況など）20%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
２．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit １つの消化にかける時間を調節したり、演習問題や課題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
This course places emphasis on reviewing the grammar which you have acquired and learning how to write paragraphs in English. The goal is to help students write a logical essay based on the rules of paragraph writing.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、ある程度の長さをもった論理的なエッセイを英語で書けるようになることです。ゆえに、演習や課題を通じて、これまで学んできた英文法を復習してもらうこと、英語で paragraph を書く際に必要となるルールを理解してもらうこと、の２点を主な柱とします。

【到達目標】
１．高校までに習った文法を復習により定着させる、またそれを利用して１つ１つの英文を明快に書けるようになる
２．教科書のパッセージに用いられている色々な分野の語彙・表現を習得する
３．paragraph writing 等の文章作成の基本ルールを理解したうえで、複数の paragraph からなるある程度の長さのエッセイを、そのルールに則る形で書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit １つを、２回分の授業で消化していく予定です。
１回目では、まずその Unit の passage を読解しながら、そこで使用されている文法の解説を行います。その後、語彙と文法の演習問題を解き、学んだ知識の定着を促していきます。読解・演習問題ともに、履修者に担当箇所を割り当てて答えを発表してもらう形で進めていきます。
２回目では、１回目に読解した passage を例にして、paragraph writing を始めとする、英語で自分の意見を説得的に述べるために必要となる作文の方法を学びます。その後、学んだ方法を実際に使えるようになるために、writing の演習問題を解いてもらいます（ペアワーク、グループワークとして行う場合もあり）。最後に、その Unit のまとめとして、writing の課題に取り組み、出来上がった課題を提出してもらいます。この課題は授業内で終わらない場合には宿題となります。
また、Unit を３つ終えるごとに小テスト（語彙・文法が中心）を実施し、履修者の理解度チェックを行います。

【更新】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化により授業計画にも多少の変更が生じますが、その旨は学習支援システムにてその都度お知らせしていきます。受講者の学習環境や理解度を考慮したうえで、計画は柔軟に変更していきます。
本授業は４月 21 日開始を予定しています。この日以降、授業に関わる情報や指示は学習支援システム上で配信していきますので、 学習支援システムをきちんと確認するようにしてください（【学生が準備すべき機器他】でも記した通り、学習支援システムからのお知らせを受信できるように、自分が普段使用するメールアドレスを支援システムに登録しておいてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 1.Right Is Right, and Left Is Left Behind?	「見なす」の表現、関係代名詞
第 3 回	Unit 1.Right Is Right, and Left Is Left Behind?	パラグラフの基本構造
第 4 回	Unit 2.The Heavily Taxing Great Buddha	皇室関連の表現、比較
第 5 回	Unit 2.The Heavily Taxing Great Buddha	トピック文の書き方
第 6 回	Unit 3.Mammon Is Mightier Than 46 Swords	争いに関する表現、使役
第 7 回	Unit 3.Mammon Is Mightier Than 46 Swords	支持文の書き方
第 8 回	Unit 4.Stiff Neck	傾向を表す表現、分詞
第 9 回	Unit 4.Stiff Neck	結論文の書き方
第 10 回	Unit 5.Prevention of Cancer	英語の病名表記、現在完了
第 11 回	Unit 5.Prevention of Cancer	順接と逆接の表現を使いこなす

第 12 回	Unit 6.Video Games	give を用いた表現、仮定法
第 13 回	Unit 6.Video Games	結論から各論へ展開する
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験
第 15 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 16 回	Unit 7.Space	宇宙・天文の表現、助動詞
第 17 回	Unit 7.Space	目的をはっきり述べる
第 18 回	Unit 8.Grand Sumo: Traditional Values or Internationalization	客を表す表現、不定詞
第 19 回	Unit 8.Grand Sumo: Traditional Values or Internationalization	伝えたい情報を具体的に述べる
第 20 回	Unit 9.Lay Judge System and Education: Anxiety about the Future	身近な法律表現、多機能語
第 21 回	Unit 9.Lay Judge System and Education: Anxiety about the Future	結論・理由、繰り返しのパターン
第 22 回	Unit 10.Hot Springs	効果や影響の表現、接続詞
第 23 回	Unit 10.Hot Springs	読み手により書き方を変化させる
第 24 回	Unit 11.Cellular Phones and Children	動詞＋ A from doing、受動態
第 25 回	Unit 11.Cellular Phones and Children	問題点と背景を述べる
第 26 回	Unit 12.Pets and Apartment Houses	慣用的な分詞構文、動名詞
第 27 回	Unit 12.Pets and Apartment Houses	客観的だと思わせる書き方
第 28 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための準備が必要となります。特にその Unit の授業１回目ならば、わからない語彙や表現を辞書で調べながら passage を読んで大意を把握しておく、演習問題を解いてくる、などの予習を必ず行ってきてください。「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習
その日の学習内容を教科書・ノートなどを見直して整理し、3 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また各 Unit のまとめ課題が授業内で終わらない場合には宿題となりますので、それを完成させて提出してください。

【テキスト（教科書）】
２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
石井隆之 他. (2010).『Comprehensive Writing －ライティング総合マスター』東京：センゲージラーニング.（税抜き 2,000 円）
なお、教科書に含まれない内容を補足説明する際には、ハンドアウトを配布することもあります。

【更新】
法政大学生協にて通信販売が行われますので、下記 URL から手続きを行ってください。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験 50%、提出課題（宿題） 25 %、小テスト 5%、平常点（授業態度、予習状況など）20%
２．特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【更新】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、上記の成績評価の方法と基準もおそらく変更されます。現在その方法と基準を検討しており、決定され次第、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題・課題があるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
２．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは授業支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit １つの消化にかける時間を調節したり、演習問題や課題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
This course places emphasis on reviewing the grammar which you have acquired and learning how to write paragraphs in English. The goal is to help students write a logical essay based on the rules of paragraph writing.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
メールや映画評などの様々なジャンルの英文に触れてその表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。特に、修飾語句を使用しつつ長めの英文を作ることができ、論点の明確なパラグラフ・ライティングができることが重要である。また、英語の発音の特徴を理解することでリスニング力向上も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 2 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、Unit 1
2	Unit 1	Goals in College Life
3	Unit 2	Totoro Travels to Nepal
4	Unit 2	演習問題と文法 (名詞)
5	Unit 3	Sightseeing in London
6	Unit 3	演習問題と文法 (形容詞)
7	Unit 4	Sushi
8	Unit 4	演習問題と文法 (副詞)
9	Unit 5	Fashion Trends
10	Unit 5	演習問題と文法 (that の用法)
11	Unit 6	Shodo
12	Unit 7	The Mississippi River
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題は各自で進めておくこと。
本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20 %、課題： 20 %、期末試験： 60 %、合計 100 %として評価する。S: 100〜90、A: 89〜80、B: 79〜70、C: 69〜60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
メールや映画評などの様々なジャンルの英文に触れてその表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。特に、修飾語句を使用しつつ長めの英文を作ることができ、論点の明確なパラグラフ・ライティングができることが重要である。また、これらのライティングスキルを活かしつつ、英語でのプレゼンテーションをおこなうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、
2	Unit 8	Ocean Blue
3	Unit 9	Studying Abroad
4	Unit 10	The Northern Lights
5	Unit 11	The Sound of the Saxophone
6	Unit 8〜11	まとめ
7	Unit 12	Communication Tips
8	Unit 13	Seasonal Festivals
9	Unit 14	Electric Cars
10	Unit 15	The Amazing Brain
11	Unit 12〜15	まとめ
12	プレゼンテーションの注意点	効果的なフレーズやパワーポイントなど
13	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、プレゼンテーションの準備は各自で進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20 %、プレゼンテーション： 20 %、期末試験： 60 %、合計 100 %として評価する。S: 100〜90、A: 89〜80、B: 79〜70、C: 69〜60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing and presentation skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
メールや映画評などの様々なジャンルの英文に触れてその表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。特に、修飾語句を使用しつつ長めの英文を作ることができ、論点の明確なパラグラフ・ライティングができることが重要である。また、これらのライティングスキルを活かしつつ、英語でのプレゼンテーションをおこなうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1〜2 回の授業で一つの Unit を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、Unit 1
2	Unit 1	Goals in College Life
3	Unit 2	Totoro Travels to Nepal
4	Unit 2	演習問題と文法 (名詞)
5	Unit 3	Sightseeing in London
6	Unit 3	演習問題と文法 (形容詞)
7	Unit 4	Sushi
8	Unit 4	演習問題と文法 (副詞)
9	Unit 5	Fashion Trends
10	Unit 5	演習問題と文法 (that の用法)
11	Unit 6	Shodo
12	Unit 7	The Mississippi River
13	ディスカッション	ディスカッションの実施と課題提出
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	秋学期の授業計画のガイダンス
16	Unit 8	Ocean Blue
17	Unit 9	Studying Abroad
18	Unit 10	The Northern Lights
19	Unit 11	The Sound of the Saxophone
20	Unit 8〜11	まとめ
21	Unit 12	Communication Tips
22	Unit 13	Seasonal Festivals
23	Unit 14	Electric Cars
24	Unit 15	The Amazing Brain
25	Unit 12〜15	まとめ
26	プレゼンテーションの注意点	効果的なフレーズやパワーポイントなど
27	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
28	試験とまとめ	秋学期の学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題やプレゼンテーションの準備は各自で進めておくこと。
本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊與田洋之著、『Amazing Visions of the Future ― Aspects of Human Activity ―（国際社会への扉―インプットからアウトプットで学ぶ四技能）』南雲堂、2019 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20 %、課題： 10 %、プレゼンテーション： 10 %、期末試験 (春学期 + 秋学期)： 60 %、合計 100 % として評価する。S: 100〜90、A: 89〜80、B: 79〜70、C: 69〜60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing and presentation skills.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のライティングとスピーキング力を向上させることである。学生はパラグラフ・ライティングの書き方とプレゼンテーションの技術を学ぶ。

【到達目標】
学生はパラグラフの構造を理論的に学び、最終的に英語で小論文が書けるようになる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Hoppii のお知らせにガイドラインを添付しました。４月２１日にお知らせを読み、アンケートに回答して下さい。
前期は、学生がパラグラフの基本構造を把握するための様々な問題練習に取り組み、時系列、列挙と分類、原因と結果、比較と対比などの様々なパラグラフを英語で書く。
後期は自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションをし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。プレゼンテーションの前に英語で原稿を執筆し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業や予習を進める上での注意事項を説明し、辞書の使い方を確認する。
2	Unit1 Lesson1:Introduction	英語ライティングにおけるパラグラフとは何か学ぶ。
3	Unit1 Lesson2:Introduction	英作文をするに当たり、英語の語順の原則について確認する。
4	Unit2 Lesson1:Narrative/ Descriptive Paragraph	Narrative Paragraph の特徴について学ぶ。
5	Unit2 Lesson2:Narrative/ Descriptive Paragraph	Descriptive Paragraph について学ぶ。
6	Unit3 Lesson1:Comparison/ Contrast Paragraph	Comparison Paragraph について学ぶ。
7	Unit3 Lesson2:Comparison/ Contrast Paragraph	Contrast Paragraph について学ぶ。
8	Unit4 Lesson1:Cause/Effect Paragraph	Cause/Effect Paragraph について学ぶ
9	Unit4 Lesson2:Cause/Effect Paragraph	Cause/Effect Paragraph を書いて提出する。
10	Unit5 Lesson1:Opinion Paragraph	Opinion Paragraph について学ぶ。
11	Unit5 Lesson2:Opinion Paragraph	Opinion Paragraph を書いて提出する。
12	Unit6 Lesson1:Toward Writing a 300-Word Essay	Essay の構成について学ぶ。
13	Unit6 Lesson2:Toward Writing a 300-Word Essay	300 語程度の Essay を書いて提出する。
14	まとめ	パラグラフ・ライティングの概念を把握しているか確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。あらかじめテキストの問題に取り組んで授業に臨むことが求められる。課題が出される場合、期日を厳守して提出すること。

【テキスト（教科書）】
田地野彰監修『A Guide to English Academic Writing for Beginners（はじめてのアカデミックライティング）』朝日出版社、２０２０年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験５０％、課題５０％
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to write paragraph writing and make a presentation in English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のライティングとスピーキング力を向上させることである。学生はパラグラフ・ライティングの書き方とプレゼンテーションの技術を学ぶ。

【到達目標】
学生はパラグラフの構造を理論的に学び、最終的に英語で小論文が書けるようになる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
前期は、学生がパラグラフの基本構造を把握するための様々な問題練習に取り組み、時系列、列挙と分類、原因と結果、比較と対比などの様々なパラグラフを英語で書く。
後期は自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションをし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。プレゼンテーションの前に英語で原稿を執筆し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ディスカッション及びプレゼンテーションのトピック決定	夏休み中に考えてきたトピックを提出し、アドバイスをもらう。
2	トピックに関する質問作成	トピックについてクラスメートに質問したい内容を英語で作成する。
3	アンケート調査	学生同士が英語でアンケート調査を行う。
4	ディスカッションの方法	英語でディスカッションする方法について学ぶ。
5	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションを行う。
6	データの分析	学生が英語でのアンケート結果を分析し、まとめる。
7	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか学ぶ。
8	プレゼンテーション原稿の書き方	プレゼンテーション原稿を英語で書く方法を学ぶ。
9	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成する。
10	プレゼンテーション原稿提出	英語で執筆した原稿を提出する。
11	原稿の見直し	指摘された箇所について、原稿の書き直しを行い、発表の練習を行う。
12	プレゼンテーションの練習	効果的なプレゼンテーションができるよう、イントネーションや間の取り方に留意して発音練習を行う。
13	プレゼンテーション本番	担当者はクラス全員の前で、英語プレゼンテーションを行う。クラスメートのプレゼンテーションを聞き、評価する。
14	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。あらかじめテキストの問題に取り組んで授業に臨むことが求められる。本授業の準備・復習時間は各１時間を標準とする。課題が出される場合、期日を厳守して提出すること。

【テキスト（教科書）】
田地野彰監修『A Guide to English Academic Writing for Beginners（はじめてのアカデミックライティング）』朝日出版社、２０２０年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題３０％、プレゼンテーション７０％
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to write paragraph writing and make a presentation in English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のライティングとスピーキング力を向上させることである。学生はパラグラフ・ライティングの書き方とプレゼンテーションの技術を学ぶ。

【到達目標】
学生はパラグラフの構造を理論的に学び、最終的に英語で小論文が書けるようになる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Hoppii のお知らせにガイドラインを添付しました。４月２１日にお知らせを読み、アンケートに回答して下さい。
前期は、学生がパラグラフの基本構造を把握するための様々な問題練習に取り組み、時系列、列挙と分類、原因と結果、比較と対比などの様々なパラグラフを英語で書く。
後期は自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションをし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。プレゼンテーションの前に英語で原稿を執筆し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業や予習を進める上での注意事項を説明し、辞書の使い方を確認する。
2	Unit1 Lesson1:Introduction	英語ライティングにおけるパラグラフとは何か学ぶ。
3	Unit1 Lesson2:Introduction	英作文をするに当たり、英語の語順の原則について確認する。
4	Unit2 Lesson1:Narrative/ Descriptive Paragraph	Narrative Paragraph の特徴について学ぶ。
5	Unit2 Lesson2:Narrative/ Descriptive Paragraph	Descriptive Paragraph について学ぶ。
6	Unit3 Lesson1:Comparison/ Contrast Paragraph	Comparison Paragraph について学ぶ。
7	Unit3 Lesson2:Comparison/ Contrast Paragraph	Contrast Paragraph について学ぶ。
8	Unit4 Lesson1:Cause/Effect Paragraph	Cause/Effect Paragraph について学ぶ
9	Unit4 Lesson2:Cause/Effect Paragraph	Cause/Effect Paragraph を書いて提出する。
10	Unit5 Lesson1:Opinion Paragraph	Opinion Paragraph について学ぶ。
11	Unit5 Lesson2:Opinion Paragraph	Opinion Paragraph を書いて提出する。
12	Unit6 Lesson1:Toward Writing a 300-Word Essay	Essay の構成について学ぶ。
13	Unit6 Lesson2:Toward Writing a 300-Word Essay	300 語程度の Essay を書いて提出する。
14	まとめ	パラグラフ・ライティングの概念を把握しているか確認する試験を実施する。
15	ディスカッション及びプレゼンテーションのトピック決定	夏休み中に考えてきたトピックを提出し、アドバイスをもらう。
16	トピックに関する質問作成	トピックについてクラスメートに質問したい内容を英語で作成する。
17	アンケート調査	学生同士が英語でアンケート調査を行う。
18	ディスカッションの方法	英語でディスカッションする方法について学ぶ。
19	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、実際にクラスメートと英語でディスカッションを行う。
20	データの分析	学生が英語でのアンケート結果を分析し、まとめる。
21	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか学ぶ。
22	プレゼンテーション原稿の書き方	原稿を英語で書く方法を学ぶ。
23	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成する。
24	プレゼンテーション原稿提出	英語で執筆した原稿を提出する。
25	原稿の見直し	指摘された箇所について、原稿の書き直しを行い、発表の練習を行う。
26	プレゼンテーションの練習	効果的なプレゼンテーションができるよう、イントネーションや間の取り方に留意して発音練習を行う。
27	プレゼンテーション本番	担当者はクラス全員の前で、英語プレゼンテーションを行う。クラスメートのプレゼンテーションを聞き、評価する。
28	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。あらかじめテキストの問題に取り組んで授業に臨むことが求められる。本授業の準備・復習時間は各１時間を標準とする。課題が出される場合、期日を厳守して提出すること。

【テキスト（教科書）】
田地野彰監修『A Guide to English Academic Writing for Beginners（はじめてのアカデミックライティング）』朝日出版社、２０２０年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験３０％、課題４０％、プレゼンテーション３０％
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to write paragraph writing and make a presentation in English.

LANe100IA

総合英語Ⅱ（a）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Conservation	Listening and speaking exercise: talking about endangered animals; Grammar explanation and practice: present simple and present continuous
Week 3	Unit 1 Conservation	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Homework: reading with comprehension
Week 4	Unit 2 Family connections	Listening and speaking exercise: talking about family; Grammar used when talking about future plans
Week 5	Unit 2 Family connections	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading exercise: A passion for genealogy
Week 6	Unit 3 Global stories	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Speaking exercise: talking about books; Grammar: defining relative clauses
Week 7	Unit 3 Global stories	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Writing exercise: writing a book review
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Music	Listening and speaking: talking about music; Grammar explanation and practice: countable and uncountable nouns
Week 10	Unit 4 Music	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading exercise: Music and the brain
Week 11	Unit 5 Good design	Listening and speaking: talking about design; Grammar explanation and practice: prepositions and adverbs of place
Week 12	Unit 5 Good design	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading with comprehension: Chicago's much loved flag
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%

更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅱ（b）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: will for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity
Week 11	Unit 10 Mind and machine	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%

更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe100IA

総合英語Ⅱ　【2017 年度以前入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Conservation	Listening and speaking exercise: talking about endangered animals; Grammar explanation and practice: present simple and present continuous
Week 3	Unit 1 Conservation	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Homework: reading with comprehension
Week 4	Unit 2 Family connections	Listening and speaking exercise: talking about family; Grammar used when talking about future plans
Week 5	Unit 2 Family connections	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading exercise: A passion for genealogy
Week 6	Unit 3 Global stories	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Speaking exercise: talking about books; Grammar: defining relative clauses
Week 7	Unit 3 Global stories	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Writing exercise: writing a book review
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Music	Listening and speaking: talking about music; Grammar explanation and practice: countable and uncountable nouns
Week 10	Unit 4 Music	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading exercise: Music and the brain
Week 11	Unit 5 Good design	Listening and speaking: talking about design; Grammar explanation and practice: prepositions and adverbs of place
Week 12	Unit 5 Good design	Watching video (TED Talks); Vocabulary review; Reading with comprehension: Chicago's much loved flag
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Inspiring people	Speaking exercise: talking about an inspirational person; Grammar explanation and practice: reported speech
Week 3	Unit 6 Inspiring people	Watching video (TED Talks); Key words; Writing assignment: describing an inspiring person
Week 4	Unit 7 Ethical choices	Listening and speaking exercise: talking about ethical choices; Grammar: predictions
Week 5	Unit 7 Ethical choices	Watching video (TED Talks); Vocabulary in context; Presentation skills
Week 6	Unit 8 Better cities	Explanation of presentation No. 1 (parroting); Listening: Living abroad; Grammar: phrasal verbs
Week 7	Unit 8 Better cities	Watching video (TED Talks); Key vocabulary; Reading with comprehension: Having a say about your city
Week 8	Presentation No. 1	Students'presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Giving	Listening and speaking: talking about good cuases; Grammar explanation and practice: *will* for offers and first conditionals
Week 10	Unit 9 Giving	Watching video (TED Talks); Key words review; Communication: choosing a charity
Week 11	Unit 10 Mind and machine	Vocabulary related to brain functions; Speaking: talking about a game; Grammar: adverbs and adverbial phrases
Week 12	Unit 10 Mind and machine	Watching video (TED Talks); Key words review; Reading with comprehension: The power of the mind
Week 13	Presentation No. 2	Students'presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Pre-Intermediate, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27392-3

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%

更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にリーディング力、リスニング力、語彙力の伸長及び文法知識の整理を目指す。
インターネットやコンピューターに関する内容を扱い、学生はスマートフォンや情報機器に関する話題を理解し、理解に基づいて対話できるようになる。

【到達目標】
・インターネット及びコンピュータに関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・インターネット及びコンピュータに関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・インターネット及びコンピュータに関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・読み、あるいは聞き取った内容に関して、平易な英語で対話できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業に開始日は４月２３日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、speaking & writing activities
2	A Social Network	listening, reading, speaking & writing activities
3	The End of TV	Quiz(1),listening, reading, speaking & writing activities
4	A Sport for Smartphones	Quiz(2),listening, reading, speaking & writing activities
5	Radio for Everyone	Quiz(3),listening, reading, speaking & writing activities
6	Smaller or Bigger	Quiz(4),listening, reading, speaking & writing activities
7	Review, 考査１	listening, reading & writing activities
8	考査１の解説、Light Brings Hope	listening, reading, speaking & writing activities
9	No More Lost Bags	Quiz(5),listening, reading, speaking & writing activities
10	Artificial Brains	Quiz(6),listening, reading, speaking & writing activities
11	A Better Way to Tell the Time	Quiz(7),listening, reading, speaking & writing activities
12	What to Do with All That Data?	Quiz(8),listening, reading, speaking & writing activities
13	Review, 考査２	listening, reading & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
準備復習には１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
Daniel O'Keeffe 他編、「インターネットが生み出す未来社会」、成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop their communication skills through reading & listening to various passages concerning the internet and computers. They are encouraged to talk about the topics with other students.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にリーディング力、リスニング力、語彙力の伸長及び文法知識の整理を目指す。
インターネットやコンピューターに関する内容を扱い、学生はシステム開発者や仮想空間に関する話題を理解し、理解に基づいて対話できるようになる。

【到達目標】
・インターネット及びコンピュータに関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・インターネット及びコンピュータに関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・インターネット及びコンピュータに関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・読み、あるいは聞き取った内容に関して、平易な英語で対話できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で進め、与えられたテーマに関する対話活動も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、The Man Who Invented the World Wide Web	listening, reading, speaking & writing activities
2	The Biggest Store in the World	Quiz(1),listening, reading, speaking & writing activities
3	Powering the Home of the Future	Quiz(2),listening, reading, speaking & writing activities
4	Steve Jobs and Friends	Quiz(3),listening, reading, speaking & writing activities
5	Cars of the 21st Century	Quiz(4),listening, reading, speaking & writing activities
6	It's a Wiki World	Quiz(5),listening, reading, speaking & writing activities
7	Review 及び考査１	listening, reading & writing activities
8	考査１の解説	listening, reading & writing activities
9	Teach Yourself Anything	listening, reading, speaking & writing activities
10	Who Do You Follow?	Quiz(6),listening, reading, speaking & writing activities
11	Saving Time Online	Quiz(7),listening, reading, speaking & writing activities
12	Play and Learn	Quiz(8),listening, reading, speaking & writing activities
13	Review 及び考査２	listening, reading & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
準備復習には１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
Daniel O'Keeffe 他編、「インターネットが生み出す未来社会」、成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
①平常点、課題提出 25 %。
② reading, listening 及び vocabulary に関する小テスト 25 %。

③２回実施する考査 50 %。
100 点満点で 60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop their communication skills through reading & listening to various passages concerning the internet and computers. They are encouraged to talk about the topics with other students.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

桑原　洋

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主にリーディング力、リスニング力、語彙力の伸長及び文法知識の整理を目指す。インターネットやコンピューターに関する内容を扱い、春学期には、学生はスマートフォンや情報機器に関する話題を理解し、理解に基づいて対話できるようになる。
秋学期には、学生はシステム開発者や仮想空間に関する話題を理解し、理解に基づいて対話できるようになる。

【到達目標】
・インターネットやコンピューターに関する英文を読み、概要を理解できるようになる。
・インターネットやコンピューターに関する英文を聞き、概要を理解できるようになる。
・インターネットやコンピューターに関する基本的な語彙を理解できるようになる。
・読み、あるいは聞き取った内容に関して、平易な英語で対話できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度語提示する。本授業の開始日は４月２３日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、自己紹介、speaking & writing activities
2	A Social Network	listening, reading, speaking & writing activities
3	The End of TV	Quiz(1),listening, reading, speaking & writing activities
4	A Sport for Smartphones	Quiz(2),listening, reading, speaking & writing activities
5	Radio for Everyone	Quiz(3),listening, reading, speaking & writing activities
6	Smaller or Bigger	Quiz(4),listening, reading, speaking & writing activities
7	Review, 考査１	listening, reading & writing activities
8	考査１の解説、Light Brings Hope	listening, reading, speaking & writing activities
9	No More Lost Bags	Quiz(5),listening, reading, speaking & writing activities
10	Artificial Brains	Quiz(6),listening, reading, speaking & writing activities
11	A Better Way to Tell the Time	Quiz(7),listening, reading, speaking & writing activities
12	What to Do with All That Data?	Quiz(8),listening, reading, speaking & writing activities
13	Review, 考査２	listening, reading & writing activities
14	考査２の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities
15	オリエンテーション、The Man Who Invented the World Wide Web	listening, reading, speaking & writing activities
16	The Biggest Store in the World	Quiz(9),listening, reading, speaking & writing activities
17	Powering the Home of the Future	Quiz(10),listening, reading, speaking & writing activities
18	Steve Jobs and Friends	Quiz(11),listening, reading, speaking & writing activities
19	Cars of the 21st Century	Quiz(12),listening, reading, speaking & writing activities
20	It's a Wiki World	Quiz(13),listening, reading, speaking & writing activities

21	Review, 考査３	listening, reading & writing activities
22	考査３の解説	listening, reading & writing activities
23	Teach Yourself Anything	listening, reading, speaking & writing activities
24	Who Do You Follow?	Quiz(14),listening, reading, speaking & writing activities
25	Saving Time Online	Quiz(15),listening, reading, speaking & writing activities
26	Play and Learn	Quiz(16),listening, reading, speaking & writing activities
27	Review, 考査４	listening, reading & writing activities
28	考査４の解説及びまとめ	listening, reading & writing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備：指定された英文を読み、必要な語彙を辞書で調べて意味を確認し、概要をまとめておくこと。
復習：英文を再度読み、準備段階で理解できなかった点を解消しておくこと。準備の際に調べた語彙の定着を行うこと。
準備復習には１時間をかけること。

【テキスト（教科書）】
Daniel O'Keeffe 他編、「インターネットが生み出す未来社会」、成美堂、2017, 1,900 円
適宜プリント教材も用いる。

【参考書】
英和辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
インターネットを活用し、視覚上理解しやすい資料を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書以外にはなし。

【その他の重要事項】
欠席、遅刻をできるだけしないこと。授業に積極的に参加し、疑問点は必ず授業中に質問すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop their communication skills through reading & listening to various passages concerning the internet and computers. They are encouraged to talk about the topics with other students.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的知識を増すとともに、コミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 No Moon at All?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
3	Unit 1 No Moon at All?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
4	Unit 2 Tackling Violent Wildfires	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
5	Unit 2 Tackling Violent Wildfires	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
6	Unit 3 Check the Soil First	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
7	Unit 3 Check the Soil First	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
8	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
9	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
10	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
11	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
12	微調整・特別言語活動	Unit 1 - Unit 5
13	定期考査・復習	Unit 1-Unit 5
14	定期考査返却・特別言語活動	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。（２時間）

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KIN-SEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的知識を増すとともに、コミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 6 Is Love an Addiction?	Course guideline
2	Unit 6 Is Love an Addiction?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
3	Unit 6 Is Love an Addiction?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
4	Unit 7 Self-Driving Future	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
5	Unit 7 Self-Driving Future	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
6	Unit 8 No Needle, No Thread?	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
7	Unit 8 No Needle, No Thread?	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
8	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
9	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
10	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
11	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Vocabulary Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
12	Unit 11 Sensory Judgement is Important	Word-Exercise, Pre-Study,1st Watch, 2nd Watch
13	定期考査・復習	Unit 6 - Unit 11
14	定期考査返却・特別活動	Unit 6-Unit 11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。（２時間）

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KINSEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題、発表、貢献などを含む）25%, 授業外課題 (課題提出等）25%

【学生の意見等からの気づき】
各学生のポジティブな取り組みが求められる。私語厳禁。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

村井　三千男

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の４技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指すが、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。（interaction は oral, written の双方がありうる。）

【到達目標】
４つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading のスキルの上達をめざす。科学的知識を増すとともに、コミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的な事象にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。interaction としても音声的な面 (oral) と文字による面 (written) の両方を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1: No Moon at All?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
3	Unit 1: No Moon at All?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
4	Unit 2: Tackling Violent Wildfires	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
5	Unit 2: Tackling Violent Wildfires	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
6	Unit 3 Check the Soil First	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
7	Unit 3 Check the Soil First	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
8	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
9	Unit 4 The Beauty of Snowflakes	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
10	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
11	Unit 5 Coping with the Extreme Weather	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
12	Unit 1- Unit 5 総復習・微調整・特別言語活動	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
13	定期考査・復習	Unit 1-Unit 5
14	定期考査返却・特別言語活動	Unit 1-Unit 5
15	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
16	Unit 6: Is Love an Addiction?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch

17	Unit 6: Is Love an Addiction?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
18	Unit 7: Self-Driving Future	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
19	Unit 7: Self-Driving Future	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
20	Unit 8 No Needle, No Thread?	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
21	Unit 8 No Needle, No Thread?	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
22	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
23	Unit 9 Aiming for a Perfect Squeeze	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
24	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
25	Unit 10 Identifying Fake Drugs	Vocabulary, Build-Up, Phrase Exercise, Composition Exercise, Summarizing-Exercise (+Additional Materials)
26	Unit 11 Sensory Judgement is Important	Word-Exercise, Pre-Study, 1st Watch 2nd Watch
27	定期考査・復習	Unit 6-11
28	定期考査返却・特別言語活動	Unit 6-11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading (Lesson A) は予習を前提としますので、内容に目を通した上で授業に出席しましょう。TED Talks (Lesson B) は予習せずに授業に参加して下さい。授業後はプレゼンテーションのスクリプトを使って、しっかり復習しましょう。訳読は行いませんので、授業後によく復習し、わからないところがあれば質問して下さい。（2時間）

【テキスト（教科書）】
Yoshinobu Nozaki, Alastair Graham-Marr 他 『Inside Science』KINSEIDO (ISBN978-4-7647-4077-8)（2,000 円（税別））

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 50%、授業内課題 25%, 授業外課題 25%

【学生の意見等からの気づき】
語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。）

【その他の重要事項】
授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。（常日頃から健康維持に十分留意することを望む次第である。）

【Outline and objectives】
This class aims at improving the students'competence of the four skills of English - listening, speaking, reading and writing, with reading mostly emphasized. Also it aims at encouraging the students to convey their way of thinking or information acquired through reading and listening, either by speaking or writing. It motivates them to improve their accuracy and fluency in English ablility.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 異文化理解に関する様々な話題の英文を読み、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、一つの章を二週に渡って扱う。一週目には素材文を読み、内容を把握することに重点を置く。二週目には素材文に使われている文法事項を確認し、文を作り、意見を英語で発表することに注力する。
【遠隔授業に伴う変更点】
本授業の開始日は 4 月 27 日とする。詳細は学習支援システム（HOPPII）に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容、成績評価、クラスルールについての説明
第 2 回	Chapter 1 Whose English? (1)	Reading
第 3 回	Chapter 1 Whose English? (2)	Writing, Speaking
第 4 回	Chapter 2"My Mother Isn't Well, Sir." (1)	Reading
第 5 回	Chapter 2"My Mother Isn't Well, Sir." (2)	Writing, Speaking
第 6 回	Chapter 3 Your Variety Is Better Than Mine. (1)	Reading
第 7 回	Chapter 3 Your Variety Is Better Than Mine. (2)	Writing, Speaking
第 8 回	Chapter 4 What Is the Culture of English? (1)	Reading
第 9 回	Chapter 4 What Is the Culture of English? (2)	Writing, Speaking
第 10 回	Chapter 5 Where Should I Go to Learn English? (1)	Reading
第 11 回	Chapter 5 Where Should I Go to Learn English? (2)	Writing, Speaking
第 12 回	Chapter 6 Writing Extremely Short Stories (1)	Reading
第 13 回	Chapter 6 Writing Extremely Short Stories (2)	Writing, Speaking
第 14 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。
【偶数週】
予習：素材文を熟読し、単語や熟語などを調べること。また、内容に関する疑問がある場合、授業内で共有できるようにまとめておくこと。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。
【奇数週】

予習：テーマとなる英文法事項を予め参考図書などを用いて確認しておくこと。教科書の Discussion / Presentation の項目にある英語に目を通してくること。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
書名：アクロス・カルチャーズ　異文化間コミュニケーションのための総合英語 (ISBN ： 978-4-384-33474-6 C1082)
著者：本名信行 著/ Andy Kirkpatrick 著/ 竹下裕子 著
本体価格： 1,870 円（本体 1,700 円＋税）
出版社：株式会社三修社

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 25%
平常点（発言、提出物など）： 25%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
○ 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
○ 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting.
Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend
English texts on cross cultural issues by treating them analytically.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 異文化理解に関する様々な話題の英文を読み、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、一つの章を二週に渡って扱う。一週目には素材文を読み、内容を把握することに重点を置く。二週目には素材文に使われている文法事項を確認し、文を作り、意見を英語で発表することに注力する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容、成績評価、クラスルールについての説明
第 2 回	Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers? (1)	Reading
第 3 回	Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers? (2)	Writing, Speaking
第 4 回	Chapter 8 English Is an Asian Language! (1)	Reading
第 5 回	Chapter 8 English Is an Asian Language! (2)	Writing, Speaking
第 6 回	Chapter 9 What Is My First Language? (1)	Reading
第 7 回	Chapter 9 What Is My First Language? (2)	Writing, Speaking
第 8 回	Chapter 10 What Does It Mean to Be Bilingual? (1)	Reading
第 9 回	Chapter 10 What Does It Mean to Be Bilingual? (2)	Writing, Speaking
第 10 回	Chapter 11 When Should We Learn English? (1)	Reading
第 11 回	Chapter 11 When Should We Learn English? (2)	Writing, Speaking
第 12 回	Chapter 12 “You Said So!” “No, We Didn’t!” (1)	Reading
第 13 回	Chapter 12 “You Said So!” “No, We Didn’t!” (2)	Writing, Speaking
第 14 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。
【偶数週】
予習：素材文を熟読し、単語や熟語などを調べること。また、内容に関する疑問がある場合、授業内で共有できるようにまとめておくこと。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。
【奇数週】

予習：テーマとなる英文法事項を予め参考図書などを用いて確認しておくこと。教科書の Discussion / Presentation の項目にある英語に目を通してくること。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
書名：アクロス・カルチャーズ　異文化間コミュニケーションのための総合英語 (ISBN ： 978-4-384-33474-6 C1082)
著者：本名信行 著/ Andy Kirkpatrick 著/ 竹下裕子 著
本体価格： 1,870 円（本体 1,700 円＋税）
出版社：株式会社三修社

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 25%
平常点（発言、提出物など）： 25%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
○ 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
○ 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting.
Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend
English texts on cross cultural issues by treating them analytically.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

大塚　孝一

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
○大学教育で必要となる外国語コミュニケーション能力のうち、英語における「読む」「話す」「書く」能力の向上を目指す。
○現代英語の実情を知り、異文化間コミュニケーションの方法、そして相互理解を図る目的と方法を各自で探る。

【到達目標】
学生は本授業において、
1. 異文化理解に関する様々な話題の英文を読み、その内容が理解できるようになる。
2. 英文法を中心に置いたリーディング力を身につける。
3. 母語、英語を問わず、他者に自分の意見を伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、一つの章を二週に渡って扱う。一週目には素材文を読み、内容を把握することに重点を置く。二週目には素材文に使われている文法事項を確認し、文を作り、意見を英語で発表することに注力する。
【遠隔授業に伴う変更点】
本授業の開始日は 4 月 27 日とする。詳細は学習支援システム（HOPPII）に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容、成績評価、クラスルールについての説明
第 2 回	Chapter 1 Whose English? (1)	Reading
第 3 回	Chapter 1 Whose English? (2)	Writing, Speaking
第 4 回	Chapter 2“My Mother Isn’t Well, Sir.” (1)	Reading
第 5 回	Chapter 2“My Mother Isn’t Well, Sir.” (2)	Writing, Speaking
第 6 回	Chapter 3 Your Variety Is Better Than Mine. (1)	Reading
第 7 回	Chapter 3 Your Variety Is Better Than Mine. (2)	Writing, Speaking
第 8 回	Chapter 4 What Is the Culture of English? (1)	Reading
第 9 回	Chapter 4 What Is the Culture of English? (2)	Writing, Speaking
第 10 回	Chapter 5 Where Should I Go to Learn English? (1)	Reading
第 11 回	Chapter 5 Where Should I Go to Learn English? (2)	Writing, Speaking
第 12 回	Chapter 6 Writing Extremely Short Stories (1)	Reading
第 13 回	Chapter 6 Writing Extremely Short Stories (2)	Writing, Speaking
第 14 回	Review	まとめ・試験
第 15 回	Introduction	授業内容、成績評価、クラスルールについての説明
第 16 回	Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers? (1)	Reading
第 17 回	Chapter 7 Who Makes the Best English Teachers? (2)	Writing, Speaking
第 18 回	Chapter 8 English Is an Asian Language! (1)	Reading

第 19 回	Chapter 8 English Is an Asian Language! (2)	Writing, Speaking
第 20 回	Chapter 9 What Is My First Language? (1)	Reading
第 21 回	Chapter 9 What Is My First Language? (2)	Writing, Speaking
第 22 回	Chapter 10 What Does It Mean to Be Bilingual? (1)	Reading
第 23 回	Chapter 10 What Does It Mean to Be Bilingual? (2)	Writing, Speaking
第 24 回	Chapter 11 When Should We Learn English? (1)	Reading
第 25 回	Chapter 11 When Should We Learn English? (2)	Writing, Speaking
第 26 回	Chapter 12 “You Said So!” “No, We Didn’t!” (1)	Reading
第 27 回	Chapter 12 “You Said So!” “No, We Didn’t!” (2)	Writing, Speaking
第 28 回	Review	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて２時間を標準とする。
【偶数週】
予習：素材文を熟読し、単語や熟語などを調べること。また、内容に関する疑問がある場合、授業内で共有できるようにまとめておくこと。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。
【奇数週】
予習：テーマとなる英文法事項を予め参考図書などを用いて確認しておくこと。教科書の Discussion / Presentation の項目にある英語に目を通してくること。
復習：授業で扱った英語表現や文法、内容に関する情報を必ずまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
書名：アクロス・カルチャーズ　異文化間コミュニケーションのための総合英語 (ISBN ： 978-4-384-33474-6 C1082)
著者：本名信行 著/ Andy Kirkpatrick 著/ 竹下裕子 著
本体価格： 1,870 円（本体 1,700 円＋税）
出版社：株式会社三修社

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
小テスト： 25%
平常点（発言、提出物など）： 25%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は概ね高評価が多く、教員の思いを理解する学生に恵まれた。今年度も多くの学生にとって学びの多い授業を提供することを目指す。

【その他の重要事項】
○ 中級、あるいは上級の英和辞典と和英辞典は必ず毎回の授業に持参すること（紙・電子は問わない）。インターネットを用いて無料の英和辞典にアクセスすることは不可とする。初級やポケット版の英和辞典・和英辞典も不可とする。
○ 真剣な授業態度を望む。本授業中に関係の無いことをしている場合は、退出を命じ、その授業を「欠席」とする。当然、その授業における小テストや平常点は評価に加えない。

【Outline and objectives】
This course focuses on basic English skills needed in an academic setting.
Listening skills and reading skills are mainly targeted. Students will have a good command of English by themselves when they comprehend
English texts on cross cultural issues by treating them analytically.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
春学期の少なくとも前半はオンライで開講となる。それにともなう各回の授業計画変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とする。学習方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	国内政治	Japan’s pro-constitution reform
第 5 回	国内政治	Exercise and Vocabulary
第 6 回	経済	Major economic blunder
第 7 回	経済	Exercise and Vocabulary
第 8 回	ビジネス	Trade war
第 9 回	ビジネス	Exercise and Vocabulary
第 10 回	外交・国際会議	Trump begins state visit to Japan
第 11 回	外交・国際会議	Exercise and Vocabulary
第 12 回	軍事	First aircraft carriers
第 13 回	軍事	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2020 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2019) ￥ 1,600+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。
春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	海外政治情勢	Johnson seeks more diverse Cabinet
第 3 回	海外政治情勢	Exercise and Vocabulary
第 4 回	文化・社会	Japan's Naruhito in 1st speech
第 5 回	文化・社会	Exercise and Vocabulary
第 6 回	犯罪・事件	College bribery scheme
第 7 回	犯罪・事件	Exercise and Vocabulary
第 8 回	裁判・法令	Forced sterilizations
第 9 回	裁判・法令	Exercise and Vocabulary
第 10 回	地球環境	Ocean-friendly plastic
第 11 回	地球環境	Exercise and Vocabulary
第 12 回	気象災害	London's climate will be as warm as Barcelona's
第 13 回	気象災害	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2020 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2019) ￥ 1,600+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

松下　晴彦

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞英語を使い、今までに習得した英語力を充実・発展させながら、正確な読解力の養成を目標とする。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】
学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。英文を正確に読むという語学的な技術を習得することに加え、様々な問題を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
春学期の少なくとも前半はオンライで開講となる。それにともなう各回の授業計画変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とする。学習方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 2 回	英字新聞の特徴	特徴、読み方の解説。
第 3 回	Headline のルール	ルールの解説と演習。
第 4 回	国内政治	Japan's pro-constitution reform
第 5 回	国内政治	Exercise and Vocabulary
第 6 回	経済	Major economic blunder
第 7 回	経済	Exercise and Vocabulary
第 8 回	ビジネス	Trade war
第 9 回	ビジネス	Exercise and Vocabulary
第 10 回	外交・国際会議	Trump begins state visit to Japan
第 11 回	外交・国際会議	Exercise and Vocabulary
第 12 回	軍事	First aircraft carriers
第 13 回	軍事	Exercise and Vocabulary
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ
第 15 回	ガイダンス	授業の紹介等
第 16 回	海外政治情勢	Johnson seeks more diverse Cabinet
第 17 回	海外政治情勢	Exercise and Vocabulary
第 18 回	文化・社会	Japan's Naruhito in 1st speech
第 19 回	文化・社会	Exercise and Vocabulary
第 20 回	犯罪・事件	College bribery scheme
第 21 回	犯罪・事件	Exercise and Vocabulary
第 22 回	裁判・法令	Forced sterilizations
第 23 回	裁判・法令	Exercise and Vocabulary
第 24 回	地球環境	Ocean-friendly plastic
第 25 回	地球環境	Exercise and Vocabulary
第 26 回	気象災害	London's climate will be as warm as Barcelona's
第 27 回	気象災害	Exercise and Vocabulary
第 28 回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『時事英語の総合演習 2020 年度版』堀江洋文 (朝日出版:2019) ￥ 1,600+税

【参考書】
『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。
春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline and objectives】
This course will focus on developing students' abilities to read English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評 文法復習①五文型	答案返却、記事③前半
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。

【テキスト（教科書）】
プリント教材使用。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち運び可能な PC、タブレット、電子辞書等。

【その他の重要事項】
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline and objectives】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target. They will also learn how to read headlines, leads, and captions.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康と生活の質をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。

【到達目標】
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	文法復習①仮定法	記事①
3	文法復習②分詞構文	記事①続き
4	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
5	文法復習④不定詞	記事②前半
6	文法復習⑤付帯状況	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
9	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
10	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
11	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
12	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。

【テキスト（教科書）】
プリント教材使用。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
できれば持ち運び可能な PC、タブレット、電子辞書等。

【その他の重要事項】
学生の興味関心、理解度等に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline and objectives】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English (more advanced level than English III (a)) as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

衣川　清子

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】
春学期
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。
秋学期
①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（Reading for Information）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評　改行 文法復習①五文型	答案返却、記事③前半
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ
15	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
16	文法復習①仮定法	記事①
17	文法復習②分詞構文	記事①続き
18	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
19	文法復習④不定詞	記事②前半
20	文法復習⑤付帯状況	記事②後半
21	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
22	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
23	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
24	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
25	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
26	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
27	文法復習のまとめ	記事⑤後半
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。
授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。予復習とも 30 分〜1 時間が望ましい。

【テキスト（教科書）】
プリント教材使用。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35 %＋期末テスト 35 %＋平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【その他の重要事項】
学生の興味関心、理解度に応じ、授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

【Outline and objectives】
Students will be trained to read as many newspaper/online media articles in English as possible. Extensive, rather than intensive reading and comprehension is the target. They will also learn how to read headlines, leads, and captions.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、高度な読解力、幅広い語彙力を身につける。またパラグラフ・リーディングやエッセイライティングの学習を通じて、英語で読解、ライティングを行う際に必要とされる論理的な思考力のトレーニングを行うことを目指す。

【到達目標】
CEFR　B1 から B2 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。
文法的に正しいだけでなく、論理的に展開された英文エッセイが書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2~3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
※ 4 月 19 日追記：　4 月 21 日にみなさんの Web 環境を把握するためのアンケートを、学習支援システム Hoppi より発信する予定です。課題などの配信は最初 Hoppi 上で行いますが、その後様子を見て使用するプラットフォームを変更する可能性もあります。また最初の課題の送信については 4 月 28 日ごろを予定しています。
※ 4 月 21 日追記：本日 Hoppi からアンケートを配信する予定でしたが、hoppi がアクセスしにくい状態が続いているため、「アンケートあるいは講師からの連絡を、22 日～ 25 日の間に発信する」と変更いたします。大学のメールアドレスをよく使っている携帯などのメールアドレスに転送し、hoppi からの連絡が可能なようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Unit1	Sports and Obsession	Reading: An Interview with Travis Binns
Unit 1	Sports and Obsession	Reading: High School Star Hospitalized for Eating Disorder
Unit 1	Sports and Obsession	Writing a factual report
Unit 2	The Consequences of Fraud	Reading: Catch Me If You Can: The Frank Abagnale Story
Unit 2	The Consequences of Fraud	Reading: The Michelle Brown Story: Identity Theft
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 3	Exploring the Red Planet	Reading: Mars: Our New Home?
Unit 3	Exploring the Red Planet	Reading: Timeline for a Mission to Mars
Unit 3	Exploring the Red Planet	Writing a pro and con paragraph
Unit 4	Language and Power	Reading: Men, Women, and Language
Unit 4	Language and Power	Reading: The Question of Global English
Unit 4	Language and Power	Writing a contrast paragraph
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 3 5th edition (Pearson)
4 月 22 日追記：上記のテキストは通年で用いるため、必ず購入すること。

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、　小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度より開講につき特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading skills and vocabulary by reading a variety of articles. Students should also develop logical thinking abilities through reading and writing English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、高度な読解力、幅広い語彙力を身につける。またパラグラフ・リーディングやエッセイライティングの学習を通じて、英語で読解、ライティングを行う際に必要とされる論理的な思考力のトレーニングを行うことを目指す。

【到達目標】
CEFR　B1 から B2 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。
文法的に正しいだけでなく、論理的に展開された英文エッセイが書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 5	Careers of the Future	Reading 1: Meet your New Boss
Unit5	Careers of the Future	Reading 2: Great Jobs for the 21st Century
Unit 5	Careers of the Future	Writing a cover letter Watching a video on dream jobs
Unit 6	What is Ecotourism?	Reading 1: Tourism in Fragile Land
Unit 6	What is Ecotourism?	Reading 2: A Travel Journal
Unit 6	What is Ecotourism?	Writing an opinion essay
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめと試験、解説
Unit 7	Capital Punishment	Reading 1: Live in Prison is Still Life
Unit 7	Capital Punishment	Reading 2:Global Facts About Capital Punishment
Unit 7	Capital Punishment	Writing an opinion essay
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Reading 1: Global Climate Change
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Reading 2: Solving The Problems of Climate Change
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Writing a cause-effect essay
Final term review	期末テスト	これまでのまとめと試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 3 5th edition (Pearson)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、　小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から開講のため特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading abilities and vocabulary by reading a variety of articles. Students should also develop logical thinking skills through reading and writing English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

鈴木　美穂

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな話題について書かれた長文を読み、高度な読解力、幅広い語彙力を身につける。またパラグラフ・リーディングやエッセイライティングの学習を通じて、英語で読解、ライティングを行う際に必要とされる論理的な思考力のトレーニングを行うことを目指す。

【到達目標】
CEFR　B1 から B2 程度の長文を早く正確に読めるようになること。
英語話者がよく使う語句や言い回しを理解し、ライティングやスピーキングで使えるようになること。
文法的に正しいだけでなく、論理的に展開された英文エッセイが書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて英文で書かれたテキストを用い、文法の説明であっても英語で理解することを目指します。ひとつの Unit の内容が多いので、1Unit につき授業 2~3 回分をかけて学習します。リーディング、ライティングの他、関連するビデオを見たり、グループワーク、ディスカッションなども行います。
※ 4 月 19 日追記：　4 月 21 日にみなさんの Web 環境を把握するためのアンケートを、学習支援システム Hoppi より発信する予定です。課題などの配信は最初 Hoppi 上で行いますが、その後様子を見て使用するプラットフォームを変更する可能性もあります。また最初の課題の送信については 4 月 28 日ごろを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方、テキストなどについての説明、自己紹介など。
Unit1	Sports and Obsession	Reading: An Interview with Travis Binns
Unit 1	Sports and Obsession	Reading: High School Star Hospitalized for Eating Disorder
Unit 1	Sports and Obsession	Writing a factual report
Unit 2	The Consequences of Fraud	Reading: Catch Me If You Can: The Frank Abagnale Story
Unit 2	The Consequences of Fraud	Reading: The Michelle Brown Story: Identity Theft
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 3	Exploring the Red Planet	Reading: Mars: Our New Home?
Unit 3	Exploring the Red Planet	Reading: Timeline for a Mission to Mars
Unit 3	Exploring the Red Planet	Writing a pro and con paragraph
Unit 4	Language and Power	Reading: Men, Women, and Language
Unit 4	Language and Power	Reading: The Question of Global English
Unit 4	Language and Power	Writing a contrast paragraph
Final term review	期末テスト	これまでのまとめ、テストおよび解説
Unit 5	Careers of the Future	Reading: Meet Your New Boss: You
Unit 5	Careers of the Future	Reading: Great Jobs for the Twenty-first Century
Unit 5	Careers of the Future	Writing a cover letter Watching a video on dream jobs
Unit 6	What is Ecotourism?	Reading: Tourist in a Fragile Land
Unit 6	What is Ecotourism?	Reading: A Travel Journal
Unit6	What is Ecotourism?	Writing an opinion essay
Mid term review	中間テスト	これまでのまとめと試験、解説
Unit 7	Capital Punishment	Reading: Life in Prison is Still Life: Why Should a Killer Live?
Unit 7	Capital Punishment	Charts: Global Facts About Capital Punishment
Unit 7	Capital Punishment	Writing an opinion essay
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Reading: Global Climate Change
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Reading:Solving The Problems of Climate Change
Unit 8	Is Our Climate Changing?	Writing a cause-and-effect essay
Final term review	期末テスト	これまでのまとめと試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。テキストには必ず授業前に目を通し、単語などを調べておくこと。またテキストに付属しているアプリを使っての学習を推奨する。

【テキスト（教科書）】
Northstar Reading and Writing Level 3 5th edition (Pearson)

【参考書】
紙の辞書か電子辞書を必ず用意すること。スマートフォンでの辞書閲覧は特に理由がない限り認めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、小テストや課題など 30 %、テスト 40 %をあわせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から開講のため特になし。

【Outline and objectives】
This course is designed to enhance students' reading abilities and their vocabularies by reading a variety of articles.　Students should also develop logical thinking skills through reading and writing English.

LANe200IA

総合英語Ⅲ（a）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・グループ分け	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	Sport(1) プレゼンテーション（Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	Sport(1) 確認テスト（Adventure Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	Sport(2) プレゼンテーション (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	Sport(2) 確認テスト (Aquatic Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sport(3) プレゼンテーション (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sport(3) 確認テスト (Strenght and Agility Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sport(4) プレゼンテーション (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sport(4) 確認テスト (Ball Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sport(5) プレゼンテーション (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Sport(5) 確認テスト (Extreme Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Sport(6) プレゼンテーション (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Sport(6) 確認テスト (Motorised Sports)	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅲ（b）【2018 年度以降入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握する。次回の発表者はプレゼンテーションの準備をする。
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅲ　【2017 年度以前入学生対象】

川田　アマンディーン

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育において必要となる英語力をはじめ、本講義では特にスポーツに関連する英語を身につけていくことを目指す。受信面の向上だけではなく、発信面向上にも取り組む。英文を論理的に、時に文化的事情を踏まえ読解し、読解時に得た情報や知識を使い、プレゼンテーションや会話によって発信していくことで、自分の力で英語を駆使できる力を養う。

【到達目標】
・スポーツに関連する英語で書かれた様々な英文の様々なトピックが理解できるようになる。
・英語の語彙力を広げ、それらを自身の言葉として使うことができるようになる。
・英和辞典、和英辞典を効果的に使用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員から学生への情報、知識を提供する。さらに、与えられた情報、知識を使い、英語を使用する。グループ学習やプレゼンテーションなどを多く用いるため、講義時にも演習時にも受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢で臨み，間違えることを恐れずに最善を尽くすこと
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 4 月 27 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の進め方等について説明する。講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。
2	International Sports Politics (1) ・ The Olympic Games ・ The Football World Cup ・ The Commonwealth Games	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
3	International Sports Politics (2) ・ Drugs in Sports ・ Tackling Disability ・ Development and Peace	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
4	The Economics of Sports (1) ・ International Federations ・ Media ・ Sponsorship	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
5	The Economics of Sports (2) ・ Merchandising ・ Gambling ・ Sports Tourism	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
6	Sports (1) ・ American Football ・ Baseball ・ Basketball	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
7	Sports (2) ・ Cricket ・ Tennis ・ Rugby	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
8	Sports (3) ・ Cycling ・ Marathon ・ Track and Field	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
9	Sports (4) ・ Sailing ・ Swimming and Diving ・ Skiing and Snowboarding	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
10	Sports (5) ・ Gymnastics and Exercise ・ Volleyball and Beach Volleyball ・ Multi-Sports	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
11	Country Profiles(1) ・ New Zealand ・ Australia ・ UK ・ Ireland	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
12	Country Profiles(2) ・ Indonesia ・ Thailand ・ South Korea ・ China ・ Malaysia	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
13	Country Profiles(3) ・ Rusia ・ Austria ・ Spain ・ Germany ・ France	テキストや資料を読み、内容を把握しプレゼンテーションをおこなう
14	学期末まとめ	今までおこなわれたテーマの概要について振り返り、理解度の確認をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ学習やプレゼンテーションを用いるため、その予習・準備等を入念におこなうこと。また英文を多用する機会を増やしておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【参考書】
The World Atlas of Sport
Professor Alan Tomlinson Ph（著）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
プレゼンテーション等 40 %
小テスト 30 %
授業が教室で行うことが出来るようになったら、プレゼンテーションと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【その他の重要事項】
必要に応じてその都度授業内でアナウンスをする。

【Outline and objectives】
The objective of this class is to encourage and to help students to express themselves in English in sport related situations. That's why during the class we will give the priority to group discussion and speeches

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ビジネス英語をテーマにした教科書を使用し、わかりやすい英文を書く際に必要となる基礎的な文法を改めて学び直します。

【到達目標】
1．ビジネス会話で頻出する語彙、表現パターンを身に付ける
2．英文の理解・発話において、品詞の違いと文の構造を意識できるようになる
3．基本的な文法を用いて、単純な英文１つ１つを素早く正確に書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit １つを、１～２回の授業で消化していく予定です。
２回に分けて消化する場合、１回目ではその Unit で扱われている文法項目を解説し、その後にそれに対応した教科書の文法及び writing の演習問題を履修者に割り当てて回答してもらいます。また、その Unit で扱われていない文法も随時取り上げて説明し、同じくその演習問題に取り組んでもらいます。
２回目には、その Unit の残りの reading, listening の演習問題を、１回目に学んだ文法を参考にしながら、ペアワークなども交えつつ履修者に回答してもらい、それを通じてビジネス英語でよく用いられる表現方法を学んでいきます。
Unit が１つ終わったら、その次の授業回の冒頭にその Unit で学んだ内容を復習するための小テストを毎 Unit 行います。

【更新】
少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化により授業計画にも多少の変更が生じますが、その旨は学習支援システムにてその都度お知らせしていきます。受講者の学習環境や理解度を考慮したうえで、計画は柔軟に変更していきます。
本授業は 4 月 21 日開始を予定しています。この日以降、授業に関わる情報や指示は学習支援システム上で配信していきますので、 学習支援システムをきちんと確認するようにしてください（【学生が準備すべき機器他】でも記した通り、学習支援システムからのお知らせを受信できるように、自分が普段使用するメールアドレスを支援システムに登録しておいてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 01.Pleased to meet you. －出迎え	品詞の種類、be 動詞
第 3 回	Unit 01.Pleased to meet you. －出迎え	出迎える／人を紹介する
第 4 回	Unit 02.Do you remember me?－ケイトとの出会い	一般動詞（現在）、名詞、代名詞、冠詞
第 5 回	Unit 02.Do you remember me?－ケイトとの出会い	仕事を尋ねる／説明する
第 6 回	Unit 03.I spoke to Ms. Hayashi yesterday. －苦情対応	一般動詞（過去）、謝罪する／意向を尋ねる
第 7 回	Unit 04.When does the meeting start?－会議の準備	疑問詞、場所や時間を尋ねる
第 8 回	Unit 05.Can you meet me at the airport?－出張打ち合わせ	助動詞１、前置詞
第 9 回	Unit 05.Can you meet me at the airport?－出張打ち合わせ	依頼する１
第 10 回	Unit 06.Feel free to ask me anytime. －使用法説明	文の種類、命令文、文型
第 11 回	Unit 06.Feel free to ask me anytime. －使用法説明	使い方を説明する
第 12 回	Unit 07.I'm thinking about quitting my job. －仕事の悩み	進行形
第 13 回	Unit 07.I'm thinking about quitting my job. －仕事の悩み	相談する／励ます
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の学習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。わからない語彙や表現を辞書で調べながら、教科書の文法項目の解説に目を通したり、演習問題を解いてきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習
その日の学習内容を教科書・ハンドアウト・ノートなどを見直して整理し、毎 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また宿題が課された回では、それにも取り組んでください。さらに、web 学習システム「リンガポルタ」（「テキスト（教科書）」の項を参照）を活用して反復練習を行い、学んだ知識を定着させるのもよいでしょう。

【テキスト（教科書）】
１．２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
角山照彦・Simon Capper. (2012).『Let's Read Aloud & Learn English! －音読で始める基礎英語』東京：成美堂.（税込 2,420 円）
また、上記の教科書は出版社が運用している web 英語学習システム「リンガポルタ」（https://seibido.linguaporta.jp/）に対応しており、履修者は無料で利用することができます（インターネット通信料は別途かかります）。
２．教科書に含まれない内容を説明するハンドアウトを適宜配布します。

【更新】
法政大学生協にて通信販売が行われますので、下記 URL から手続きを行ってください。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験・課題 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【更新】
少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、上記の成績評価の方法と基準もおそらく変更されます。現在その方法と基準を検討しており、決定され次第、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題もあるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
２．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。
３．授業内で web 学習システム「リンガポルタ」（「テキスト（教科書）」の項を参照）を利用することも考えていますが、履修者の中にはインターネットに接続できる機器（スマホ・タブレット・ノート PC 等）を用意できない方がいる可能性もあるため、授業内利用については学期開始後に履修者全員と相談して決めることにいたします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit １つの消化にかける時間を調節したり、演習問題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
In this course, we will review the fundamental knowledge of grammar that are required for writing plain English sentences, using the introductory textbook for business English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ビジネス英語をテーマにした教科書を使用し、わかりやすい英文を書く際に必要となる基礎的な文法を改めて学び直します。それに加え、今学期にはいわゆる paragraph writing の基本に触れ、それに基づいた英作文の練習も行います。

【到達目標】
1．ビジネス会話で頻出する語彙、表現パターンを身に付ける
3．基本的な文法を用いて、単純な英文１つ１つを素早く正確に書けるようになる
3．英語のパラグラフの考え方に基づいた短いエッセイで自分の意見を他人に伝えることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit １つを、１～２回の授業で消化していく予定です。
２回に分けて消化する場合、１回目ではその Unit で扱われている文法項目を解説し、その後にそれに対応した教科書の文法及び writing の演習問題を履修者に割り当てて回答してもらいます。また、その Unit で扱われていない文法も随時取り上げて説明し、同じくその演習問題に取り組んでもらいます。
２回目には、その Unit の残りの reading, listening の演習問題を、１回目に学んだ文法を参考にしながら、ペアワークなども交えつつ履修者に回答してもらい、それを通じてビジネス英語でよく用いられる表現方法を学んでいきます。
Unit が１つ終わったら、その次の授業回の冒頭にその Unit で学んだ内容を復習するための小テストを毎 Unit 行います。
また授業後半には、上記の授業内容と平行して paragraph writing の概要を紹介していきます。そして、それまで学んできた文法を生かしながら、paragraph writing の方法に則った英作文の練習を行い、最終的にはあるテーマについて自分の意見を説得力をもたせて主張する短めのエッセイを１本完成させることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 2 回	Unit 08.I'll give her your message. －電話応対	未来形、 聞き返す／確認する 1
第 3 回	Unit 09.I haven't received the latest figures. －会議の準備	完了形、指示する／確認する 2
第 4 回	Unit 10.The cafeteria is closed today. －オフィス案内	受動態、過去分詞、場所を説明する／感謝する
第 5 回	Unit 11.We expect higher sales in China. －会議	比較、関係詞、比較する／詳細を尋ねる
第 6 回	Unit 12.I'd like to check in. －チェックイン	助動詞２、paragraph の構成
第 7 回	Unit 12.I'd like to check in. －チェックイン	依頼する２／希望を述べる
第 8 回	Unit 13.How about going to the theater? －ケイトとの再会	動名詞、現在分詞、topic sentence を書く
第 9 回	Unit 13.How about going to the theater? －ケイトとの再会	人を誘う／頻度を尋ねる
第 10 回	Unit 14.I like to travel a lot. －スモールトーク	to 不定詞、supporting sentence を書く
第 11 回	Unit 14.I like to travel a lot. －スモールトーク	経験・予定を尋ねる
第 12 回	Unit 15.What are your plans for the future? －将来の夢	接続詞、自分の意見（concluding sentence）に説得力をもたせる
第 13 回	Unit 15.What are your plans for the future? －将来の夢	計画・理由を尋ねる
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業１回あたりの標準の予習・復習時間は、各２時間とします。
１．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。わからない語彙や表現を辞書で調べながら、教科書の文法項目の解説に目を通したり、演習問題を解いてきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
２．復習
その日の学習内容を教科書・ハンドアウト・ノートなどを見直して整理し、毎 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また宿題が課された回では、それにも取り組んでください。さらに、web 学習システム「リンガポルタ」（「テキスト（教科書）」の項を参照）を活用して反復練習を行い、学んだ知識を定着させるのもよいでしょう。

【テキスト（教科書）】
１．２回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
角山照彦・Simon Capper. (2012).『Let's Read Aloud & Learn English! －音読で始める基礎英語』東京：成美堂.（税込 2,420 円）
また、上記の教科書は出版社が運用している web 英語学習システム「リンガポルタ」（https://seibido.linguaporta.jp/）に対応しており、履修者は無料で利用することができます（インターネット通信料は別途かかります）。
２．教科書に含まれない内容を説明するハンドアウトを適宜配布します。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．期末試験・課題 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
２．特別の事情がない限り、欠席が５回に達すると単位取得が不可となります。
３．10 分以上の遅刻を３回繰り返すと欠席１回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
４．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
１．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題もあるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
２．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。
３．授業内で web 学習システム「リンガポルタ」（「テキスト（教科書）」の項を参照）を利用することも考えていますが、履修者の中にはインターネットに接続できる機器（スマホ・タブレット・ノート PC 等）を用意できない方がいる可能性もあるため、授業内利用については学期開始後に履修者全員と相談して決めることにいたします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit １つの消化にかける時間を調節したり、演習問題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
In this course, we will review the fundamental knowledge of grammar that are required for writing plain English sentences, using the introductory textbook for business English. In addition, this course provides students with the basic rules of paragraph writing in this fall semester.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

石井　創

サブタイトル：（1）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ビジネス英語をテーマにした教科書を使用し、わかりやすい英文を書く際に必要となる基礎的な文法を改めて学び直します。それに加え、秋学期にはいわゆる paragraph writing の基本に触れ、それに基づいた英作文の練習も行います。

【到達目標】
1．ビジネス会話で頻出する語彙、表現パターンを身に付ける
2．英文の理解・発話において、品詞の違いと文の構造を意識できるようになる
3．基本的な文法を用いて、単純な英文1つ1つを素早く正確に書けるようになる
4．英語のパラグラフの考え方に基づいた短いエッセイで自分の意見を他人に伝えることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の Unit 1つを、1～2回の授業で消化していく予定です。
2回に分けて消化する場合、1回目ではその Unit で扱われている文法項目を解説し、その後にそれに対応した教科書の文法及び writing の演習問題を履修者に割り当てて回答してもらいます。また、その Unit で扱われていない文法も随時取り上げて説明し、同じくその演習問題に取り組んでもらいます。
2回目には、その Unit の残りの reading, listening の演習問題を、1回目に学んだ文法を参考にしながら、ペアワークなども交えつつ履修者に回答してもらい、それを通じてビジネス英語でよく用いられる表現方法を学んでいきます。
Unit が1つ終わったら、その次の授業回の冒頭にその Unit で学んだ内容を復習するための小テストを毎 Unit 行います。
また秋学期後半には、上記の授業内容と平行して paragraph writing の概要を紹介していきます。そして、それまで学んできた文法を生かしながら、paragraph writing の方法に則った英作文の練習を行い、最終的にはあるテーマについて自分の意見を説得力をもたせて主張する短めのエッセイを1本完成させることを目指します。

【更新】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化により授業計画にも多少の変更が生じますが、その旨は学習支援システムにてその都度お知らせしていきます。受講者の学習環境や理解度を考慮したうえで、計画は柔軟に変更していきます。
本授業は4月 21 日開始を予定しています。この日以降、授業に関わる情報や指示は学習支援システム上で配信していきますので、 学習支援システムをきちんと確認するようにしてください（【学生が準備すべき機器他】でも記した通り、学習支援システムからのお知らせを受信できるように、自分が普段使用するメールアドレスを支援システムに登録しておいてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、自己紹介
第 2 回	Unit 01.Pleased to meet you. －出迎え	品詞の種類、be 動詞
第 3 回	Unit 01.Pleased to meet you. －出迎え	出迎える／人を紹介する
第 4 回	Unit 02.Do you remember me?－ケイトとの出会い	一般動詞（現在）、名詞、代名詞、冠詞
第 5 回	Unit 02.Do you remember me?－ケイトとの出会い	仕事を尋ねる／説明する
第 6 回	Unit 03.I spoke to Ms. Hayashi yesterday. －苦情対応	一般動詞（過去）、謝罪する／意向を尋ねる
第 7 回	Unit 04.When does the meeting start?－会議の準備	疑問詞、場所や時間を尋ねる
第 8 回	Unit 05.Can you meet me at the airport?－出張打ち合わせ	助動詞 1 、前置詞
第 9 回	Unit 05.Can you meet me at the airport?－出張打ち合わせ	依頼する 1
第 10 回	Unit 06.Feel free to ask me anytime. －使用法説明	文の種類、命令文、文型
第 11 回	Unit 06.Feel free to ask me anytime. －使用法説明	使い方を説明する
第 12 回	Unit 07.I'm thinking about quitting my job. －仕事の悩み	進行形
第 13 回	Unit 07.I'm thinking about quitting my job. －仕事の悩み	相談する／励ます
第 14 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験
第 15 回	ガイダンス	授業の内容・進め方・成績評価の説明、春学期の内容振り返り・期末試験の講評
第 16 回	Unit 08.I'll give her your message. －電話応対	未来形、 聞き返す／確認する 1
第 17 回	Unit 09.I haven't received the latest figures. －会議の準備	完了形、指示する／確認する 2
第 18 回	Unit 10.The cafeteria is closed today. －オフィス案内	受動態、過去分詞、場所を説明する／感謝する
第 19 回	Unit 11.We expect higher sales in China. －会議	比較、関係詞、比較する／詳細を尋ねる
第 20 回	Unit 12.I'd like to check in. －チェックイン	助動詞 2 、paragraph の構成
第 21 回	Unit 12.I'd like to check in. －チェックイン	依頼する 2 ／希望を述べる
第 22 回	Unit 13.How about going to the theater?－ケイトとの再会	動名詞、現在分詞、topic sentence を書く
第 23 回	Unit 13.How about going to the theater?－ケイトとの再会	人を誘う／頻度を尋ねる
第 24 回	Unit 14.I like to travel a lot. －スモールトーク	to 不定詞、supporting sentence を書く
第 25 回	Unit 14.I like to travel a lot. －スモールトーク	経験・予定を尋ねる
第 26 回	Unit 15.What are your plans for the future?－将来の夢	接続詞、自分の意見（concluding sentence）に説得力をもたせる
第 27 回	Unit 15.What are your plans for the future?－将来の夢	計画・理由を尋ねる
第 28 回	学期末まとめ	学習内容の総復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業 1 回あたりの標準の予習・復習時間は、各 2 時間とします。
1．予習
その日の授業範囲について、「わかること・わからないこと」を明確にしておくための予習が必要となります。わからない語彙や表現を辞書で調べながら、教科書の文法項目の解説に目を通したり、演習問題を解いてきてください。わからない語彙を調べることもせず、「『何がわからないのか』自体がわからない」という状態で授業に臨むのは御法度となります。
2．復習
その日の学習内容を教科書・ハンドアウト・ノートなどを見直して整理し、毎 Unit ごとに行われる小テストに備えてください。また宿題が課された回では、それにも取り組んでください。さらに、web 学習システム「リンガポルタ」（「テキスト（教科書）」の項を参照）を活用して反復練習を行い、学んだ知識を定着させるのもよいでしょう。

【テキスト（教科書）】
1．2回目から下記の教科書を使用して授業を行います。
角山照彦・Simon Capper. (2012).『Let's Read Aloud & Learn English!－音読で始める基礎英語』東京：成美堂.（税込 2,420 円）
また、上記の教科書は出版社が運用している web 英語学習システム「リンガポルタ」（https://seibido.linguaporta.jp/）に対応しており、履修者は無料で利用することができます（インターネット通信料は別途かかります）。
2．教科書に含まれない内容を説明するハンドアウトを適宜配布します。

【更新】
法政大学生協にて通信販売が行われますので、下記 URL から手続きを行ってください。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1．期末試験・課題 60%、小テスト 20%、平常点（授業態度、予習状況、宿題など）20%
2．特別の事情がない限り、通年で欠席が 10 回に達すると*単位取得が不可となります。

3．10 分以上の遅刻を 3 回繰り返すと欠席 1 回としてカウントされます。また 30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。
4．予習をまったく行ってこなかった場合や授業中の私語がひどい場合などは、その日を欠席とみなします。

【更新】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにより、上記の成績評価の方法と基準もおそらく変更されます。現在その方法と基準を検討しており、決定され次第、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
1．辞書を毎回持参してください。writing の演習問題もあるため、英和・和英の両方を用意するのが望ましいでしょう。
2．ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。
3．授業内で web 学習システム「リンガポルタ」(「テキスト（教科書）」の項を参照）を利用することも考えていますが、履修者の中にはインターネットに接続できる機器（スマホ・タブレット・ノート PC 等）を用意できない方がいる可能性もあるため、授業内利用については学期開始後に履修者全員と相談して決めることにいたします。

【その他の重要事項】
履修者の理解度に応じ、教科書の Unit 1 つの消化にかける時間を調節したり、演習問題を追加あるいは省略したりするなど、授業計画は柔軟に変更していきます。

【Outline and objectives】
In this course, we will review the fundamental knowledge of grammar that are required for writing plain English sentences, using the introductory textbook for business English. In addition, this course provides students with the basic rules of paragraph writing in this fall semester.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
E メールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Lesson を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語 2 つの文・1 つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	Lesson 12. How Long Can People Live?	助動詞
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。また、課題は各自で進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）：20 %、課題：20 %、期末試験：60 %、合計 100 %として評価する。A: 100～80、B: 79～70、C: 69～60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing skills.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
E メールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。特に、修飾語句を使用しつつ長めの英文を作ることができ、論点の明確なパラグラフ・ライティングができることが重要である。また、これらのライティングスキルを活かしつつ、英語でのプレゼンテーションをおこなうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Lesson を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
2	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
3	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
4	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
5	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
6	Lesson 17. Super White	比較
7	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾
8	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
9	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
10	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
11	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
12	Lesson 23. A Letter to the Editor	it を使った構文
13	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。プレゼンテーションの準備はグループで進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20 %、プレゼンテーション： 20 %、期末試験： 60 %、合計 100 %として評価する。A: 100～80、B: 79～70、C: 69～60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing and presentation skills.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

浦川　智子

サブタイトル：（2）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】
E メールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。春学期には論点の明確なパラグラフ・ライティングができ、秋学期には、そのスキルを活かしつつ英語でのプレゼンテーションをおこなうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Lesson を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語 2 つの文・1 つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	Lesson 12. How Long Can People Live?	助動詞
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
16	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
17	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
18	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
19	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
20	Lesson 17. Super White	比較
21	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾

22	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
23	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
24	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
25	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
26	Lesson 23. A Letter to the Editor	it を使った構文
27	プレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション
28	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。課題やプレゼンテーションの準備は各自で進めておくこと。

【テキスト（教科書）】
野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】
辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加姿勢、提出物等）： 20 %、課題： 10 %、プレゼンテーション： 10 %、期末試験 (春学期+秋学期)： 60 %、合計 100 % として評価する。A: 100～80、B: 79～70、C: 69～60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of the class is to increase vocabulary and phrases, to grasp the point of the passages, and to improve writing and presentation skills.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のスピーキング力を向上させることである。学生は様々なトピックについて英語でディスカッションを行い、プレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】
学生が英語の発音記号を正しく理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。また、英語の音の変化やリズム、イントネーションを正しく身につけることができる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Hoppii のお知らせにガイドラインを添付しました。４月２１日にお知らせを読み、アンケートに回答して下さい。
前半は、教員が英語の発音記号について説明した後、学生が発音練習をする。後期に行われる英語でのディスカッション及びプレゼンテーションで、相手に伝わる正確な英語を身につけられるようエクササイズを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	母音	英語の母音について、音声学的に説明。また、母音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
2	二重母音	二重母音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
3	子音	英語の子音について、音声学的に説明。また、子音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
4	発音記号	発音記号を正しく理解したかを確認するエクササイズを行う。
5	同化	同化が起こる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
6	脱落	脱落が起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
7	リエゾン	リエゾンが起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
8	脱落＋リエゾン	脱落とリエゾンが共に起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
9	弱形	アクセントが置かれない品詞について理解する。
10	短縮形	短縮形が入った英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
11	リズム	英語と日本語のリズムの違いについて理解し、英語のリズムを体得する。
12	イントネーション	英語のイントネーションについて理解する。
13	アクセント	英語の語アクセントと文アクセントについて理解する。
14	まとめ	発音記号から、正しい英文の読み方まで身についたか確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトで配信されている音声を聞きながら、テキストの問題に取り組み、発音練習を行う。

【テキスト（教科書）】
杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016 年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験１００％
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to discuss a variety of topics related to your life, and make a presentation in English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のスピーキング力を向上させることである。学生は様々なトピックについて英語でディスカッションを行い、プレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】
学生が英語の発音記号を正しく理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。また、英語の音の変化やリズム、イントネーションを正しく身につけることができる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
後期は学生自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションをし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。プレゼンテーションの前に英語で原稿を執筆し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ディスカッション及びプレゼンテーションのトピック決定	夏休み中に考えてきたトピックを提出し、アドバイスをもらう。
2	トピックに関する質問作成	トピックについてクラスメートに質問したい内容を英語で作成する。
3	アンケート調査	学生同士が英語でアンケート調査を行う。
4	ディスカッションの方法	英語でディスカッションする方法について学ぶ。
5	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、実際にクラスメートと英語でディスカッションを行う。
6	データ分析	学生が英語でのアンケート結果を分析し、まとめる。
7	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか学ぶ。
8	プレゼンテーション原稿の書き方	原稿を英語で書く方法を学ぶ。
9	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成する。
10	プレゼンテーション原稿提出	英語で執筆した原稿を提出する。
11	原稿の見直し	指摘された箇所について、原稿の書き直しを行い、発表の練習を行う。
12	プレゼンテーションの練習	効果的なプレゼンテーションができるよう、イントネーションや間の取り方に留意して発音練習を行う。
13	プレゼンテーション本番	担当者はクラス全員の前で、英語プレゼンテーションを行う。クラスメートのプレゼンテーションを聞き、評価する。
14	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトで配信されている音声を聞きながら、テキストの問題に取り組み、発音練習を行う。
本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。
プレゼンテーションに関する課題は、期日を厳守して提出すること。

【テキスト（教科書）】
杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016 年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題３０％プレゼンテーション７０％

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to discuss a variety of topics related to your life, and make a presentation in English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

蒔田　裕美

サブタイトル：（3）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、学生が英語のスピーキング力を向上させることである。学生は様々なトピックについて英語でディスカッションを行い、プレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】
学生が英語の発音記号を正しく理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。また、英語の音の変化やリズム、イントネーションを正しく身につけることができる。
学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につき、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Hoppii のお知らせにガイドラインを添付しました。４月２１日にお知らせを読み、アンケートに回答して下さい。
前半は、教員が英語の発音記号について説明した後、学生が発音練習を行うことにより正確な英語の発音を身につける。後半は自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションをし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。プレゼンテーションの前に英語で原稿を執筆し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	母音	英語の母音について、音声学的に説明。また、母音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
2	二重母音	二重母音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
3	子音	英語の子音について、音声学的に説明。また、子音を正しく聞き分け、発音する練習を行う。
4	発音記号	発音記号を正しく理解したかを確認するエクササイズを行う。
5	同化	同化が起こる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
6	脱落	脱落が起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
7	リエゾン	リエゾンが起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
8	脱落＋リエゾン	脱落とリエゾンが共に起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
9	弱形	アクセントが置かれない品詞について理解する。
10	短縮形	短縮形が入った英文を正しく聞き取り、発音する練習を行う。
11	リズム	英語と日本語のリズムの違いについて理解し、英語のリズムを体得する。
12	イントネーション	英語のイントネーションについて理解する。
13	アクセント	英語の語アクセントと文アクセントについて理解する。
14	まとめ	発音記号から、正しい英文の読み方まで身についたか確認する試験を実施する。
15	ディスカッション及びプレゼンテーションのトピック決定	夏休み中に考えてきたトピックを提出し、アドバイスをもらう。
16	トピックに関する質問作成	トピックについてクラスメートに質問したい内容を英語で作成する。
17	ディスカッションの方法	英語でディスカッションする方法について学ぶ。
18	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションを行う。
19	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションを行う。

20	ディスカッションの実践	学生自身が決めたトピックについて、クラスメートと英語でディスカッションを行う。
21	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか学ぶ。
22	プレゼンテーション原稿の書き方	原稿を英語で書く方法を学ぶ。
23	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成する。
24	プレゼンテーション原稿提出	英語で執筆した原稿を提出する。
25	原稿の見直し	指摘された箇所について、原稿の書き直しを行い、発表の練習を行う。
26	プレゼンテーション本番	担当者はクラス全員の前で、英語プレゼンテーションを行う。クラスメートのプレゼンテーションを聞き、評価する。
27	プレゼンテーション本番	担当者はクラス全員の前で、英語プレゼンテーションを行う。クラスメートのプレゼンテーションを聞き、評価する。
28	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトで配信されている音声を聞きながら、テキストの問題に取り組み、発音練習を行う。プレゼンテーションに関する課題は、期日を厳守して提出すること。

【テキスト（教科書）】
杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016 年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験５０％、課題２０％、プレゼンテーション３０％
授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせた、授業展開を行うよう心がける。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to improve your speaking skill in English. You will learn how to discuss a variety of topics related to your life, and make a presentation in English.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ①～②, Your Song , Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises ＋ α , レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises ＋ α , まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となる。
具体的な方法と基準に関しては、今後、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
3	Power Exercises ＋ α	Exercise 10, Coin changer, Film ①
4	Human Creativity	Lesson 8, The Diplomacy, Film ①〜②
5	Power Exercises ＋ α , プレゼンテイションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテイションについて指示、説明
6	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
7	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ②〜③
8	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
9	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ③〜④
10	プレゼンテイション準備	Exercise まとめ, 力だめし
11	プレゼンテイション　1	プレゼンテイション　1
12	プレゼンテイション　2	プレゼンテイション　2
13	プレゼンテイション　3	プレゼンテイション　3
14	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

相馬　美明

サブタイトル：（4）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ①～②, Your Song , Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises ＋ α , レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises ＋ α , まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
17	Power Exercises ＋ α	Exercise 10, Coin changer, Film ①
18	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①～②
19	Power Exercises ＋ α , プレゼンテイションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテイションについて指示、説明
20	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
21	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ②～③
22	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
23	Power Exercises ＋ α	Power Exercises, Film ③～④
24	プレゼンテイション準備	Exercise まとめ, 力だめし
25	プレゼンテイション　1	プレゼンテイション　1
26	プレゼンテイション　2	プレゼンテイション　2

27	プレゼンテイション	3	プレゼンテイション 3
28	まとめ、確認		まとめ、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに 1 時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用する

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），プレゼンテーション（10 %）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となる。
具体的な方法と基準に関しては、今後、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。
①今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
②復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
③文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。
④リスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	What makes college students work part-time?：非人称主語を使った構文（1）
3	Unit 2	Staying healthy — a Japanese obsession ：非人称主語を使った構文（2）
4	Unit 3	How I wish were at my first-choice college!：仮定法
5	Unit1-3 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Staying with a family abroad ：発話動詞 (say, tell, talk, speak)
7	Unit 5	Japan and America ：否定詞
8	Unit 6	Drinking as part of youth culture ：形容詞構文（1）
9	Unit 7	I don't belong here ：形容詞構文（2）
10	Unit4-7 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	What's the purpose of work?：名詞構文
12	Unit 9	The Japanese as half-Asian ：時制—過去と過去完了
13	Unit 10	Why few Japanese can speak English ：接続詞
14	Unit8-10 のまとめとテスト	質疑応答とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時には特に必要ないが、2 回目以降は予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
富岡龍明、James Hill 著　Read Better to Write Better —モデル英文からのライティング—（金星堂，2002 年，定価 2100 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.
Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.
Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。
①今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
②復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
③文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。
④リスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
下記のテキストを使用し、1 回の授業で 1 つの Unit に取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用し、単語・熟語を問う小テストを実施する。続いてテキストを読み、今までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。また各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも 1 本エッセイを仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションとライティング	授業方法の説明とエッセイ・ライティング
2	Unit 11	How I wish I could live on my own! ：助動詞
3	Unit 12	The pros and cons of so-called ‘exam English’ ：感覚・認識動詞
4	Unit 13	As aging society ：比較級（1）
5	Unit11-13 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 14	Do we have to live in a polluted environment?：比較級（2）
7	Unit 15	My view of marriage ：代名詞
8	Unit 16	Is Japan an international society? ：進行形
9	Unit 17	Job prospects for college students ：文修飾副詞
10	Unit14-17 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 18	A problem with Japan’s education system ： ‘when’ の 2 つの用法
12	Unit 19	High school vs. cram school ：使役動詞
13	Unit 20	Why are cars so important?：総合演習
14	Unit18-20 のまとめとテスト	質疑応答とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時には特に必要ないが、2 回目以降は予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
富岡龍明、James Hill 著　Read Better to Write Better ―モデル英文からのライティング―（金星堂，2002 年，定価 2100 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること）

【成績評価の方法と基準】
小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。

小テスト 15 ％　授業での発表 15 ％　課題 20 ％　授業内テスト 50 ％
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.
Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.
Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

小川　真也

サブタイトル：（5）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】
この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。
①今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
②復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
③文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。
④リスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	What makes college students work part-time?：非人称主語を使った構文（1）
3	Unit 2	Staying healthy — a Japanese obsession ：非人称主語を使った構文（2）
4	Unit 3	How I wish were at my first-choice college!：仮定法
5	Unit1-3 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Staying with a family abroad ：発話動詞 (say, tell, talk, speak)
7	Unit 5	Japan and America ：否定詞
8	Unit 6	Drinking as part of youth culture ：形容詞構文（1）
9	Unit 7	I don’t belong here ：形容詞構文（2）
10	Unit4-7 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	What’s the purpose of work?：名詞構文
12	Unit 9	The Japanese as half-Asian ：時制―過去と過去完了
13	Unit 10	Why few Japanese can speak English ：接続詞
14	Unit8-10 のまとめとテスト	質疑応答とテスト
15	イントロダクションとライティング	授業方法の説明とエッセイ・ライティング
16	Unit 11	How I wish I could live on my own! ：助動詞
17	Unit 12	The pros and cons of so-called ‘exam English’ ：感覚・認識動詞
18	Unit 13	As aging society ：比較級（1）
19	Unit11-13 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
20	Unit 14	Do we have to live in a polluted environment?：比較級（2）
21	Unit 15	My view of marriage ：代名詞
22	Unit 16	Is Japan an international society? ：進行形
23	Unit 17	Job prospects for college students ：文修飾副詞
24	Unit14-17 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング

25	Unit 18	A problem with Japan's education system ： 'when' の２つの用法
26	Unit 19	High school vs. cram school ：使役動詞
27	Unit 20	Why are cars so important?：総合演習
28	Unit18-20 のまとめとテスト	質疑応答とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時には特に必要ないが、2 回目以降は予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。
Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。
予習・復習に最低 1 時間はかけること。

【テキスト（教科書）】
富岡龍明、James Hill 著　Read Better to Write Better ―モデル英文からのライティング―（金星堂，2002 年，定価 2100 円）

【参考書】
和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Students will review and acquire words, phrases and grammar which they learned when they were in junior and senior high school, and increase their vocabulary through the class.
Students will develop their abilities to express their opinions, knowledge and experience. Giving much attention to the paragraph structure such as topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs by their own efforts.
Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%
更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work

Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%
更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

URBANOVA Jana

サブタイトル：（6）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication and understanding in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening,speaking, reading and writing) by placing special emphasis on ability to express oneself in writing and speaking. You will learn new expressions and practise using them in conversation, discussions and written texts. In this class you will be encouraged to express effectively your ideas which will help you become more active and con fi dent communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 40%
- Presentations: 40%

更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Learning English for active communication and udnerstanding in the international environment

LANe200IA

総合英語Ⅳ（a）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひとつには、英語母語話者にとって自然であり、なおかつ洗練された表現で構成された英文をモデルとして、リーディングを通して文章の構成や表現方法を学ぶ。ふたつには、リーディングでの学びをライティングによって、さまざまな状況や目的に応じて実践して身に着ける。

【到達目標】
英語による多種多様な情報やニュース、または他者の考えなどを的確に判断や理解するという「インプット」の能力を高めることができる。同時に、それらインプットされた内容を、目的に応じて適切に伝えるという「アウトプット」の能力も高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
変更点
（5 月 1 日更新）
課題に関することや諸連絡などは、学習支援システムの「お知らせ」経由で行います。個別に連絡を取る場合は、大学支給のメールアドレスで行いますので、通常使用しているメールアドレスに通知が行くよう、設定することを推奨します。
（4 月 21 日更新）
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、使用テキストの著作権保護の制度改正施行日に合わせて、4 月 28 日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
（以下、テキスト使用に基づいた進め方）
英語のライティングには、情報伝達の目的や意図に応じた典型的なパターンがあります。各ユニットでは、そのパターンに従って書かれた 300 ワード程度、4 パラグラフ程度からなる標準的な英文をモデルとします。それらモデル文について、文章構成や語彙の選択などを確認しながら、筆者の主張や内容を理解し、実際的な文の展開法や様式を学びます。それらで培った知識や方法をもとに、まとめとして、扱った良質なモデル文を参考に、みなさん自身が情報発信や目的や意図に応じて英語で書きます。前半を Reading & Listening、後半を Writing Activity とし、２週で１ユニットに取り組みます。ユニットのまとめとして Grammar Quiz をします。また、人の数だけ表現方法はあるのですから、教室では書いたものを通じて意見交換の時間を積極的に設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法、授業外学習の方法や進め方、参考図書などについて説明します。
2	Unit1: Cause & Effect “Things Happen for a Reason”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
3	Unit1: Cause & Effect “Things Happen for a Reason”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
4	Unit2: Compare & Contrast “Same or Different?”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
5	Unit2: Compare & Contrast “Same or Different?”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
6	Unit3: Giving an Opinion “Here is What I Think”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
7	Unit3: Giving an Opinion “Here is What I Think”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
8	Unit4: Classification Writing “Sorting Things Out”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
9	Unit4: Classification Writing “Sorting Things Out”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
10	Unit5: Describing a Process “Step by Step”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
11	Uni5: Describing a Process “Step by Step”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
12	Unit6: Descriptive Writing “Feeling Through Your Senses”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
13	Unit6: Descriptive Writing “Feeling Through Your Senses”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
14	Term-end Review	春学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing
著者: Robert Hickling, Jun Yashima
出版社: センゲージラーニング
英和辞典（電子・紙）
スマートフォンを辞書として使用することは認めません。よって、授業時にスマートフォンを使用している場合は平常点から大幅に減点します。

【参考書】
英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。参考までに、従来行われてきた対面型授業での成績評価の方法と基準を以下に示しておく。
（参考）
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う Quiz 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。
学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will also learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading materials through classroom activities. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

LANe200IA

総合英語Ⅳ（b）【2018 年度以降入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ひとつには、英語母語話者にとって自然であり、なおかつ洗練された表現で構成された英文をモデルとして、リーディングを通して文章の構成や表現方法を学ぶ。ふたつには、リーディングでの学びをライティングによって、さまざまな状況や目的に応じて実践して身に着ける。

【到達目標】
英語による多種多様な情報やニュース、または他者の考えなどを的確に判断や理解するという「インプット」の能力を高めることができる。同時に、それらインプットされた内容を、目的に応じて適切に伝えるという「アウトプット」の能力も高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
英語のライティングには、情報伝達の目的や意図に応じた典型的なパターンがあります。各ユニットでは、そのパターンに従って書かれた 300 ワード程度、4 パラグラフ程度からなる標準的な英文をモデルとします。それらモデル文について、文章構成や語彙の選択などを確認しながら、筆者の主張や内容を理解し、実際的な文の展開法や様式を学びます。それらで培った知識や方法をもとに、まとめとして、扱った良質なモデル文を参考に、みなさん自身が情報発信や目的や意図に応じて英語で書きます。前半を Reading & Listening、後半を Writing Activity とし、２週で１ユニットに取り組みます。ユニットのまとめとして Grammar Quiz をします。また、人の数だけ表現方法はあるのですから、教室では書いたものを通じて意見交換の時間を積極的に設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期のふりかえりを行い、学習面での継続事項や、学生の状況を鑑みた改善点を確認します。
2	Unit7: Persuasive Writing “Don’t You Agree?”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
3	Unit7: Persuasive Writing “Don’t You Agree?”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
4	Unit8: Writing to Evaluate “You Be the Judge”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
5	Unit8: Writing to Evaluate “You Be the Judge”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
6	Unit9: Pros & Cons “Two Sides to Every Story”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
7	Unit9: Pros & Cons “Two Sides to Every Story”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
8	Unit10: Writing to Advise “A Bit of Advice”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
9	Unit10: Writing to Advise “A Bit of Advice”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
10	Unit11: Writing to Clarify “Please Don’t Misunderstand”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
11	Unit11: Writing to Clarify “Please Don’t Misunderstand”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
12	Unit12: Reflecting Writing “Revisiting the Past”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
13	Unit12: Reflecting Writing “Revisiting the Past”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
14	Term-end Review	秋学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing
著者: Robert Hickling, Jun Yashima
出版社: センゲージラーニング
英和辞典（電子・紙）
スマートフォンを辞書として使用することは認めません。よって、授業時にスマートフォンを使用している場合は平常点から大幅に減点します。

【参考書】
英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う Quiz 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。
学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
To further strengthen reading fluency and writing skills in English. Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

LANe200IA

総合英語Ⅳ　【2017 年度以前入学生対象】

式町　眞紀子

サブタイトル：（7）
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひとつには、英語母語話者にとって自然であり、なおかつ洗練された表現で構成された英文をモデルとして、リーディングを通して文章の構成や表現方法を学ぶ。ふたつには、リーディングでの学びをライティングによって、さまざまな状況や目的に応じて実践して身に着ける。

【到達目標】
英語による多種多様な情報やニュース、または他者の考えなどを的確に判断や理解するという「インプット」の能力を高めることができる。同時に、それらインプットされた内容を、目的に応じて適切に伝えるという「アウトプット」の能力も高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
変更点（4 月 21 日更新）
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、使用テキストの著作権保護の制度改正施行日に合わせて、4 月 28 日とする。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
（以下、テキスト使用に基づいた進め方）
英語のライティングには、情報伝達の目的や意図に応じた典型的なパターンがあります。各ユニットでは、そのパターンに従って書かれた 300 ワード程度、4 パラグラフ程度からなる標準的な英文をモデルとします。それらモデル文について、文章構成や語彙の選択などを確認しながら、筆者の主張や内容を理解し、実際的な文の展開法や様式を学びます。それらで培った知識や方法をもとに、まとめとして、扱った良質なモデル文を参考に、みなさん自身が情報発信や目的や意図に応じて英語で書きます。前半を Reading & Listening、後半を Writing Activity とし、２週で１ユニットに取り組みます。ユニットのまとめとして Grammar Quiz をします。また、人の数だけ表現方法はあるのですから、教室では書いたものを通じて意見交換の時間を積極的に設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法、授業外学習の方法や進め方、参考図書などについて説明します。
2	Unit1: Cause & Effect “Things Happen for a Reason”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
3	Unit1: Cause & Effect “Things Happen for a Reason”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
4	Unit2: Compare & Contrast “Same or Different?”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
5	Unit2: Compare & Contrast “Same or Different?”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
6	Unit3: Giving an Opinion “Here is What I Think”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
7	Unit3: Giving an Opinion “Here is What I Think”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
8	Unit4: Classification Writing “Sorting Things Out”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
9	Unit4: Classification Writing “Sorting Things Out”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
10	Unit5: Describing a Process “Step by Step”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
11	Uni5: Describing a Process “Step by Step”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
12	Unit6: Descriptive Writing “Feeling Through Your Senses”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
13	Unit6: Descriptive Writing “Feeling Through Your Senses”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
14	Term-end Review	春学期の学習事項のまとめと理解度の確認。
15	オリエンテーション	春学期のふりかえりを行い、学習面での継続事項や、学生の状況を鑑みた改善点を確認します。
16	Unit7: Persuasive Writing “Don’t You Agree?”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
17	Unit7: Persuasive Writing “Don’t You Agree?”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
18	Unit8: Writing to Evaluate “You Be the Judge”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
19	Unit8: Writing to Evaluate “You Be the Judge”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
20	Unit9: Pros & Cons “Two Sides to Every Story”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
21	Unit9: Pros & Cons “Two Sides to Every Story”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
22	Unit10: Writing to Advise “A Bit of Advice”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
23	Unit10: Writing to Advise “A Bit of Advice”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
24	Unit11: Writing to Clarify “Please Don’t Misunderstand”	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
25	Unit11: Writing to Clarify “Please Don’t Misunderstand”	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
26	Unit12: Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz	Reading, Comprehension Questions, Guided Summary, Check Your Understanding
27	Unit12: Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz	Paragraph Writing, Review and Grammar Quiz
28	Term-end Review	秋学期の学習事項のまとめと理解度の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing
著者: Robert Hickling, Jun Yashima
出版社: センゲージラーニング
英和辞典（電子・紙）
スマートフォンを辞書として使用することは認めません。よって、授業時にスマートフォンを使用している場合は平常点から大幅に減点します。

【参考書】
英英辞典（各種）、マイケル・スワン著吉田正治訳『オックスフォード実例現代英語用法辞典第４版』研究社、オックスフォード大学出版局（2018）など。語彙力向上に役立つ辞書の活用の仕方を中心に、必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。参考までに、従来行われてきた対面型授業での成績評価の方法と基準を以下に示しておく。
(参考)
①授業参加度（平常点）40 %　演習活動が毎回の授業を形成します。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象となりません。また本科目は必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め大学の規約に従って厳密に対処するので、連絡と相談や報告をしっかりすること。
②試験 40 %　③ユニット終了時などに行う Quiz 20 %。
以上 3 点を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文法について細かく解説や、学生に対する問い掛けがあり理解が深まった。
学生ひとりひとりに丁寧に対応してもらえたのが良かった。
など、概ね好評であることを励みに、ひきつづき学生主体となる授業運営を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
授業については、受講者の理解度に応じて適宜授業内容を調整することもあります。
一般的なことについては、大学生になると様々な場面で自己管理が求められることを、各自がしっかりと認識することを望みます。

【Outline and objectives】
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will also learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading materials through classroom activities. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

LANe100IA

英語コミュニケーションⅠ（a）

URBANOVA Jana

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of

Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homeworks and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 20%
- Presentations: 60%
更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーションⅠ（b）

URBANOVA Jana

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading exercise: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past

Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 20%
- Presentations: 60%

更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe100IA

英語コミュニケーション I

URBANOVA Jana

サブタイトル： **【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

【到達目標】
This course's aim is to further develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) that you acquired in previous courses. The course will expand on these abilities by placing special emphasis on active communication and discussion on a variety of topics related to current issues. You will be encouraged to develop critical thinking and to share your opinions and knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
更新：
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
授業の開始日は、2020 年 4 月 21 日です。
その日までに HOPPII で授業のガイダンスと課題などを掲示しますので、ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of

Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a song
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading exercise: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Students' feedback; Let's enjoy a poem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】
David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and homeworks and pass the final test.
Your work will be evaluated as follows:
- Active participation in class: 20%
- Writing assignments, homeworks and tests: 20%
- Presentations: 60%
更新：
授業が教室で行うことが出来るようになったら、発表とテストなど上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
Textbook. Please bring also a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Communication is the key. Please don't be afraid to communicate. It is OK to make mistakes. 積極的に会話できるように一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】
Enhancing English language proficiency in order to actively communicate and gain knowledge in the international environment

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ（a）

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in
which they are interested.
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions ①	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions ②	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things ②	Group practice, class presentation
8	Places, directions ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
9	Places, directions ②	Group practice, class presentation
10	Recalling Past Experiences ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
11	Recalling Past Experiences ②	Group practice, class presentation
12	Making Plans ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
13	Making Plans ②	Group practice, class presentation
14	Speeches	Second class speech

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese- English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline and objectives】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ（b）

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and gram- mar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports-related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Sports Topics	About sports in general Vocabulary and discussion
2	Sports Topics	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
3	Sports Topics	Nutrition, health, fitness and injuries.Vocabulary and discussion
4	Sports Topics	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
5	Speeches, presentations	Third class speech
6	Sports Topics	Sports training Vocabulary and discussion
7	Sports Topics	Individual sports Vocabulary and discussion
8	Sports Topics	Ball sports Vocabulary and discussion
9	Sports Topics	Water sports Vocabulary and discussion
10	Sports Topics	Winter sports Vocabulary and discussion
11	Speeches, presentations	Fourth class speech
12	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
13	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
14	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【その他の重要事項】
Basic (N3 or higher) English knowledge is required.

【Outline and objectives】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ

Nemes Roland

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches and on site exercises.

【到達目標】
The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports related theme, in which they are interested.
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions ①	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions ②	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches ①	First class speech
6	Describing people, places, and things ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things ②	Group practice, class presentation
8	Places, directions ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
9	Places, directions ②	Group practice, class presentation
10	Recalling Past Experiences ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
11	Recalling Past Experiences ②	Group practice, class presentation
12	Making Plans ①	Vocabulary , grammar, reading/listening activity
13	Making Plans ②	Group practice, class presentation
14	Speeches ②	Second class speech
15	Sports Topics ①	About sports in general Vocabulary and discussion
16	Sports Topics ②	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
17	Sports Topics ③	Nutrition, health, fitness and injuries Vocabulary and discussion
18	Sports Topics ④	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
19	Speeches, presentations ③	Third class speech
20	Sports Topics ⑤	Sports training Vocabulary and discussion
21	Sports Topics ⑥	Individual sports Vocabulary and discussion
22	Sports Topics ⑦	Ball sports Vocabulary and discussion
23	Sports Topics ⑧	Water sports Vocabulary and discussion
24	Sports Topics ⑨	Winter sports Vocabulary and discussion
25	Speeches, presentations ④	Fourth class speech
26	Student Interest Topic ①	Group presentations followed by class discussion
27	Student Interest Topic ②	Group presentations followed by class discussion
28	Student Interest Topic ③	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used for this class.

【参考書】
Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
Students opinion and comments will be integrated during the course.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

【Outline and objectives】
The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport-related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches, and on-site exercises.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 24 日 (金）です。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつど提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 実力試しテスト	授業の説明、簡単な自己紹介 今時点での文章作成力のチェック
2	L1(1) 書き言葉に統一する	書き言葉の文末と接続表現の理解 書き言葉と話し言葉の使い分け
3	L2(1) 文の意味を明確にする	同じ接続表現の繰り返しを避ける練習 長文を避けて意味をわかりやすくする練習
4	L3(1)「こと」と「の」を使い分ける	「こと」と「の」の使い分けの理解 文法的な間違いをなくす練習 学術的な文章を書く練習
5	L4(1) 文をシンプルにする	名詞化にする方法の理解 名詞化と助詞の理解 名詞化を正確に使う練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L5(1) 語彙を適切に選択する 1	レポート・論文でよく使う語彙 「漢語+する」が使える場合と使えない場合
9	L5(2) 語彙を適切に選択する 2	類義語や漢語を適切に使う練習
10	L6(1) 文を首尾一貫させる 1	文頭と文末の呼応のさせ方
11	L6(2) 文を首尾一貫させる 2	文頭と文末を適切に呼応させる練習
12	L7(1) 形が似ている表現を使い分ける	形が似ている助詞相当語の使い分け
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
・（復習）添削された作文を見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】
石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①テキストの問題を解きながら、教師の補足説明を聞く。
②課題作文を書く。
③課題作文の添削部分を見直す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ 実力試しテスト、春学期の復習	夏季休暇中の出来事についてディスカッション 今時点での文章作成力のチェック
2	L8(1)「は」と「が」を使い分ける	「は」と「が」の使い分け 対比の「は」と主題化の「は」の理解
3	L9(1) 書き手の視点を示す	「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分け レポート・論文中での「自・他」「使役・受身」の使い分け
4	L10(1) 過去と現在のつながりを示す	「ル形・タ形・テイル形」の使い分け 「テイタ形・テイル形」「テイル形・タ形」の使い分け
5	L11(1) 文章の中の語を指し示す	指示詞の使い分け 指示詞を使った定型表現の練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L12(1) 前後の関係を表す 1	レポート・論文で使われる接続詞・接続表現の練習
9	L12(2) 前後の関係を表す 2	間違えやすい接続詞の練習
10	L13(1) 前の文に関係づける 1	「のだ文」の特徴の理解
11	L13(2) 前の文に関係づける 2	「のだ文」の用法の理解
12	L14(1) 効果的に意見を述べる	自分の意見と他者の意見の区別
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
・（復習）添削された作文を見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】
石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 24 日 (金）です。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつど提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 実力試しテスト	授業の説明、簡単な自己紹介 今時点での文章作成力のチェック
2	L1(1) 書き言葉に統一する	書き言葉の文末と接続表現の理解 書き言葉と話し言葉の使い分け
3	L2(1) 文の意味を明確にする	同じ接続表現の繰り返しを避ける練習 長文を避けて意味をわかりやすくする練習
4	L3(1)「こと」と「の」を使い分ける	「こと」と「の」の使い分けの理解 文法的な間違いをなくす練習 学術的な文章を書く練習
5	L4(1) 文をシンプルにする	名詞化にする方法の理解 名詞化と助詞の理解 名詞化を正確に使う練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L5(1) 語彙を適切に選択する 1	レポート・論文でよく使う語彙 「漢語+する」が使える場合と使えない場合
9	L5(2) 語彙を適切に選択する 2	類義語や漢語を適切に使う練習
10	L6(1) 文を首尾一貫させる 1	文頭と文末の呼応のさせ方
11	L6(2) 文を首尾一貫させる 2	文頭と文末を適切に呼応させる練習
12	L7(1) 形が似ている表現を使い分ける	形が似ている助詞相当語の使い分け
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
・（復習）添削された作文を見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】
石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①テキストの問題を解きながら、教師の補足説明を聞く。
②課題作文を書く。
③課題作文の添削部分を見直す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ 実力試しテスト、春学期の復習	夏季休暇中の出来事についてディスカッション 今時点での文章作成力のチェック
2	L8(1)「は」と「が」を使い分ける	「は」と「が」の使い分け 対比の「は」と主題化の「は」の理解
3	L9(1) 書き手の視点を示す	「他動詞/使役形」と「自動詞/受身形」の使い分け レポート・論文中での「自・他」「使役・受身」の使い分け
4	L10(1) 過去と現在のつながりを示す	「ル形・タ形・テイル形」の使い分け 「テイタ形・テイル形」「テイル形・タ形」の使い分け
5	L11(1) 文章の中の語を指し示す	指示詞の使い分け 指示詞を使った定型表現の練習
6	課題作文の作成 1	作文をするときの注意点
7	中間試験	中間試験
8	L12(1) 前後の関係を表す 1	レポート・論文で使われる接続詞・接続表現の練習
9	L12(2) 前後の関係を表す 2	間違えやすい接続詞の練習
10	L13(1) 前の文に関係づける 1	「のだ文」の特徴の理解
11	L13(2) 前の文に関係づける 2	「のだ文」の用法の理解
12	L14(1) 効果的に意見を述べる	自分の意見と他者の意見の区別
13	課題作文の作成 2	作文をするときの注意点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）テキストの練習問題を解いてくること。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）テーマに沿った作文を書いてくること。
・（復習）添削された作文を見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【参考書】
石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1- Ⅰ

李　址遠

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 4 月 24 日とする。この日に具体的なオンライン授業の方法およびそれに伴う授業計画の変更などを学習支援システムで提示する。なお、本授業は主な情報の提示・共有の手段として Google Classroom を用いる。Google Classroom への参加のためのクラスコードは、学習支援システムおよび法政大学の個人メールを通して通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業運営に関する説明と実力試しテスト
2	L1 書き言葉	書き言葉の文体、語彙や表現に関する講義と練習
3	L2 文の意味の明確化	接続表現の工夫および、長文を避けることに関する講義と練習
4	L3「こと」と「の」の使い分け	「こと」および「の」の意味と用法に関する講義と練習
5	L4 文の単純化	節の名詞化に関する講義と練習
6	L1~L4 まとめテスト／作文①	試験・まとめと解説／作文①の検討と修正
7	L5 適切な語彙の選択	レポートにおける語彙の使い分けおよび「漢語＋する」に関する講義と練習
8	L6 文の首尾一貫性	文頭と文末の呼応および、副詞・疑問詞との呼応に関する講義と練習
9	L7 形が似ている表現の使い分け	形が似ている助詞相当語の使い分けに関する講義と練習
10	L5~L7 まとめテスト／作文②	試験・まとめと解説／作文②の検討と修正
11	レポート作成準備	テーマ決めとアンケート項目の検討
12	アンケート調査	アンケートの実施と結果まとめ、アウトライン作成
13	レポートの検討	レポートの読み合いとフィードバック
14	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とします。
・準備：次の授業で扱うテキストの課を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。授業の中でもらったフィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

李　址遠

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、①日本語で文章を書くために必要となる語彙や表現に関する学習と、②授業で学んだ語彙や表現を用いた作文・レポートの作成および検討という二つの部分からなる。①はテキストをベースとした講義と練習を中心に、②はグループでの話し合いを中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業運営に関する説明
	L8「は」と「が」の使い分け	「は」と「が」の意味・用法に関する講義と練習
2	L9 書き手の視点	自動詞と他動詞、受身形と使役形に関する講義と練習
3	L10 過去と現在のつながり	ル形、タ形、テイル形、テイタ形の使い分けに関する講義と練習
4	L11 文中の語の指し示し方	指示詞「こ」と「そ」の使い分けに関する講義と練習
5	L8~L11 まとめテスト／作文①	試験・まとめと解説／作文①の検討と修正
6	L12 前後の関係の表し方	接続詞・接続表現の使い分けに関する講義と練習
7	L13 前の文への関係づけ	「のだ」の使い方に関する講義と練習
8	L14 効果的な意見の述べ方	意見を述べる文末表現の使い分けに関する講義と練習
9	L12~L14 まとめテスト／作文②	試験・まとめと解説／作文②の検討と修正
10	レポートの作成準備	テーマ決めと調査方法の検討
11	アウトライン	レポートのアウトラインの作成と検討
12	初稿の検討	初稿の読み合いとフィードバック
13	修正稿の検討	修正稿の読み合いとフィードバック
14	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とします。
・準備：次の授業で扱うテキストの課を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。授業の中でもらったフィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】
『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』小森万里・三井久美子著、くろしお出版、2016 年、1,600 円＋税

【参考書】
『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】
・平常点 25 %
・課題等提出物 40 %（作文 10 % ×2、レポート 20 %）
・定期テスト 35 %（まとめテスト 10 % ×2、期末テスト 15 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅰ

村上　佳恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 24 日 (金）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／リアクションペーパーの書き方	授業の説明／リアクションペーパーの書き方を学ぶ
第 2 回	意見文	意見文の作成
第 3 回	表現の学習（1）	第 1 課　書き言葉
第 4 回	要約文	要約文の作成
第 5 回	表現の学習（2）	第 10 課　タ形・テイル形
第 6 回	説明文（原因・理由）	説明文の作成
第 7 回	表現の学習（3）	第 3 課　「こと」と「の」
第 8 回	表現の学習（4）	第 6 課　文の首尾を一貫させる
第 9 回	意見文	意見文の作成
第 10 回	表現の学習（5）	第 2 課　複文
第 11 回	表現の学習（6）	第 4 課　語や節の名詞化
第 12 回	表現の学習（7）	第 5 課　語彙の使い分け
第 13 回	レポート	レポートの作成
第 14 回	試験・まとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。教科書の予習と復習、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』（1,600 円税抜）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 1-Ⅱ

村上　佳恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】
① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
初めに意見文やレポートを書いてみる。それから、表現や語彙を学び、学んだ語彙や表現を使いながら、意見文やレポートを修正していく。そして、受講生同士でレポートを読みあい、話し合いを行う。また、各課ごとに、語彙や表現のクイズを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	要約	要約文の作成
第 2 回	表現の学習（1）	第 7 課　類似表現
第 3 回	説明文（社会現象）	説明文の作成
第 4 回	表現の学習（2）	第 8 課　「は」と「が」
第 5 回	説明文（原因・理由）	説明文の作成
第 6 回	表現の学習（3）	第 9 課　動詞の自他
第 7 回	意見文	意見文の作成
第 8 回	表現の学習（4）	第 11 課　「こ」と「そ」
第 9 回	表現の学習（5）	第 12 課　接続詞
第 10 回	レポート	アウトラインの作成
第 11 回	表現の学習（6）	第 13 課　のだ文
第 12 回	表現の学習（7）	第 14 課　文末表現
第 13 回	レポート	レポートの作成
第 14 回	試験・まとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。教科書の予習と復習、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』（1,600 円税抜）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 40 %，定期テスト 35 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100IA

日本語 2-Ⅰ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 22 日 (水）です。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつど提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし
3	発表、読解、討論	③日本の旅を楽しもう
4	発表、読解、討論	④いただきます！
5	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
6	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
7	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
10	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
11	発表、読解、討論	⑫教育と子供たち
12	発表、読解、討論	⑭政治と憲法
13	発表、読解、討論	⑮多文化共生社会を目指して
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

乾　浩

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
②発表についての質疑応答を行う。
③テキストを読み、要点をまとめる。
④グループ討論を行う。
「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
始めの授業のときに言います。

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅰ

乾　浩

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 22 日 (水）です。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつど提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし
3	発表、読解、討論	③日本の旅を楽しもう
4	発表、読解、討論	④いただきます！
5	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
6	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
7	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
10	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
11	発表、読解、討論	⑫教育と子供たち
12	発表、読解、討論	⑭政治と憲法
13	発表、読解、討論	⑮多文化共生社会を目指して
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
②発表についての質疑応答を行う。
③テキストを読み、要点をまとめる。
④グループ討論を行う。
「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
始めの授業のときに言います。

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅰ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 22 日 (水）です。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でそのつど提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表準備、読解、討論	発表の基本的な技術の確認 ②都市の暮らし・地方の暮らし
3	発表、読解、討論	③日本の旅を楽しもう
4	発表、読解、討論	④いただきます！
5	発表、読解、討論	⑤季節を楽しむ年中行事
6	発表、読解、討論	⑥知っておきたい日本の歴史
7	発表、読解、討論	⑦伝統文化体験
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑧現代文化とポップカルチャー
10	発表、読解、討論	⑨スポーツの楽しみ方
11	発表、読解、討論	⑫教育と子供たち
12	発表、読解、討論	⑭政治と憲法
13	発表、読解、討論	⑮多文化共生社会を目指して
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システム等で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

乾　浩

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
①担当者は担当部分のパワーポイントを作成し、口頭で発表を行う。
②発表についての質疑応答を行う。
③テキストを読み、要点をまとめる。
④グループ討論を行う。
「授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	発表、読解、討論	①覚えておきたい日本語の日常表現
3	発表、読解、討論	②日本の生活事情
4	発表、読解、討論	③日本の交通事情
5	発表、読解、討論	④留学生のための法律知識
6	発表、読解、討論	⑤日本人の食生活
7	発表、読解、討論	⑥日本の大学
8	中間試験	中間試験
9	発表、読解、討論	⑦大学の四年間
10	発表、読解、討論	⑧現代日本と世界とのつながり
11	発表、読解、討論	⑨現代日本の家族
12	発表、読解、討論	⑩働く人々の諸問題
13	発表、読解、討論	⑪日本の方言
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
・（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。
・（宿題）教科書の指定されたページを予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
始めの授業のときに言います。

【参考書】
始めの授業のときに言います。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思います。

【その他の重要事項】
パワーポイントでの発表があるため、パワーポイントを使えるようにしておいてください。
授業の 1 週目から必ず出席してください。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅰ

村上　佳恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 22 日（水）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表のし方	発表の構成、表現
第 3 回	1 課日本ってどんな国？	教科書の読解と話し合い
第 4 回	1 課日本ってどんな国？	受講生による発表
第 5 回	2 課都市の暮らし・地方の暮らし	教科書の読解と話し合い
第 6 回	2 課都市の暮らし・地方の暮らし	受講生による発表
第 7 回	中間テスト	中間テストを実施する
第 8 回	4 課いただきます！	教科書の読解と話し合い
第 9 回	4 課いただきます！	受講生による発表
第 10 回	9 課スポーツ	教科書の読解と話し合い
第 11 回	9 課スポーツ	受講生による発表
第 12 回	10 課科学技術	教科書の読解と話し合い
第 13 回	10 課科学技術	受講生による発表
第 14 回	まとめ／期末テスト	今学期の振り返り／期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』佐々木瑞枝（2017）The Japan Times（2,500 円税抜）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100IA

日本語 2-Ⅱ

村上　佳恵

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】
①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目では、日本の社会と文化についてのテキストを読み、日本の社会への理解を深める。担当者は、テキストの担当部分をまとめ発表し、質疑応答を行う。テキストは、授業中に指示する。また、各課毎に単語と漢字（読み）の小テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表のし方	発表の構成、表現、質疑応答の方法を学ぶ
第 3 回	時事問題１	テキストの読解と話し合い
第 4 回	時事問題１	受講生による発表
第 5 回	時事問題２	テキストの読解と話し合い
第 6 回	時事問題２	受講生による発表
第 7 回	中間テスト	中間テスト
第 8 回	時事問題３	テキストの読解と話し合い
第 9 回	時事問題３	受講生による発表
第 10 回	時事問題４	テキストの読解と話し合い
第 11 回	時事問題４	受講生による発表
第 12 回	時事問題５	テキストの読解と話し合い
第 13 回	時事問題５	受講生による発表
第 14 回	まとめ／期末テスト	今学期の振り返りと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。テキストの予習と復習、発表の準備などに取り組む。

【テキスト（教科書）】
初回の授業で指示をする。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %，課題等提出物 25 %，発表 25 %，定期テスト 25 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200IA

日本語 3-Ⅰ

宮本　典以子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学んでいき、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5 分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②論理的な文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"
④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は 5 月 8 日とする。学生の皆さんの IT 環境アンケートの結果をみて、zoom や、Google classroom、LINE、wechat などの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。
授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第 2 回	パラグラフ・ライテイングとは何か	パラグラフ・ライテイングで文章を書く。
第 3 回	パラグラフ・ライテイング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第 4 回	図表の説明	図表の説明を書く。
第 5 回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第 6 回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第 7 回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第 8 回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第 9 回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第 10 回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第 11 回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第 12 回	予想される反論と反駁、	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第 13 回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第 14 回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】
近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 % (ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5 月 8 日の授業開始日に授業支援システムに掲示する)

【学生の意見等からの気づき】
音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのでなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞けて良かったとのことで、20 年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本　典以子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】
『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】
映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅰ

宮本　典以子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学んでいき、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5 分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②論理的な文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"
④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は 5 月 8 日とする。学生の皆さんの IT 環境アンケートの結果をみて、zoom や、Google classroom、LINE、wechat などの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。
授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第 2 回	パラグラフ・ライテイングとは何か	パラグラフ・ライテイングで文章を書く。
第 3 回	パラグラフ・ライテイング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第 4 回	図表の説明	図表の説明を書く。
第 5 回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第 6 回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第 7 回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第 8 回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第 9 回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第 10 回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第 11 回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第 12 回	予想される反論と反駁	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第 13 回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第 14 回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】
近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 % (ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5 月 8 日の授業開始日に授業支援システムに掲示する予定)

【学生の意見等からの気づき】
音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのでなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞けて良かったとのことで、20 年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本　典以子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】
『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】
映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅰ

宮本　典以子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：外国語科目・語学
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1 年次／ 1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通し学んでいき、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。各回のはじめに、5 分ほど聴解力を伸ばすための練習も行う。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②論理的な文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。"
④紛らわしい日本語の音や複合語のアクセントを正しく聞き分けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったため、この授業のオンライン授業の開始は 5 月 8 日とする。学生の皆さんの IT 環境アンケートの結果をみて、zoom や、Google classroom、LINE、wechat などの連絡方法を決める。教室での対面授業が開始されたら、次のように実施する予定。
授業の始めに毎回 5 分程度の基本的な聴解トレーニングを行う。ピア学習により、毎回資料（レポート失敗例など）を読み、ディスカッションした後、自分の意見をレポートにまとめる。書いたレポートは相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション レポートとは何か	レポートの構成要素を知る。レポートを読んでみる（日本語レベルチェック）。
第 2 回	パラグラフ・ライテイングとは何か	パラグラフ・ライテイングで文章を書く。
第 3 回	パラグラフ・ライテイング（論を展開する）	パラグラフ・ライティングにおいて論を展開するとはどういうことかを学ぶ。
第 4 回	図表の説明	図表の説明を書く。
第 5 回	引用とは	引用のルールを学ぶ。
第 6 回	引用を効果的に使う	引用を効果的に使用して自分の意見を述べる文を書く。
第 7 回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み、話し合う。
第 8 回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ。
第 9 回	論理的であるとは？	論理的であるとはどういうことかを考え、論理的な文章を書いてみる。
第 10 回	アウトラインの作成	レポートのアウトラインを作成する。
第 11 回	主張と根拠の書き方	レポートの主張と根拠を書く。
第 12 回	予想される反論と反駁、	主張に対する予想される反論と反駁を書く。
第 13 回	序論と結びの書き方	序論とむすびの書き方を学ぶ。
第 14 回	ふりかえり（ピア・レスポンス）	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。レポート課題に応じた資料の予習・復習等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）
その他は教師がコピーし配布する。

【参考書】
近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 % (ただし、春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにより、成績評価の方法を変更する場合は、5 月 8 日の授業開始日までに授業支援システムに掲示する予定)

【学生の意見等からの気づき】
音の聞きわけは役に立つ、との声が多かったのでなるべく実施回数を多くしたい。先輩社会人の話を聞けて良かったとのことで、20 年度も可能なら実施したい。グループワークがもっと欲しいとの声があったので増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

宮本　典以子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。受講生は、発表に向けて計画的に情報収集をし、発表原稿を作成し、発表の準備をする。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 発表の準備の手順	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える
第 2 回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える
第 3 回	出来事とその原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える練習をする
第 4 回	発表の準備	社会の現象とその原因の発表原稿を作成する
第 5 回	グループでの発表①	グループで社会の現象とその原因を発表する
第 6 回	意見と根拠を発表する	意見と根拠の発表原稿を作成する
第 7 回	グループでの発表②	グループで意見とその根拠を発表し、改善点を検討する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	受講生による発表①	受講生による発表と質疑応答を行う
第 10 回	受講生による発表②	受講生による発表と質疑応答を行う
第 11 回	受講生による発表③	受講生による発表と質疑応答を行う
第 12 回	受講生による発表④	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 13 回	受講生による発表⑤	受講生による発表と質疑応答を行う。
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。発表のレジュメ作成、レポート作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク。その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】
『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房など。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】
映像教材等で語彙や表現を学ぶことは自然な日本語の習得に役に立ったとの意見が多かった。20 年度もできる範囲で、レポートや発表の資料等として適宜新聞、映像などの生教材を扱いたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣ等使用する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅰ

村上　佳恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論証型のレポートの作成方法を学ぶ。資料を読み、情報を整理し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う。

【到達目標】
①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
②論理的な文章を書くことができる。
③論証型のレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 24 日 (金）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートとは何か	レポートの構成要素
第 2 回	パラグラフ・ライテイング（1）	パラグラフ・ライテイングで文章を書く
第 3 回	パラグラフ・ライテイング（2）	論を展開する
第 4 回	図表の説明	図表の説明を書く
第 5 回	引用（1）	引用のルール
第 6 回	引用（2）	引用を効果的に使用する
第 7 回	資料読みと話し合い	レポートのテーマについての資料を読み話し合う
第 8 回	情報集め	情報の集め方と情報の信頼性について学ぶ
第 9 回	論理的であるとは？	論理的な文章を書く
第 10 回	アウトラインの作成	アウトラインを作成する
第 11 回	主張と根拠の書き方	主張と根拠を書く
第 12 回	予想される反論と反駁	予想される反論と反駁を書く
第 13 回	序論と結びの書き方	序論と結びを書く
第 14 回	ピア・リーディング	完成したレポートを読み合い修正点を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク（1,400 円税抜）
その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】
『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』近藤裕子他（2019）ひつじ書房 (1,600 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200IA

日本語 3-Ⅱ

村上　佳恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**外国語科目・語学**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】
①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
②時事問題や専門分野等ついて、自分の意見を発表することができる。
③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本科目では、情報の整理の仕方や、わかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んでから、自分でやってみて、振り返りを行う。また、各回のはじめに、5 分ほど、聴解力を伸ばすための練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発表の準備の手順	わかりやすい発表とは？
第 2 回	情報のまとめ方	ニュースを伝える
第 3 回	情報のまとめ方	身近な問題とその原因を伝える
第 4 回	発表（現象と原因）	発表原稿を作成する
第 5 回	発表（現象と原因）	グループ内で発表する
第 6 回	発表（意見と根拠）	発表原稿を作成する
第 7 回	発表（意見と根拠）	グループ内で発表する
第 8 回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする
第 9 回	発表①	受講生による発表
第 10 回	発表②	受講生による発表
第 11 回	発表③	受講生による発表
第 12 回	発表④	受講生による発表
第 13 回	発表⑤	受講生による発表
第 14 回	まとめとレポートの作成	発表の振り返りを行い、この授業での学びをレポートにまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『5 分でできる　にほんご音の聞きわけトレーニング』宮本典以子・大崎伸城（2011）スリーエーネットワーク（1,400 円税抜）
その他、適宜プリントを配布する。

【参考書】
近藤裕子他（2020）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房（1600 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %，課題等提出物 40 %，発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

安藤 正志

サブタイトル： (A)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

泉　重樹

サブタイトル：（B)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

伊藤　真紀

サブタイトル：（C)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

井上　尊寛

サブタイトル：（D)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

鬼頭　英明

サブタイトル：（E)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

瀬戸　宏明

サブタイトル：（F)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

高見 京太

サブタイトル： (G)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

BSP100IA

スポーツ健康学入門

山本 浩

サブタイトル： (H)
カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本入門は大学生として知っておかなければならない基本的な知識やスキルについて学習する。クラス毎講習では、学生間のかかわりを強め、学びのコミュニティを形成する。

【到達目標】
大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠な以下のスタディ・スキルを身につける：
(1) 大学におけるノートメイキング
(2) レポートの書き方
(3) ディスカッションの方法
(4) レジュメの作成方法
(5) プレゼンテーションの方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 21 日（火）とします。授業はクラス毎講習と全クラス合同の講義に分かれます（初回はクラス毎講習です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（クラス毎講習）	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養（全体講習）	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物（全体講習）	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	メディカルチェック・体力測定	メディカルチェックと体力測定のフィードバック
5	文章の書き方（クラス毎講習）	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方（クラス毎講習）	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは（クラス毎講習）	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	プレゼンテーション（クラス毎講習）	各自のテーマでプレゼンテーションを行う
9	教育と研究：ヘルスデザインコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
10	教育と研究：スポーツビジネスコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツコーチングコース（全体講習）	コースにおける学びと研究法の理解
12	スポーツイベントとインターンシップ（全体講習）	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
13	留学・院進学（全体講習）	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要
14	ディベートの考え方（クラス毎講習）	ディベートの要素・その展開の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から情報取得のためにアンテナを高くしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし (その都度、用意します)

【参考書】
個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】
全体講習は平常点（５点 × ８回＝４０点）する。クラス毎講習は各クラスの課題（レポート、プレゼンテーションなど）に応じて６０点とする。
ただし、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、DVD 、映像資料などを使うことがある

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the knowledges and skills indispensable for the university student. Therefore, this lecture is for the fresh men and women, and is composed of whole student and each class styles.

CAR100IA

スポーツとキャリア形成

伊藤　真紀

カテゴリ：**視野形成科目（必修）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21 世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式（ワークシート）の授業を通して、実践的に学ぶ。

【到達目標】
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。
講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。
ワークシートを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 4 月 22 日（水）より開始します。
学習支援システムに授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
12 回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（課題ワークシート・レポート提出）で学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。「なりたい職業」について学習する。
2	キャリア形成に必要なスキルとは	21 世紀型スキルに代表される基本的能力（ジェネリックスキル）について学習する。
3	キャリアプランニング 自分を知ろう 1	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。 【ライフライン】 これまでの自分の歩みをふりかえり、人生の岐路となった経験について考える。
4	キャリアプランニング 自分を知ろう 2	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。 【Identity について】
5	キャリアプランニング 自分を知ろう 3	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。 【仕事観と人生観】 【マインドマッピング】
6	キャリアプランニング 自分を知ろう 4	キャリア形成プランをたてるキャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える。 【キャリアアンカー】
7	キャリアスキル 1	未来分析（表現と質疑応答のコツ）【・表現力、未来予想を文章化する】【ブレーンストーミングで拡散思考の練習】
8	キャリアスキル 2	構成力、PDCA サイクルの説明【・広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える。】
9	キャリアスキル 3	コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル
10	スポーツのキャリアについて	スポーツに関わる職業とは 各自、興味のある職業について調べる。
11	スポーツのキャリア形成 レポートについて	スポーツに関わる職業について調べレポート作成の準備をする。
12	スポーツのキャリア形成 レポートについて	スポーツに関わる職業についてのレポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次回の授業に生かすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
特になし。資料はその都度配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価項目は以下の 2 項目からなる。
①ワークシート 50%
②レポート 50%
合計： 100%

【学生の意見等からの気づき】
ワークシートを作成し、これからの自己分析や今後のキャリアについて考える機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業を通して、課題に積極的に取り組むことで、自らの意見を考え、表現する機会を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

【Outline and objectives】
Understanding the current state of sports environment and system in Japan, deepening your understanding of occupations involved in sports, and making a career plan that will serve as a clue to connect what students learn under the theme of their own career development. Practically learn the basic skills (generic skills) which is important in career formation and is required for everyone in order to survive through the modern global society through classes based on active learning form. The lectures will let you imagine your career through group work and pair work, and will help acquire basic skills.

MAT100IA

数学

坂本　寛

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】
統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。
微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とします。授業開始時間になったら学習支援システムの当科目のページにアクセスしてください。
初回に具体的なオンライン授業の方法などをガイダンスします。
受講生はオンライン教材と教科書を読んで理解を深めます。
オンライン教材の中で演習課題が出題されます。
演習課題には筆記によるものと PC を利用するものがあります。
毎回、学習支援システムを通して課題の出題・提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima 入門	数学学習を支援するソフトウェアとして Maxima の基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることが出来ます。そのベクトルの基本を学びます。
10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答できることが求められます。コンピュータ実習を伴う課題があります。

【テキスト（教科書）】
統計学のための数学教室 / 永野裕之著
ISBN:9784478028247

【参考書】
統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著
ISBN:9784563010041
統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著
ISBN:9784563010058
統計学のための数学入門 30 講 / 永田靖著
ISBN:9784254116335
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続可能なコンピュータが必要。(コンピュータの性能は高くなくて十分です。)
カメラ付きスマートフォン (またはそれに代わる物)。
A4 サイズのレポート用紙。
筆記用具。

【その他の重要事項】
統計学 I・II の履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

【Outline and objectives】
Mathematics is used in various aspects in daily life. Especially in contemporary society, statistical knowledge is widely demanded . It is no exception to the sports health department without distinguishing between science and liberal arts. The purpose of this lecture is to develop logical problem solving skills assuming scenes where mathematics is actually needed in statistical analysis and so on. Students trying to study mathematics from scratch will be subject to lecture.

MAN100IA

経営学

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。
本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。
また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。
「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。
講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】
経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。
今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。
学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は５月７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。
各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。
各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略 (1) ：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略 (2) ：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略 (3) ：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略 (4) ：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論 (1) ：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論 (2) ：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論 (3) ：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。
講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
講義外の自主学習のために以下の著書をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。
・加護野忠雄・吉村典久編『１からの経営学 第２版』碩学舎、2012 年 4 月。
・伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門　第３版』日本経済新聞社、2003 年 2 月。
その他参考書については講義において紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
（1）講義への参加（10 %）、（2）リアクション・ペーパーの提出（10%）、（3）基礎用語・時事用語回答の提出（10%）、（4）課題レポートの提出（30 %）、（5）期末レポート（40 %）
（1）積極的な講義への参加が評価対象です。
（2）講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
（3）講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。
（4）講義の進行にあわせて 3 回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。
（5）講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】
経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。
講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。
毎年講義中に提出してもらっているリアクションペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】
・企業において株主総会を中心とした IR 業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。
・現在、自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline and objectives】
It aims to have students who learn business science for the first time understand basic knowledge of business administration. Have understand their activities while linking them with their own lives. Have them learn about the relationship between management theory and corporate activity.
In the lecture, we will learn business management with a focus on management strategy and organization theory. And explain various cases to understand what kind of company and management are like.
We will nurture the student's own thinking ability as to how the activities of the company connect with the theory of business science so that students can benefit when they work in enterprises etc through job hunting.

LAW100IA

法学（日本国憲法）

森　浩寿

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、教職課程の必修科目である。
日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、教育現場で必要な法知識の習得を目指し、加えて、日常生活に関係する法律問題として、人の生死、契約、罪と罰などについても対象とする。

【到達目標】
まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに教育現場で必要な法化意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に発生している身近な事例を題材に、どういう法律が整備されているのか、なぜその規定が必要なのか、何が問題なのかなどについて学習する。なお、積極的に議論を行い、自分の考えを言語化することおよび他者との考えを知ることを取り入れていく（ディスカッション・小レポート）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 法令の基礎知識	授業の進め方、テキスト、評価について 憲法、法律、条例、規則、条理について
2	近代憲法の誕生と発展	憲法とは、立憲的意味の憲法の特質
3	日本国憲法について	日本憲法史と立憲主義、明治憲法、日本国憲法、憲法改正
4	基本的人権・1	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下の平等
5	基本的人権・2	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
7	教育と法・１	教育関連法規、学校教育法、教科書裁判
8	教育と法・２	子どもの権利、いじめ問題、体罰問題、教師の権利
9	ライフステージと法	出生、結婚、認知、離婚、死
10	契約	契約の種類、性格
11	労働問題	就職、退職、転職、労働災害補償
12	罪と罰・1	犯罪の種類、成立
13	罪と罰・2	罰則の種類、適用
14	紛争解決手段	裁判と裁判外紛争解決、裁判制度、仲裁と調停

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：シラバスの理解
第 2〜3 回：日頃から新聞を読む
第 4 〜 9 回：社会の出来事から、人権問題をさがす
第 10〜14 回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点としての小レポート（30 %）及び試験（70 %）で評価し、合計 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline and objectives】
It is one of the required course for the teacher training project.
The goals of this course are to
(1) raise the interest about the Law
(2) obtain some basic knowledge (human rights) about the Constitution
(3) be able to　take the action based on the respect for human rights

SOC100IA

コミュニケーション論

山本 浩

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コミニュケーション論」に技術やテクニックを期待する向きがあるかもしれない。多くの人にとってそれは重要なテーマではあろうが、この講義で伝えるのはもっと広い世界である。私たちは有史以前から、それぞれがそれなりのコミニュケーション手段を駆使してきたと考えられている。それが時間とともにことばや絵、文字、さらには映像という手段を動員して情報や意志の交換を高いレベルで図ってきた。ところが今日取り上げられがちなのは「言語能力の低下」「コミュニケーション能力不全」の問題に集約されやすく、多くの人が「力量アップ」を求めて努力を重ねようとしている。社会の、その構成員の本来期待するコミュニケーションとはいったい何か。あるときは実践を経由しながら、コミュニケーションの実相を把握する。

【到達目標】
受容、分析、理解、選択、表現。個々の、それでいて連続するアクションには、コミュニケーションの鎖を構成する重要な役割が負わされている。その理解のためには、自らを取り巻く世界の認識と相手の状況把握が欠かせない。到達すべきは：
コミュニケーションについて、単なる技法としてではなく、取り巻く要件をことごとく理解すること。
「読む・聞く・見る」力の醸成と「書く・話す・伝える」力の開発。
全体から部分に至るまで情報のやりとりの基本原則を身につけ、“受け取り”“発信する” 能力の向上を自らのものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
※ウィルスの影響下、序盤の進め方はウェブによる。教員が学習支援システムにアップロードするファイル（PDF）を読み込み、そこに示された課題を教員に宛てて期限内に送信する。毎回要求され、送信を求められる小論は、引用は三分の一まで。出典明記のこと。これを怠ると、採点の対象にならないので注意されたい。
また授業開始が当初の予定より遅れたため、授業回数としては 12 回。内容は、14 回分に充当するようなものを用意する。
晴れて対面授業が可能になれば、受講生には、理論を確かめたあと演壇に立ってもらう機会を用意する。自ら聞き、話すアクティブなコミュニケーション行動の実践だ。一方で多様なコミュニケーション形態に意識的に関わってもらう時間も準備する。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	コミニュケーションを考える	物を見て､人類の遺産を目にして､道具を手にして。コミュニケーションがさまざまな手段を介して交わされてきたのを確認する。
2	コミュニケーションの歴史	個人から個人へ、個人から特定多数へ、個人から不特定多数へ。コミュニケーションは広がるだけではなく、その性質も変化を遂げてきた。活字の時代を経て、電波に行き着くところまでをまでを考える。
3	仕草とことばのコミュニケーション	私たちの伝えようとするメッセージの守備範囲は単純なものから極めて複雑なものまで、広範囲に及んでいる。シンプルな情報を伝えるところから始まって、ことばの重さを改めて実感してみる。
4	文字のコミュニケーション	活字メディアが厳しい時代に入って、これからは音声に映像主体のコミュニケーション環境を迎えるのかと思いきやそうでもない。スマホにもタブレットにも今でも活字は踊っているからだ。文字のコミュニケーションを振り返る。
5	放送のコミュニケーション〜ラジオ〜	手書きから活字へ。文字のコミュニケーション全盛の時代に電気が分け入ってくる。速報性を武器としたラジオは時代の大コミュニケーションを独り占めし始める。
6	放送のコミュニケーション〜テレビ〜	情報の密度、その現実との近さにおいてテレビはラジオを凌駕することになった。テレビの中に蔓延するコミュニケーションを分析する。
7	ＣＭに見るコミュニケーション~映像の伝える力~	画面からでてくるＣＭこそは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態だ。専門的な視点からその構造を分析する。
8	情報選択とコミュニケーション~SNS 時代の波~	コミュニケーションの第一歩は「とる」に始まる。「聴きとる」「読み取る」「見てとる」。情報収集の原則を改めて振り返り、SNS の氾濫の中の「とる」を考える。
9	わかりやすく話す	何気なく情報のやりとりをしている友達との会話。あいさつを求められたサークルの送別会。大きな違いがあるようで底流に流れる原則は変わらない。話しの基本をおさらいする。
10	人前に立つ~理論編~	大きな式典の壇上に上がるのはもとより、親族の会で指名されて話しをするのでさえドギマギしてしまう。人前でメッセージを発するのはやっかいなことだ。なぜそうなるのか。道理と筋立てを眺め渡し、あるべきスピーチの道を探る。
11	人前で話す~実施編~	前週で確認したスピーチの構造を実際に転用して、教壇に立って話しをしてみよう。
12	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験
13	※ウィルスの影響下で、回数としてはキャンセル	ノーカウント
14	※ウィルスの影響下で、回数としてはキャンセル	ノーカウント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※ウェブでの授業が多くなることで、電子的な情報のやり取りがこれまで以上に割合を増やすことになるだろう。狭い範囲の情報のやり取りだけでなく、広い視点に立った情報収集に努めてもらいたい。とりわけ、海外の論調などを現地のサイトに入って翻訳アプリなどを使いながら、情報を集めることも勧めたい。
一方でこの講義では「伝える」ことに重心を置いた内容が多くなる。ただし、その前提としての情報収集（相手の意向を汲む）には万全の体制で臨まなければならない。普段から「何を伝えるか」「どう伝えるか」を意識した生活を送れればそれに越したことはない。「公式」の場や「多数を相手にした」場などに直面する機会は、高校生の時代より遙かに多くなる。部活やサークル、インターンシップの場面で積極的に発言する姿勢を養い、これから先につながるコミュニケーションに重点を置いて講義を組んでいく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
・『マン・ウォッチング』デズモンド・モリス（１９８０）小学館
・『メディア社会ー現代を読み解く視点』佐藤卓巳（２００６）岩波書店
・『メディアコミュニケーション学』橋元良明（２００８）大修館書店

【成績評価の方法と基準】
講義中に毎回課すリアクションペーパーがある。今年度は講義内に書き終えるという条件は、ウェブで行う講義に限り別扱いとする。いずれにしても受講生は、指定期限内にオンラインで送信し、教員の元に届いたものをティーチングアシスタントが採点。教員がチェックする形で毎回の得点を付与する。この形での “小論” には、1 回につき最大 3 点が付与される。最終講義内試験を除く 11 回に満点を取り続ければ計 33 点。
最終講義に課する期末論文試験（単語/フレーズ問題 30 点、小論文 50 点）には必ず出席のこと（ただしこの形式は、対面授業が可能になった場合）。すべてパーフェクトであれば、113 点が獲得できる計算になる。
対面授業が不可能であれば、ウェブでの試験で複数の小論文（合計 70 点）を課することになり、この場合には最高点 103 点となる。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援アシスタントへのアップロードを軽快に進めたい。

【その他の重要事項】
放送局のアナウンサー経験者である教員が、ことばによるコミュニケーション技法と理念をベースに講義を行う。コミュニケーションの講義では、方法論に力点を置くように感じるだろうが実のところ重要なポイントは、局面に出くわしたときにそこにある内実をどう判断し自分自身の選択をどうするかというところから始まる。いわば「判断力」「選択肢抽出能力」の勝負でもあるのだ。コミュニケーションスキルは大切なものだが、同時に「判断」「決断」もかけがえのない重要なファクターであることを知っておかなければならない。

【Outline and objectives】
The communication knowledge and skills are essential items for the people who live in this modern society. The reason why we urge it? In bringing up some problems about our communicational situation we could grasp a tip of the theme in this lecture.
Each creature has its own way of communicating. Human beings have tried exchanging information and intention by making use of means such as pictures, words, letters, even images. It is now pointed out that "language ability is declining" and "communication skills are insufficient", and many people are trying to make efforts to seek for ways of improvement. What is the desirable communication in our society? You could find out the actual state of communication through some verbal practices.

HSS100IA

人間とスポーツ

成田 道彦

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツに関わる諸問題について幅広く講義する。スポーツに関する幅広い知識を身につけ問題の背景と現状を把握し、現代社会が求めるスポーツの役割、指導者の資質について考える。

【到達目標】
現代スポーツの現状と問題点を理解したうえで、これからのスポーツの役割と指導者に求められる資質と役割について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツの諸問題について最新のニュースや新聞記事などを教材として使用する。実際にトレーニング現場を体験した経験から、指導者の資質と役割について講義する。また、スポーツの進歩の歴史からスポーツの将来も考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・テーマ・概要・授業方法について説明する。
2	スポーツの起源と発展	スポーツの起源と日本の近代スポーツの歴史を学ぶ。
3	部活	現在の部活の現状を理解し、現場での様々な問題点と解決策について各自の経験から学ぶ。
4	大学スポーツ	日米大学スポーツの現状を様々な視点から分析・比較し、これからの大学スポーツの方向性について学ぶ。
5	スポーツと体罰	スポーツ現場における体罰とその背景を理解し、体罰根絶のための予防策を学ぶ。
6	ゲスト講師／ｅスポーツ 1	ｅスポーツの歴史と現状と問題点を学ぶ。
7	ゲスト講師／ｅスポーツ 2	ワークショップ（e スポーツの現状から未来の運動会について考える）
8	オリンピックとアスリートの国籍移動	オリンピックの歴史とアスリートの国籍移動など近代オリンピックが抱える問題点と解決策を学ぶ。
9	ドーピング	ドーピングの歴史・背景・現状の問題点について学ぶ。
10	アニマルセラピー	アニマルセラピーが心理面・生理面に及ぼす影響を理解し、方法と期待される効果を学ぶ。
11	指導者とトレーニング	指導者の資質と役割とは何か、指導者がアスリートに与える影響について学ぶ。
12	生涯スポーツ	現代スポーツの役割や現代スポーツが置かれている環境等を理解し、これからの生涯スポーツの在り方を学ぶ。
13	法政大学と箱根駅伝	法政大学の箱根駅伝への取り組みから、箱根駅伝の歴史・現状と学生スポーツとしての問題点を学ぶ。
14	スポーツとは	全体を総括する。スポーツの未来を考える。課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツに関するニュースや新聞記事を教材として使用するため、各回に関する情報収集に心がける。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業中に資料を配布します。

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業態度（30 %）
課題レポート（30 %）
授業内レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
資料等をもう少し工夫し、講義内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※講義の進行状況により、内容を適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This is a lecture course on a variety of matters associated with sports. Students acquire a wide knowledge of sports, and explore and understand various issues about sports, the role sports play in society and the essential qualities for athletic trainers.

GDR100IA

女性とスポーツ

伊藤　真紀

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的、社会的背景を紐解きながら、女性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー (社会・文化的側面)、「セクシャリティー」(生理学的・解剖学的側面)、メディア、プロモーション、様々な角度から女性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の女性とスポーツに関連した事例を通して、今後の女性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】
様々な角度から女性とスポーツについて学び、今後の女性とスポーツの可能性について
自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間も設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史 I 日本における女性スポーツ 諸外国の事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史 II アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトル IX」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状 I	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。
6	女性スポーツの現状 II	諸外国並びに日本のスポーツ界における女性指導者の現状について学ぶ。
7	女性の体とスポーツ	女性アスリートのからだについて 女性アスリートの３主徴 “Female Athlete Triad” について学ぶ。
8	スポーツ界における多様性について I	ジェンダー、セクシャリティージェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
9	スポーツ界における多様性について II ケーススタディー【アメリカにおけるジェンダー関連事項】	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関するアメリカのスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
10	女性スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでの女性アスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	女性スポーツの現状 Sport England “This girl can”	女性のスポーツ実施率について学ぶ。 スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」について紹介する。
12	スポーツビジネスにおける女性戦略 I	女性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける女性戦略の意味を考える。
13	女性スポーツに関するテーマを選びグループ発表を行う。	女性スポーツの現状を各グループごとに調査し、発表を行う。
14	期末レポートの発表	期末レポート課題について説明を行う。授業の振り返り、プレゼンテーション総括、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業への積極的な参加態度（10 %）、リアクションペーパーの内容（10 %）、グループプレゼンテーション (20%)、小テスト（30%)、レポートの内容（30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
グループプレゼンテーションを行い、内容についてクラス全体で質疑応答やディスカッションを行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
We will learn about women and sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women’s participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of women and sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of women and sports in the future through the actual cases related to sports and women in both Japan and in foreign countries.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。
講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
We will learn knowledge about information processing such as computers and networks.It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.
It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.
It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.
The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university.
Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。
講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
We will learn knowledge about information processing such as computers and networks.It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.
It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.
It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 3/Thu.3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.
The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university.
Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。
講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。
以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。
講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。
また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
We will learn knowledge about information processing such as computers and networks.It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.
It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.
It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
(1) 講義への参加（50 %），(2) 課題の提出およびその内容（50 %）
(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】
自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】
This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.
The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university.
Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

SOC100IA

スポーツレクリエーション論

谷本　都栄

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】
・現代の日本における様々な地域の課題を認識し、スポーツ・レクリエーションがどのように貢献できるかを考える。
・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・各種資料、ケーススタディから具体的に内容を把握できるようにする。
・レクリエーション事業計画では、地域の調査及び企画書の作成を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レクリエーションの意義と役割	レクリエーションに関わる諸理論、レクリエーションの意義と役割について学ぶ。
第 3 回	レクリエーション運動の歴史①	欧米から始まるレクリエーション運動について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 4 回	レクリエーション運動の歴史②	戦後の日本におけるレクリエーション運動について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション①	各ライフステージにおける発達課題と人生課題について学ぶ。
第 6 回	ライフスタイルとレクリエーション②	障害者、女性、ジェンダー・マイノリティに関わる課題について学ぶ。
第 7 回	家族とレクリエーション	子育て・子育ち支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 8 回	高齢者とレクリエーション	高齢者の介護予防支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 9 回	障害者とレクリエーション	障害者の自立支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 10 回	レクリエーション事業計画①	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について学ぶ。
第 11 回	レクリエーション事業計画②	個人及び集団を対象としたプログラム計画の実際について学ぶ。
第 12 回	レクリエーション事業計画③	グループ運営の方法、アイスブレーキングやコミュニケーションワークについて学ぶ。
第 13 回	レクリエーション事業計画④	多様なスポーツ・レクリエーションの実践事例から学ぶ。
第 14 回	レクリエーション事業計画⑤	事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・各課題は、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・ワークシート及びリアクションペーパー 60 %
・課題Ⅰ 20 %
・課題Ⅱ 20 %
総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】
Recreation, leisure and sports activities play an important role in communities. Participation in recreation and sports activities can have many benefits for both the individual and community, that include improving health and well-being, contributing to the empowerment of people by bringing together, and promoting social integration and the development of inclusive communities.
The program has the following objectives.
1. Provide students the foundational knowledge and skills required for recreation and sport play
2. Encourage students to organize recreation or sport programs in their life

ECN100IA

統計学 I

笹井　浩行

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
旧うか科目名：**統計学 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、統計的分析手法の初歩的な実践的技術の修得を目指す。
※ 2019 年度までは統計解析ソフトとして SPSS を用いて来たが、2020 年度からは、卒業後も自由に使用できるようフリーソフトの R を用いる。昨年度までの本授業の受講生も、R に基づいて統計学を学ぶことになることに留意すること。

【到達目標】
図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握する方法を習得し、初級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では Excel および統計ソフト R を用いる。
授業の本格的な開始日は 5 月 8 日（金）とします。ただし、それまでの課題（進めて欲しいこと）を Hoppii 上の連絡およびメールにて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要・R のインストールと使い方	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。R および R Studio のインストールと基本的な使い方について概説する。
2	記述統計（1）	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	推測統計・仮説検定	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、推測統計の基礎について学ぶ。尺度水準、仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準，第 1 種の過誤と第 2 種の過誤等について学ぶ。
5・6	対応のない t 検定	対応がない独立した 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
7	対応のある t 検定	対応がある 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
8	中間テスト	1〜7 回目までの内容に関して中間テストをおこなう。
9・10	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2 つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。
11・12	単回帰分析	一方の変数から他方の変数を予測する分析手法を学ぶ。
13	カイ二乗検定	分割表による比率の差の検討について学ぶ。
14	総括・期末テスト	1〜13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・情報実習室の PC にインストールされている R を使い、しっかり復習すること。
・個人 PC にも R および R Studio をインストールし、自学自習を心掛けること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・R によるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格： 2970 円）
※本書が手元にあることを前提に授業を進める。

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/~kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve 社 統計 WEB ｜統計学の時間
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・to-kei.net　R 言語入門
https://to-kei.net/r-beginner/
・R による統計処理
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・ドットインストール　R 言語入門（無料動画教材）
https://dotinstall.com/lessons/basic_r
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）と期末テスト（60%）の成績により評価する（出来栄えにより、多くの受講生が単位を取得できるよう配点を変更することもある）。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。2019 年度の実績では、受講生の大半がテストの難易度を高いと評価している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。なお、単位取得率は毎年度 8 割程度である（2 割程度が単位を落としている）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や難易度、順番を変更することがある。

【その他の重要事項】
・ノートやメモを適宜取ること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。エクセルやワードの使い方、メールソフトの使い方などは本授業の範囲外であり、原則としてそれらを指導する機会を設けない。
・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

【Outline and objectives】
Statistics is a fundamental and practical discipline that is used to summarize massive amount of data and to interpret its output correctly. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. This course provides students with beginner-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.

ECN100IA

統計学Ⅱ

笹井　浩行

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、中級レベルの統計的分析手法の実践的技術の修得を目指す。
※ 2019 年度までは統計解析ソフトとして SPSS を用いて来たが、2020 年度からは、卒業後も自由に使用できるようフリーソフトの R を用いる。昨年度までの本授業の受講生も、新たに R に基づいて統計学を学ぶことになることに留意すること。

【到達目標】
多変量解析を含む中級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。本授業では、統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 2 割、演習 8 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト R を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学 I の復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学 I で扱った分析手法について復習する。
2	統計学 I の復習	統計学 I で扱った分析手法について復習する。
3・4	一元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、1 つの要因により、3 つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法および多重比較検定を学ぶ。
5・6・7	二元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、2 つの要因により、3 つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
8	中間テスト	1〜7 回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。
9 ・10・11	重回帰分析	間隔・比率尺度である 1 つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。ダミー変数の作成法について学ぶ
11・12	ロジスティック回帰分析	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
13	統計解析プレゼンテーション	サンプルデータセットを用いて、受講生の自由な発想に基づく統計解析と発表の機会を設ける。（進捗次第で割愛することもある）
14	総括・期末テスト	1〜13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学 I での学習内容もテストに含まれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・情報実習室の PC にインストールされている R を使い、しっかり復習すること。
・個人 PC にも R および R Studio をインストールし、自学自習を心掛けること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・R によるやさしい統計学、山田剛史ほか著、オーム社、2008.（価格： 2970 円）
※本書が手元にあることを前提に授業を進める。

【参考書】
・ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://mcn-www.jwu.ac.jp/~kuto/kogo_lab/psi-home/stat2000/index.html
・アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学（無料ウェブ教材）
http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html
・Bellcurve 社 統計 WEB ｜統計学の時間
https://bellcurve.jp/statistics/course/
・to-kei.net　R 言語入門
https://to-kei.net/r-beginner/
・R による統計処理
http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/R/
・ドットインストール　R 言語入門（無料動画教材）
https://dotinstall.com/lessons/basic_r
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 I（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11405/
・東京大学 Open Course Ware　統計データ解析 II（無料動画教材）
https://ocwx.ocw.u-tokyo.ac.jp/course_11408/
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）と期末テスト（60%）の成績により評価する（出来栄えにより、多くの受講生が単位を取得できるよう配点を変更することもある）。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。2019 年度の実績では、受講生の大半がテストの難易度を高いと評価している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。なお、単位取得率は毎年度 8 割程度である（2 割程度が単位を落としている）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【その他の重要事項】
・統計学 I を未履修であっても受講可であるが、統計学 I を履修済みであることを前提として授業を進める。小テストや期末テストで、統計学 I の内容が含まれることに留意すること。
・2019 年度以前に統計学 I を履修済みで、本年度に統計学 II を受講する者は、使用ソフトが SPSS から R へと変更となっていることに留意すること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。それらの基本操作を指導する時間はない。
・統計学 I および II の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

【Outline and objectives】
Statistics is a fundamental and practical discipline that is used to summarize massive amount of data and to interpret its output correctly. Statistics is widely used in almost all sports science-related fields including exercise physiology, sports psychology, and sports sociology. This course provides students with medium-level analytic skills that would be helpful when tackling with bachelor's thesis or work after college graduation.

PHL100IA

哲学

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考えることなしに人間は生きることができない。したがって、私たちにとって哲学は本質的なものである。本講義では、いくつかのテーマを設定し、それらのテーマに対する複数の考え方とその枠組みを学んでいく。そのことにより、多角的な視野を獲得すると同時に、物事の見方を深め、自らじっくり考える力を養うことを目的とする。

【到達目標】
（1）哲学とは何かを説明することができる。
（2）哲学における諸説について述べることができる。
（3）基本的な概念や語句について述べることができる。
（4）諸問題について自分の考えを述べることができる。
（5）物事を多角的な視点で捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には講義形式で行っていくが、自分の考えを深め、多角的な視点を得るためにグループワークやディスカッションなども取り入れていく予定である。また、提出課題やリアクションペーパーの機会も設けていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは何か	①イントロダクション ②哲学の定義 ③哲学の成立ち
2	「よりよく生きる」：徳論（1）	①徳とは何か ②ソクラテスにおける徳
3	「よりよく生きる」：徳論（2）	①プラトンにおける徳 ②アリストテレスにおける徳
4	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（1）	合理論について
5	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（2）	経験論について
6	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（3）	批判論について
7	「共にあるために何ができるか」：共生論（1） フィールドワーク	①ハンセン病 ②多磨全生園の見学
8	「共にあるために何ができるか」：共生論（2）	①差別について ②ノーマライゼーション
9	「善悪の基準」：価値論（1）	義務論について
10	「善悪の基準」：価値論（2）	功利主義について
11	「生きることと死ぬこと」：死生論（1）	生の哲学について
12	「生きることと死ぬこと」：死生論（2）	死の哲学について
13	「ケアを生きる人間」：ケア論（1）	①ケアとは何か ②ハインツのジレンマ
14	「ケアを生きる人間」：ケア論（2）	①ケアする者の意義 ②ケアされる者の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の授業内容を再確認する。事前課題がある場合には、その課題に取組む。
復習：配布されたプリントを再度見直し、授業内容の振り返りを行う。課題がある場合は、その課題に取組む。
できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内にプリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50%）、課題（40%）、平常点（10%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数を考慮しながら、グループワークやディスカッションなども行い、自ら考える機会をなるべく多く設けていきたい。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
全体の講義の中の一回は、フィールドワークとして多磨全生園の見学を行う予定である。
担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、死とその周辺の問題について、現実に基づいた意見を伝えていく。

【Outline and objectives】
It is an essential for us in living to study philosophy. Because man cannot live without thinking. In this lecture, students learn some theories and some key concepts to resolve problems in some themes. The aim of this lecture is that students can examine the various aspects and deepen own thought.

PHL100IA

生命倫理

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理とは、文字通り生命についての倫理のことである。生命も倫理も一部の専門家だけの問題ではなく、今を生きているすべての人間の問題である。本講義では、生命倫理の成立ちや諸原則などを学ぶことができ、私たちが実際に直面しうるであろう、生命の始まりや終わりに関する具体的な問題について理解することができる。講義を通して、諸問題について自分の意見を述べることができ、自分で答えを出せる力を養うことが、本講義の最大の目的である。

【到達目標】
（1）「いのち」の尊厳を理解し、尊重することできる。
（2）倫理とは何かを説明することができる。
（3）医の倫理と生命倫理の特徴を理解し、両者の違いを述べることができる。
（4）生命倫理の四原則について説明することができる。
（5）インフォームド・コンセントについて説明することができる。
（6）生命の始まりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。
（7）生命の終わりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行っていくが、具体的問題に関しては一部グループワークも導入していく。また、一回はフィールドワークとして、希望者による校外研修を行う予定である。授業内において、現場での具体的状況を把握し、当事者の思いを理解できるように、実際の映像資料なども多く取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	「いのち」と倫理	①イントロダクション ②「いのち」とは何か ③倫理とは何か
2	医の倫理	①『ヒポクラテスの誓い』 ②パターナリズム ③医の倫理の三原則
3	権利の確立	①医の倫理の限界 ②人体実験 ③被験者と患者の権利の確立
4	生命倫理の成立	①生命倫理の全体像 ②生命倫理という語
5	生命倫理の四原則（1）	①自律尊重の原則 ②リビング・ウィル ③アドバンス・ディレクティブ
6	インフォームド・コンセント	①インフォームド・コンセントとは何か ②セカンド・オピニオン
7	生命倫理の四原則（2）	①善行の原則 ②無危害の原則 ③公正の原則
8	現代のおける具体的諸問題（1） フィールドワーク	①ハンセン病 ②多磨全生園の見学
9	現代における具体的諸問題（2）	①認知症 ②認知症者へのケア
10	生命の始まりをめぐる諸問題（1）	①いつから人になるのか ②線引き問題
11	生命の始まりをめぐる諸問題（2）	①人工妊娠中絶 ②選択的中絶 ③養子縁組
12	生命の終わりをめぐる諸問題（1）	①安楽死 ②安楽死の種類 ③安楽死許容の六要件と四要件
13	生命の終わりをめぐる諸問題（2）	①尊厳死 ②尊厳死許容の二要件
14	生命の終わりをめぐる諸問題（3）	①ターミナルケア ②人生の最終段階における意思決定 ③看取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理しておく。
復習：テキスト及び授業配布資料に基づいて前回授業の内容を復習する。興味があるテーマに関しては自分で調べる。また、課題がある場合には課題に取組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』、勁草書房、2008 年。2700 円＋税。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）、課題（30 %）、平常点（10 %）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
自分のこととして考えられるような機会を多く儲ける予定である。具体的には、映像資料を用いて現状を追体験できるような機会、グループワークを通じて多様な意見に触れつつ自分の考えを深める機会、フィールドワークによって実際の現場を肌で体感する機会を設定していく。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
全体の講義の中の一回は、フィールドワークとして多摩全生園の見学を行う。担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、終末期ケアの現状や当事者や家族の生の声を多く紹介していく。

【Outline and objectives】
Bioethics means ethics of life. This is the problems that not only some experts but also we should work on. In this lecture, students can learn basic matters of bioethics including four principles and an history of bioethics. And they can understand some problems of the beginning of life and of the end of life that we will face on. The aim of this lecture is to cultivate an ability to work out a solution for those problems by oneself.

HSS100IA

保健体育概論

永木　耕介

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方についての思考力を培う。

【到達目標】
保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は 4 月 24 日 (金)2 限から開始します。コロナ virus の影響により、当面の間、毎授業において学習支援システムに「課題」を設定し、受講者のみなさんはそれに応える方法で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバリゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体つくり運動」の内容と特性	「体つくり運動」の実際的内容と特性について、知識および運動、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
9	「水泳」+「野外活動」の内容と特性	「水泳」+「野外活動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業において「課題」に対する感想やコメント（リアクションペーパー）の提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版＋平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版・体育科教育学入門　（大修館書店）他

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度（４０％）、リアクションペーパー（レポート）による理解度（６０％）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もリアクションペーパーによる振り返りを行い、各学生の主体的な学習への取り組みを図る。

【学生が準備すべき機器他】
（できるだけ）パソコン。スマートフォンだけでは画面が小さいので苦しい。

【その他の重要事項】
教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
This class is for students requiring the study of Physical Education teaching materials and their purpose in schools, with a particular focus on sports history and recent trends in teaching as well as thoughts into how Physical Education should be in the future.

SOC100IA

障害者福祉論

山岸　倫子

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての一般的なイメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

【到達目標】
・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
・障害者の生活実態について知ることができる。
・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1〜3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関係する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加　30 %：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が 3 分の 2 以下のものは不可とする。
課題の提出　30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを 3 回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。
期末試験　40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が少人数であること、かつ部活の公式戦や介護実習等により欠席者が多くなる傾向がある。少人数であることを活かし、対話形式を取り入れつつ、学生の知識習得に尽力するとともに、欠席者への対応も心掛けたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to heip acquire an understanding of the "disability"and"disability people".This course deals with definition of disability,legal system and history from the viewpoint of sociology.

ART100IA

音楽文化論

関野　直樹

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会において” 音楽” が形成した文化をあらゆる角度から考察するとともに、スポーツにおける音楽、さらにはリズムとはいかに機能してゆくのかを体験する。現役ピアニストであるからこそ体感してきた音楽を表現すること、そしてそれらを実現する際の具体的な身体的な訓練、音楽、演奏を様々な視点から考える。

【到達目標】
音楽がもたらした社会における役割や時代背景を理解した上で、いろいろな分野に応用可能とされる、演奏家の身体の使い方、リズム感の訓練、さらにはセルフマネージメントまでの幅広い領域の専門的知識を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
音楽という分野であるからこそ、映像録音資料を多用しながら講義を進める。必要に応じては、実際の演奏なども取り入れながら、ライヴでの音を体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	現代社会における西洋（クラシック）音楽とは何かを各々意識した上で、今後の展望を確認する。
2	音楽の歴史	音楽の起源、そして映像資料とともに時代の流れの中で大きく変化した音楽の足跡を追う。
3	西洋音楽	主に 19 世紀の音楽が” 文化” として確立された背景と、当時の音楽がもたらした影響を考える。
4	スポーツと音楽	スポーツ界においても音楽、更には表現ということはかかせない要素の一つである。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	演奏家の超絶技巧	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
6	リズム論	音楽的なリズムとは何か、スポーツにおけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
7	リズム演習	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
8	リズムアンサンブル①	アンサンブルを通して個人のリズムだけでなく、周囲とのリスムの調和を感じ取る。
9	様々なジャンルの音楽	クラシックだけではなく、古代音楽からポップスまで、それぞれの音楽の魅力を考察する。
10	コンサートとライヴ	音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを理解し、実際のクラシックコンサートを体感する。
11	ミュージカル①	現代における音楽を主とした総合芸術であるミュージカルから現代の音楽のあり方を考える。
12	ミュージカル②	実際に映像資料とともに、ミュージカルの持つ力、演奏家と音楽の持つ力を体感する。
13	リズムアンサンブル②	今までより高度なリズムで、周囲との調和を感じ取りながら、アンサンブルを楽しむことを目標とする。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のために準備が必要な際はその都度指示する。
実際にライヴで演奏を聴く機会を紹介するので、積極的に参加していただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
学年末レポート:５０％
授業内での小レポート:５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an understanding the culture formed by "music". Also we will experiment how music will play in sports.Particularly, we will play rhythm ensemble as a exercise.

HSS100IA

基礎科学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】
科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目 (実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
生理学、生化学、解剖学等の理解に必要となる、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数理処理について解説する。
運動生理学を学ぶ前段階と位置付けている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	元素、原子、分子などの基本的概念の復習と応用。
3	生体を構成する物質（2）	細胞構築などの微小構造の概念の紹介する。
4	生体を構成する物質（3）	生理学、生化学、解剖学などを理解するために必要な分子細胞学の基礎。
5	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（1）	科学研究で頻繁に用いる表、グラフの理解；スポーツ科学研究の例示。
6	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（2）	基本的な統計手法の紹介；平均、分散など記述統計に必要な用語の解説する。
7	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（3）	データの表現；直線への当てはめとしての最小二乗法、三角関数の延長としての周波数解析の紹介など。
8	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（4）	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝計測に応用されている数理処理の紹介
9	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（1）	糖、アミノ酸、タンパク質の基礎。
10	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（2）	生体内の化学反応、イオンの概念
11	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（3）	呼吸生理の基礎となる、気体の圧力と体積の関係について
12	バイオメカニクス分野に必要な基礎科学	生体と関連する物理学（の基礎；物質の重量、速度、加速度や力学法則、単位系の考え方)
13	基本的な統計処理に活用するソフトウェアについて	エクセルを活用した基礎的な手法やグラフ作成や統計処理が可能なソフトウェアの紹介
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
イラスト 基礎からわかる生化学: 構造・酵素・代謝　（裳華房）

【参考書】
シンプル生化学　（南江堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（100%）
理解度を確認するために適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
可能な限り運動生理学を履修する前に本単位を修得することを強く推奨する。教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識・思考方法を講義する。

【Outline and objectives】
We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports medicine and science.

IDN100EA

多摩地域形成論

池田　寛二

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち,「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。
○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

CAR100EA

キャリアデザイン論

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜ 4/15 追記＞当科目は 2020 年度休講となりました。
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】
①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代１（砂田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、複雑化する社会に生きる
2	キャリアデザインと大学時代２（斎藤）	自分をつかむ　１　可能性を拡げるために
3	職場で求められる力とは　１（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは　２（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは　３（斎藤）	自分をつかむ　２　関わり合いの中で
6	企業を知る１（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る２（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために１（伊藤）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために２（斎藤）	就活と採用を知る　新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために３（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために４（眞保）	ワークライフバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる１（池田）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる２（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる３（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各回の資料を授業支援システムより DL して予習すること（2 時間程度），および講義後に各回の内容に照らして自らのキャリア形成について検討し，必要に応じてインターネットや図書館を利用して調査することが必要である（2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】
毎回、出席をとる。遅刻・早退は 2 回で、1 回の欠席と見なす。

【受講上の注意】
1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】
Under the theme of "designing" one's carrier, we will discuss how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

CAR100EA

キャリアデザイン論

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜ 4/15 追記＞当科目は 2020 年度休講となりました。
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】
①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代１（砂田）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、複雑化する社会に生きる
2	キャリアデザインと大学時代２（斎藤）	自分をつかむ　１　可能性を拡げるために
3	職場で求められる力とは　１（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは　２（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは　３（斎藤）	自分をつかむ　２　関わり合いの中で
6	企業を知る１（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る２（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために１（伊藤）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために２（斎藤）	就活と採用を知る　新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために３（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために４（眞保）	ワークライフバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる１（池田）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる２（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる３（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各回の資料を授業支援システムより DL して予習すること（2 時間程度），および講義後に各回の内容に照らして自らのキャリア形成について検討し，必要に応じてインターネットや図書館を利用して調査することが必要である（2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】
毎回、出席をとる。遅刻・早退は 2 回で、1 回の欠席と見なす。

【受講上の注意】
1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】
Under the theme of "designing" one's carrier, we will discuss how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

HSS200IA

ＪＵＤＯ

永木　耕介

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「柔道－日本文化としての特性を学ぶ－」
Judo - Learning the characteristics of Japanese culture
主に外国人留学生を対象に、「柔道」の技能及び言語活動の演習を通して、日本文化としての価値ある側面への知識・理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
Through judo practice, learn the characteristics of Japanese culture, such as the art of self-defense, the meaning of courtesy, the sense of kimono, the sense of barefoot, the method of using the other person's power, the meaning of "Ippon", etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
This lesson will start on April 22 (Wednesday) from the 3rd period. Due to the influence of corona virus, for the time being, we will set "assignments" to the learning support system in each class, and all the students will proceed in a way that responds to them.
This class does not require the high Judo skill level as it is mainly about learning the cultural style of Judo.　However, some exercise is required.　The class will be primarily conducted in English, but sometimes explaining certain Judo concepts will require Japanese.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	orientation	What is Judo ? History and Now, The founder Jigoro Kano, About educational values
2	manners	forms of proper respect, about Judo clothes, safety precautions
3	loosening up ①	stretching in pairs, awareness of partner's body and mind ?
4	loosening up ②	pair work, feeling your partner's strength ?
5	breaking your fall	backwards, sideways, forward, What parts of the body should be protected ?
6	grappling techniques ①	Kesa-gatame What is necessary for grappling ?
7	grappling techniques ②	Kami-shiho gatame What is necessary for grappling ?
8	grappling techniques ③	Yoko-shiho gatame What is necessary for grappling ?
9	grappling techniques ④	free practice and test: skills and writing the names and key points of techniques in English and Japanese
10	throwing techniques ①	foot and leg techniques breaking balance, body shifting, power control
11	throwing techniques ②	hip techniques breaking balance, body shifting, power control
12	throwing techniques ③	hand techniques breaking balance, body shifting, power control
13	throwing techniques ④	test: skills and writing the names and key points oftechniques in English and Japanese
14	Summarize the traits of Judo using both English and Japanese.	Ex. What is Ippon ?, What is Jyu-yoku Gou-wo-Seisu ?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class requires two hours of learning overtime.
Require to read Japanese and English literature on judo history and techniques.
For example;
Kodokan New Japanese-English Dictionary of Judo ,2000.
An Introduction to Kodokan Judo -History and Philosophy Hon-no-Tomosha,1996，By D.Matsumoto, Supervised by The Kodokan Judo Institute.
BISHIDO-and the art of living-An Inquiry into Samurai Values, 2019, By A.Bennett

【テキスト（教科書）】
The legacy of KANO JIGORO : Judo and Education, Japan Library, 2020
Other Text materials will be handed out when necessary.

【参考書】
Kodokan New Japanese-English Dictionary of Judo ,2000.
An Introduction to Kodokan Judo -History and Philosophy Hon-no-Tomosha,1996，By D.Matsumoto, Supervised by The Kodokan Judo Institute.
BISHIDO-and the art of living-An Inquiry into Samurai Values, 2019, By A.Bennett

【成績評価の方法と基準】
Attitude and participation (60%), Understading the key concepts and vocabulary of Judo in Japanese (30%), Judo skill(10%)

【学生の意見等からの気づき】
Not required because it is first time to teach

【学生が準備すべき機器他】
Judo-gi(if you have), Towel to wipe sweat

【その他の重要事項】
Managing physical condition
If you feel sick or have any injuries, offer to the teacher in advance.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to deepen students' understanding of the characteristics of Japanese culture through the practice of Judo techniques and linguistic.

HSS200IA

スポーツ健康学海外演習

泉　重樹、伊藤　真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、現地の人々との英語でのコミュニケーションを通して、主体的に自ら英語で学ぶ姿勢を涵養する。

【到達目標】
本演習では主に下記 3 点を到達目標とする。1．米国アイダホ州ボイシにある、Boise State University における 2 週間の活動を通して、英語にじかに触れ、英語で生活すること。2．米国のカレッジスポーツに直に触れることで日米のスポーツ文化及びスポーツビジネスの違いを感じるとともにスポーツ健康学の学びを深めること。3．現地の人々とのコミュニケーションを通して、自ら積極的に英語で発信すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
米国アイダホ州ボイシにある Boise State University（BSU）において 2 週間の演習を行う。主に午前中は英語のクラス、午後はスポーツ健康学領域の様々なワークショップやアクティビティである。出発前には事前の演習（1 時間）もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前準備	米国アイダホ州ボイシおよびボイシ州立大学についてディスカッションを行う。
2	アイスブレイクと英会話テスト	アイスブレイクを通して、学生同士、現地の教員・学生間のコミュニケーションを開始する（実力確認テストを含む）
3	現地のネイティブスピーカーによる英語の授業	英語でのコミュニケーションに特化した授業が展開される。
4	英語でのワークショップ（グループワーク）	小グループに分かれて、質問に対して英語でディスカッションを行う。
5	BSU 学生との英語でのコミュニケーション	各自の考えた質問を BSU の学生にインタビューし、プレゼンテーションを行う。
6	現地の日本語クラスへの参加	BSU で英語を学ぶ学生達のクラスに入り、お互いに学びあっている言語でコミュニケーションを行う。
7	英語でのワークショップ（プロジェクト発表）	小グループに分かれて、英語でのプロジェクトを実施し、発表する。
8	個々の振り返りとフィードバック	これまでの内容を英語で振り返るとともに、残りの期間の到達・実施目標を確認する。
9	BSU 学内スポーツファシリティ見学	BSU 学内施設を見学／説明および質疑を通して米国スポーツ文化の学びを深める。
10	BSU 内の REC センターにおけるワークショップ	BSU 学内運動である REC センターにおいて、アクティビティを行いながら大学スポーツ文化を学ぶ。
11	Boise 市内のスポーツ施設見学とワークショップ	ボイシ市内にあるスポーツ施設特にフィットネスクラブを見学／活動参加し市民の活動状況に触れる。
12	アスレティックトレーニングプログラムワークショップ	BSU のアスレティックトレーン―によるテーピング＆ラッピングのワークショップに参加／実践する。
13	BSU スポーツ見学（サッカー、バレーボール、アメリカンフットボールなど）	BSU の学生スポーツを肌で実感する。米国のスポーツ文化を実践から学ぶ。
14	Boise 市内のスカベンジャーハントと振り返り	最後に、Boise の街を使って、オリエンテーリングゲームを行う。英語でのコミュニケーションの総仕上げである。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習では間違いを恐れずに英語で会話する姿勢が最も重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
電子辞書等。

【成績評価の方法と基準】
本演習（事前授業含む）への参加 70%
レポート提出　30%

【学生の意見等からの気づき】
英語への不安よりも現地の人々と積極的にコミュニケーションをしたいという思いが強い学生が参加している印象である。参加した学生からは、この演習の成果と気づきを今後の学生生活に生かしていきたいという前向きなメッセージが多く寄せられている。

【Outline and objectives】
The primary purpose of this practice is to live in English through a two week program at Boise State University in Boise, Idaho, USA. Secondly, learning differences in sports business between Japan and United States by directly experiencing college sports in US.

HSS100IA

スポーツ健康学特講

HANS－JOERG　STIEHLER

サブタイトル：Media Events
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Since the 1980s, new relationships have developed between sport and the media. From an observer of the sports system, the media, especially television, have become actors in the media system. This development is illustrated in the lecture with case studies (football, biathlon, handball, winter sports, etc.) and later systematized. In an analytical part, the scope and staging forms of sports reporting (on television) in various European countries are empirically analyzed.

【到達目標】
- Experiencing and practicing elementary research and analysis techniques
- Practicing searches of relevant information (desk research)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
- Lecture/s by the professor
- Seminar discussions
- Reading of scientific and popular texts
- Presentation of (online and offline) search results

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the topcis of seminar (lecture)	Seminar's goals and methods, expectations of the students and the prof.
2	The European Sports & Media Agenda	calendar and highlights, international mainstream sports (winter sports, handball, volleyball, boxing etc.) and national top events
3	Soccer – European's Sport No. 1	national and international organizations, competitions, transmission rights, TV and the changing rules
4	Soccer – European's Sport No. 1	national and international organizations, competitions, transmission rights, TV and the changing rules
5	Typical TV-Formats of soccer coverage (D-A-CH)	demonstrations and analysis
6	Winter sports I: Four hills tournament – the formula 1 of winter sports	demonstrations and analysis
7	Winter sports II: Biathlon as a mediated sport	demonstrations and analysis
8	Olympic Games and the Media I	national and international organizations, competitions, transmission rights, Olympic Games and changing media technologies
9	Olympic Games and the Media II	structure of coverage, examples of dominant formats
10	Olympic Games: the opening ceremony in USA, Germany and Japan, part 1	analytic comparison of frames and interpretations
11	Olympic Games: the opening ceremony in USA, Germany and Japan, part 2	analytic comparison of frames and interpretations
12	Olympic Games: the opening ceremony in USA, Germany and Japan, part 3	analytic comparison of frames and interpretations
13	Summary Lecture	Changes in media & sports - relations
14	Exam	Written test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading oft texts; short written summary of texts.
Searching of relevant information about Olympia 2020, media systems, research methods 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Petersen, Paul M. (ed.): Handbook of Sport Communication. Milton Park:Routledge 2013
Dayan, Daniel; Katz, Elihu: Media Events. The Live Broadcasting of History. Cambridge, Mass./London: Harc´vard University Press. 1994
Neuendorf, Kimberly A.: The content analysis guidebook. Los Angeles: Sage 2017

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Short essays : 15%
Written answers to questions in the lecture : 15%
final exam (written test) : 70%

【学生の意見等からの気づき】
The new lecture couldnt have any comments.

【Outline and objectives】
Case studies to compare the Olympic Ceremonies in different countries (e.g. Japan, Germany, USA) – with special attention to ideology and identity
- Understanding the importance of global (media) sport events
- Knowledge of the relationship between sports and the media
- Understanding the basic rules resp. opportunities and limitations of social science research

HSS100IA

スポーツ健康学特講

Sungick Min

サブタイトル：Sport Marketing
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜年次／ 2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
As the sport industry continues its global expansion, this course serves as an invaluable guide for students as they build careers that require an international understanding of the relationships, influences, and responsibilities in sport management.
Emphasis will be on developing students' written and verbal communication skills. The course content is in line with recommendations of the relevant professional associations regarding the marketing of sport management.
1. Understand the issues associated with international sport management.
2. Identify sport using a unique perspective that emphasizes its status as a global industry.
3. Analyze case studies in sport to determine if decisions made by the sport marketers were effective ones.

【到達目標】
1. Synthesize course material into a marketing plan for a sport organization.
2. Evaluate the sport marketing strategies of professionals as well as fellow students through critiquing the professionals' work and students' assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Lectures, group discussions, assignments and final presentation.
The first class will be provided on May 13th, 2020.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the topics of lectures (5/13)	Instructor's expectations and students' assignments
2	Communication in the Sport Industry (5/14)	Demonstrate the components and workings of the sport media
3	Sport marketing plan 1 (5/20)	Develop a Marketing Plan 1
4	Sport marketing plan 2 (5/21)	Develop a Marketing Plan 2
5	Sport marketing plan 3 (5/27)	Develop a Marketing Plan 3
6	Research (5/28)	Help students choose a topic and gather
7	Sport in North America (6/3)	Identify differences as well as similarities between U.S. sport organizational structures and those in other countries
8	Sport in Northeast Asia (6/4)	Compare and contrast the approaches taken by China, Japan, and South Korea in governing their respected sport systems
9	Sport in Europe (6/10)	Understand the European sport model
10	Intercultural Management in Sport Organizations (6/11)	Identify characteristics of national cultures that can affect sport organizations and management
11	International Sport Marketing (6/17)	Understand marketing concepts and apply them to a global setting
12	Sport Management and Marketing agencies (6/18)	Describe the inception, evolution, and mainstreaming of sport management and marketing agencies

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be provided a few times per semester. Students will be expected to study two hours outside of class.

【テキスト（教科書）】
Teaching meterials will be provided during the course.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
20% attendance, 50% assignments, and 30% online discussions.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable because this is a new lecture.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
As the sport industry continues its global expansion, this course serves as an invaluable guide for students as they build careers that require an international understanding of the relationships, influences, and responsibilities in sport management.
Emphasis will be on developing students' written and verbal communication skills. The course content is in line with recommendations of the relevant professional associations regarding the marketing of sport management.
1. Understand the issues associated with international sport management.
2. Identify sport using a unique perspective that emphasizes its status as a global industry.
3. Analyze case studies in sport to determine if decisions made by the sport marketers were effective ones.

LANj300EA

スポーツ健康学特講

村上　佳恵

サブタイトル：**ビジネス日本語**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第 1 回の授業は、4 月 22 日（水）です。第 1 回の授業は、学習支援システムのスライドを見て、各自課題に取り組んでください。
2 回目以降については、第 1 回のスライドで指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	報告書の書き方	報告書の書き方
第 2 回	履歴書	履歴書を作成する
第 3 回	自己 PR	自己 PR を書く
第 4 回	面接（1）	敬語の基礎知識
第 5 回	面接（2）	個人面接
第 6 回	面接（3）	グループ討論
第 7 回	ビジネスメール（1）	許可求め
第 8 回	ビジネスメール（2）	依頼／断り
第 9 回	ビジネスメール（3）	謝罪／説明
第 10 回	社内での会話（1）	確認／報告
第 11 回	社内での会話（2）	依頼／要望
第 12 回	社内での会話（3）	交渉
第 13 回	異文化摩擦	ケース学習　話し合い
第 14 回	異文化摩擦	ケース学習　ロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習【教材編】』近藤彩他（2013）ココ出版（1600 円税抜）
『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1500 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %, 課題等提出物 50 %, 定期テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

LANj300EA

スポーツ健康学特講

村上　佳恵

サブタイトル：**ビジネス日本語**
カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】
①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず初めに履歴書を書くといった課題に取り組む。それから、言語表現や日本の慣習等を学び再度課題に取り組む。授業後には、授業の内容を報告書にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	報告書の書き方	報告書の書き方
第 2 回	履歴書	履歴書を作成する
第 3 回	自己 PR	自己 PR を書く
第 4 回	面接（1）	敬語の基礎知識
第 5 回	面接（2）	個人面接
第 6 回	面接（3）	グループ討論
第 7 回	ビジネスメール（1）	許可求め
第 8 回	ビジネスメール（2）	依頼／断り
第 9 回	ビジネスメール（3）	謝罪／説明
第 10 回	社内での会話（1）	確認／報告
第 11 回	社内での会話（2）	依頼／要望
第 12 回	社内での会話（3）	交渉
第 13 回	異文化摩擦のケース学習（1）	読解と話し合い
第 14 回	異文化摩擦のケース学習（2）	ロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習【教材編】』近藤彩他（2013）ココ出版（1600 円税抜）
『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1500 円税抜）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %, 課題等提出物 50 %, 定期テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・通常授業**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】
アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
「キャリア意識」醸成、方向、向上のために, 実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により
①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
②自分の道、職業を決定づけたものは何か
③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第 2 回〜13 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第 2 回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第 3 回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第 4 回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第 5 回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第 6 回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第 7 回	特別講師/大学スポーツ指導者から　1	組織人としての生き方と役割について講義
第 8 回	特別講師/大学スポーツ指導者から　2	アスリートに必要な資質について講義
第 9 回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第 10 回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第 11 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 12 回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第 13 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第 14 回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでを振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは決めません。

【参考書】
随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）　授業参画状況・授業態度　25%
2）　各回のレポート 50%
3）　課題レポート　25%
この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
・授業における遅刻はないように。
・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】
This is a course on the career consciousness of athletes and working adults.

HSS145LB

オリンピック・パラリンピックを考える

鈴木　良則

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・通常授業**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際オリンピック委員会はオリンピック競技大会を開催し、国際パラリンピック委員会はパラリンピック競技大会を開催しています。2020 年 7 月 24 日〜8 月 9 日、東京で第 32 回オリンピック競技大会が開催されます。つづいて、2020 年 8 月 25 日〜9 月 6 日に東京 2020 パラリンピック競技大会も開催されます。以下、2 つの大会をまとめて「東京 2020 大会」と呼びます。
本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携してゆく方針を定めています。そこで、科学と文化としてのスポーツの理解を目指す SSI では、本科目を開講し、東京 2020 大会のビジョンと概要を学びます。そして、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけにしたアクションの成果をどうやって未来に継承するか（レガシー）について考えます。
アクション&レガシーの 5 本の柱とは、「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」です。
なお本科目は、公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）にもなっています。そして、本学の 3 つの付属高生の聴講も認めています。

【到達目標】
1. 東京 2020 大会のビジョンを説明することができる。
2. 東京 2020 大会のアクション&レガシーについて理解し、説明することができる。
3. 東京 2020 大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本学教員をはじめとして、各回のテーマに最適の講師 (ゲストスピーカー) が、授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京 2020 大会と関連させながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	東京 2020 大会の概要	東京 2020 大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第 3 回	「スポーツ・健康」(1)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 4 回	「文化・教育」(1) ：オリンピックの平和運動	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 5 回	「文化・教育」(2) ：オリンピックの文化プログラム	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 6 回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第 7 回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 8 回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 9 回	「スポーツ・健康」(2)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 10 回	「経済・テクノロジー」(1)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 11 回	「経済・テクノロジー」(2)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 12 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(1)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 13 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(2)	講師 (ゲストスピーカー) による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 14 回	まとめ	到達目標に到達したことを認識することができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマについて事前に調べて、論点を考えた上で出席してください。
各回の授業で学んだことについて、自分で調べることで、学びを深めてください。
東京 2020 大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】
授業時間内に、各回の講師から紹介します。

【成績評価の方法と基準】
2/3 の出席を成績評価の条件とした上で、「毎回の授業レポート 50%」「期末レポート 50%」で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
興味が湧いた、参加したい、など反響が高かった。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを確認できるもの。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
教室の収容人数の関係で、SSI 生以外の学生の履修は制限される場合があります。受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。
この授業で学んだことと、学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京 2020 大会への関わり方を探して欲しいと思います。
そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」という SSI のポリシーを体現することになると考えています。

【Outline and objectives】
Know the current situation of the Olympic and Paralympic
Learn what to do for the 2020 tournament.
Also, I would like you to think about sports culture widely.

SOM100IA

生理学

高見 京太

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることである。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。授業で使用する配布資料と予習シートが、授業支援システムにアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。
4 月 24 日（金）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機していて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。 眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 10 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2017 年)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%) ：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 ×30 問) と論述 (10 点 ×3 問))。
小テスト、提出物 (10%) ：授業内に実施する小テスト、および期限内に提出された課題等。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。
学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】
・Physiology is the study of how human body functions are expressed, maintained, and regulated. The content of this class is the form and function of the human body and should be understood no matter which course you have entered if you entered the Faculty of Sports and Health Studies.
・Students will be able to classify and understand normal body functions and will be able to theoretically explain the systematic interrelationships.

SOM100IA

生理学 A

高見 京太

サブタイトル： 【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることである。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。授業で使用する配布資料と予習シートが、授業支援システムにアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。
4 月 24 日（金）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機していて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。 眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 10 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2017 年)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%) ：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 ×30 問) と論述 (10 点 ×3 問))。
小テスト、提出物 (10%) ：授業内に実施する小テスト、および期限内に提出された課題等。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。
学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】
・Physiology is the study of how human body functions are expressed, maintained, and regulated. The content of this class is the form and function of the human body and should be understood no matter which course you have entered if you entered the Faculty of Sports and Health Studies.
・Students will be able to classify and understand normal body functions and will be able to theoretically explain the systematic interrelationships.

SOM100IA

機能解剖学 A

泉　重樹

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立２足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件である構造を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】
人体の骨格と関節運動の構造を３次元および３面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
　本講義では、人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配 1
3	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
4	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
5	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
6	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
7	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
8	下肢（膝関節）	膝関節、靭帯、半月板、筋、運動
9	下肢（足関節）	距腿関節、距骨下関節、靭帯、筋、運動
10	下肢（足部・全体の復習）	足部の骨、静的・動的下肢アライメント、二関節筋、運動、神経
11	脊柱全体・頚部	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
12	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
13	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、仙腸関節、筋、運動
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回 特になし。
第 2～14 回 前回授業の課題への取り組みと復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能
授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】
中村千秋 (翻訳), 竹内真希: 身体運動の機能解剖. 医道の日本社 (2002/5)
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学. 医学書院 (2012/5)
坂井建雄: プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院 (2016/12)
F.H.Netter(著), 相磯貞和 (翻訳): ネッター解剖学アトラス原書第 6 版. 南江堂 (2016/8)
松村譲兒: イラスト解剖学. 中外医学社 (2014/3)
広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂 (2019/12)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示するが、基本的にはオンライン授業への参加（各回のアンケート／小テストへの参加）（50 %）、試験（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline and objectives】
In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

SOM100IA

機能解剖学

泉　重樹

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立２足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件である構造を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】
人体の骨格と関節運動の構造を３次元および３面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
　本講義では、人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配などと身体運動を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配 1
3	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
4	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
5	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
6	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
7	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
8	下肢（膝関節）	膝関節、靭帯、半月板、筋、運動
9	下肢（足関節）	距腿関節、距骨下関節、靭帯、筋、運動
10	下肢（足部・全体の復習）	足部の骨、静的・動的下肢アライメント、二関節筋、運動、神経
11	脊柱全体・頚部	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
12	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
13	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、仙腸関節、筋、運動
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回 特になし。
第 2～14 回 前回授業の課題への取り組みと復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能
授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】
中村千秋 (翻訳), 竹内真希: 身体運動の機能解剖. 医道の日本社 (2002/5)
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学. 医学書院 (2012/5)
坂井建雄: プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院 (2016/12)
F.H.Netter(著), 相磯貞和 (翻訳): ネッター解剖学アトラス原書第 6 版. 南江堂 (2016/8)
松村譲兒: イラスト解剖学. 中外医学社 (2014/3)
広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂 (2019/12)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示するが、基本的にはオンライン授業への参加（各回のアンケート／小テストへの参加）（50 %）、試験（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

【Outline and objectives】
In the functional anatomy lecture, students mainly understand the human body structure from the musculoskeletal system and learn about the basic movement of the human body.

PHL100IA

スポーツ哲学

早瀬 健介

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 2/Mon.2**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育とは何かスポーツとは何であるかを考える上で必要な原理・原則について知識を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることのできる力を養うことを目標とする。なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているであろうか。今後スポーツに少なからず携わろうと考えている者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られることより、スポーツとは何なのか、さらに自身にとってスポーツとはどのようなものであるのか、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについてより深く考えることがスポーツ専門職にとって重要となってくる。

【到達目標】
スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。プレイとは何か、指導者とコーチの違い、フェアプレイとは何か、スポーツとドーピング、オリンピックとオリンピズムなどスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナウィルス感染防止対応の授業開始は 4 月 27 日としますが、現状を鑑み当面は別添資料 (授業時間外の学習に記載) に基づく課題作成 (ワード) を行ってください。
対面授業再開後の内容は次の通りです。
体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動をとおして行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。
テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P. を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。
スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する
5	学校体育の変遷と学習指導要領①	明治から現在に至る体育で取り扱ってきた内容の変遷について学習指導要領等をもとに学ぶ
6	学校体育の変遷と学習指導要領②	現行の学習指導要領及び新学習指導要領について理解する
7	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係①	プレイとは何か、ホイジンガのプレイ論を通してスポーツの価値について考える
8	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係②	カイヨワのプレイ論及び、日本におけるプレイ論について考える
9	体育教師とコーチ	教師とは何をする指導者か、コーチには何が求められているのか、コーチング回路等を参考に考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことをことをいうのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動の必要性等、今現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要 (なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
13	オリンピックとオリンピズム②	オリンピックの真の目的は何か (近代オリンピックが目指すものは何か、オリンピックの現状と課題を踏まえて考える)
14	まとめ (半期を通しての振り返り)	まとめ (半期を通しての振り返り) 及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「スポーツ哲学」の当面の授業について (課題作成)
次の課題について、下に示す文書スタイルに合わせて作成してください。
(表題については、課題内容に即していれば、どのようなものでも構いません)
1　「スポーツ」が抱える今日的課題について、具体的事例を挙げて説明してください。
2　「体育」と「スポーツ」の違いについて、具体的事例を踏まえて述べるとともに、時代の流れに伴うその関係性の移り変わりについても説明してください。
3　なぜ、子どもに「体育」の授業は必要なのですか。子どもの体力・運動能力の現状を踏まえ、あなたの考えを述べてください。
4　「スポーツ」には、狭い意味でのスポーツと広い意味でのスポーツがあります。それぞれについて具体的な内容を示し説明してください。
5　オランダの歴史学者である「ヨハン・ホイジンガ」が、彼の著書である「ホモ・ルーデンス」の中で述べているプレイの本質を踏まえ、現代社会におけるスポーツの在り方について、あなたの考えを述べてください。
6　「体育教師」とスポーツ活動を支える「コーチ」の違いについて、あなたの考えを述べてください。
7　スポーツ指導上の暴力や「体罰」等が無くならない理由について、あなたの考えを述べるとともに、今後の対応策についても記してください。
8　2020 東京オリンピックの 2021 年への延期は今後どのような影響を及ぼすと思いますか。あなたの
考えを述べてください。
9　あなたは「e(エレクトロニック) スポーツ」をスポーツ活動として認識していますか。「e スポーツ」を取り巻く現状を踏まえて、あなたの考えを述べてください。
10　スポーツにおける「フェアプレイ」の重要性について、スポーツを始めたばかりの子どもにどのように説明すれば理解されると考えますか。あなたの説明方法を教えてください。
11　スポーツにおけるドーピングはなぜ禁止されていると考えますか。
その理由を挙げるとともに、いくつかある禁止理由の中で、あなたが最も重要だと考える理由についてその根拠を述べてください。
12　世界最大規模のスポーツの祭典といわれるオリンピックの今後の在り方について、あなたの考えを述べてください。
文書スタイル： A4 縦方向使 横書き (文字組) MS 明朝 10.5 ポイント 40 字×30 行（1200 字以内）
表題及び学籍番号・氏名等は、文字数に含みません。
表題、学籍番号・氏名を上段に記載し、ワードで作成 A4 1 枚に収めてください。
※　作成の際に、使用した、引用・参考文献等についても記載してください。
(「スポーツ哲学」で使用予定のテキストも参考にしていただければ幸いです。)
作成された課題は、前期当該授業内容として認めるとともに、成績評価に反映もいたします。
なお、これら課題については、5 月以降に行われる予定の対面授業内で進捗状況に合わせ解説を加えたのちに、回収します。

【テキスト（教科書）】
「教養としての体育原理　新版　-現代の体育・スポーツを考えるために-」
友添秀則・岡出美則編　大修館書店　新版第 1 刷 (2016 年 7 月)
また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参画として評価に加味する。授業におけるレポート等 (30%) に加え、定期試験の成績 (70%) による総合評価を行う。授業出席回数が授業実施の 2/3 未満の学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外において行う学習活動 (主に予習・授業準備) に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。また、従前の授業内容に関して授業終了時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

【その他の重要事項】
中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】
The student learns it about a prineciple necessary to think about sports by this lecture. By this lecture,the student learns a meaning and the value of sports. The student deepens understanding about the need of the physical education, the need of sports by this lecture. The student can get right knowledge about the problems(doping,physical punishment,qualification as the leader)to have of sports by this lecture. The student learns it about the role of sports through a lecture. In addition, the student will get the knowledge that can teach the value of sports in the next generation.

SOC100IA

スポーツ社会学

海老島　均

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 4/Mon.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学は，我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって，自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して，スポーツの光と影，様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持てるようになることを，本授業は目的としている。

【到達目標】
1) スポーツに関連した具体的事例を通して，社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め，グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
3) 社会学的な視点から，スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献資料およびＤＶＤやスライド映像資料を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインターラクティヴな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは，スポーツ社会学とは
2	近代スポーツの成立と発展	近代スポーツの成立過程，近代スポーツの特徴，近代スポーツのゆくえに関して考える
3	日本のスポーツ文化	武術と武道，国技としての相撲，日本のスポーツ組織，集団主義と精神主義等に関して検討する
4	グローバル化するスポーツ	イギリス型，アメリカ型のスポーツの世界的普及，グローバル化の光と影，ローカル・スポーツとの関わり等検討する
5	メディア化するスポーツ	スポーツとメディアの密接な関係，スポーツ・ジャーナリズム，テレビと放映権，ソーシャルメディアとスポーツ等に関して検討する。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して，国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断，または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して，歴史社会学的な研究経緯を示した上で，現代的問題に関して考える。
9	スポーツをめぐる社会問題	スポーツにおける暴力，ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性，学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を，社会学的観点から考える。
12	スポーツ政策とスポーツ振興	我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を，諸外国の事例と比較して検討する。
13	スポーツとテクノロジー	スポーツ用具の進化，AI 時代とスポーツ，e スポーツ，障害者スポーツとテクノロジー等に関して検討する。
14	まとめおよびスポーツ社会学研究の国際比較	授業全体のまとめ，およびスポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論にについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う内容に関連する教科書の章および関連文献を授業前に熟読し，授業時に発言，またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
菊幸一他編著『よく分かるスポーツ文化論』（改訂版）（ミネルヴァ書房）

【参考書】
菊幸一他編著『現代スポーツのパースペクティブ』（大修館書店）他，授業時に，それぞれの単元に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（リアクションペーパー，発言等）： 40 %
定期試験（ミニレポート含む）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパーに書かれた質問，コメントをより有効に活かして授業を展開していく。

【Outline and objectives】
Sociology will give us various perspectives to reflect on our society.
These perspectives cannot be easily obtained only through our experiences in our daily life. Using this wonderful tools, this lecture focuses on positive and negative aspects of sport which influence our society. A main objective for this lecture is designed for the students to be more insightful on what sport is.

HSS100IA

スポーツ運動学 I

工藤 裕仁

サブタイトル： **【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し，運動および動きの評価の基礎を学習することによって，実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ．
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する．

【到達目標】
運動の質的評価の方法について，その流れ，手続き，注意点の概要を理解し，学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し，動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する．学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は，5 月 11 日（月）になります．
身体運動を構成する要素について概説し，身体構造と発達，身体構造と機能，動きのとらえ方（主観と客観）を理解し，その評価方法とストラテジーを学ぶ．運動指導のための評価として，モルフォロギーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り，その概要を学ぶ．またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態，種類，原理，局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロギーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロギー，バイオメカニクス的評価に基づく運動指導 走運動，投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】
試験　100%

【学生の意見等からの気づき】
具体例の提示を出来るだけ多くとり，理解を助ける．
web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise. To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

HSS100IA

ヘルスデザイン論

安藤 正志、林田　はるみ

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】
健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。
このうちいくつかの課題についてはオンデマンド授業で学ぶ。
オンデマンド授業の受講および課題については授業開始時に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論【担当：林田】	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康【担当：林田】	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康【担当：林田】	水分補給の重要性について講義する
4	心の問題と健康【担当：林田】	主に若者に特有な心の問題を講義する
5	トレーナビリティと健康【担当：林田】	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
6	免疫機能と健康【担当：林田】	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
7	運動と健康【担当：林田】	運動が健康に及ぼす影響について講義する
8	飲酒と健康【担当：安藤】	飲酒の善し悪しについて講義する
9	日焼けと健康【担当：安藤】オンデマンド授業	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康【担当：安藤】オンデマンド授業	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	風邪症候群【担当：安藤】オンデマンド授業	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
12	喫煙と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	喫煙の問題点と害について講義する
13	歯と健康【担当：安藤】オンデマンド授業	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
14	ヘルスデザイン・まとめと試験【担当：安藤】	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
オンデマンド授業は課題の提出をもって履修したとみなします。

【テキスト（教科書）】
資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】
特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

【Outline and objectives】
In recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology. Biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases. In this lesson, you will understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.

HSS100IA

健康科学

安藤 正志、林田　はるみ

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
旧うか科目名：**健康科学概論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術の進展と連動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は生活習慣病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】
健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論【担当：林田】	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康【担当：林田】	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康【担当：林田】	水分補給の重要性について講義する
4	心の問題と健康【担当：林田】	主に若者に特有な心の問題を講義する
5	トレーナビリティと健康【担当：林田】	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
6	免疫機能と健康【担当：林田】	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
7	運動と健康【担当：林田】	運動が健康に及ぼす影響について講義する
8	飲酒と健康【担当：安藤】	飲酒の善し悪しについて講義する
9	日焼けと健康【担当：安藤】　オンデマンド授業	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康【担当：安藤】　オンデマンド授業	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	風邪症候群【担当：安藤】　オンデマンド授業	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
12	喫煙と健康【担当：安藤】　オンデマンド授業	喫煙の問題点と害について講義する
13	歯と健康【担当：安藤】　オンデマンド授業	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
14	ヘルスデザイン・まとめと試験【担当：安藤】	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
5 回分はオンデマンド授業です。課題の提出をもって履修済みとみなします。
オンデマンド授業の履修の仕方については授業開始時に説明します。

【テキスト（教科書）】
資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】
特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

【Outline and objectives】
In recent years, the number of disease reserve troops has been increasing as to link with the progress of science and technology. Biased eating habits and lack of exercise encourage lifestyle diseases. In this lesson, you will understand about the knowledge of health and the erroneous lifestyle.

PSY100IA

スポーツ心理学 A

本郷　由貴

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学とは，スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問であり，応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では，スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は，受講生がスポーツによる心理学的な影響についての知識を深めることである。また「競技者」「指導者」「教育者」等のそれぞれの立場からスポーツにおける心理学的問題・課題について，専門的知見から基礎的説明ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で展開する。ただし，授業の展開によっては実践形式でワークの活用や心理検査の利用など様々なものを学習，体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（ガイダンス含む）	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。スポーツ心理学の歴史と意義，その役割について解説する。
2	スポーツと発達	スポーツにおける遺伝環境問題をはじめ，乳幼児から中高齢者に至るまでの生涯発達について学び，スポーツの在り方・指導方法について考える。
3	スポーツと学習	運動学習研究を概観し，運動スキルの獲得から効果的なフィードバック利用の仕方を解説する。心理学的側面からスポーツ技能の向上および指導法について学ぶ。
4	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティの形成について解説し，スポーツとパーソナリティ特性との関係について理解する。パーソナリティを測定する心理検査を紹介し，実際に心理尺度を利用して自身の心理的特徴を把握する方法を学ぶ。
5	スポーツと動機づけ	「やる気」や「意欲」を含む動機づけの諸理論と意欲のメカニズムを解説する。それらを応用し，スポーツ場面での動機づけに基づいた指導法を学ぶ
6	スポーツと社会心理学	集団の構造と機能及び集団の持つ特徴や性質を理解し，チームパフォーマンスに影響する要因（リーダーシップ理論等）を社会心理学の観点から学ぶ。
7	競技の心理	覚醒と運動パフォーマンスが関連する理論と「あがり」のメカニズムを解説する。競技場面で起こる心理的問題/課題とパフォーマンスの関係について，理論と自らの経験を結びつけながら理解を深める。
8	スポーツメンタルトレーニング（基礎）	メンタルトレーニングの歴史と意義、その役割について解説する。アスリートの心理サポートの必要性やメンタルトレーニングを実施する際の留意点などを学ぶ。
9	スポーツメンタルトレーニング（応用)	「目標設定」「リラクセーション技法」「イメージ技法」をはじめとした，メンタルトレーニングの各種心理技法について解説する。自らの競技生活や日常生活に応用し，実践に役立てていく。
10	スポーツカウンセリングについて	スポーツに携わる人々が抱える問題や課題，悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる手法について学ぶ。
11	健康スポーツの心理	人々の健康問題を「生物」「心理」「社会」モデルから考察し，運動・スポーツがこころの健康にどのような影響を与えるかについて「ライフスキル」「運動・スポーツの心理的効果」といった観点から学ぶ。
12	ストレスマネジメントの理論と実技	心理学的ストレス概論を解説し，ストレスの対処法や予防法について学ぶ。また運動・スポーツを取りいれたストレスマネジメント教育について解説する。
13	スポーツ・運動行動変容の理論と実際	運動行動が習慣化していくプロセスを理論的に学ぶ。また運動習慣を形成するための方策を行動理論に基づいて考察する。
14	講義内容の総まとめ	これまで行った授業の総復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回に授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それらを参考にしながら更に知識を深めていってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布します。

【参考書】
・「はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講」（福村出版，編著：楠本恭久）
・「現場で活きるスポーツ心理学」（杏林書院，編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
・「新版　運動指導の心理学」運動学習とモチベーションからの接近（大修館書店，著者：杉原隆）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点 50 %（出席カードには講義の感想や意見を書き、その理解度も評価する），試験： 50 %
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のリアクションペーパー等を活用し，受講者の感想，意見を取り入れながら授業を展開します。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによって，多少の変更があり得えます。また，スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示します。

【Outline and objectives】
Sports psychology is a study that studies psychological problems related to sports, and is regarded as a domain of applied psychology. The purpose of this class is to learn the theory of sports psychology and its practical use.

SOC100IA

スポーツ史

山本 浩

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞のテレビ番組欄で障がい者スポーツの占める割合が増えている。スポーツ欄では五輪関連の記事が後を絶たない。2020 年大会が秒読みになっているせいもあるが、乗り遅れまいとするメディアの心境がそこに現れているようにも映る。ＩＯＣもメディアも気にかけているのは若い選手。しかし、少しばかり古い資料に目を転じてみれば、今から 90 年近く前にも日本の水泳選手が十代の半ばで五輪金メダルを取ったのがわかる。50 年前には石炭殻のトラックを走る人がいたし、100 年前には川をプールに見立てて世界一を競っていた。スポーツは、いったいどこからやってきたのか。その起源から今日までをたどることでスポーツの変容を知り、スポーツ史を概観することで私たち自身と社会の激変ぶりを確認するのが目標だ。

【到達目標】
スポーツの起源を暦の中に指し示すことは不可能に近い。私たちにできるのはせいぜいスポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘することだ。そこから今に到達するまでの過程に、受講者の目標の一つは設定される。
勝負の基本原則（強い者が勝ち、速い者が栄冠を授かり、優れた戦術を身につけた集団が褒めそやされる）をわきまえた上で、何が大切にされ続け、何が変わらずにいられなかったのか。
節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件は何であったのか。
地理、気象、宗教、戦争、産業構造、金、メディア。社会の変化とスポーツがどう関わってきたか。
その延長上に、2020 年の向こう側につながるスポーツ世界観を想起する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「スポーツ史」は、編年体の講義ベースで進める。受動的な時間にばかりしないため、受講生の積極的な発言の機会を設定する。その上で毎回、当日の講義に関連づけた設問をリアクションペーパーに示す小論文の形で課する。自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中にぶつける習慣を付けてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	［全体ガイダンス］	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、様々な研究者の示したスポーツの定義に始まって遊びや祭りとスポーツの違いを認識してもらう。
2	［スポーツの萌芽と古代オリンピック］	文明の発生した地域での古代スポーツから古代オリンピックまで。スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。
3	［戦いの世界と中世のスポーツ］	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と戦争の時代に突入する。その中で、王家や貴族に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	［近世のスポーツ］	ルネッサンスを超えて産業革命の時代へ。この流れがスポーツに与えた影響には計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達。さまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	［フットボールの歴史］	歴史的には、「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で１９世紀にいち早くルールを統一したのがサッカー。そうした動きに対して、ラグビーは新たな動きを始める。
6	［近代オリンピック（１）~戦前編~］	第１回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしばギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。
7	［近代オリンピック（２）~戦中から戦後へ~］	第二次世界大戦後のオリンピックは、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも６４年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。東京を中心に、オリンピック隆盛の時代を丹念に振り返る。
8	［現代のオリンピック］	現代のオリンピックは、その変化の始まりを８４年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	［陸上/水泳競技の歴史］	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をおいてもまず走るところにある。水辺の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	［野球の歴史］	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、スポーツ教育史とも重なっている。
11	［相撲・武道の歴史］	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	［学校体育の歴史］	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。２０世紀が近づくにつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	［障がい者スポーツの歴史］	障害者スポーツの最大の祭典は今、４年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一歩は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会にある。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障害者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今年はメガイベントのただ中を時計が回る年だ。メダルの数や入賞の有無に焦点を絞るだけでなく、17 日間が歴史に何を残すのか、22 競技が後世に何を伝えるのか。大所高所からこの夏を眺め渡そう。現代のスポーツ史は、政治史、経済史、社会史を総合している。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ること。自分で打ち込むスポーツがある者は、最新の映像でもたらされるアスリート周りの瞬時のアクションと、勝負の後の振る舞いにも目をこらしてみよう。学びを進めるうちに準備学習・復習時間は 2 時間でも足りなく感じることだろう。

【テキスト（教科書）】
なし (必要があれば資料は別途用意する)。

【参考書】
「２１世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹　大修館書店
「スポーツ史講義」稲垣正浩著　大修館書店。
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著　市村出版
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくと理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】
配分：講義中に、指定する時間内で小論文を書いてもらう。毎回の小論文は成績評価の対象。1 回最高点 3 点。13 回のすべて満点を取れば、39 点。最終講義の時間内に行う試験 70 点。すべてフルに獲得すれば 109 点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い史観、具体事例をもっているかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使うスライドを授業支援システムに早めにアップする.
講義中のスライド変換を少し時間をかけるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義では、パワーポイント、ＤＶＤ､映像資料などを使う。基本的に学生が準備する機器はない。

【その他の重要事項】
放送局でスポーツに関わる解説委員をしていた教員が、長年の取材を通じて獲得した近現代史の現実を講義する。
最終講義日の授業内試験には必ず出席すること。

学校を代表しての行事参加、病欠、忌引きに対しては、講義内小論文に代わる追加のレポート課題を期末に与える〔規定の書類/体育会書類、会葬礼状、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。自分の都合での欠席は、レポート課題の対象にならない。

【Outline and objectives】
We find conspicuous amount of sport events in a TV program information. Under ordinary circumstances, we often recognize young athletes playing a leading role on smartphones and tablets. It could owe to the early strengthen program for the young talents, that entire sporting associations adopted earlier. Once you search for some articles in 1932, you might easily find out, that a Japanese 15-year-old swimmer got also an olympic gold medal. Around 50 years ago, an athlete ran on a cinder track, 100 years ago a swimmer crawled in a river instead of a pool. Where did sports come from? We would aim to reconsider about sports and by tracing from its origin up to today, the sports history could appear above our horizon, and then we could recognize our transformation vaguely.

HSS200IA

運動生理学概論

高見 京太

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果がもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的変化のメカニズムを理解することである。

【到達目標】
・運動による身体の機能変化について理解する。
・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。授業支援システムに、授業で使用する配布資料と予習シートがアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。
4 月 24 日（金）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機していて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 中枢神経と身体運動の関係を確認する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	循環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	体の大きさ	体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。
10	体力の測定	筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	トレーニングの三つの原理と五つの原則について理解し、運動方法（様式）、強度、時間、頻度、期間によって記述できること、運動方法（様式）と効果の特異性について学習する。
12	トレーニング (筋力・筋量)	筋肥大にかかわるメカニカルストレスや代謝的ストレスについて理解し、筋活動様式の違いによるレジスタンストレーニングの分類について学習する。
13	トレーニング (筋パワー・筋持久力)	筋パワー向上のための運動の理論的根拠を理解し、運動の負荷条件の違いによる最大筋力、最大速度、筋パワーへの効果について学習する。
14	トレーニング (全身持久力)	有酸素性運動の効果にかかわる生理学的メカニズムについて学習し、有酸素運動の負荷条件と生理的効果について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】
「はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 10 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2017 年)
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (90%) ：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 ×30 問) と論述 (10 点 ×3 問))。
小テスト、提出物 (10%) ：授業内に実施する小テスト、および期限内に提出された課題等。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】
知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本講義は、機能解剖学と生理学を学習していることを前提として授業を進める。分かりにくいことがあれば、機能解剖学や生理学のテキスト等を見直してほしい。各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。

【Outline and objectives】
・Exercise physiology is an important fundamental discipline that is indispensable in the field of training athletes or instructing healthy exercise. The content of this class is the form and function of the human body and should be understood no matter which course you have entered if you entered the Faculty of Sports and Health Studies.
・Students should consider the functional anatomy and physiology that they have learned about the structure and function of the human body, and how they affect the body when exercising, exercising, or continuing to exercise. Find out if it works, and understand the mechanisms of temporary or adaptive changes in the body.

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業開始日】5 月 7 日（木）2 限（11:10～12:50）
すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）：若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）：中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置）& AED（自動体外式除細動器）	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第 1 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第 1 章～第 6 章）
小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
第 2 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第 6 回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言” から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 7 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』(2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．p153-162.)
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 8 回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
第 9 回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』(堀江正知、中央労働災害防止協会)
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』(三宅康史、中外医学社)
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』(澤田晋一、杏林書院)
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』(中井誠一、篠原出版新社)
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』(日本スポーツ協会)
『夏のトレーニングガイドブック』(日本スポーツ協会)
(いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能)
『落雷事故対策マニュアル』(埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt)
『雷対応マニュアル』(J リーグ)
『落雷事故の防止について』(文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)
第 10 回：
高木 修．『人を助ける心』(1998 年、サイエンス社)．(特に第 1 章、第 2 章、第 4 章) **※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED ：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 11 回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．(1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf)
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 12 回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』(法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html)
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』(文科省, 2013)(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
(https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947)
第 13 回：該当資料無し
第 14 回：
日本アンチ・ドーピング機構 website (http://www.playtruejapan.org/)．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。
· Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
· 小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』(ぎょうせい、2009) **※資料室収蔵**
· 入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』(時潮社、2011) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。**原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。**

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS200IA

スポーツマネジメント論

川崎　登志喜

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例から課題を見つけ、課題解決のためにどのようなマネジメントが必要なのか指摘できる力を養うことを目標とする。

【到達目標】
①マネジメントは様々な場面で活用できる技術であることを理解できる。
②受講生が所属している様々な組織においてマネジメント能力を発揮できるための基礎的知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
豊かなスポーツ環境や健康スポーツライフの実現を目指すスポーツに関わる人々にとって「スポーツ」という商品をどのようにマネジメントすればよいのか？ 重要な課題である。まさに「マネジメント」は現在、様々な領域（学校・地域・職場・民間・プロスポーツなど）や事業現場で注目されている。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を学ぶとともに、様々な事例を通して課題を研究しながら実学としてのスポーツマネジメントを学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツマネジメントとは	概念と目的について
2	スポーツマネジメントの構造	しくみと構造の把握
3	マネジメントサイクル	経営過程と経営機能について
4	スポーツマーケティング	マーケティングの基礎とスポーツマーケティングの事例
5	学校体育経営	学校体育のマネジメント
6	総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブのマネジメント（広域スポーツセンターの機能と役割）
7	スポーツ集団	様々なスポーツ集団のマネジメント（メンバーの活動意欲をどう高めるか）
8	プロスポーツ（海外）	アメリカを中心に海外のプロスポーツビジネスについて
9	プロスポーツ（日本）	プロ野球・J リーグをはじめとする我が国のプロスポーツビジネスについて
10	NCAA と UNIVAS	NCAA と UNIVAS のマネジメントについて
11	スポーツイベント	スポーツイベントのマネジメント
12	民間スポーツ・フィットネスクラブ	民間スポーツクラブ・フィットネスクラブのマネジメント
13	国と地方のスポーツ行政	国と地域におけるスポーツ行政（我が国のスポーツ振興施策とビジョン）
14	試験とまとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回 特になし。
第 2～13 回 前回授業の課題への取り組みと復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎時間、資料を配付する。

【参考書】
柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房
柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏編著「テキスト体育・スポーツマネジメント」大修館書店

【成績評価の方法と基準】
試験 60%　授業参加姿勢 20%
（但し、総授業数の 2/3 以上に出席しなければ単位は認定されない。）
レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
スポーツニュースの課題は好評につき今年度も実施します。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand the basic theory of sports management.
We find management tasks from various sports management cases.
We will cultivate the ability to point out what kind of management is necessary to solve this management task.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上　尊寛

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント 1	Ｊリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

HSS100IA

スポーツコーチング論 A

平野　裕一

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングに対する考え方
・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきか
を理解する。
一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための３回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。３回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンスと実習の進め方	モデルコアカリキュラムとの関連性 実習におけるコーチ役の使命と職務
2	コーチの学び	学びの生じるプロセス コーチングにおける省察 学びの場
3	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
4	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテンス
5	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
6	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
7	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
8	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
9	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
10	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	総括	コーチングの今後に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための３回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館

【参考書】
・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Ｇａｋｋｅｎ
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（３点 × １２回＝３６点）
・講義に関する期末テスト（６４点）
で総合１００点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline and objectives】
The purposes of this class are to learn the phylosophy, attitude and action on the sport coaching, and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student athletes.

HSS100IA

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（C)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

苅部　俊二

サブタイトル：（D)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

川田　尚弘

サブタイトル：（A）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

川田　尚弘

サブタイトル：（B)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木　耕介

サブタイトル：（E)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木　耕介

サブタイトル：（F）
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	３ × ３を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田 道彦

サブタイトル： (G)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田 道彦

サブタイトル： (H)
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】
自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本学の体育施設を利用し、毎時間、様々な種目について技能・ルール・マナー・戦術等を実習を通して学んでいく。
本年度（2020 年）の授業は、開始を 5 月 6 日とする。
学習支援システムを通じて課題を提示し、報告書およびレポートを提出する形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウオーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎時間実習によって身体を動かすため、それに備え、栄養・睡眠等の健康状態について日頃から気をつけること。また、各種のスポーツのルール・行い方等についても予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『イラストでみる最新スポーツルール 2019』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 30 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】
参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）
本年度（2020 年）は提出物（報告書およびレポート）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度もスポーツへの親しみを促進し、心身の健康への関心を高め、今後よりよい学生生活を過ごせるように内容の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class is aiming to improve student's fitness level well-balanced, and to teach about the skill and mindset of various sport disciplines through practice.

HSS200IA

陸上競技実習

苅部　俊二

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次**／**1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。
また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基礎的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。
本授業の開始は 5 月 6 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎Ⅰ	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅰ	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
第 4 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅱ	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
第 5 回	走運動の理論と実技ハードル走Ⅰ	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
第 6 回	走運動の理論と実技 ハードル走Ⅱ	ハードル走の実践および指導法を学習する.
第 7 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅰ	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
第 8 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅱ	リレー競技の実践および指導法を学習する。
第 9 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅰ	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
第 10 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅱ	走幅跳の実践から指導法を学習する。
第 11 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅰ	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅱ	走高跳の実践から指導法を学習する。
第 13 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅰ	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
第 14 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅱ	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（30 %）と提出物（リポートなど）（50 %）、小テスト（20 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村　直己

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升　佑二郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識，技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編	オールロング
9	基本技術　応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS300IA

スイミング実習

金田　和也

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法 (クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ) 固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせるになることを目指す

【到達目標】
自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目 (例　25m バタフライ+25m 自由形) で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。
4 月 30 日から順次 4 種目毎の動画を公開する。動画を視聴し、4 種目の課題を提出する。
学校施設が使用可能になった場合は授業の予定通りプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」日本水泳連盟　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト　50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】
水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
見学は実習にならないので出席扱いにはしない

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

スイミング実習

八塚　明憲

サブタイトル：　【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期授業/Spring　｜　配当年次／単位：3 年次／ 1 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、４泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
4/23 はガイダンスとして受講者を確認する。4/30 からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS300IA

ボールスポーツ実習

Nemes Roland

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧うか科目名：**総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
球技の歴史から始め、現代人気を集めている様々な球技について学ぶ。

【到達目標】
ボールスポーツの発祥やルールを学びながら、現代存在してる様ざな球技の違い、または特徴を理解すること。それぞれの球技を代表する動き・技術が少しできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、行い方、又はネット環境における確認、意見交換
2	ボールスポーツについて①	歴史、発達について学
3	ボールスポーツについて②	前回学んだことを確認する
4	ラグビー①	歴史、ルール、技術・発達について学
5	ラグビー②	オーストラリアフットボール、アメリカンフットボールについて学ぶ
6	サッカー	歴史、ルール、技術・発達について学
7	バスケットボール	歴史、ルール、技術・発達について学
8	ハンドボール	歴史、ルール、技術・発達について学
9	バレーボール	歴史、ルール、技術・発達について学
10	フロアボール	歴史、ルール、技術・発達について学
11	水球	歴史、ルール、技術・発達について学
12	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。

【参考書】
未定。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングの時間を確保する。

【Outline and objectives】
The main objective is to learn about various ball sports. Students will learn beside the history and origin, the rules and typical techniques of some popular ball games.

HSS300IA

ボールスポーツ実習

Nemes Roland

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門基礎科目（実技科目）・実技**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 1 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧うか科目名：**総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
球技の歴史から始め、現代人気を集めている様々な球技について学ぶ。

【到達目標】
ボールスポーツの発祥やルールを学びながら、現代存在してる様ざな球技の違い、または特徴を理解すること。それぞれの球技を代表する動き・技術が少しできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、行い方、又はネット環境における確認、意見交換
2	ボールスポーツについて①	歴史、発達について学
3	ボールスポーツについて②	前回学んだことを確認する
4	ラグビー①	歴史、ルール、技術・発達について学
5	ラグビー②	オーストラリアフットボール、アメリカンフットボールについて学ぶ
6	サッカー	歴史、ルール、技術・発達について学
7	バスケットボール	歴史、ルール、技術・発達について学
8	ハンドボール	歴史、ルール、技術・発達について学
9	バレーボール	歴史、ルール、技術・発達について学
10	フロアボール	歴史、ルール、技術・発達について学
11	水球	歴史、ルール、技術・発達について学
12	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。

【参考書】
未定

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングの時間を確保する。

【Outline and objectives】
The main objective is to learn about various ball sports. Students will learn beside the history and origin, the rules and typical techniques of some popular ball games.

HSS100IA

スポーツコーチング論Ⅰ

平野　裕一

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】
新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングに対する考え方
・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきか
を理解する。
一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための３回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。３回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンスと実習の進め方	モデルコアカリキュラムとの関連性 実習におけるコーチ役の使命と職務
2	コーチの学び	学びの生じるプロセス コーチングにおける省察 学びの場
3	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
4	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテンス
5	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
6	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
7	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
8	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
9	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
10	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	総括	コーチングの今後に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための３回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「グッドコーチになるためのココロエ」、平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館

【参考書】
・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Ｇａｋｋｅｎ
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（３点 × １２回＝３６点）
・講義に関する期末テスト（６４点）
で総合１００点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline and objectives】
The purposes of this class are to learn the phylosophy, attitude and action on the sport coaching, and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student athletes.

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅰ

平野　裕一

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 3/Fri.3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トレーニングを実施する手順、体力、技術のトレーニング内容・方法を理解する。

【到達目標】
・トレーニングを実施するための手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づく目標設定、トレーニング手段、方法、計画、トレーニング実践、そして評価・改善の各理論を理解する。
・体力、技術のトレーニング内容・方法（運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数）を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めるが、理解すべき図の検討などアクティブ・ラーニングを用いる。
春学期前半はオンラインでの開講となる。
各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。
本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論	・スポーツ・運動の構造を理解する。 ・遺伝とトレーニングの関係を理解する。
2	・トレーニングの目標論 ・体力と技術のトレーニング	・トレーニングを実施する際の目標の立て方を理解する。 ・体力トレーニングと技術トレーニングの相違を理解する。
3	・トレーニングの手段論 ・暑熱順化トレーニング	・トレーニングを実施する際の手段の選び方を理解する。 ・暑熱順化トレーニングの変数を理解する。
4	・トレーニングの方法論 ・全身持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の方法を理解する ・全身持久力トレーニングの変数を理解する。
5	・トレーニングの計画論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方を理解する。 ・筋持久力トレーニングの変数を理解する。
6	・トレーニング実践論 ・筋力トレーニング	・トレーニングを実施する際の実施における留意点を理解する。 ・筋力トレーニングの変数を理解する。
7	・トレーニング改善論 ・パワートレーニング	・トレーニングを実施後、改善するための方法を理解する。 ・パワートレーニングの変数を理解する。
8	・高強度間欠的運動によるトレーニング	・高強度間欠的運動によるトレーニングの原理、方法、効果について理解する。
9	・高地トレーニング	・高地トレーニングの原理、方法、効果について理解する。
10	・スピードトレーニング	・スピードに対する考え方、スピードトレーニングの変数を理解する。
11	・バランストレーニング	・バランスに対する考え方、バランストレーニングの変数を理解する。
12	・柔軟性トレーニング ・ウォームアップとクールダウン	・柔軟性の功罪と柔軟性を高めるトレーニングについて理解する。 ・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、方法を理解する。
13	・技術トレーニングの考え方、基本原則①	・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則を理解する。
14	・技術トレーニングの基本原則②	・技術トレーニングの効果を高めるための基本原則を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して提示する）

【参考書】
・「トレーニング科学」北川　薫編、文光堂
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版

【成績評価の方法と基準】
春学期前半はオンラインでの開講としたので、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
This calass deals with the physical and skill trainings on sport. In addtion to the training PDCA cycle, traing variables; training intensity, volume, frequency, period, are introduced on the health- and motion-related physical fitness. On the skill training, changes in the physical functions and principles of training are introduced and compared to those of physical training.

LAW100IA

スポーツ法学 I

森　浩寿

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 1/Mon.1**
旧うか科目名：**スポーツ法学 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、さまざまなスポーツ・ルール（特に規約類）について考えることである。それにより、選手や指導者の活動環境が良くなることが期待される。

【到達目標】
さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。
スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。
スポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。
スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。
スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在（条約、規程）、違反と処分
7	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
8	プロスポーツの選手契約 (1)	プロ野球の選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
9	プロスポーツの選手契約 (2)	サッカー J リーグの選手契約（入団・移籍・引退）、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約 (3)	大相撲、バスケット bj リーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか
12	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任（民事・刑事）
13	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
14	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決（仲裁・調停）、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から、各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。
第 1 回：シラバスの理解
第 2 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 3 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 4 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 5 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 6 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 7 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 8 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 9 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 10 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 11 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 12 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 13 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）
第 14 回：前回の復習及び提示された予習（4 時間）

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
特に指定しない。適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（20 %）…授業実時数の 2 ／ 3 以上の出席が成績評価の対象条件です。数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます（最大 20 %）。
試験・レポート（80 %）…与えられた質問に対して、決められた時間でまとめることが、評価の対象です（最大 80 %）。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

【Outline and objectives】
There are many legal issues in sports. For example, it is the issue of human rights, a professional player's contract dispute, the tort liability in case of the sports accident. Doping in sports is one of the biggest issue in world sports, and dispute resolution in sports is the big subject of concern too.
The goals of this course are to
(1) obtain the knowledge about sports and law
(2) be able to understand about the dispute resolution in sports
(3) obtain the knowledge about the legal responsibility in sports coaching
We examine the relationship of sports rule and the social norm.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上　尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
旧うか科目名：**スポーツビジネス論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】
本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント 1	Ｊリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

SOM100IA

生理学 B

高見 京太

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになる。

【到達目標】
・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行う。授業支援システムに、授業で使用する配布資料と予習シートがアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習指導要領における生理学の領域について確認する。
2	復習テスト	生理学 A 分野の復習テストによって、理解度を確認する。
3	体性感覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。
4	視覚	眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
5	聴覚	外耳、中耳、内耳の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。
6	平衡感覚	前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。
7	味覚・嗅覚	味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
8	脳の高次機能・記憶・情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
9	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
10	栄養	生命・生活活動維持に必要な栄養素について学習する
11	代謝	栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
12	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「トートラ人体解剖生理学　原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2014 年)
各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】
「トートラ人体解剖生理学 原書 10 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之　編訳, 丸善出版, 2017 年)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (96%) ：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 ×30 問) と論述 (9 点 ×4 問))。
提出物、小テスト (4%) ：期限内に提出された課題等および小テストの評価。欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の簡易レポートからは，理解度における大きな個人差が感じられる。授業外での予習・復習，さらには自身の経験や知識と関連づけた簡易レポート作成などを通じて，知識の定着を図りたいと考えている。また，興味・関心の個人差については解消は困難であるが，基礎知識の定着が前提とはなるが，より発展的な理解が進む授業を目指して内容を工夫していく。

【その他の重要事項】
本科目と生理学 A とを通して学習することで、身体の各構成要素の基本的な生理学の全般について学習することになる。生理学 B は選択科目であるが、教員免許状取得のための必修科目である。したがって、将来、保健体育の教師として身につけておいてほしい内容は、生理学 A と生理学 B の両方である。

【Outline and objectives】
Physiology is a fundamental discipline that how the human body works. This course is an introduction to human physiology from an integrative perspective. Students learn the structure and function of the tissues, the skeletal system, the nervous system, the endocrine system, and muscle function from the level of the cell to the level of the organism.

SOM200IA

予防医学概論

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**
旧うか科目名：**スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】
スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、本講義は、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。
12	外科的障害　上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害　下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害　脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、２００４年）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100 %）
理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。

【学生の意見等からの気づき】
適宣、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline and objectives】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: study basic knowladge about preventive medicine and sports injuries
2: learn the influence that physical activity and exercise give to health

SOM100IA

衛生学

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 4/Wed.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすために必要な衛生に関する基礎的・基本的な知識の理解を深めることである。
衛生学の基本的な考え方、食品衛生、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質と健康影響について学ぶ。授業では、実際に起きた事例を挙げて、ディスカッションにより問題点を抽出し、改善のための手立てを考えるようにすることを目指す。この領域のアプローチは、サイエンティフィックな要素、社会学的な要素など幅広い視点が必要とることに留意してほしい。間口は広く、奥行きは広いが、実生活に活かすことができることを最終目標とする。

【到達目標】
個々人の健康の保持増進のため、身の回りの環境の整備や化学物質の管理が重要であることについて理解し、社会人として責任ある実践に結びつけられるようにするとともに、次世代に繋げられるようにすることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて授業を進める。パワーポイントの配付資料は準備するが、適宜記入欄を設けているので、書き込むこと。
適宜、双方向の授業進行を行うので、自分の考え方を述べられるよう心がけてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の考え方	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	健康情報の見方・考え方	健康情報の危うさについて概説する。
4	食品衛生・細菌性食中毒	食中毒の概要及び細菌性食中毒について取り扱う
5	食品衛生・自然毒食中毒	自然毒食中毒について概説する
6	食品衛生・食品添加物	食品添加物について概説する
7	食品の安全性	食品の衛生管理と安全性について概説する
8	水の衛生	水の衛生管理の重要性について考える
9	飲料水の安全性	水道水など飲用に供する水の安全性について詳述する。
10	水質汚濁	水質汚濁による過去の公害について映像等に触れることにより課題を考える。
11	居住環境の安全管理	室内環境などの衛生管理の必要性とかだいについて概説する。
12	大気汚染	大気汚染物質及び健康影響について概説する。
13	化学物質の健康影響	化学物質による健康影響及び化学物質に対する考え方について詳述する。
14	環境管理の重要性	環境管理の重要性についてミクロ及びマクロの視点から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
期末試験・レポート 60 %・授業毎のレポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を取り入れるようにする。

【Outline and objectives】
The puerpose of this course is for students to gain the essential knowledge on hygiene, especially food and environmental hygiene.

HSS200IA

スポーツ栄養学

長谷川　祐子

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、指導者になったときに食事・栄養について科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、スポーツ栄養学の基礎を学び、簡単な栄養アセスメントを実践します。

【到達目標】
《栄養学基礎》主要な栄養素の名前と特性、栄養素／食品／料理の関係性、望ましい食事の基本構成、栄養アセスメントの方法等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》1年間の期分け、1 日の練習、試合前後といった、スケジュールやタイミングを考慮した食事法について説明できる。また栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》水分補給、減量、増量、貧血、女性アスリートの３主徴など、頻発する栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は、４月２４日（金）とします。オンライン授業では当面の間、授業支援システムを利用します。方法は、以下の通りです。方法および各回の授業計画に変更があった場合は、学習支援システムで、その都度提示します。
◆授業資料の配布… [教材／スポーツ栄養学　XX] より各自ダウンロードする（XX は授業回）。
◆出席…小テスト（後述）の提出により出席とする。
◆小テスト…理解度の確認のため、授業終了時に毎回簡単なテストを行う。[テスト/アンケート／スポーツ栄養学　XX] より実施する。３回まで再提出できる。得点は評価対象となる。
◆ Q&A … [授業内掲示板] に質問を投稿する。回答も同掲示板に投稿する。
◆課題…授業で指示するので、[授業支援システム／課題] より提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
前期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、食事の基礎 《栄養は車にたとえられる：車はどう作られているか》	・授業の進め方について理解する。 ・食生活と健康の関係、食事の基本構成、栄養素の名前と役割、含まれている食品・料理、体に入る経路（消化と吸収）について概要を知る。 ・上記と関連付けながら、栄養と免疫、COVID-19 関連資料について簡単に触れる。 【演習】栄養アセスメント（6 つのお皿） 【課題１】行動記録の記入
2	エネルギー　基礎（エネルギー供給機構と競技分類） 《エンジンの種類と車種、必要なガソリンの量》	・身体活動（生活活動・運動）、身体活動レベル、エネルギー消費量とその内訳、エネルギー供給機構と競技分類について理解する。 ・エネルギー消費量（必要量）のアセスメント法を知る。 【課題２】栄養アセスメント（身体組成に基づく基礎代謝推定、行動記録法に基づくエネルギー消費量推定）
3	エネルギー　応用（女性アスリートの３主徴） 《ガス欠》	・身体活動、食事、相対的エネルギー不足の関係、女性アスリートの 3 主徴、RED-S について理解する。 ・エネルギー摂取量のアセスメント法を知る。 【演習】栄養アセスメント（FAT チェックシート、EAT-26）
4	たんぱく質　基礎 《車体の維持》	・たんぱく質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・身体組成のアセスメント法を知る。 【演習】たんぱく質目標摂取量の推定
5	たんぱく質　応用（減量／増量） 《車体の改造》	・競技と体格の関係を知る。 ・減量／増量の方法について理解する（一部次回に渡る可能性あり）。 【演習】減量計画の作成
6	脂質 《レギュラーガソリンの利用》	・エネルギー産生栄養素である脂質の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 【演習】脂質目標摂取量の推定
7	炭水化物　基礎 《高性能ガソリンの利用》	・エネルギー産生栄養素である炭水化物の構造、機能、消化・吸収・代謝、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 【演習】炭水化物目標摂取量の推定
8	炭水化物　応用（試合前後の食事とその実践） 《レース前後の整備》	・グリコーゲンローディングを始め試合前後の食事について理解する。 ・試合前後の食事の望ましいタイムスケジュール、食事の注意点について理解する。 ・合宿、遠征時の食事の注意点について理解する。 【課題３】アスリートの食事の改善指導について
9	ビタミン 《エンジンオイル、ワックス、グリースの利用》	・ビタミンとは ・エネルギー代謝、骨代謝、造血、免疫能と関わりの深いビタミンについて知る。 【演習】栄養アセスメント（簡易ビタミン K 摂取調査表、DVS）
10	ミネラル①鉄と貧血 《車体の維持と修理》	・ミネラルとは ・鉄の機能、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・スポーツ貧血について理解する。 ・鉄の栄養状態のアセスメント方法を知る。
11	ミネラル②カルシウム・マグネシウムと骨代謝、その他のミネラル 《車体の維持と修理》	・カルシウム、マグネシウムの機能、吸収、望ましい摂取量、多く含まれる食品・料理を知る。 ・骨代謝について理解する。 ・ナトリウム、カリウム、その他のミネラルの働きについて知る。 【演習】栄養アセスメント（カルシウム自己チェック表）
12	水分補給 《車体を冷やすラジエータ》	・体内における水の働き、吸収、効果的な水分補給法について理解する。 ・水分の栄養アセスメント法を知る。
13	サプリメント 《チューニング》	・サプリメントのメリット・デメリット、必要性の検討に必要な事項について理解する。 ・スポーツ現場でよく用いられる機能性成分について知る。 ・観察による栄養アセスメント法（欠乏・過剰症状）を知る。 【演習】栄養アセスメント（食習慣・コンディショニング質問紙）
14	ライフステージ別問題と栄養ケアマネジメント 《乗車年数を考慮したメンテナンス計画》	・子どもの欠食、妊婦のやせ、成人の肥満、高齢者の低栄養など、ライフステージごとの栄養問題と、栄養ケアマネジメントの流れを知る。 ・症例について、栄養アセスメントに基づいた栄養指導案を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】教科書の関連部分読了　　【復習】教科書、参考書による復習、小テストの実施、第 1・2・8回に提示する課題
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」（市村出版）￥2,700

【参考書】
・「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目 I」（日本体育協会）
・「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目 III」（日本体育協会）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー　専門科目テキスト第 9 巻）」（日本体育協会）
・「エッセンシャル・スポーツ栄養学」（市村出版）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「日本人の食事摂取基準　2020 年度版」{https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html}
・「食品成分データベース」 {http://fooddb.mext.go.jp/}
・「改訂版『身体活動のメッツ（MET s）表』」{http://www0.nih.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf}
・「健康食品の安全性・有効性情報」{https://hfnet.nibiohn.go.jp/}
・平成 30 年度食育白書（ライフステージ別の現状と取組：農林水産省）{https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html}

【成績評価の方法と基準】
評価配分：　小テスト（40 %），課題１・２（20%），課題３（40%）
小テスト未提出が 6 回以上あった方は出席不足とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
・声が聞き取りにくいようなので、マイクの使い方を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システム利用のためスマートフォン等を持参してください。

【その他の重要事項】
・授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of sports nutrition and practice simple nutritional assessments, so that they will be able to give advice about foods and nutrition based on scientific evidence when they will have become sports instructors.

HSS200IA

スポーツバイオメカニクス

工藤 裕仁

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と，重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する．そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する．

【到達目標】
スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し，簡単な関節モーメントの算出が可能になる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は，5 月 11 日（月）になります．
バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び，キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する．また，キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクス的手法についてもその概要と分析方法について学ぶ．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，授業の流れを概説	ガイダンス，授業の流れを概説
2	力学の基礎	力とスカラー量・ベクトル量
3	力学の基礎	力と運動
4	力学の基礎	変位・速度・加速度
5	力学の基礎	並進運動の力学
6	力学の基礎	回転運動の力学
7	キネマティクス的分析	分析方法の基礎
8	キネマティクス的分析	分析方法の応用としての事例検討
9	キネティクス的分析	分析方法の基礎
10	キネティクス的分析	分析方法の応用としての事例検討
11	筋電図	分析方法の基礎
12	筋電図	分析方法の応用としての事例検討
13	バイオメカニクス的研究例	研究デザインからみた事例検討
14	バイオメカニクス的研究例	研究の実践としての事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする

【テキスト（教科書）】
必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
力学の基礎においては，文系出身者にでもわかるよう比較的簡単な具体例も用いる．

【その他の重要事項】
ただし，授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
To learn that sports motion is an interaction between articulation and external forces such as gravity and ground reactive force.
To learn basics of the Newton mechamics in sports

SOM200IA

公衆衛生学

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、健康問題を集団として取り扱い、科学的根拠に基づいて、その背景や課題解決の方策について理解を深めることである。
授業は、地域や国などの単位で統計的に健康問題を捉えるとともに、年齢、性や職業などの視点でも理解を深め、集団が抱える課題を追求していく。また、疾病や健康の要因について、どのように絞っていくかを、科学的な根拠に基づいて明らかにすることの重要性について理解できるようにする。様々な健康情報が飛び交う中で、適切な意思決定や行動選択がどのようになされるべきかを学ぶ。社会人として，生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを学ぶことである。

【到達目標】
疾病予防のためにどのような方策が重要であるか、行政など社会が果たす役割とは何かについて理解できるようにする。さらに、生涯を通じての健康的なライフスタイル形成のためにできることは何かについて、自分自身ばかりでなく社会に対しても働きかけることができることを目指す。また、保健体育科教員として学校現場で効果的な「保健」の授業ができる基盤となる知識が獲得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使用して進める。双方向の授業進行となることに留意。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	公衆衛生学の全体を見渡す
2	保健統計／その意義	保健統計が示す国民の姿から、その意義を捉える。
3	保健統計／人口統計	人口静態統計及び人口動態統計について詳述する。
4	保健統計／死因統計	死因別死亡率や悪性新生物による死亡率について概説する。
5	生命表の意義	生命表、平均寿命及び平均余命について概説する。
6	疫学概論	疫学とはどのような学問なのかについて概説する。
7	疫学の歴史	疫学的なアプローチについて過去の事例を紹介し、その意義を詳述する。
8	コホート研究	コホート研究について詳述する。
9	症例対照研究	症例対照研究の意義について詳述する。
10	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念、および一次予防の重要性について概説する。
11	感染症と対策	感染症の今日的課題について概説する。
12	母子保健	母子保健の重要性と課題、思春期の性に関する健康課題について概説する。
13	高齢者保健	高齢者の健康課題について概説する。
14	労働衛生	労働衛生の意義、及び題について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
なし（授業時にパワーポイント資料等を配付する）

【参考書】
国民衛生の動向 2019/2020（厚生労働統計協会）

【成績評価の方法と基準】
期末試験・レポート課題 60 %、授業毎のレポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れる。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is for students to understand the public health based on the evidence.

HSS200IA

体力測定・評価論

高見 京太、泉　重樹

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月 1/Mon.1**
旧うか科目名：**体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】
・各種測定の目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考察の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要となるフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようになるための知識や技術を理解する。
授業の後半は、アスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には傷害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。
4 月 27 日（月）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機していて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）【担当：高見】	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）【担当：高見】	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト【担当：高見】	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に 5 段階または 10 段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定【担当：高見】	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法につて講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価【担当：高見】	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健常高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定【担当：高見】	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量【担当：高見】	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取，姿勢・アライメントの評価【担当：泉】	HOPS、SOAP ノートの作成, 姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋萎縮・関節弛緩性の評価【担当：泉】	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定【担当：泉】	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価【担当：泉】	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査【担当：泉】	徒手筋力検査の目的と意義を理解し，具体的な方法については実技を交えながら，講義する.
13	整形外科的理学検査 1【担当：泉】	手・肘・肩関節，頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	整形外科的理学検査 2【担当：泉】	腰部・股・膝・足関節のスペシャルテストについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5　検査・測定と評価
山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
C Starkey,J Ryan 著，中里伸也 監訳，スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック，NAP
宮永豊他，アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学，文光堂
J. Gross , J. Fetto , E. Rosen 著　石川斉，嶋田智明 監訳，筋骨格系検査法［第 2 版］，医歯薬出版株式会社，2005
STANLEY HOPPENFELD ：図解 四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
他，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に実施する期末試験 (80%) ：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験。
提出物 (20%) ：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】
実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。
履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられている。学生の主体的な取り組みを期待したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
The purpose of this lesson is to learn the significance and point of view about the physical fitness in the broad sense required in sports and health exercise leaders and athletic trainers and then to understand and acquire the examination contents and methods necessary for evaluation and the purpose and significance of observation and analysis of movements.

SOM200IA

学校保健

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業/Spring** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 1/Wed.1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、学校における児童生徒及び学生等の健康課題について理解を深めることである。
学校保健とは何か、具体的な領域構造を学ぶ。その上で、どのように学校環境を維持すべきか、またどのような指導を行う必要があるかを理解できるようにする。学校保健の主体とは誰なのかを認識し、そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

【到達目標】
学校保健の構造について理解し、学校保健がどのような法律によって裏付けされているのかを理解できるようにする。また、学校保健を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋げられるようにする。一方の学習環境については、学習能率の向上や情操の陶冶にとっても重要であることが理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 13 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	学校保健を見渡す。
2	学校保健の構造	保健管理、保健教育、組織活動について概説する。
3	法律と行政	学校保健安全法、学校保健行政について概説する。
4	学校保健関係職員	学校保健に関わる職種について概説する。
5	学校三師	学校三師について個別に詳述する。
6	健康観察と保健指導	健康観察の意義について概説する。
7	健康診断	健康診断の重要性について概説する。
8	学校における感染症	学校で対応すべき感染症について詳述する。
9	組織活動の意義	学校保健委員会等、組織活動の重要性について詳述する。
10	学校環境衛生基準	学校環境衛生活動について詳述する。
11	保健教育・健康教育	学校における保健教育の構造について概説する。
12	喫煙、飲酒防止教育	喫煙、飲酒防止教育の重要性について詳述する。
13	薬物乱用防止教育	薬物乱用防止教育の重要性について詳述する。
14	性教育	性教育の進め方について詳述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
学校保健マニュアル（南山堂）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is fo students to undestand school health and gain find the solution to a challenge for health problems.

SOM100IA

機能解剖学 B

加藤　基

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機能解剖学 B では、動脈・静脈・リンパ管といった脈管系と脳・脊髄・末梢神経といった神経系について学ぶ。これらの器官はスポーツ領域で学習する機能解剖学においては応用的な分野と考えられることがあるが、スポーツ傷害や運動制御や運動学習について正確に理解するためには、十分に学習しておくことが必要である。本授業では、スポーツ傷害の理解および運動制御、運動学習に関わる脈管系、神経系を学び、傷害評価の新たな視点と運動習得の可能性を見出すことを目標とする。

【到達目標】
・主要な血管の名称と走行を理解する
・リンパ系の構造と機能とを理解する
・脳の構造と機能局在を理解する
・末梢神経系の名称と走行、機能を理解する。
・運動制御に関わる神経系の構造と機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主要な構造について授業内で概説し、触察によって体感を持ちながら学習をする。
より詳細な部分については宿題・レポート課題などへの取り組みによって獲得することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方 脈管系の全体像、神経系の全体像
2	脈管系（心臓、頚部・頭部、その他体幹）	心臓の構造と心臓を起点とする脈管の走行、頚部・頭部の脈管の走行と機能、その他体幹における脈管
3	脈管系（上肢）	肩・上腕・肘の血管系、前腕・手の血管系
4	脈管系（下肢）	股関節・大腿・膝の血管系、下腿・足の血管系
5	リンパ系	リンパ系の機能と走行
6	神経系（脳）	脳の機能と機能局在
7	神経系（末梢神経）	脳神経、自律神経、体性神経
8	神経系（自律神経）	走行と機能
9	神経系（上肢）	上肢の末梢神経の走行と機能
10	神経系（下肢）	下肢の末梢神経の走行と機能
11	神経系（反射）	腱反射、筋緊張の制御
12	神経系（運動制御）	小脳、錐体路系、錐体外路系
13	神経系（前庭）	前庭による運動の調整
14	脈管系と神経系	全体のまとめ、関連するスポーツ傷害、運動習得への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で復習用のプリントを配布する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業資料は授業支援システムを使用して提示する。

【参考書】
町田 志樹：解剖学 (PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎) . 羊土社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・小テスト (20 %), 試験 (80 %)

【学生の意見等からの気づき】
各回の復習プリント配布及び事前告知をしたうえで小テストを実施することによって、定期テストのときだけの勉強にならず勉強がしやすいという意見を得た。各回の復習プリントを工夫し、学習内容の定着に役立てたい。
基本的には講義式であるものの、触診実技をしたり、ゲーム形式の学習をしたりすることで参加型の授業を行うことで取り組みやすかったという意見を得た。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
触察実技のために他者に触れる、触れられることがある。支障がある場合は教員に申し出てほしい。

【Outline and objectives】
This course focuses on the structures and functions of artery, vain and nerve system. Studying these organs is important to understand sports injuries, human movement.

ECN200IA

スポーツ産業論

吉田　政幸

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】
スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：
(1) スポーツ産業の構造および現状
(2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
(3) 米国大学スポーツの歴史的変遷、概要、産業規模
(4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。本授業は教科書（スポーツ産業論、第 6 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史的変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第 6 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが災害復興支援に取り組むように、スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的責任がある。その概念規定、種類、特徴を学ぶ。
第 7 回	米国のプロスポーツビジネス	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 8 回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体である NCAA の役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。
第 9 回	サービス業としてのスポーツサービス	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 10 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 11 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 12 回	スポーツイベントレガシー	スポーツイベントの開催を通じて地元地域が期待できる持続的恩恵をレガシー（遺産）と呼ぶ。今回はその定義、種類、形成方法、そしてレガシーを築くことの意味について学習する。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。
第 14 回	スポーツ産業のまとめ	日本のスポーツ産業の現状と特徴を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原田宗彦（編）(2015) スポーツ産業論（第 6 版）. 杏林書院：東京.

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
学期前半の内容に関する小テスト： 40 点
期末試験： 50 点
米国の大学スポーツに関するレポート： 10 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
履修者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問について、授業内で議論したいと思います。

【その他の重要事項】
テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】
The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

ECN200IA

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる
3．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 5 月 7 日（木）より開始します。
学習支援システムに授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツにおけるモノ、カネ 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツにおけるモノ、カネ 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について
5	スポーツにおけるモノ、カネ 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、 広告 PR について学習する。
11	期末レポート課題提出	スポーツビジネスにおけるテーマに関する課題（後日提示します）についてレポートを提出する。
12	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】
13	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility（CSR）事例研究】
14	まとめ	これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、
リアクションペーパーの内容（20 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

HSS100IA

運動療法総論

安藤 正志、林田　はるみ

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】
運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特に筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	運動療法とは【担当：林田】	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動が生体に及ぼす影響【担当：安藤】	運動が筋骨格系に及ぼす影響を解説する
3	運動療法の効果判定の仕方（筋力）【担当：安藤】	筋力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
4	運動療法の効果判定の仕方（筋力持久力）【担当：安藤】	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
5	筋力強化のための運動療法【担当：安藤】	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
6	筋持久力強化のための運動療法【担当：安藤】	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
7	運動療法の効果判定の仕方（協調性）【担当：安藤】	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	協調性のための運動療法【担当：安藤】	協調性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
9	運動療法の効果判定の仕方（柔軟性）【担当：林田】	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
10	柔軟性のための運動療法【担当：林田】	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
11	運動が生体に及ぼす影響【担当：林田】	運動が代謝循環器系に及ぼす影響を解説する
12	運動療法の効果判定の仕方（全身持久性）【担当：林田】	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
13	全身持久性強化のための運動療法【担当：林田】	全身持久性を強化するための運動方法を解説し実際に体験する
14	運動療法総論のまとめと試験【担当：林田】	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を予習、復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、資料を配付する

【参考書】
日本スポーツリハビリテーション学会 JSSR 認定トレーナーテキスト/JSSR 認定トレーナーテキスト編集委員会

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
知識確認テスト（40 %）：学期の中間に行う
期末試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義の途中に実技を行うことがあるため運動ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

【Outline and objectives】
This lesson, for understand what kind of biological response is obtained by exercise. In addition, for learn about the theoretical background and practice of exercise therapy.

HSS200IA

リハビリテーション概論

昇　寛

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術者を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】
リハビリテーションの基本的知識と技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造
3	障害者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害体験
4	車いす杖など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
7	物理療法の実習と体験	赤外線・ホットパック
8	物理療法の実習と体験	寒冷療法
9	物理療法の実習と体験	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法
10	整形外科疾患のリハビリテーション１	整形外科疾患（主に上肢の障害）のリハビリテーション
11	整形外科疾患のリハビリテーション２	整形外科疾患（主に下肢の障害）のリハビリテーション
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害のリハビリテーション
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーション
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論
要点整理と用語解説　改訂第３版
編著　椿原彰夫

【参考書】
特に定めず

【成績評価の方法と基準】
平常点と定期試験との合計点で評価（6 割以上が合格）。出席日数が不足*している場合には定期試験を受けても採点対象になりません。*原則として全講義に出席してください。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の 1/3 回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
実技をより多く取り入れ理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
It aims to understand what rehabilitation is. Understand the field of rehabilitation and technicians to provide. We also experience the daily living behavior of disabled people and the tools of persons with disabilities.

HSS200IA

健康と疾患

安藤 正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧うか科目名：**健康科学Ⅱ [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の仕組みと病気について理解する。病気と健康について理解する。

【到達目標】
代表的疾患について基本的事項を理解し、その予防法と治療法を学ぶ。
また健康の指標となる簡便な測定法や評価法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
国民病とされる代表的な病気や外傷について講義を行う。また視聴覚教材を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	健康と疾患のすすめかた	健康と疾患の授業の概要
3	病気と外傷	病気と外傷（病気とは？ 外傷とは？ 障害とは？）
4	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞とは？ 脳出血とは？）
5	癌	癌（胃癌、大腸癌、肺癌）
6	心疾患	心疾患（心筋梗塞とは？ 心虚血性疾患とは？）
7	内部障害	内部障害（糖尿病とは？ 高脂血症とは？ 動脈硬化とは？）
8	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病とは？ 脊髄小脳変性症とは？）
9	リウマチ	リウマチ（慢性関節リウマチとは？）
10	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折）
11	変形性関節症	変形性関節症（変形性膝関節症とは？ 変形性股関節症とは？）
12	腰痛症	腰痛症（急性・慢性腰痛症とは？ 筋筋膜性腰痛症とは？ 脊椎分離滑り症とは？）
13	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害	スポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靱帯損傷）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論
要点整理と用語解説　改訂第２版
編著　椿原彰夫

【参考書】
特に定めず。必要な資料を授業前にファイルなどで配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点をリアクションペーパーや提出物などで評価する 40 %・定期試験 60 %
※ 6 割以上で合格
※定期試験は欠席が多い場合は採点対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】
専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
履修に際しての条件：ヘルスデザイン論を履修済みであること。

【Outline and objectives】
Understand the structure and illness of the body.
Understand about diseases and health.

HSS100IA

アスレティックトレーナー概論

泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アスレティックトレーナーの役割とその業務を理解することが第一の目的である。日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。AT の現場での活動および組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携をとって選手をサポートしていくかなど AT が現場で活動する上で必要な知識を養う。スポーツ分野で働くことの意義について学習する。

【到達目標】
「アスレティックトレーナー」という仕事・役割を、欧米・アジアと日本、各競技、各種資格や各種スポーツ現場における役割などによる違いを通して理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントや VTR 等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、個々の意見発表の場をできる限り設けていきたい。講義の後半部分では、外部講師による特別講演も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	AT の歴史と現状	日本における AT の歴史および現状、諸外国における AT に相当する制度の現状について講義する。
2	AT の任務と役割	AT の任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	AT の業務	AT の具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	AT の活動 1	AT の実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	AT の活動 2	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	AT の活動 3	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	AT の活動 4 （外部講師の招聘）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割 1	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割 2	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	医科学スタッフの構成と役割 3	医科学スタッフの構成と役割として、コーチングスタッフとの連携・協力について、具体的な事例から役割の違い等を明らかにしながら概説する。
11	AT の組織と運営 1（外部講師の招聘）	AT の組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	AT の組織と運営 2	AT の組織と運営について、競技者のコンディショニングに関するデータの管理方法およびその実際について概説する。
13	AT と倫理 1	AT と倫理として、AT の社会的な立場、AT を取り巻く環境について考える。
14	AT と倫理 2	AT と倫理として、米国アスレティックトレーナー協会の倫理要綱等を参考にしながら、医療関係法規、法的諸問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1　アスレティックトレーナーの役割
・各回の授業内容は、授業支援システムから各自ダウンロードすることとする。

【参考書】
1. 平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウス HD
2. スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウス HD
3. 臨床スポーツ医学（月刊誌），文光堂
4. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社
5. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）および授業内レポート（60%）により総合的に評価する。
平常点：各回の出席と授業における発言や授業支援システムへの解答を考慮する。
授業内レポート：授業内に与えたレポート課題を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業を通して、「アスレティックトレーナー」という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。
アスレティックトレーナーを目指す目指さないに関わらず、スポーツに関わる必須の役割であるこの仕事を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けたい。アスレティックトレーナーを目指しているものはもちろんであるが、スポーツを仕事にしたいと考えてはいるものの、アスレティックトレーナー以外の役割を目指したいと考えている人にこそ、受講してもらいたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
The primary objective is to understand the role of athletic trainers(AT) and their work. Students learn the historical background of the birth of Japan's AT and the background of the establishment. Students also touch on the activities of AT and learn about the positioning and administration at the sports scene.

HSS100IA

スポーツコンディショニング論Ⅰ

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツと関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチング等の具体的なコンディショニングの手法を交え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】
１．コンディションおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解すること。
２．スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的疾患およびその救急処置について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（１）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（２）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（３）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など)、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど)、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（１）	コンディショニングの手法として、ストレッチングの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
8	コンディショニングの手法（２）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（３）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリテーション（トレーニング）の考え方についての講義を行う。
11	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
12	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
13	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
14	まとめ、試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
1. 日本体育協会編，公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ
2. 日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
4. 籾山日出樹総監修，臨床スポーツ医学，医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点（授業内レポート）　40%
(2) 期末試験　60%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand the basic concepts of sports medicine.　By applying the knowledge of human anatomy and kinesiology, students will be able to learn the methods of strength and conditioning that will minimize the risk of injury and optimize recovery time for athletes. This course will also discuss the common injuries and diseases that occur during training so that students will be able to apply their knowledge into actual practice.

HSS200IA

スポーツコンディショニング論Ⅱ

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義において「コンディション」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】
1.「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2．特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。
（4/20 追記）
5 月 8 日以降の毎週金曜日に、講義で使用する予定だった資料を PDF 化したものを学習支援システムにアップロードしていきます。それとともにレポート課題もアップロードしますので、講義資料を読んだ上でレポート課題に回答し、翌週の木曜までに学習支援システムを用いて提出して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（1）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（2）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（3）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディションの評価	コンディションの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を経験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング 1）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
11	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング 2）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、上肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。
12	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング）	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を経験、習得する。
13	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。
14	まとめ、試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点（授業内レポート）　40%
(2) 期末試験　60%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。
（4/20 追記）
学期途中から教室での講義が可能になった場合は期末試験を実施する予定です。その場合は、オンライン講義期間のレポート課題の点数と期末試験の点数を合わせて成績評価を行います。万が一学期末まで教室での講義が行えない場合は、レポート課題の点数で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
「スポーツコンディショニング論Ⅰ」を履修してから本科目を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to understand the theory of strength and conditioning. Students will learn the purposes of conditioning an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a conditioning program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論 I

春日井　有輝

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2　足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3　足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4　足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6　膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7　膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・本科目を受講後、続けて秋学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論 II も履修することが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ

春日井　有輝

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・実技**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テービング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論 1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論 2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論 3　肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論 4　肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論 5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテービング
7	テーピング各論 6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論 2（腰背部）	腰背部のストレッチング
10	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと
授業で行った実技の復習をすること
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
テービングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。
・春学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論 I を履修後、本科目を続けて履修することが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論

春日井　有輝

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
開講時期：年間授業/Yearly ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 3 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1
旧うか科目名：テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】
スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期
テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。
秋学期
テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。
(4/20 追記)
　本講義では実際にテーピングテープを扱わないとどうにもなりませんので、GW 明けを目途に皆さんの自宅にテープを宅急便で送付する予定です。そのために、近日中に学部事務から送付先を確認する連絡があると思いますので、連絡があったら速やかに回答するようお願いします。
　その上で、5 月 8 日から毎週巻き方の資料と巻いている動画を学習支援システムにアップロードしていきますので、それを参考にテーピングを実施してもらい、翌週までにレポートを提出してもらう形にしたいと考えています。
　テーピングは、できれば家族などの足を借りて実施できることが望ましいですが、一人暮らしの方は自分の足に巻いても結構です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1　足部のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2　足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3　足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング（オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法）
6	テーピング各論 4　足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5　下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6　膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7　膝関節のテーピング 2	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8　大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1（足部、下腿）	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2（大腿）	大腿のストレッチング
15	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション　アイシングの概論と実践
16	テーピング各論 1　腰部のテーピング	腰部のテーピング
17	テーピング各論 2　体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
18	テーピング各論 3　肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
19	テーピング各論 4　肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
20	テーピング各論 5　肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
21	テーピング各論 6　手関節・手部に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
22	ストレッチング各論 1（股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
23	ストレッチング各論 2（腰背部）	腰背部のストレッチング
24	ストレッチング各論 3（頸肩部）	頸肩部のストレッチング
25	ストレッチング各論 4（上肢）	上肢のストレッチング
26	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
27	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
28	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストに目を通しておくこと。
授業で行った実技の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6　予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】
日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011
坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点　80%
(2) 実技試験　20%
で評価を行う。
なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。
(4/20 追記)
　成績評価については、学期途中から教室での講義が可能になった場合は実技試験を実施する予定です。その場合は、オンライン講義期間のレポート課題の提出状況と実技試験の点数を合わせて成績評価を行います。万が一学期末まで教室での講義が行えない場合は、レポート課題の提出状況で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】
運動器の構造やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to recognize and practice the proper methods of conditioning that aim to prevent trauma and disability, which is necessary for an athletic trainer and a sports instructor. Students will be able to design and instruct their own conditioning programs to the athletes.

HSS300IA

運動処方・負荷テスト

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論。

【到達目標】
① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
② 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業開始日】5 月 7 日（木）3 限（13:40〜15:20）
すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
③ 後半では実際の症例に対する運動処方をレポートの課題として課す。
④ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。
⑤『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12 誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST 変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆる VT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体につについて講義する。
14	運動処方症例検討	各疾患の実際の処方例について、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**

【参考書】
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 3 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。ただし授業中に提出を課したレポートを追加的に評価する場合がある。
原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有疾患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
②『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。

③『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.

CLS300IA

スポーツ医学A

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】
スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ（1）	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ（2）	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・ 応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。

【Outline and objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset machanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.

CLS300IA

スポーツ医学（内科系）

瀬戸　宏明

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／**2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**スポーツ医学** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】
スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ（1）	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ（2）	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・ 応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。

【Outline and objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset machanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.

HSS300IA

生活習慣病と身体活動

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンス。

【到達目標】
① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業開始日】5 月 6 日（水）2 限（11:10〜12:50）
すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
② 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
④ **疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。 **キーワード**：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 **キーワード**：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード**：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード**：II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード**：LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード**：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 **キーワード**：骨粗しょう症、変形性関節症, locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 **キーワード**：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 **キーワード**：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。 **キーワード**：うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および（2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 **キーワード**：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エピジェネティクス （2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。 **キーワード**：健康増進法、健康日本 21（第 2 次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 **キーワード**：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』
※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.

HSS300IA

運動生理学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】
運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の神経活動の実際：その 1 末梢系	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflex について。
3	運動中の神経活動の実際：その 2 中枢系	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
5	トレーニングに対する骨格筋の適応	各種トレーニングに対する骨格筋の構造、生理機能の変化を学習する。有酸素トレーニングやレジスタンストレーニングが筋繊維レベルでのタンパク発現に及ぼす影響について。
6	内分泌系の役割と運動への応答	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタン運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
7	トレーニングに対する内分泌系の適応	トレーニングの継続による、筋骨格筋や自律神経系の変化の背景にある内分泌系の意義を学習する。筋肥大のメカニズムや持久的トレーニングに伴う自律神経系の変化に伴う内分泌系の変化を紹介する。
8	生体エネルギー論 I	生体エネルギーとしての ATP の産生と利用のメカニズムについて理解する。エネルギーとは、エネルギー基質、解糖系、クレアチン燐酸などについて。
9	生体エネルギー論 II	エネルギー産生機構における酸素の役割。有酸素・無酸素エネルギー、酸素摂取量、酸素動態（定常・漸増負荷）。
10	酸素摂取量といわゆる AT	最大酸素摂取量の概念とその研究の歴史、測定方法（呼気ガス分析）。Mechanical efficiency。（いわゆる）AT について学習する。
11	心臓・肺・ミトコンドリア	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
13	生体エネルギー論 III	運動のエネルギー基質（macronutrient）、基礎代謝、酸素摂取量と消費エネルギー計算など、生体エネルギーの基質とその利用メカニズムについて学習する。
14	特殊環境における運動	特殊環境における運動において、生体のホメオスタシスがいかに維持され、また破綻するのか、理解する。すなわち、高所生理学、高山病、潜水生理学、潜水障害、低温障害、大気汚染、微小重力などについての学習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・宮村実春 『ニュー運動生理学 I、II』 （真興貿易、2015）
・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
・Kenney WL, eta l. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
・McArdle WD, eta l. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline and objectives】
We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.

HSS300IA

アスレティックリハビリテーションⅠ

泉　重樹

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得すること、以上である。

【到達目標】
身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識１	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	運動療法の基礎知識２	各種エクササイズの目的、方法について学習する。
4	物理療法・補装具の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
5	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	股関節・骨盤のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
8	下肢のアスレティックリハビリテーション	代表的な種目特性に基づいた下肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
9	腰背部のアスレティックリハビリテーション	腰背部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
10	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
11	体幹のアスレティックリハビリテーション	代表的な種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
12	肘関節・前腕部のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
14	上肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション，日本体育協会
授業資料は授業支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング，日本体育協会
日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019
広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
筆記試験（試験期間中に行う）90 %、小レポート（2 回実施予定）10 %

【学生の意見等からの気づき】
外傷・障害の理解が不十分なため、評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害からできるだけ具体的な事例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The objectives of this lecture are the following three points. First, to understand the skeletal and muscular system required for sporting activities. Second, learning about trauma and disabilities that occur in sports. Third, learning the training methods needed to restore body structure and function.

HSS300IA

アスレティックリハビリテーションⅡ

春日井　有輝

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、傷害を負ったアスリートが競技に復帰する際に必要不可欠であるアスレティックリハビリテーションについて理解することを目標とする。本科目では「アスレティックリハビリテーションⅠ」で学んだ身体部位別のアスレティックリハビリテーションを踏まえ、競技種目ごとの復帰期のアスレティックリハビリテーションについて重点的に学習する。

【到達目標】
アスレティックリハビリテーションについての理解を深め、実際にアスリートに指導できるようになることを目指す。本科目では主に復帰期について学習するので、各競技種目の特性に合わせたアスレティックリハビリテーションプログラム作成と指導が出来るようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の前半にテーマに沿った講義を行い、後半は実践する。毎回授業内レポートを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総論	アスレティックリハビリテーションについて
2	陸上競技（走）のアスレティックリハビリテーション	陸上競技（走種目）の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
3	陸上競技（跳、投）のアスレティックリハビリテーション	陸上競技（跳躍・投擲種目）の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
4	野球のアスレティックリハビリテーション	野球の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
5	サッカーのアスレティックリハビリテーション	サッカーの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	バスケットボールのアスレティックリハビリテーション	バスケットボールの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	ハンドボールのアスレティックリハビリテーション	ハンドボールの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
8	バレーボールのアスレティックリハビリテーション	バレーボールの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
9	体操競技のアスレティックリハビリテーション	体操競技の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
10	水泳のアスレティックリハビリテーション	水泳の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
11	ラグビーのアスレティックリハビリテーション	ラグビーの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
12	格闘技のアスレティックリハビリテーション	格闘技の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	スキー、スケートのアスレティックリハビリテーション	スキー・スケートの外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
14	まとめ、試験	全体のまとめを行った上で試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし。
第 2〜14 回：前回授業の復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本スポーツ協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション

【参考書】
アスレティックトレーニング学，広瀬統一ら編，文光堂，2019
その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各講義の平常点、授業内レポート： 40%
試験： 60%
3 分の 2 以上出席した者を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで教材の配布等を行う。

【その他の重要事項】
・「アスレティックリハビリテーションⅠ」を履修済みであることが望ましい。
・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身についていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to understand the theory of athletic rihabilitation. Students will learn the purposes of athletic rihabilitation training an athlete and the ways to grade their athletic performance. Students will learn the practices of creating a athletic rihabiritation program that will enhance the performance of an athlete while preventing injuries. Students will be able to apply these concepts and give proper instructions to athletes at their respective sport.

HSS300IA

アスレティックリハビリテーション

泉　重樹

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目標は以下の 3 点である。第 1 にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因および体力的要因を理解すること。第 2 にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第 3 にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得することである。

【到達目標】
身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	物理療法・補装具療法の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
4	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
5	背腰部のアスレティックリハビリテーション	背腰部の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
6	体幹のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
7	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
8	肘関節・手関節のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
9	上肢のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
10	股関節・骨盤部のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
11	大腿部のアスレティックリハビリテーション	大腿部の外傷の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
12	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
13	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害の評価およびリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションについて学習する。
14	下肢のアスレティックリハビリテーション	競技・種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備
学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション．日本体育協会
授業資料は授業支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】
日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング．日本体育協会
日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト 1 級，東洋館出版社，2019
広瀬統一他編：アスレティックトレーニング学．文光堂，2019
他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。筆記試験（試験期間中に行う）90 %、小レポート（2 回実施予定）10 %

【学生の意見等からの気づき】
外傷・障害の理解が不十分なため、評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害と評価の具体例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。
パワーポイント・プロジェクターを使用する。

【Outline and objectives】
The objectives of the lecture are as follows. 1. To understand the normal structure of the exerciser necessary for sports activities. 2. Learning sports injuries as a main factor in lowering physical fitness level. 3. To acquire the recovery level of physical fitness necessary for sports activities and training methods

CIM300IA

スポーツ医学Ｂ

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3～4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭頚部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頚部の外傷・障害について学習する
4	頭頚部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。
第 1 回：特に定めず
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト 1－ 9　日本体育協会
2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100%）
その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline and objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries

CIM300IA

スポーツ医学（外科系）

瀬戸　宏明

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2
旧うか科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭頚部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頚部の外傷・障害について学習する
4	頭頚部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト 1－ 9　日本体育協会
2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100%）
その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline and objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業開始日】5 月 7 日（木）2 限（11:10〜12:50）
すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）：若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）：中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置）& AED（自動体外式除細動器）	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第 1 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第 1 章〜第 6 章）
小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
第 2 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第 6 回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言” から考える』（2016 年 33 巻 7 号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 7 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』(2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．p153-162.)
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 8 回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
第 9 回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』(堀江正知、中央労働災害防止協会)
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』(三宅康史、中外医学社)
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』(澤田晋一、杏林書院)
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』(中井誠一、篠原出版新社)
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』(日本スポーツ協会)
『夏のトレーニングガイドブック』(日本スポーツ協会)
(いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能)
『落雷事故対策マニュアル』(埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt)
『雷対応マニュアル』(J リーグ)
『落雷事故の防止について』(文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)
第 10 回：
高木 修．『人を助ける心』(1998 年、サイエンス社)．(特に第 1 章、第 2 章、第 4 章) **※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED ：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 11 回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．(1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf)
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 12 回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』(法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html)
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』(文科省, 2013)(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
(https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947)
第 13 回：該当資料無し
第 14 回：
日本アンチ・ドーピング機構 website (http://www.playtruejapan.org/)．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』(ぎょうせい、2009) **※資料室収蔵**
・入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』(時潮社、2011) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。**原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。**

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョキング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】
ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを利用し実習内容はその都度提示する。本授業の開始は 4 月 28 日とする。
個人で自宅周辺で実技中心に行う。前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 70 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。
春・秋に同じ授業を開講する。
春学期は受講者選抜を行う。（８０名）

【Outline and objectives】
Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ 1 **単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョキング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】
ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョキング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを利用し実習内容はその都度提示する。本授業の開始は 4 月 28 日とする。
個人で自宅周辺で実技中心に行う。前半はウォーキングで歩数の測定、脈拍の測定を行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキング強度の測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グランドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グランドで正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身に付ける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 70 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。
春・秋に同じ授業を開講する。
春学期は受講者選抜を行う。（８０名）

【Outline and objectives】
Jogging and walking are both excellent ways for the maintenance and promotion of health. In this course students acquire the knowledge of the physical effects and learn instructional techniques of walking and jogging to train different generations which are necessary for instructors.

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤　良彦、高見 京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。
4 月 23 日（木）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いていてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	ストレングストレーニング【担当：伊藤】1	基礎種目であるバックスクワット、上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：伊藤】2	主要種目のうち、フロントスクワット、オバーヘッドスクワットに続き、引き続き上肢のプッシュ動作、プル動作をを中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：伊藤】3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。また、パワークリーン、ハングクリーンの導入練習となるハイプル動作を学習する。
11	オリンピックリフティング【担当：伊藤】4	オリンピックリフティングのうち、スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：伊藤】5	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：伊藤】6	TRX、メディスンボール、ViPR を用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック【担当：伊藤】7	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック (筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価) の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 3 回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング— NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %），各回の実習レポート（30 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that are required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through a variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

伊藤　良彦、高見 京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの実践方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】
・各種トレーニングの実技を自らが実際に実践することができるようになる。
・各種トレーニングを実際に指導する際のチェックポイントを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各種トレーニングの目的と具体的な方法、トレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について理解した後、トレーニング指導者およびトレーニング実施者の双方の立場を実習し、レポートを作成して指定された期日までに提出する。
4 月 23 日（木）より授業を開始します。
授業開始時刻に学習支援システムを開いていてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップとクールダウン【担当：高見】1	ウォームアップ、クールダウンの生理学的な効果を理解し、主運動に適したそれぞれの運動をプログラミングして、指導原則に従って指導することができる。
2	ストレッチングと柔軟体操の実際【担当：高見】2	ストレッチングの特性や生理学的な効果、分類などを理論的に理解し、健康づくりのために適した方法を対象者の特 性や環境に応じて選択することができる。また、指導原則に従って実践方法を教示することができる。
3	エアロビック運動【担当：高見】3	有酸素運動の負荷条件と生理的効果について理解し、自転車エルゴメータを利用した有酸素トレーニングを指導実践できるようになる。
4	レジスタンス運動【担当：高見】4	体力の向上や疾病予防のためのレジスタンス運動について、その分類とそれぞれの特徴について理解し、健康づくりに有効なプログラムを作成できる能力を習得する。
5	介護予防と運動【担当：高見】5	介護予防のための運動種目（筋力・柔軟性・有酸素性・平衡性運動）について、自立機能の低下の程度に応じた運動形態を選択し、指導する必要性を理解する。
6	高齢者における運動指導の実際【担当：高見】6	高齢者の身体状況に応じて必要な筋力を維持・向上する運動について、症状や目的に応じて種目を選択し、安全に実践するための方法を伝えることができる。
7	フィットネスダンス【担当：高見】7	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
8	ストレングストレーニング【担当：伊藤】1	基礎種目であるバックスクワット、上肢のプッシュ動作、プル動作を中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
9	ストレングストレーニング【担当：伊藤】2	主要種目のうち、フロントスクワット、オバーヘッドスクワットに続き、引き続き上肢のプッシュ動作、プル動作をを中心に習熟し、必要となる補助種目を実践的に学習する。
10	ストレングストレーニング【担当：伊藤】3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。また、パワークリーン、ハングクリーンの導入練習となるハイプル動作を学習する。
11	オリンピックリフティング【担当：伊藤】4	オリンピックリフティングのうち、スナッチ、クリーンを中心に学習し、その実践方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：伊藤】5	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：伊藤】6	TRX、メディスンボール、ViPR を用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック【担当：伊藤】7	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック (筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価) の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 3 回目に配布するトレーニング記録用紙を用いて、心肺系トレーニングを実践する。
・関連する内容を、参考書や配布資料で予習復習をする。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）
石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング— NSCA 決定版, 第 2 版. ブックハウス・エイチディ (2002)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)
日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %），各回の実習レポート（30 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to teach the concepts of strength training that are required for an athletic trainer or a sports instructor. By the end of this course, students will obtain the skills to properly train an athlete through a variety of training methods, while giving proper instructions to minimize the risk of injury.

HSS200IA

エアロビック運動実習

林田　はるみ

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて、「スポーツ」に発展したものである。エアロビックは、音楽のビートにのって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツであり、その一方で、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。参加者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に着けていることが必要である。本実習では、エアロビック指導者に必要な技能を習得することを目的に授業を展開する。

【到達目標】
・初級段階のエアロビックの示範ができる。
・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	初級段階のエアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチングの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う・エアロビック指導試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・健康運動実践指導者養成用テキスト
・エアロビック指導教本

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
エアロビック実技試験（40 %）：学期の中間に行う
エアロビック指導実習試験（40 %）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【その他の重要事項】
教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。
授業の習得度によって進度を若干変更する場合がある。

【Outline and objectives】
"Aerobic" dance is a familiar health sports that can be "anytime", "anywhere", "anyone" based on the beat of music, on the other hand, "Aerobic" is also positioned in expressive sports and lifelong sports in recent years.　In this classes, acquiring skills necessary for aerobic leaders will be developed, in order for participants to enjoy safe and effective programs.

HSS300IA

健康増進施設実習

高見 京太

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
旧うか科目名：**国内研修ワークショップ [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導現場を通じて実務を体験することを目的とする。その準備としての接遇に関するセミナーや、健康運動指導士の役割を理解することを目的とした事前および事後の講義を受講する。

【到達目標】
健康運動を指導するための専門的な知識や技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身につけることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として回ごとに完結するテーマを設定して講義と現場学習およびその報告を織り交ぜて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
2	これからの健康増進施設	健康増進施設のあるべき姿についてについて考える。
3	健康運動指導士の役割	健康運動指導士の役割について理解する。
4	現場実習の意義について	健康増進施設での実習の意義について理解する。
5	健康状態の把握と体力測定	健康状態の把握と体力測定について理解する。
6	運動プログラムの作成と提供	運動プログラムの作成と提供について理解する。
7	運動の記録と情報管理	運動の記録と情報管理について理解する。
8	接遇セミナー	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
9	現場実習での課題の確認	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
10	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
11	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
12	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
13	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
14	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	健康増進施設での現場実習	講義とセミナー内容の総括
16	健康増進施設での現場実習	個別運動プログラムを作成する。
17	健康増進施設での現場実習	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
18	健康増進施設での現場実習	基本的な施設管理業務の実践を通じて理解し、各部所ごとの安全管理が効率よく確実にできるよう工夫・提案する。
19	健康増進施設での現場実習	来所者の健康管理項目について理解し、運動実践の可否について自己判断を促す。
20	健康増進施設での現場実習	対象者の年齢、性、疾病や障害に応じた体力測定の実施方法や留意点を理解する。
21	健康増進施設での現場実習	個別ケースに応じたプログラム作成を行い、実習者同士でカウンセリングし、ケースごとに集団で論議する。
22	健康増進施設での現場実習	個人情報管理について理解し、守秘義務の遵守の重要性を理解する。
23	健康増進施設での現場実習	運動の記録の仕方について学び、運動継続効果としての健康状態や体力の変化について把握し、対象者の自己効力感を高める方法について理解する。
24	健康増進施設での現場実習	個人のニーズや障害に応じた運動プログラムの作成・提供、グループ指導の方法や留意点について体験的に学習する。
25	健康増進施設での現場実習	フィットネス、スタジオ、プールなどでの機器やプログラムについて体験的に学び、運動様式の違いや特徴について理解する。
26	健康増進施設での現場実習	施設や施設外で行っている実際のフィットネスプログラムや介護予防運動指導、特定保健指導の実際を観察し、実践方法を理解する。
27	健康増進施設での現場実習の振り返り	レポートの作成
28	総括	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 10〜26 回：実習日誌の記録
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士試験 要点整理と実践問題　文光堂

【成績評価の方法と基準】
実習記録と実習後に提出するレポート (50%)
「指導者としての資質」、「実習への取組み」について実習担当者による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

【Outline and objectives】
The purpose of practical training is to experience practical experience at sports facilities such as health promotion facilities through actual exercise teaching sites for clients.

HSS300IA

スポーツ現場実習 A

泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は入構が可能になってからとし、それまではオンライン授業による資料の提示は行うこととするが、実習についての情報は学習支援システムで提示することとする。
これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナーの業務内容を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３スポーツ外傷・障害の基礎知識
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４健康管理とスポーツ医学
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５検査・測定と評価
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６予防とコンディショニング
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７アスレティックリハビリテーション
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト８救急処置

【参考書】
1.STANLEY HOPPENFELD ：図解 四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社，2003
2. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
3. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館書店．2011
5. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
評価は実習への取り組み（60 %）および現場実習報告書（レポート）（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかったという感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前に面接を行うことがある。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline and objectives】
The aim of the sports field practice is as follows, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.

HSS300IA

スポーツ現場実習 B

春日井　有輝

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【到達目標】
アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須である。
（4/23 追記）
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は入構が可能になってからとし、それまではオンライン授業による資料の提示は行うこととするが、実習についての情報は学習支援システムで提示することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL（CPR・AED）の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
5	肩関節の評価	肩関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
6	頸部の評価	頸部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
10	膝関節の評価	膝関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価（HOPS、SOAP ノートの作成）
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部／顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性／慢性外傷時の対応
16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが必須となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３スポーツ外傷・障害の基礎知識
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４健康管理とスポーツ医学
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５検査・測定と評価
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６予防とコンディショニング
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７アスレティックリハビリテーション
日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト８救急処置

【参考書】
STANLEY HOPPENFELD ：図解四肢と脊柱の診かた．医歯薬出版株式会社．2003
臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド．文光堂．2003
坂井建雄，松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編．大修館書店．2011
小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013

【成績評価の方法と基準】
※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
評価は実習への取り組み（60 %）および現場実習報告書（レポート）（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては 1 年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ている。しかしながら、途中で脱落するものもみられるため、受講の際には選抜や面接を行うことがある。

【その他の重要事項】
※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

【Outline and objectives】
In the sports field practice, students learn by practicing techniques for athletes necessary for activities as athletic trainers through activities at sports scenes and athletic training rooms.

HSS300IA

スポーツリハビリテーション実習

安藤 正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ傷害の概要について学び、その発生原因、特徴を概説する。更に、医学的治療方法、復帰までのリハビリテーションを理解し実施できる。

【到達目標】
スポーツ傷害に対する基本的知識を学びスポーツ傷害を予防するにはどのようなことに注意すればよいか。あるいはどのような処置をすればよいのかなどの知識と技術を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
特に筋骨格系のスポーツ傷害について理解し、そのリハビリテーション方法を実習する。講義と実技を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション１	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション２	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション１	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション２	オスグッド病・鵞足炎、靱帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション１	グローインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション２	グローインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション１	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション２	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション１	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション２	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1〜14 回：資料を授業支援システムから印刷し目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、授業に必要な資料を事前に配付する

【参考書】
特に定めず

【成績評価の方法と基準】
平常点；実習の取り組み、実際に実技を習得しているかなどを提出物などを通して評価する（40%）、定期試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
特に定めず

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

【Outline and objectives】
Learn about dysfunction, treatment and rehabilitation of each joint site.

HSS200IA

体力測定・評価実習

高見 京太、泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1
旧うか科目名：**身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】
・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、体力測定の目的と意義を理解し、その日実施する測定の手順と評価法を確認し、受講者自身が験者または被験者となって、測定をする側だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。
後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド (子供、中高年者) における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト (高齢者、介護予防) における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
13	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する
14	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5　検査・測定と評価
・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
・広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】
The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.

HSS200IA

体力測定・評価実習

高見 京太、泉　重樹

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
旧うか科目名：**身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】
・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、体力測定の目的と意義を理解し、その日実施する測定の手順と評価法を確認し、受講者自身が験者または被験者となって、測定をする側だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。
後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の２つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド (子供、中高年者) における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト (高齢者、介護予防) における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に触診・スペシャルテストを中心に実践する
13	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する
14	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特に神経学的所見・スペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】
・健康運動指導士養成講習会テキスト (上巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・健康運動指導士養成講習会テキスト (下巻) (財) 健康・体力づくり事業財団
・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5　検査・測定と評価
・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
・広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %），各回の実習レポート（40 %）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

【Outline and objectives】
The purpose of this lesson is to acquire from the understanding of the basic morphology of the body to measurement and evaluation of physical functions such as muscular strength, muscular endurance, whole-body endurance in a practical manner.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
14	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動学実習

安藤 正志

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4
旧うか科目名：**運動学ケーススタディ [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体へ種々の運動や動作を行わせ、あるいは種々の環境下に生体を曝露したときの生体反応を種々の測定機器を使用し運動学、運動生理学、運動解剖学、運動力学的変化を体験する。これにより運動を分析し、処方する基礎づくりとする。

【到達目標】
それぞれの課題を小グループで実施し得られたデーターを処理し報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループで各課題を実際に体験し得られたデーターを処理し報告する。課題説明の後実技を行い毎回各課題のまとめをレポートにして報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	得られたデーターの処理法、報告書の書き方を説明する
2	歩行	歩幅、歩行率、速度を求める
3	走行	ピッチ、速度、ストライドを求める
4	歩行と心拍数	歩行速度と心拍数を求める
5	移動効率	移動効率を求める
6	姿勢	立位アライメントの測定
7	人の重心	重心点を求める 重心動揺計を使用してみる
8	運動感覚	運動覚、位置覚に関する実習を行う
9	筋力	筋力、筋疲労を測定する
10	体表感覚	痛覚、２点式別覚を測定する
11	運動残効	運動残効を体験する
12	足部の形態	足部形態を測定する
13	平衡感覚	重心動揺を測定する
14	筋活動	筋電図をもちいて動作時の筋活動を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1〜14 回：資料に目を通す。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要な資料を事前に配付する

【参考書】
運動学実習マニュアル（アイペック）

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告書、リアクションペーパー）（10%）、レポート課題点（毎回のテーマのレポートを提出します）（90%）

【学生の意見等からの気づき】
課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】
運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】
履修に際しての注意：スポーツリハビリテーション実習を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
Learn about bad posture and good posture
Learn about flexibility
Learn about muscle strength
Learn about walking and running
Learn about balance

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下　訓光、瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
旧うか科目名：**スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】
スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
全体を通しての参考書
“Exercise Physiology（10th Edition）” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. **※研究室収蔵**
第 2 回：
木下訓光．熱中症－海外における最近のトピックス－．臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
第 3・4 回：
『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第 5 回：
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』**※資料室収蔵**
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『ライフステージ栄養学実習書』**※資料室収蔵**
第 6 回：
『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』**※資料室収蔵**
アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。
https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf
『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』**※資料室収蔵**
（AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること）
ハンズオンリー CPR よくある質問（http://www.aha-tts.com/article/13690287.html）
第 7 回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
木下訓光．やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることことが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、２）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下　訓光、瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】
スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
全体を通しての参考書
“Exercise Physiology（10th Edition）” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. **※研究室収蔵**
第 2 回：
木下訓光．熱中症－海外における最近のトピックス－．臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
第 3・4 回：
『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第 5 回：
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』**※資料室収蔵**
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『ライフステージ栄養学実習書』**※資料室収蔵**
第 6 回：
『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』**※資料室収蔵**
アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。
https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf
『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』**※資料室収蔵**
（AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること）
ハンズオンリー CPR よくある質問（http://www.aha-tts.com/article/13690287.html）
第 7 回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
木下訓光．やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることことが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、２）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

HSS100IA

Health and Exercise Sciences

笹井　浩行

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知らずに登録する学生が毎年いますので、冒頭にて日本語で伝えます。本授業はすべて英語でおこないます。講義、資料はもとより、受講生が執筆するレポートや発表などもすべて英語です。そのことを理解した上で受講してください。
＊＊＊
College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

【到達目標】
The students will be expected to:
1. Understand the concept/definition of health.
2. Learn college-age determinants of health.
3. Gain lifelong foundations of skills and attitudes for maintaining/enhancing health.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Lectures, homework assignments, and the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Fall semester

回	テーマ	内容
1	Orientation and definition of health	Overview of this course, grading policy, and definition of health by the WHO.
2	Health hazards in college life	Overview of college-age health hazards
3	Healthy eating	Dietary reference intake, macro- and micro nutrients, PFC balance, and the balance guide
4	Exercise and physical activity	Definitions of exercise and physical activity, total energy expenditure and its components, and metabolic equivalent
5	Sedentary behavior	Definition of sedentary behavior, detrimental association of sedentary behavior with health, and sedentary-reducing interventions
6	Weight management	Health risks of overweight and obesity, energy restriction, weight loss and maintenance programs
7	Sleep	Optimal sleep duration, measurements of sleep patterns, sleep quality and health, and tips for good sleep
8	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
9	Sexual and maternal health	Sex-transmitted diseases/infections, and contraceptives, Stages of pregnancy, pregnancy complications, gestational weight gain, abnormal labor, and postpartum issues
10	Alcohol intake	Alcohol intake and health, optimal amount of alcohol intake, and chugging avoidance
11	Tobacco smoking	Smoking and health, types of smoking, secondhand smoking, and smoking policy
12	Drug abuse	Types of illegal drugs, risky drugs, abuse, and dependence
13	Health literacy	Interpretation of health-related information, and web search tips
14	Final student presentation	Students will have a presentation session regarding an original research article related to human health.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】
None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
20% attendance, 40% homework assignment, and 40% final presentation.

【学生の意見等からの気づき】
Class contents can be modified according to student's comments and level of understanding.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
An active contribution to the class is greatly encouraged.

【Outline and objectives】
College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

HSS100IA

Strength training

泉　重樹

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper stretching techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

【到達目標】
During the semester students will be able to:
1.Identify skeletal muscles used in strength training exercises.
2.Develop an understanding and knowledge of basic strength training.
3.Create his/her own personal strength training program.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Gym-Class. Class will always meet in the Fitness Studio of the building of Sports and Health Studies. Please dress appropriately to exercise (gym clothes and athletic shoes).
To improve your physical fitness requires regular participation in class activities. Arriving late and leaving class early will affect the participation portion of the grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Weight Training Technique; Safety and Etiquette. Designing a Weight Training Program, based upon goals.	Introduction to Strength Training (General Orientation).
2	Stretching and Flexibility.	Methods of warming and dynamic stretching.
3	Body Weight Training and Machine Training	Introduction to Machines. The Bodyweight Challenge.
4	Finalize Individual Routines and Short Review	To complete individual plan of strength training.
5	Free Weight Variations: Shoulder Exercises	To practice strength training and movement techniques.
6	Free Weight Variations: Chest Exercises	To practice strength training and movement techniques.
7	Mid-term Review and Measuring Progress 1	To measure the repetition maximum of bench press, back squat and dead lift.
8	Free Weight Variations: Back Exercises	To practice strength training and movement techniques.
9	Free Weight Variations: Arm Exercises	To practice strength training and movement techniques.
10	Free Weight Variations: Leg Exercises	To practice strength training and movement techniques.
11	Free Weight Variations: Abdominal Exercises	To practice strength training and movement techniques.
12	Free Weight Variations: Power clean	To practice strength training and movement techniques.
13	Cardiorespiratory Training	To practice circuit training and high intensity interval training.
14	Measuring Progress 2, Final Exam and Feedback	To measure the repetition maximum of bench press, back squat and dead lift. Final Exam and Feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Throughout the semester, students will be expected to study two hours outside of class.（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします）

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Evans N. BODYBUILDING Anatomy. Human Kinetics
Contreras B. BODYWEGHT STRENGTH TRAINING Anatomy. Human Kinetics
The National Strength and Conditioning Association. Essentials of Strength Training and Conditioning Fourth Edition. Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】
Attendance: 60% (Very small assignment involved as well)
Participation, Attitude, Work Ethic, Punctuation, Determination: 20%
Exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable because this is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
1.Students in the faculty of Sports and Health Studies MUST earn the credits of "Functional Anatomy A(機能解剖学)" and "Physical Fitness Measurements and Evaluation(体力測定評価論)" before they resister this class.
2.Students of strength training class must wear athletic attire suitable for strength training, including athletic shoes (walking, running, cross trainers, etc.), shorts or sweats and socks. Students who cannot participate due
to improper clothing will receive a zero on any graded items they miss due to improper attire.

【Outline and objectives】
Strength training class is designed to familiarize students with basic knowledge and skills to enhance the enjoyment of strength training. This course will provide students with different concepts and the correct movements of strength training. Along with strength training, students will also become familiar with proper stretching techniques and cardio-vascular endurance. Each student will work on developing their own strength training program depending on his/her needs.

SOC100IA

レジャー論

谷本　都栄

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、レジャーの概念、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、スポーツ、観光、教育、文化、健康、福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、次世代社会におけるレジャーの方向性を考察する。

【到達目標】
・レジャーの形成過程について、歴史的な背景を含めて理解を深める。
・レジャーの多様性、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業の開始日は 4 月 24 日（金）とします。
・各回の授業計画の変更については学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レジャーの概念①	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 3 回	レジャーの概念②	「遊び」の諸理論、人間と遊び、遊びを源とする文化の発展について学ぶ。
第 4 回	レジャーの形成過程①	近代以降レジャーが大衆化、多様化した経緯とその要因について学ぶ。
第 5 回	レジャーの形成過程②	現代レジャーの分類とそれぞれの特徴について学ぶ。
第 6 回	日本におけるレジャー動向①	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 7 回	日本におけるレジャー動向②	日本の社会構造やライフモデルの変化とレジャーの動向について学ぶ。
第 8 回	中間レポート	第 7 回までの授業内容に関わるテーマ
第 9 回	ライフスタイルとレジャー行動①	各種統計データから、日本人のレジャー行動の特性について学ぶ。
第 10 回	ライフスタイルとレジャー行動②	世代やライフステージで異なる価値観や志向性とレジャー行動の関係について学ぶ。
第 11 回	レジャー環境①	日本の余暇関連行政、レジャー環境に関わる課題について学ぶ。
第 12 回	レジャー環境②	余暇教育、生涯学習の視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 13 回	レジャー環境③	スポーツとまちづくりの視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
・各レポートは、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】
・適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・ワークシート及びリアクションペーパー 60 %
・中間レポート 20 %
・学期末レポート 20 %
総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】
Leisure is an essential, unchanging part of human nature above utility or usefulness. Leisure is associated with behaviours outside of work such as play, sport, recreation, cultural pursuits, social activities and education. This course focus on the role of leisure and recreation in society emphasizing historical processes of development and change, recent phenomena, and leisure behaviours.
The program has the following objectives.
1. Introduce students to the field of Leisure Studies
2. Provide a basic understanding of the theory and specific issues of leisure
3. Encourage students to engage in a wide variety of leisure organizations and events

ECN100IA

スポーツ経済論

宮下　量久

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やスポーツ庁の設置など、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】
現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
冒頭の 10〜15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて自分なりの考えをまとめて、次の授業までに小レポート（400 字以上）を提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法などを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俸はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俸を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	J リーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。
7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	望ましいゲームのルールとはなにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。
13	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
14	試験・まとめと解説	授業の内容に基づき、試験・総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習については、授業前に資料を授業支援システムにアップしますので、一読しておいてください。
・復習については、小レポート課題を次回の授業までに提出することで行っていきます。本授業の準備学習・復習時間は各 1〜2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】
笹川スポーツ財団（2017）『スポーツ白書 2017』
八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I 』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
・成績評価の基準：毎回の講義で課す小レポート (配分： 20 %程度)、期末試験 (配分： 80 %程度)。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
シンクタンク在職時、スポーツ予算の実態やスポーツ庁の組織形態について調査研究した経験を踏まえ、スポーツ行政における課題を明確にし、その解決策を検討していきます。

【Outline and objectives】
This course provides an overview of sports-based microeconomics. You can learn how economics is a useful tool for resolving problems in society through this lecture. We will examine a compelling value proposition for the sports industry and an interesting policy concerning sports in the national government.

MAN100IA

地域スポーツ経営論

川田　尚弘

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
旧うか科目名：**コミュニティスポーツ論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

【到達目標】
地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえで、マネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともにスポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ振興方策の基本を理解し、Ｊリーグクラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域における役割について調査する。また、我が国のスポーツ環境とヨーロッパや南米における地域スポーツクラブの現状を比較し、スポーツ事業の計画を立案する。(グループトークとグループ発表を授業内で実施する)
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 5 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	我が国のスポーツ振興方策と行政のかかわり (スポーツ基本法、スポーツ立国戦略の概要を理解する)
2	地域におけるスポーツ振興方策とと行政の関わり	我が国のスポーツ振興方策の具体例を示し、地域の行政がどのように関わっているのか理解する。
3	地域スポーツクラブの機能と役割	住民が自主的に運営する地域スポーツクラブの例を示し、その機能と役割について自身の考えを示す。
4	地域スポーツクラブの立ち上げと運営	我が国の NPO 法人で運営している総合型地域クラブを事前に調査し、自身がどのように関わり事が出来るのか、授業内で発表する。
5	地域におけるスポーツ組織の運営	スポーツボランティアの必要性を理解し、モチベーションの確保についてグループディスカッション・グループ発表を行う。
6	総合型地域スポーツクラブとは	我が国のモデルとなるスポーツクラブを映像でチェックした後、自身の考えをレポートにまとめる。
7	総合型地域スポーツクラブのシュミュレーション	前回の授業を復習し、総合型地域スポーツクラブの運営計画を作成する。
8	地域スポーツクラブの育成	総合型地域スポーツクラブの育成と運営について、自身の考えを整理する。(レポート提出)
9	スポーツ組織の運営と事業①	スポーツ組織の多様性と役割を学び、地域スポーツの構造を知る。
10	スポーツ組織の運営と事業②	ヨーロッパにおける地域スポーツクの実情を事前に調査し、我が国との違いについてまとめる。
11	海外における地域スポーツクラブの実情	ドイツとブラジルの総合型地域スポーツクラブの実例を示し、我が国の地域スポーツクラブ育成の課題について、ディベートを行う。
12	J リーグは百年構想	J リーグの理念を事前に調査し、スポーツの意義や地域スポーツの振興について自身の考えをまとめる。
13	スポーツ事業の計画・運営・評価	スポーツ事業の種類や基本的な進め方を学んだ後に、プログラムサービス・クラブサービス事業の計画・運営・評価を行う。
14	地域におけるスポーツ経営の総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①スポーツ基本法を理解する。
② J リーグの理念を調べる。
③我が国におけるスポーツ振興の実態を調査する。
④海外の総合型地域スポーツクラブを調査する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎授業でレジュメを使用する。

【参考書】
(1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ, Ⅱ： (公) 日本体育協会
(2) J リーグ百年構想　J リーグ出版
(3) 総合型地域スポーツクラブ：大修館書店
(4) クラブづくりの 4 つのドア：文部科学省
(5) スポーツ基本法・スポーツ立国戦略の概要　、スポーツ庁について、文部科学　省ホームページ
(6) 海外の事例 (ビデオ、資料など)

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度等）30%、レポート 30%、期末試験 40%より評価する。
授業が教室で行うことが出来るようになったら、レポートと小テストなど上記の条 件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業環境を適切に保つよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The objective of this class is to know about the organization and the goals of the sports administration in Japan.

ARSl100IA

スポーツ組織論

伊藤　真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3．組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは 1 マネジメントの使命、方法、戦略について学ぶ	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。マネジメントの必要性、イノベーションについて学習する。
3	スポーツと組織について	日本のスポーツに関する政策について、各スポーツ団体の組織構造について学ぶ
4	組織論とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習する。
5	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
6	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
7	効率的に目標を達成する―組織構造―	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する
8	スポーツ組織におけるガバナンス	国際的なスポーツ組織、国内のスポーツ組織の事例を踏まえ、組織におけるガバナンスについて学ぶ
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
11	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
12	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13	プレゼンテーション I	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料をスポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、分析し、プレゼンテーションを行う。
14	プレゼンテーション総括	プレゼンテーションの総括ならびに授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）+グループプレゼンテーション（40%）+期末レポート（40%）= 100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

ARSl100IA

スポーツとまちづくり

伊藤　真紀

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3．組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは 1 マネジメントの使命、方法、戦略について学ぶ	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。マネジメントの必要性、イノベーションについて学習する。
3	スポーツと組織について	日本のスポーツに関する政策について、各スポーツ団体の組織構造について学ぶ
4	組織論とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習する。
5	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
6	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
7	効率的に目標を達成する―組織構造―	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する
8	スポーツ組織におけるガバナンス	国際的なスポーツ組織、国内のスポーツ組織の事例を踏まえ、組織におけるガバナンスについて学ぶ
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
11	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
12	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13	プレゼンテーション I	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料をスポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、分析し、プレゼンテーションを行う。
14	プレゼンテーション総括	プレゼンテーションの総括ならびに授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F. ドラッカー著）ダイヤモンド社
Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）＋グループプレゼンテーション（40%）＋期末レポート（40%）＝100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
We will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

SOC100IA

スポーツ文化論

早瀬 健介

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは私たち人間の“こころ”と“からだ”の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つといわれている。
なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、私たちのスポーツの価値をどのように認識しているのだろうか。
本授業ではスポーツを様々な視点から見ることにより、スポーツが現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできない文化であることを再確認する。
我々の身近にあるスポーツがどのような変遷を経て現在に至っているのか、毎年世界各地で開催をされるオリンピックをはじめとする様々な国際スポーツ大会の在り方から身近なスポーツ環境まで、スポーツは我々の生活に深く根ざしている。
本授業ではこれらを元にスポーツが内包する魅力について知見を深めるとともに、それらを踏まえ自らがスポーツについて語る力を養いたい。

【到達目標】
様々なスポーツ関連事象を通して、現代社会を見ることのできる知識を身につける。
2017 年 4 月に策定された第 2 期スポーツ基本計画をはじめ、目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて展開されてきた様々な施策や、今後のスポーツ振興の在り方等に関して、自らの言葉で語ることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナウィルス感染防止対応の授業開始は 4 月 27 日としますが、現状を鑑み当面は別添資料 (授業時間外の学習に記載) に基づく課題作成 (ワード) を行ってください。
対面授業再開後の授業内容は次の通りです。
国際大会を含め様々なスポーツイベントやアスリートを取りまく環境が変わりつつある今日、それらをめぐる様々な事象からスポーツについて考えるとともに、我が国における体育・スポーツへの取組やスポーツが社会に及ぼす影響など、スポーツに関する身近な題材を参考に、自らの生活との関わりの中でスポーツの価値について考える。
必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P. を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では、普段私たちが何気なく目や耳にしてきたスポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにするとともに、今後の各自のスポーツ振興に役立てることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及びスポーツの成立過程を概観	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項。また、スポーツはどのような歴史をたどり現在に至っているのか概観を学習
2	スポーツ基本権	スポーツに関する国民の権利を保障する法的根拠を理解
3	スポーツ振興法及び「体育の日」について	当時の逐条解説等をもとに、昭和 36 年のスポーツ振興法を学習。加えて「体育の日」について理解を深める
4	我が国のスポーツ活動の現状と課題	「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）」データをもとに我が国のスポーツ活動の現状について理解する
5	我が国の体育スポーツ施設	「体育・スポーツ施設現況調査（文部科学省）」及びスポーツ庁のデータ等をもとにスポーツ環境を考える
6	2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	「2020 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（内閣府）」データ等をもとに東京大会でのおもてなし等について考える
7	スポーツ立国戦略とスポーツ基本法	平成 22 年に策定されたスポーツ立国戦略について、その背景を理解するとともに、スポーツ基本法前文について学習
8	スポーツ基本法	平成 23 年に約半世紀ぶりに改正された「スポーツ基本法」の内容について理解
9	スポーツ基本計画	平成 24 年に策定された「スポーツ基本計画」の概要について学ぶとともに、平成 27 年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」について理解を深める
10	子どものスポーツ環境	体力低下のデータ等をもとに子どものスポーツ環境について考える
11	地域スポーツクラブ	豊かなスポーツ環境の創造に向け「新しい公共」として期待される地域スポーツクラブについて理解を深める
12	オリンピックについて考える①	オリンピックを支えている基本的な考え方を学ぶとともに、祭典競技に対する考え方と競技内容等について理解を深める
13	2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて考える	目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに関する諸課題について考える
14	授業内試験及び半期の振り返り	授業内試験の後に模範解答及び解説を行うとともに、半期授業の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「スポーツ文化論」の当面の授業について (課題作成)
次の課題について、下に示す文書スタイルに合わせて作成してください。
(表題については、課題内容に即していれば、どのようなものでも構いません)
1　「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と、平成 23 年制定の「スポーツ基本法」前文の冒頭に明記されていますが、その理由についてあなたの考えを述べてください。
2　「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」のそれぞれについて具体的事例・内容を示して説明をすると
ともに、その関係性についてあなたの考えを述べてください。
3　2020 東京オリンピックの陸上競技マラソンが、北海道 (札幌) で開催されることについて、あなた　の考えを述べてください。
4　あなたは「スポーツ」とは何であると考えますか。あなたの考えを述べてください。
(参考　ヨーロッパ・スポーツ憲章、スポーツ宣言、スポーツ基本法　等)
5　日本における「スポーツボランティア」の始まりは何であったといわれていますか。また、「スポーツボランティア」はスポーツであると考えることについて、あなたの考えを述べてください。
6　我が国のスポーツ実施率 (文部科学省・スポーツ庁調べ) の推移及び、その具体的活動内容を踏まえ、現在の成人のスポーツ実施状況について簡潔に説明してください。
7　現代社会において「スポーツ」が産業や経済に及ぼす影響には、どのようなものがあると考えますか。具体的な事例を示すとともに、あなたの考えを述べてください。
8　現代社会における「スポーツ」と「メディア」の関係について、今後のスポーツ振興の在り方も踏まえて、あなたの考えを述べてください。
9　現代社会において「スポーツ」と「政治」はどのような関係にあるとあなたは考えますか。具体的な事例を示すとともにあなたの考えを述べてください。
10　これからの近代オリンピックの在り方について、あなたの考えを述べてください。
文書スタイル： A4 縦方向使用　横書き (文字組)　 MS 明朝 10.5 ポイント 40 字 ×30 行（1200 字以内）
表題及び学籍番号・氏名等は、文字数に含みません。
表題、学籍番号・氏名を上段に記載し、A4 1 枚 (ワードで作成) に収めてください。
※　作成の際に、使用した、引用・参考文献等についても記載してください。
(1 年時「スポーツ哲学」で使用したテキストも参考にしていただければ幸いです。)
作成された課題は、前期当該授業内容として認めるとともに、成績評価に反映もいたします。
なお、これら課題については、5 月以降に行われる予定の対面授業内で進捗状況に合わせ解説を加えたのちに、回収します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリント等を配布

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート・小テスト (30%) 及び、定期試験（70%) による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の 1/3 を越える学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外において行う学習活動 (主に予習・授業準備) に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。

【その他の重要事項】
中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】
It is the human common culture who the sports contribute to our "mind" and healthy development of "the body", and has an influence on the social formation with a rich definite aim brightly. The word "sports culture" is used well, but it is throught that we have not yet understood "sports culture". The student observes sports from various viewpoints by this lecture. And the student reconfirms that sports are essential culture for all people living in the modern society.

SOC200IA

スポーツ取材論

増島 みどり

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。取材における「5 K」とは何か考える。オリンピックも題材にする。

【到達目標】
授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「五感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話しを聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式 HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話しを聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。
6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するために、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスペクト、遠すぎても、近過ぎてもうまくいかない理想の距離感について。
8	新しい取材分野としてのサッカー	９３年、サッカー J リーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると３００人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	AD カードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらう
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえでの取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50 %）、授業での意欲（25 %）、レポート（25 %）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手
１０年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏
１１年＝サッカーなでしこジャパン W 杯優勝メンバー・GK 山郷のぞみ選手
１２年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏
１３年＝サッカー「なでしこリーグ」ＩＮＡＣ神戸専属トレーナー＆澤穂希コンディショングトレーナー・山田晃広氏
１４年＝サッカー「なでしこジャパン」狭山ＡＳＧＫ・山郷のぞみ選手
１５年＝陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏
１６年＝リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美選手
１７年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１８年＝リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト　飯塚翔太選手
１９年＝９６年アトランタ五輪 1600 Mリレー 5 位、日本記録保持者・大森盛一氏

【Outline and objectives】
We learn the coverage method of sports to be formed on a new custom of the everyday life.
Using a moving image and the interview of sports, We acquire the power of bservation.

POL200IA

スポーツと政治

赤堀　宏幸

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピック開催など、世界的な競技会、イベントに見られるように、世界各国でスポーツと政治の関係は、多面的に切っても切り離せないようになっている。スポーツと政治は、国際的にも各国の事情でも、政治とのつながりがなく進んできた例は非常に少なく、利権などに絡んだことや、「大会不参加」など、政治に利用されていたことが歴史にも刻まれている。過去のオリンピックや競技会などのイベント、政策などを通じ、スポーツと政治はどうあるべきかを考察し、視野を広げていく。

【到達目標】
スポーツと政策、スポーツと法律、スポーツと外交など、多くの国際的な関係事例を見ながら、日本のスポーツの今後にかかわる政治との関係に関心を持てるようにする。そのうえで、多岐にわたる情報収集力、分析など、対処法や方向性も含めて多種多用な考え方を学習し、実際のスポーツイベント実施や運営に必要な事項を知識にできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、小レポート、期末レポート提出。元オリンピック選手、スポーツを含めた文部科学政策に関わった政治家、日本オリンピック委員会や日本体育協会加盟団体でオリンピックを推進してきた関係者の話、取材した経験を通じ、オリンピックや国内大会などへの提言的な企画など多角的な思考、考察する時間を設け、レポと、原稿作成など記述する時間を多くして、学習していく。5 月８日授業開始。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要説明、授業計画の説明。 及び全般的なスポーツと政治に関する一般論
2	国交のない国とのスポーツ交流	国交のない国でのスポーツイベントに参加したアスリートの考えていたこと。その後、国交正常化への道につながる
3	オリンピックにおける政治との関係１	オリンピックにおける政治学、近代オリンピックによって支配化を意図した例などを紹介し、政治とスポーツの関係を見る
4	オリンピックにおける政治との関係２	政治、国交回復への道、平昌オリンピックで、韓国と北朝鮮の統一チームが出場した例から何を見るか
5	オリンピックにおける政治との関係３	オリンピックの大会開催誘致、参加への政治介入。 各競技の世界選手権、アジア選手権などの開催と政治介入
6	オリンピックにおける政治との関係４	オリンピック開催、オリンピック選手育成・強化は体制護持から始まったのか
7	オリンピックにおける政治との関係５	モスクワオリンピックの米国などのボイコット（日本も不参加）と今日まで
8	オリンピックにおける政治との関係６	ロサンゼルスオリンピックのロシアなどのソ連のボイコット（日本は参加）と今日まで
9	政治と国民のスポーツ活動１	ドイツ分断時、東ドイツにおける国民のスポーツ活動の目的と状況
10	政治と国民のスポーツ活動２	スポーツとアパルトヘイトとの関係・変遷、オリンピックでの状況
11	政治と国民のスポーツ活動３	幻の東京オリンピック、第二次世界大戦後のスポーツ復活
12	スポーツ政策１　国民体育大会	国民体育大会開催発案とその後のスポーツ政策、体育協会と政治家の関係。スポーツ基本法のなりたち
13	スポーツ政策２　スポーツ六法	２１世紀になってからの現実。スポーツ基本法をはじめとするスポーツ六法と今日まで
14	スポーツ政策３　世界のスポーツ禁止令などの政策	スコットランドで発布されたゴルフ禁止令など、各国のスポーツ奨励と禁止令。スポーツとレジャーの区分、区別とスポーツ振興策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞（ニュース記事、解説、社説、コラムを中心）に目を通し、必要なキーワードをまとめたおく。雑誌、テレビなどを通じてオリンピックやスポーツ政策に関するキーワードを記録しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新聞（スポーツ紙を含む）、雑誌、書籍

【参考書】
各種新聞記事、雑誌記事を中心とする

【成績評価の方法と基準】
・授業内に実施する小レポート　40 %
・全授業終了後に実施するレポート　60 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Expand the field of view to le a rn the relationship between sport and politics.Olympic and politics are inseparable. Political use of the sporting event was in the past.Moscow Olympic games there is non-participation for political reasons.

ECN200IA

スポーツマーケティング論

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、スポーツマーケティングに関する理解を深め、重要な概念や関連する理論についても学習することを目的とする。

【到達目標】
スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。
本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけではなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は学内での授業実施が可能になるまでの間、支援システムを活用した内容に変更します。開始は 5 月 7 日とします。
尚、学内での授業実施が可能にになった場合は講義形式でおこないます。
授業ではプロジェクターを使用する。本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケターの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する
11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際①	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際②	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017 年

【参考書】
特に設けない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト (60%) および授業内レポート (40%) の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

【Outline and objectives】
This course is advanced to learn of sport marketing. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply important constructs and theories related to sport marketing.

ECN200IA

スポーツ産業論

吉田　政幸

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】
スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：
(1) スポーツ産業の構造および現状
(2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
(3) 米国大学スポーツの歴史的変遷、概要、産業規模
(4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。本授業は教科書（スポーツ産業論、第 6 版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ産業の構造と現状	20 世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史的変遷、構造、現状について学習する。
第 2 回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第 3 回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第 4 回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第 5 回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第 6 回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが災害復興支援に取り組むように、スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的責任がある。その概念規定、種類、特徴を学ぶ。
第 7 回	米国のプロスポーツビジネス	米国には 4 大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第 8 回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体である NCAA の役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。
第 9 回	サービス業としてのスポーツサービス	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第 10 回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約 4 割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第 11 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第 12 回	スポーツイベントレガシー	スポーツイベントの開催を通じて地元地域が期待できる持続的恩恵をレガシー（遺産）と呼ぶ。今回はその定義、種類、形成方法、そしてレガシーを築くことの意味について学習する。
第 13 回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約 7 割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。
第 14 回	スポーツ産業のまとめ	日本のスポーツ産業の現状と特徴を振り返るとともに、今後の展望について考察し、学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者はテキスト（スポーツ産業論、第 6 版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原田宗彦（編）(2015) スポーツ産業論（第 6 版）. 杏林書院：東京.

【参考書】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
学期前半の内容に関する小テスト： 40 点
期末試験： 50 点
米国の大学スポーツに関するレポート： 10 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
履修者がリアクションペーパーに記入した疑問や質問について、授業内で議論したいと思います。

【その他の重要事項】
テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】
The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通すること。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につける。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。4K での精緻な映像に始まって 8K の現実と遜色ない映像の世界は、スポーツにこそ最高の技術を使った伝達の価値を見いだせると語っているようだ。東京 2020 を伝えようとするメディアの新たな動きを経験した上で、スポーツメディアの近未来を考える機会としたい。

【到達目標】
オリ・パラという大きなスポーツイベントを契機に、メディアは大きな方向転換をしようとしている。講義を経て獲得すべきは；
活字、電波、写真、モバイル。メディアの種類が変化するのではなく、その需給バランスが時代を画すほどにどう変わってきたのか。
「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアはこの曲がり角をどうクリアしようとしているのか。
その動向、情報を見聞きするにつけ、そこに社会の投影されるのを知り、世の人々の関心がどのように変わってきたのか。
ストリーミング、OTT、SNS、見逃し配信。さまざまなルートを通して、スポーツがそれ自身メディアとしてどう膨張しているのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアだ。受容媒体の重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近い。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中でのスポーツの占める位置を窺う。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	活字メディアの仕組み	スポーツメディアは、メディアの一つのジャンルである。そこをのぞき見るには、活字メディアの世界の常識と理念を知っておかなければならない。後に放送メディアも大きな影響を受けた取材から報道までのありようを見る。
4	電波メディアの仕組み	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	活字メディアにスポーツメディアの核を見る	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらスポーツメディアの特徴を知る。
6	事業を興すスポーツメディア	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきたのだ。
7	スポーツ中継（1）	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えない部分を音声実況の歴史から初めて含めて細部まで開示する。
8	スポーツ中継（2）	ラジオとテレビ。それはメディアの構造の違いだけでなく方法論の違いにもつながっている。音中心のメディアと映像主体のメディアを比べ、重ね合わせることでスポーツ報道のある部分が見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
12	スポーツメディア世界の今	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加。ストリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
13	東京 2020 にスポーツメディアの近未来を見た。	テレビ中のスポーツがストリーミングに向かって急激に舵を切ったかのように見える。東京 2020 で経験した新しいスポーツメディアのありようを振り返る。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことだ。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ。そこでひらめいた読後感はさまざまなシーンで有用だ。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かおう。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず。

【参考書】
「２１世紀スポーツ大事典」中村敏雄ほか編集主幹　大修館書店
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著　慶応大学出版会
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著　ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
配分：
講義中に、指定する時間内で小論文を要求する。毎回の小論文は成績評価の対象となり。１回最高点３点。１３回のすべて満点を取れば、３９点。
最終講義内に行う試験７０点。
すべてフルに獲得すれば１０９点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い世界観、具体事例を示せるかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】
テレビを見ない世代が増えている中で、2020 東京はそうした若い人たちにどんなインパクトを残すのだろうか。メガイベント後の講義だけに、新鮮な記憶とともに“現代”を追いかけたい。
スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早いという声があった。留意しておきたい。

【その他の重要事項】
スポーツジャーナリストとしての４０年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。

スポーツメディアの”期待”は、栄光・感動・勝利といった手垢のついた概念を持ち出すことで処理されようとするのか。それとも、そこから一歩抜け出たスポーツ観を提示してくるのか。それこそが本来は五輪・パラリンピックのレガシーであるべきなのだが。

【Outline and objectives】
To be familiar with the sports philosophies of existing media such as existing newspapers, broadcasting, Internet and tablets that are prominent in recent years. For that purpose, while understanding the trajectory and current situation of growth from the occurrence of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand the media world where remarkable changes are anticipated.

ECN200IA

スポーツ行政論

川崎　登志喜

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 国・都道府県・市区町村の 3 つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2. 身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】
1. スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2. 地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3. 諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
2	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の組織と役割について理解できる
3	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
4	スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画	スポーツ振興法の役割と課題について理解する。 スポーツ振興基本計画の役割と課題について理解する。
5	スポーツ立国戦略	スポーツ立国戦略についてその役割とその評価について理解する。
6	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	スポーツ基本法について理解する。 スポーツ基本計画について理解する。
7	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
8	都道府県のスポーツ推進計画と課題	都道府県のスポーツ推進計画についてグループ発表
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
10	市区町村のスポーツ推進計画と課題	市区町村のスポーツ推進計画についてグループ発表
11	スポーツ予算と財源	スポーツ振興の財源について理解する
12	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する
13	諸外国のスポーツ行政	欧米のスポーツ行政を中心に、諸外国からみた我が国のスポーツ行政の特徴を理解する
14	まとめ	これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】
小笠原正ほか「スポーツ六法」2011
日本スポーツ法学会編「詳解　スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】
(1) 出席確認：毎時間確認する
(2) 試験方法：レポート 2 編　80%
(3) 評価基準：平常点（発表・学習態度を含む）20%
（2 ／ 3 以上の出席が必要）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

【Outline and objectives】
This class purpose is
1. It can explain the mechanism and policies of sports administration at three levels, national, prefecture, municipality.
2. It is possible to think about the problem and sports business on sports from the perspective of sports administration.

SOC300IA

スポーツ消費者行動論

吉田　政幸

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：3〜4 年次／単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではスポーツイベントに参加するスポーツ消費者について学ぶ。受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者との関係性を強めながら経営目標を達成する方法について理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
(2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
(5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツ消費者行動について理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義と類型について学習する。
第 2 回	スポーツ消費者行動モデル	スポーツ消費者の特性および意思決定過程について学ぶ。
第 3 回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
第 4 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル	観戦型スポーツ消費者の類型について学習するとともに、彼らの意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルについて学ぶ。
第 5 回	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
第 6 回	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
第 8 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考える。
第 9 回	スポーツにおける顧客価値の創造	顧客価値の考え方の背景にある顧客中心の論理を学ぶとともに、顧客に価値を提供する際に欠かすことのできない製品の価値とブランドの価値の内容について理解を深める。
第 10 回	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
第 11 回	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。
第 12 回	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアや e クチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。
第 13 回	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
第 14 回	スポーツ消費者行動のまとめ：現状と今後の展望	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性を考察した結果を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者はテキスト（よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房.

【参考書】
原田宗彦（編）(2015) スポーツ産業論（第 6 版）．杏林書院：東京.

【成績評価の方法と基準】
学期前半の内容に関する小テスト： 40 点
期末試験： 50 点
スポーツ消費者の社会的アイデンティティに関するレポート： 10 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論を基に履修者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】
This course provides a detailed examination of sport consumers at sporting events. Students will learn important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong relationships with sport consumers.

SOC300IA

スポーツイベント論

吉田　政幸

サブタイトル：　【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではスポーツイベントに参加するスポーツ消費者について学ぶ。受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者との関係性を強めながら経営目標を達成する方法について理解を深める。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下のとおりである：
(1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
(2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
(4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
(5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツ消費者行動について理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義と類型について学習する。
第 2 回	スポーツ消費者行動モデル	スポーツ消費者の特性および意思決定過程について学ぶ。
第 3 回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
第 4 回	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル	観戦型スポーツ消費者の類型について学習するとともに、彼らの意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルについて学ぶ。
第 5 回	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
第 6 回	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。
第 8 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考える。
第 9 回	スポーツにおける顧客価値の創造	顧客価値の考え方の背景にある顧客中心の論理を学ぶとともに、顧客に価値を提供する際に欠かすことのできない製品の価値とブランドの価値の内容について理解を深める。
第 10 回	スポーツマーケティングと経験価値	スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。
第 11 回	スポーツ消費者と関係性マーケティング	関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。
第 12 回	スポーツ消費者とインターネット	インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアや e クチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。
第 13 回	スポーツ消費者の社会的役割	スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。
第 14 回	スポーツ消費者行動のまとめ：現状と今後の展望	現代社会におけるスポーツ消費者行動の重要性を考察した結果を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者はテキスト（よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
仲澤眞・吉田政幸（編著）(2017) よくわかるスポーツマーケティング．ミネルヴァ書房.

【参考書】
原田宗彦（編）(2015) スポーツ産業論（第 6 版）．杏林書院：東京.

【成績評価の方法と基準】
学期前半の内容に関する小テスト： 40 点
期末試験： 50 点
スポーツ消費者の社会的アイデンティティに関するレポート： 10 点
合計： 100 点
【レポートの評価基準】
10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
8 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
6 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。
2 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論を基に履修者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
テキストに沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

【Outline and objectives】
This course provides a detailed examination of sport consumers at sporting events. Students will learn important concepts and theories related to the psychological and behavioral characteristics of sport consumers. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how sport organizations achieve organizational goals by fostering strong relationships with sport consumers.

ECN200IA

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤　真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
旧うか科目名：**スポーツクラブ運営論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる
3．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 5 月 7 日（木）より開始します。
学習支援システムに授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツにおけるモノ、カネ 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツにおけるモノ、カネ 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について
5	スポーツにおけるモノ、カネ 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、 広告 PR について学習する。
11	期末レポート課題提出	スポーツビジネスにおけるテーマに関する課題（後日提示します）についてレポートを提出する。
12	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】
13	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility（CSR）事例研究】
14	まとめ	これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、
リアクションペーパーの内容（20 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

LAW200IA

スポーツ法学Ⅱ

飯田　研吾

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、日本のスポーツ界への国内外の注目度が高まるとともに、スポーツの社会的価値がより重要性を増している。他方で、日本のスポーツ界では、スポーツ事故、代表選考、スポーツ選手の契約問題、アンチ・ドーピングの問題、暴力・ハラスメント、スポーツ団体のガバナンス等、様々な問題が生じている。
そこで本授業では、現実にスポーツ界で起きている様々な事例を題材としながら、背後にある法律知識や法律問題を理解し、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力の習得を目標とする。

【到達目標】
現実にスポーツ界で起きている様々な事例について、背後にある法律知識や法律問題を理解することができる。
スポーツ界で起きている問題について、法的な視点から解決策や予防策を提示することができる。
特徴的なスポーツ紛争（裁判例や仲裁事例等）を学ぶことで、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本としながら、質疑応答を行いながら教員と受講生との間で双方向型の授業を実施し、受講者に考える機会を与えられるよう心掛ける。できる限り、各テーマに関係する具体的な事例を紹介しながら解説を行う予定である。
また、毎回の授業において、前回授業以降に起きたスポーツ界の話題について、法的問題や解決策、検討事項などを発表してもらうことを予定している（詳細は授業で説明する）。
なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、授業の進め方、参考テキスト、評価方法についての説明
2	スポーツ法の体系	スポーツに適用される法律、スポーツ基本法、スポーツ固有法
3	スポーツ紛争と解決手段	スポーツ紛争の特徴、裁判、スポーツ仲裁、近時の事例紹介
4	スポーツ事故と責任	スポーツ指導者・選手の注意義務・安全配慮義務、スポーツ事故やスポーツ障害の予防と対策
5	代表選考を巡る問題	代表選考を巡る法的問題の所在、紛争事例の検討
6	スポーツ団体のガバナンス	国内競技団体のガバナンスの意義・重要性、不祥事事件の対応例の検討
7	アスリートの法的地位	プロスポーツ選手の法的地位、アマチュアスポーツ選手の法的地位、選手会の意義
8	スポーツと契約	アスリートに関する契約、スポーツ会員契約とトラブル、スポーツ観戦契約
9	スポーツと知的財産権	肖像権、パブリシティ権、アンブッシュ・マーケティング、放映権
10	スポーツのインテグリティ①（アンチ・ドーピング、八百長問題等）	アンチ・ドーピング規に関するルールとその課題、紛争事例の紹介と争い方、八百長の問題点、無気力試合
11	スポーツのインテグリティ②（暴力、ハラスメント等）	暴力・ハラスメントに関する法令の解説、責任の所在、根絶のための取組
12	スポーツにおける子どもの権利	子どもの権利に関する法令、最近の議論の状況、海外での取組例
13	スポーツイベントと法律実務	スポーツイベントを開催する際の法的問題点、サステナブルな大会の実現に向けた取組、東京オリパラを振り返る
14	授業内テスト及び総括	すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習
授業日までの１週間に起きたスポーツに関する報道等を確認し、法的な観点から検討しておく。これについては、毎回、発表してもらうことを予定している。文献を事前に読む必要がある場合には、予め指示する。
復習
必要に応じて課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料（印刷物）を配布する。

【参考書】
「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「標準テキスト：スポーツ法学（第 2 版）」日本スポーツ法学会監修（エイデル研究所）
「スポーツの法律相談」青林書院
「スポーツ法への招待」道垣内正人　他（ミネルヴァ書房）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正　他（不磨書房）
その他、随時、参考になるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。
成績評価の方法は、授業内テスト６０％、授業への取組み（平常点）４０％とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは、グループディスカッションの要望もあったため、今年度はそういった形式も取り入れていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にはパワーポイントや配布資料を用いて講義を進行する予定である。

【その他の重要事項】
本科目は、新しい法改正や制度改正、事件・事故等の発生によって、講義内容や順序を変更することがある。また、一部の講義で、特定の分野に高い専門性を有するゲストスピーカーを呼ぶことも検討している。

【Outline and objectives】
Japan will host the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games, attracting attention both in Japan and abroad, and the social value of sports is getting more important. On the other hand, there are several problems and disputes in the fields of sports, such as sports accident, selection, contract issue of athletes, anti-doping problem, violence / harassment, etc.
In this class, from the various cases in the fields of sports, to understand the legal knowledge and the legal problems, and to learn the ability of legal thinking and management which is necessary as a person who will engage in the fields of sports in the future.

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（新聞）

荻田　則夫

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアによって伝えられるスポーツ情報は多種多様だ。スポーツに関わる人間なら、情報の真贋、情報伝達の過程、伝えられたファクトの背景にまで思いを寄せることが重要だ。長年、五輪を中心としたスポーツ報道に携わってきた講師とともに、新聞を中心としたスポーツ報道全体を考察する。

【到達目標】
新聞以外にも雑誌、放送、ネットにはん濫するスポーツ情報の現状を把握し、メディアの特質を理解する。スポーツに関わる人間として情報を取捨選択し、スポーツの本質を正しく分析する能力を備える。スポーツ記事の書き方を例に、日常生活でも分かりやすく物事を伝えられる文章構成力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
メディアのスポーツ報道を五輪、野球、相撲などのメジャー競技、あるいはマイナー競技などの項目別に点検。国際情勢や社会現象との関連にも注意を払いながら、スポーツジャーナリズムの現状と課題を探る。スポーツを文章で伝える基礎的技術も学ぶ。講義の順番、内容は変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズム論序章	授業概要の説明。新聞、雑誌、放送、デジタルメディアにおけるスポーツ報道の特性を分析する。
2	東京五輪報道の分析	終了したばかりの東京五輪報道を点検する。
3	新聞におけるスポーツ報道	スポーツ報道の「王道」であった新聞報道の変遷。スポーツ新聞の成長と衰退。
4	スポーツ報道と通信社	世界のスポーツ情報の多くは通信社によって拡散してきた。スポーツ報道における通信社の役割と記録報道の重要性。
5	新聞におけるスポーツ報道の各種パターン	ストレートニュース、雑感記事、囲み記事、解説、コラムなどの新聞のスポーツ記事の定型を知り、優れたスポーツ報道を探る。
6	報道の視点	スポーツの何を伝えるか。ジャーナリストに求められるスポーツの見方、伝え方を考える。
7	取材方法論	優れた報道の基礎は取材にある。スポーツの本質への理解と競技場外での取材の蓄積が重要だ。制約の多いスポーツ取材の仕組みも知る。
8	インタビュー論	報道に厚みを増すインタビュー。競技場内外での会見、インタビューの現状を知ったうえで、本音を引き出すインタビュー手法を探る。
9	五輪報道の変遷とメディア	スポーツ界最高峰のイベントである五輪報道の変遷とメディアにおける位置づけを考察する。
10	野球報道とサッカー報道	日本のスポーツ報道の原点は野球にある。欧州では五輪以上の関心を集めるサッカー報道。新聞の拡販とも関係する人気競技の報道を検討する。
11	報道におけるマイナーとメジャー	注目されないマイナー競技をめぐる報道の論理。伝えるべきニュース素材とは何か。
12	スポーツ報道実践研究	最近のスポーツ記事を教材に、報道のあり方を検証する。
13	記事作成のノウハウ	基本的な記事作成のノウハウを検討。日常生活にも活用できるわかりやすい文章作成法を学ぶ。
14	試験＝授業内レポート作成	前回学んだ記事スタイルに従い、与えられたテーマに沿って文章を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアのスポーツニュース、特に新聞報道を日常的に注意深く見る、読む。新聞を読む習慣をつける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じレジュメを配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
講座内で作成するレポートの内容（６０％）、普段の受講時の意見表明などの受講姿勢（４０％）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメをより効果的に活用する。学生との意見交換を図る。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Sports news reported by news media is varied in its form and style. If you
are involved in sports, no matter a sports fan, an athlete or a reporter for a news media, it is very important to be aware of the authenticity of the report, how the information has been transmitted and the background
information of the fact.
This course will be conducted by a sport journalist, who has been working
in the world of sport journalism especially covering Olympic Games for more
than 40 years. Students will examine about the entire sport journalism with a focus on newspaper coverage throughout the course.

SOC300IA

スポーツジャーナリズム論（放送）

佐塚　元章

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 4/Fri.4**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
報道、歴史観、社会正義、批評性、啓蒙性などをジャーナリズムの本質とするならば　日本のスポーツジャーナリズムはそれらを追求する存在として発達してきたのか。とりわけ放送メディアがスポーツジャーナリズムとして歴史的にどう評価されるのか、現代社会に如何に貢献し、影響力をもっているのかを考える。２０２０東京オリンピック・パラリンピックの報道については常にジャーナルな視点から関心を持たせる。

【到達目標】
スポーツジャーナリズムというテーマを軸に　様々なメディアから情報を収集し、その情報の普遍化、客観化の能力を身につける。さらに判断する力　自己の考えを確立する。それらを言語化し、仲間に発表・表現に至ってゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基本講義に加えて、ビビッドな今日的ニュースを随時教材として取り上げ、常に学生に問いかけ、発表させながら授業をすすめていく。収集している映像、音声資料をふんだんに使用する。自ら現役として現在制作・オンエアーしている多様な番組の生の現場体験を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ジャーナリズムへの誘い	自己紹介、授業のオリエンテーション。成績評価の考え方を説明する。ジャーナリズムとは何か、ＳＮＳ時代におけるマスメディアの現状を認識をする。学生諸君のメディア接触傾向のアンケート調査をおこなう。
2	マスメディアの歴史と特質そして今後は	新聞・ラジオ・テレビの発達の歴史、社会の役割を学ぶ。ネット時代における新聞・ラジオ・テレビはどのような存在となるのかを展望し、メディアアクセスの在り方を考える。
3	日本と世界の放送体制の比較研究	日本はＮＨＫ・民放の並立体制、アメリカは商業放送など様々である。放送の公共性とは何か、放送法の基本理念とはなにか、放送界の基礎知識を学ぶとともに現行制度の課題を解説する
4	マスメディアのスポーツ報道の歴史	新聞・ラジオ・テレビのスポーツ報道の歴史をたどりながら、戦争・戦後復興・災害復興など社会史とスポーツのかかわりを学ぶ。
5	スポーツ放送の現場とは	スポーツ放送の３本柱である中継、ニュース、番組はどのような歴史を歩んできたのか。それぞれのスポーツ放送を作る仕組み、取材方法、制作体制、番組提案、実況アナウンサー、スポーツキャスターとは何かなど放送現場の実際を解説する。 教材　ＮＨＫ「スポーツ実況８０年」ほか
6	スポーツを見るジャーナルな視点とは	スポーツジャーナリストにとって大切なことはいかなる視点をもってスポーツを見るかである。それにはスポーツとは何かという根源的な問いかけがまず必要である。そして正しい歴史観に基づく価値判断が生まれる。２回にわたってスポーツを見る視点とは何かを考える。またそのための取材・事前準備のあり方も解説する。 （その１）ゲームを読み解く（試合前取材、分析、予想、試合の分岐点、勝因敗因、技術・戦略采配を批評する） （その２）大会を読み解く（オリンピック、夏の甲子園大会、ラグビー大学選手権など大会全体を講評する。かつシーズン全体を講評する）。
7	放送とスポーツの関係	スポーツ興隆は放送によってもたらされ、また放送 通信技術はスポーツ放送が契機となって発展してき た。放送はスポーツに何をもたらしてきたのかを考 える。また多額の放送権料などが逆にスポーツの本 質をゆがめていないか、放送とスポーツの関係の問 題点にせまる。 教材「ＮＨＫ特集　テレビはオリンピック をどう変えた」の視聴など
8	スポーツドキュメンタリーを読み解く（１）	スポーツドキュメンタリーの制作過程を解説する。名作と言われる作品を視聴し　番組の視点を探しながら深　く読み解く感性を身につける。 （その１）ラジオドキュメンタリーを読み解く 例　ＮＨＫラジオ「聖火は再び」などを聴く
9	スポーツドキュメンタリーを読み解く（２）	（その２）「江夏の２１球」「スポーツイノベーション・データ革命」など国内のドキュメンタリーの秀作を視聴する
10	スポーツドキュメンタリーを読み解く（３）	（その３）　ＢＢＣ制作「ラオス少年無心にボール を追って」など「海外スポーツドキュメンタリーの秀作」を視聴する
11	君がスポーツについてプレゼンテーションしてみよう	学生諸君がスポーツのあり方についてジャーナルな視点からテーマを決めて授業で発表する。 （発表例）大学陸上部における箱根駅伝の存在 地域型スポーツクラブ経営に参加して 東京六大学野球の現状と課題 （教材）２０２０東京五輪招致ＩＯＣ総会プレゼン テーション 内容の指導はもちろん現役アナウンサーとしてプレゼンテーションの基本・取材・構成・演出など人に「伝える」方法を指導します。
12	スポーツジャーナリズムは社会にいかに貢献すべきかを考える	ますます多様となるメディア環境の中で中継・ニュース・番組を３本柱とするスポーツ放送はいかにあるべきかスポーツジャーナリズム全体はいかにスポーツの振興、社会に貢献すべきか考える。
13	放送番組企画提案を作ってみよう	学生諸君が講義を通じてジャーナルな勉強をした 上で実際に放送局のディレクターになったつもりで自分の関心のあるスポーツの出来事、興味あるスポーツ人へのインタビューなどの番組を企画してみよう。提案票の書き方の方法論もいっしょに勉強します。
14	試験とまとめ	講義からの出題 リポート形式・提案票の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
映像、音声などの素材を随時使用します。毎週講義の進め方・参考資料などのプリントを準備します。

【参考書】
スポーツ好きは甲子園とオリンピックから始まった： 2018 甲子園 100 回大会 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向かって（文芸社　佐塚元章）
放送業界の動向とカラクリがよくわかる本（秀和システム　中野明著）
放送の２０世紀（ＮＨＫ放送文化研究所編）

ＮＨＫのそこが知りたい（ＮＨＫ広報局編）
ＩＴ全史（祥伝社　中野明著）
メディアスポーツへの招待（ミネルヴァ書房）
放送制度概論（商事法務　鈴木秀美・山田健太）
日本スポーツ放送史（大修館書店　橋本一夫著）
スポーツ映画大全集（洋泉社）
ＪＯＡオリンピック小辞典（日本オリンピックアカデデミー編著）

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業最後に提出を求める感想リポートから講義の理解度を確かめます（50 %）。
最終週にレポート形式の試験をおこないます（50 %）。以上の内容を総合的に判断し　評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の全１４回の授業が論理的に流れていないかもしれません。これは「放送」という極めて社会の動きと直接かかわっていることを授業テーマにしているからです。ビッグニュースが発生すれば　予定講義を変更してその問題を急遽　生きた教材として優先することがあるからです。（例　大相撲巡業不祥事・ドーピング違反薬物混入事件・野球界にとって星野仙一を失った意味　など）

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント・ＤＶＤ・ＶＨＳ・カセットプレーヤーなど

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In this course,students will first think about wahat journalism is. Second,students will consider what sport journalism is. Through this approach,students need to examine the role of broadcasting journalism. Furthemore,along with the history of journalism,students will deeply think about whether sport journalism exists in the contemporary complex media environment and how sport journalism contributes to the development of sport.

ECN300IA

スポーツ政策論

森岡　裕策

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国のスポーツ政策の動向と、諸外国のスポーツ政策を学んだうえで、平成 23(2011) 年制定の「スポーツ基本法」に基づき、平成 24(2012) 年に策定された「第 1 期スポーツ基本計画」及び平成 28(2016) 年に改定された「第 2 期スポーツ基本計画」における具体的施策について習得する。加えて、文部科学省及び地方公共団体のスポーツ施策・事業への反映状況やスポーツ団体の動向等について学ぶ。また、平成 27(2015) 年のスポーツ庁創設に伴い、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省、外務省等などのスポーツ関連政策の総合的な推進等に関する行政方針について学ぶ。さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）やワールドマスターズゲームズ 2021 関西などのメガイベントの準備状況等を観察しながら、成功に向けた政策課題について学ぶ。

【到達目標】
国及び地方公共団体のスポーツ振興施策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことにより、行政が推進するスポーツ施策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ひと」「もの」「かね」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを習得する。「ひと」は、スポーツ指導者、組織運営者、政策立案及び執行者等、「もの」は、スポーツ施設、設備等の在り方、「かね」は、事業を執行するための予算、スポーツ施設の管理・運営の手法などを学ぶ。また、東京オリパラの開催に向けた取組を通じて、大会後のレガシー実現を目指すスポーツ政策の在り方を考える。今後、受講生が、教育職や行政職をはじめとする、スポーツ関連の職域において活躍することができる基礎的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を踏まえつつ、発信される国や地方公共団体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、日本スポーツ振興センター (JSC)、日本スポーツ協会 (JSPO)、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本障がい者スポーツ協会 (JPSA)、各競技団体 (NFs) 等のスポーツ統括団体やスポーツ団体から発出されるスポーツ推進方策や時事問題（インテグリティ、不祥事等）を解説するとともに、社会的な貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）に関連する報道等を活用して授業を進める。なお、時事的な情報や問題発生により講義内容の変更や順序の変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説及び授業進行や評価方法等に関する説明
2	我が国のスポーツ政策の変遷と国及び地方公共団体のスポーツに関する振興計画等	我が国のスポーツ政策の経緯と諸外国のスポーツ政策（ユネスコのスポーツ憲章、ドイツのゴールデンプラン等）
3	「スポーツ基本法」と「スポーツ基本計画 (第１期・第２期) にみる主要提言と政策課題	文部科学省の政策（審議会答申、立国戦略、基本計画等）、地方公共団体の政策（審議会答申、地方スポーツ推進計画等）
4	公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO) の設立経緯と事業構造	我が国におけるスポーツ界の構造とスポーツ統括団体としての役割・任務、展開する事業を解説
5	総合型地域スポーツクラブの育成と社会的効果	我が国における地域スポーツクラブ政策の流れ、総合型クラブの登録・認証制度の意義、クラブに対する中間支援組織の現状
6	国際オリンピック委員会 (IOC) オリンピック憲章に基づく 2020 東京オリパラの準備と検討課題	オリンピズムの根本原則に基づくオリパラ開催の意義、東京 2020 組織委員会の主な活動内容、大会後のレガシー創出の課題
7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性化、経済効果	国民体育大会の価値、各種競技大会や市民マラソン大会の開催、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西開催の意義、国際競技大会の誘致、スポーツツーリズムの活用
8	障がい者スポーツ政策とパラリンピック開催に関する現状と課題	障がい者スポーツの動向、障がい者スポーツ指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	新しい時代にふさわしいコーチング・コーチの確立、公認スポーツ指導者養成制度の改定	スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）を踏まえたコーチング環境の改善・充実に向けた取組、モデル・コア・カリキュラムの内容
10	運動部活動の現状と課題、部活動指導員の制度化、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン	部活動指導員と活動日数、活動時間の制度化が及ぼす効果と取組好事例の考察
11	一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS) の設立と検討課題	UNIVAS（日本版 NCAA) 創設に係る検討の経緯、設立理念・社会的意義、その役割と将来像
12	子供のスポーツ機会の確保	子供の体力・運動能力の現状と課題、スポーツ機会の確保における問題点
13	スポーツ・インテグリティの確保	スポーツ団体におけるガバナンス・コンプライアンスの強化、「スポーツ団体ガバナンス・コード」に基づくスポーツ・インテグリティの確保に向けた取組内容
14	授業内テストの実施	すべての資料を持込み不可とし、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツ政策は、国（文科省をはじめ厚労省、国交省、厚労省、経産省、外務省等）や地方公共団体（都道府県、市区町村）及びスポーツ関係団体（JSPO、JOC、JSC、各 NF 等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織のＨＰ等で常にチェックしていること。
2019 年度は、特に、東京オリパラ関連の情報を常時確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に、資料（印刷物等）を配布し、講義を進行する。適時、スポーツ政策、スポーツ行政に関する報道記事を配布し、解説する。

【参考書】
文部科学省、スポーツ庁のＨＰ（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）、都道府県のスポーツ所管課（教育委員会・知事部局）のＨＰ（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）
「よくわかるスポーツマネジメント」柳沢和雄他　編集（ミネルヴァ書房）
公益財団法人日本スポーツ協会の HP（主要事業）
「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行
笹川スポーツ財団の HP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】
授業中に配布した資料等は持込み不可とする。講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、毎回の講義に対する集中度や理解度を問い、その平常点に３０％、最終講義日に設定する授業内テストに７０％を評点化し、その評点の合計点が６０点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内テストの結果やプレゼンテーション、ディベートなどを踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認し、逐次改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】
授業時に、パワーポイントやＤＶＤを使用する場合がある。

【その他の重要事項】
本科目は、社会学の分野であり、例えば、行政・政策の変動や社会的な問題の発生、東京オリパラの最新の動向など、重要な時事問題等の発生により、講義の順序や内容の変更があり得る。

【Outline and objectives】
Student will acquire concrete measures of “The 1st Sport Basic Plan” established in 2012 and “The 2nd Sport Basic Plan” revised in 2016 based on “The Basic Act on Sport” enacted in 2011 after learning the trend of the sports policy of our country and foreign countries. Focuses on the reflection status of MEXT and local governments on sports politics and projects, trends of sports organizations, and the administrative policy on comprehensive promotion, etc. of each relevant ministries and agencies’ sport related policies along with the establishment of the Sport Agency in 2015. Topics include the policy challenges for success while observing the preliminary conditions for hosting the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and the World Master Games 2021 Kansai.

ECN300IA

スポーツビジネス論Ⅲ

町田　樹

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「スポーツビジネス」と一口にいっても、その種類や性質は実に多様である。本授業では、スポーツビジネスの経済事象を分析・考察するための基礎知識（主に経済学およびスポーツマネジメント、スポーツ政策学の基礎理論）を学習した上で、あらゆるスポーツシーンで展開されている多様なビジネスのあり方を、個別に具体例を挙げながら解説していく。受講者自身が実社会においてスポーツビジネス（スポーツプロダクト）を提供したり、あるいは享受したりする際に役立てることのできる知識や技能を、理論と実践の両観点から養っていくことを目的としている。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
（1）スポーツ産業とスポーツプロダクトの特性を理解することができる。
（2）スポーツビジネスやスポーツの経済現象を多角的に分析することのできる基礎知識と分析力を身につけることができる。
（3）スポーツビジネスを企画・構想し、プレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とグループワーク形式を採用している。講義形式では、担当教員が配布する資料に基づいて授業が展開される。なお、授業内容の理解度については、授業中盤（第 7 回）に実施される中間試験と、定期試験期間に実施される学期末試験によって評価する。一方、本授業の終盤（第 13 回、第 14 回）で実施されるグループワーク形式では、受講者がグループに分かれてスポーツビジネスを企画・構想するとともに、それを担当教員と受講者に対して発表することに取り組んでいく予定である。
【重要】
新型コロナウイルスによる感染症問題により、少なくとも春学期の前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日（火曜日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション〈スポーツビジネスとは？〉	授業の目的や内容を説明すると共に、スポーツビジネスの多様性と可能性を学習する。
第 2 回	スポーツプロダクトの構造と特徴	スポーツビジネスを展開する上で、商取引の対象となるのは、何よりも「スポーツプロダクト」である。このスポーツプロダクトの特性を、他のジャンルのプロダクトと比較しながら学習する。
第 3 回	スポーツ産業の全貌	あらゆるスポーツビジネスの集合体である「スポーツ産業」という領域について学習する。
第 4 回	スポーツ経済学の基礎理論 1	スポーツビジネスを多角的に捉えるために必要となる基礎知識を学習する。主に、スポーツプロダクトをめぐる「需給関係」と「市場構造」、「市場メカニズム」を取り扱う。
第 5 回	スポーツ経済学の基礎理論 2	スポーツビジネスを多角的に捉えるために必要となる基礎知識を学習する。主に、「価格弾力性」と「顧客セグメント」を取り扱う。
第 6 回	スポーツ経済学の基礎理論 3	スポーツビジネスを多角的に捉えるために必要となる基礎知識を学習する。主に、「外部経済性」と「市場の失敗」（公共財− 準公共財− 私的財および情報の非対称性）を取り扱う。
第 7 回	中間試験と授業前半の総括	授業内中間試験とその問題の解説を行い、本授業前半の総括を行う。
第 8 回	高潔性のスポーツビジネス	スポーツスポンサーシップは、スポーツに必要とされる「高潔性」（インテグリティー）が担保されていることを前提として成立しているビジネスであると言える。このスポーツスポンサーシップを中心に、スポーツの高潔性をビジネスの観点から学習する。
第 9 回	スポーツ施設のビジネス	スポーツ施設は、アスリートを育成する「教育の場」にもなれば、レジャーとしてのスポーツを提供する「娯楽の場」や、見るスポーツを提供する「競技場」にもなり得る。このような「多機能・多目的」な性質を備えるスポーツ施設のビジネスに関して、主にスタジアムとアリーナの取り組みを参照事例として学習する。
第 10 回	スポーツと地域経済	現代のスポーツ界には、スポーツビジネスを通じて地域経済を活性化させることが期待されている。スポーツビジネスが地域経済を潤す仕組みを、スポーツツーリズムや外部経済性をキーワードとして学習する。
第 11 回	スポーツビジネスと知的財産権	商標権、肖像権、特許権等の知的財産権とスポーツビジネスはもはや不可分な関係にある。ここでは知的財産権の基礎知識を踏まえながら、なぜスポーツをめぐる知財がビジネスに発展するのかを学習する。
第 12 回	AI 時代のスポーツビジネス	テクノロジー進化の波はスポーツの分野にも押し寄せてきている。ここでは AI（人工知能）技術を中心としたテクノロジーとスポーツビジネスの関係を学習し、未来のスポーツビジネスの展望を考えていく。
第 13 回	スポーツビジネス企画・構想力〈グループワーク編〉	これまでの授業内容を踏まえながら、実際にスポーツビジネスを企画・構想するグループワークに取り組んでいく。
第 14 回	スポーツビジネス企画・構想力〈プレゼンテーション編〉	グループワークで作成したスポーツビジネスの企画書に基づいて、プレゼンテーションを行う（担当教員との質疑応答あり）。その後、本授業の全体を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、終盤にグループワークの時間も設けている。このグループワークを有意義なものとするために、主に以下の事前・事後学習を指示する場合がある。
（1）講義テーマに関連する情報や時事問題を収集し整理する。
（2）グループワークの際に活用するプレゼンテーション資料を作成する。
（3）グループワークの成果を発表するための準備を行う。
上記の事前・事後学習をはじめ、本授業全 14 回（春学期間）を通じて総計 3 〜 4 時間程度の授業時間外活動が要求される。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じて担当教員が資料を配布する。

【参考書】
（1）原田宗彦・小笠原悦子編著『スポーツマネジメント改訂版』大修館書店, 2015.
（2）原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編著『スポーツマーケティング改訂版』大修館書店, 2018.
（3）後藤和子・勝浦正樹編『文化経済学：理論と実践を学ぶ』有斐閣, 2019.
（4）日本スポーツ法学会監修『標準スポーツ法学　第二版』エイデル研究所, 2017.
（5）Bernard J. Mullin, Stephen Hardy, William A. Sutton, Sport Marketing -Forth Edition-, Champaign,IL: Human Kinetics, 2014.

【成績評価の方法と基準】
①学期末試験（40%）：定期試験期間内に実施する学期末試験の結果を評価する。
②中間試験（30%）：授業中盤（第 7 回）で実施する中間試験の結果を評価する。
③スポーツビジネス企画・構想力（30%）：最終授業（第 13 回、第 14 回）で取り組むグループワークの成果を評価する。具体的には、スポーツビジネスの企画・構想力とそのプレゼンテーション力を総合的に評価する。
【重要】
少なくとも春学期の前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も今後変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
【2020 年 4 月 19 日付お知らせ】

新型コロナウイルスによる感染症問題により、今学期の授業方針が大きく変更されます。現在、本授業を履修してくださっている学生の皆様と有意義な学びの時間を共有できるような授業方針を策定中です。4 月 28 日までに授業支援システムにて、今後の授業予定と方法をお知らせいたしますが、現段階では、① Zoom や WebEx などのオンラインセッションアプリを使用した「オンライン講義授業」や、②講義動画の配信による「オンデマンド型授業」、③課題文献を読み込んでレポートを作成する「課題取組型授業」を構想しております。いずれにせよ、受講者全員に安定した学びの環境と教材を提供すべく最大限努めていきますので、どうかご安心ください。

【Outline and objectives】
This course provides the basic knowledges and skills of sport business. Students will learn (1) the primary economic theories needed to consider sport business phenomenon and (2) the case studies in many types of sport business respectively. Upon successful completion of this course, students will be able to acquire the knowledges of theoretical consideration and the skills of planning for sport business.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

井上　尊寛

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
・課題に対して、仮説をたてることができる
・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。
今年度は学内での授業実施が可能になるまでの間、支援システムを活用した内容に変更します。開始は 5 月 11 日とします。
尚、学内での授業実施が可能にになった場合は講義形式でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方①	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題の立て方②	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方③	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類①	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ①
7	調査の種類②	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ②
8	定量調査①	定量調査とは何かを学ぶ
9	定量調査②	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査①	定性調査とは何かを学ぶ
11	定性調査②	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦①	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦②	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します

【参考書】
授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】
調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

井上　尊寛

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **3 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
・課題に対して、仮説をたてることができる
・仮説を調査票にすることができる
・回答しやすい調査票作成ができる
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
・実務へのインプリケーションを行うことができる
・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握 (日本におけるプロスポーツサーベイの実態から)、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。
今年度は学内での授業実施が可能になるまでの間、支援システムを活用した内容に変更します。開始は 5 月 11 日とします。
尚、学内での授業実施が可能にになった場合は講義形式でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方①	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題の立て方②	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方③	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類①	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ①
7	調査の種類②	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ②
8	定量調査①	定量調査とは何かを学ぶ
9	定量調査②	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査①	定性調査とは何かを学ぶ
11	定性調査②	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦①	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦②	インタビュー調査の実施

秋学期

回	テーマ	内容
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査の概観①	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる

17	スポーツに関する調査の概観②	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定①	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の設定②	第 18 回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施①	第 19 回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査の実施②	第 20 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の設計①	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の設計②	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の実施①	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
25	定量調査の実施②	フィールドで調査を実施する
26	調査の集計、分析①	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の分析②	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の分析③	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2～15 回：フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します

【参考書】
授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】
調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

井上　尊寛

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**3～4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
・回答しやすい調査票作成ができる
・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
・実務へのインプリケーションを行うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握 (日本におけるプロスポーツサーベイの実態から)、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査の概観①	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
2	スポーツに関する調査の概観②	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
3	調査課題の設定①	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
4	調査課題の設定②	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
5	事前調査の実施①	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
6	事前調査の実施②	第 5 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
7	定量調査の設計①	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
8	定量調査の設計②	調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の実施①	調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる②
10	定量調査の実施②	フィールドで調査を実施する
11	定性調査②	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
12	調査の集計、分析①	調査の分析を実施し、仮説を検証する①
13	調査の集計、分析②	調査の分析を実施し、仮説を検証する②
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要があれば指定します

【参考書】
授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】
調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。

専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

MAN100IA

Sport Consumer Behavior

吉田　政幸

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
From an American perspective, this course is intended to provide students a general overview of the traditional and more recently developed theories and practices related to sport consumers. Students will learn important concepts and theories relevant to the cultural, psychological, behavioral, and social characteristics of sport consumers. Through this course, students will be able to understand how individuals become loyal sport consumers and even positive contributors to the development of unique sport culture.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) understand the cultural and social characteristics of sport consumers in the American context,
(2) gain knowledge about important concepts, ideas, and practices related to the psychology and behavior of sport consumer behavior,
(3) explain how traditional and more recently developed theories can be applicable to sport consumer behavior.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The course will be taught through lectures, group discussions, assignments, and the final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Significance of sport consumer behavior	Sport consumer behavior in the Big 4 leagues and college sport (reading material: chapter 1)
2	Current issues in sport consumer behavior	Sport consumer behavior and luxury suites, club seats, new media, and sponsorship (reading material: chapter 1)
3	Sport consumer socialization	The definition, process, and outcomes of fan socialization (reading material: chapter 3)
4	Needs, values, and goals	The concepts and theories of personal needs, values, and goals in sport consumer behavior (reading material: chapter 6)
5	Sport consumer motivation	The definition, measurement, and application of sport consumer motivation (reading material: chapter 7)
6	Sport consumer satisfaction	The confirmation and disconfirmation of expectations and satisfaction theory in sport consumer behavior (reading material: chapter 10)
7	Sport consumer perceptions and decision-making processes	The definition, elements, and decision-making process of sport consumer perception (reading material: chapter 8)
8	Theories of consumer behavior: marketing approaches	The historical development and current models of consumer behavior theories in marketing (reading material: chapter 2)
9	Theories of consumer behavior: attitude approaches	Various attitudinal models of consumer behavior and their applications to the sport context (reading material: chapter 2)

10	BIRGing and CORFing	The tendencies and behavior exhibited in the phenomena of basking in reflected glory (BIRGing) and cutting off reflected failure (CORFing) (reading material: chapter 11)
11	Market segmentation	The definition, importance, and analysis of market segmentation in sport consumer behavior (reading material: chapter 4)
12	Market demand and constraints	The definition and elements of market demand and constraints among sport consumers (reading material: chapter 9)
13	Culture and subculture	The definition and elements of culture and subculture and their influence on sport consumer behavior (reading material: chapter 5)
14	Course summary	Course summary, conclusion, feedback, and exam review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
In the first half of the semester, homework and term paper assignments will be provided. Throughout the semester, sudents will be expected to study two hours outside of class（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします）.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Reading material (provided):
Trail, G.T., & James, J.D. (2013). Sport Consumer Behavior. Seattle, WA: Sport Consumer Research Consultants LLC.

【成績評価の方法と基準】
Students will be assigned grades based on successful completion of the following class components:
Homework assignment (motivation profile): 20%
Term paper (theory application): 30%
Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable because this is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
Microsoft Word

【その他の重要事項】
Students in the faculty of Sports and Health Studies MUST earn the credits of “Sport Business Theory 1 (スポーツビジネス論Ⅰ)” and “Sport Industry Theory (スポーツ産業論)” before they register this course.

【Outline and objectives】
From an American perspective, this course is intended to provide students a general overview of the traditional and more recently developed theories and practices related to sport consumers. Students will learn important concepts and theories relevant to the cultural, psychological, behavioral, and social characteristics of sport consumers. Through this course, students will be able to understand how individuals become loyal sport consumers and even positive contributors to the development of unique sport culture.

HSS200IA

スポーツビジネス海外演習

吉田　政幸、伊藤　真紀

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・演習**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国のスポーツビジネスを現地で実際に学習することにより、（1）世界最高峰のスポーツビジネスの基礎を理論と実践から理解するとともに、（2）米国特有の多様な文化、民族に触れることで国際感覚を養うことを目的とする。

【到達目標】
受講者は事前学習および現地での演習を通じて、以下の目標を達成する：
（1）米国四大プロスポーツビジネスの特徴と成功の背景を理解し、説明できる。
（2）米国大学バスケットボールの仕組みと社会的位置づけを理解し、説明できる。
（3）英語でのスポーツビジネスの講義やスタジアム・ツアーに参加し、その内容を理解することができる。
（4）多民族、異文化が融合する米国社会の特徴とそこで暮らす人々の心理的・行動的特性を理解し、説明できる。
（5）自己主張と自己責任が問われる米国社会で、目標に向かって活躍する日本人の生き方を学ぶとともに、その考え方を自分のキャリア形成の参考にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業の内容は（1）大学での講義と（2）現地での実習によって構成される。大学での講義は、米国四大プロスポーツと大学スポーツのビジネスとしての特徴について学習するとともに、現地での実習に向けたガイダンス（視察の目的、概要、スケジュール、注意事項）を実施し、渡航の準備を行う。現地での実習は、実務担当者による講演、スタジアム視察、試合観戦、参加者同士の共有会を主な内容とし、参加者はスポーツビジネスの基礎を理論と実践の両面から学習するとともに、英語によるコミュニケーション能力と国際人としての意識の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	演習の目的と意義を理解するとともに、主な学習内容と現地での演習の注意点を理解する。併せて、渡航に向けた準備（パスポートの取得、観光ビザの申請）に関する説明を受ける。パスポート未取得者は夏休み期間に取得する。
2 回	現地での演習に関する講義	現地での演習内容と場所について説明を受け、文化的、社会的、地理的特徴を理解する。
3 回	目標設定	演習に参加した理由と現地で学習したい内容を書き出し、他の参加者と情報を共有することで互いに意識を高め合う。
4 回	英語によるコミュニケーション	現地での講義、スタジアム視察、試合観戦などで事前に身に付けておくと便利な英語表現を学ぶ。併せて、米国社会におけるマナーやタブーなどについても理解する。
5 回	出発前オリエンテーション	観光ビザの登録を済ませるとともに、出発前の説明（出発当日の行動予定、空港での出国手続き、機内での過ごし方、現地での入国審査の注意点、現地での過ごし方）を受ける。
6 回	現地演習：ガイダンス	演習の目的と意義を改めて確認するとともに、各自の目標を明確にする。併せて、現地演習のスケジュール、内容、注意点について説明を受ける。
7 回	現地演習：講義	現地の社会的、文化的、経営的な特性を踏まえたスポーツマーケティングに関する講義を受け、フィールド演習において理論的な考察を行うための視点を養う。
8 回	現地演習：プロバスケットボール・アリーナ	プロバスケットボール・アリーナを視察し、ビジネスモデルを理解する。

9 回	現地演習：アメリカンフットボール・スタジアム	アメリカンフットボール・スタジアムを視察し、ビジネスモデルを理解する。
10 回	現地演習：大学スポーツ	NCAA（全米大学アスレチック協会）の大学バスケットボールの試合を視察し、大学スポーツの商業化とその社会的、文化的意味について理解を深める。
11 回	現地演習：ランニング・クリニック	市民マラソンの普及と発展を目的として活動しているランニングセンターを訪問し、その事業概要を学ぶとともに、実際にランニング・クリニックに参加し、ランニングが市民生活の一部となっている状況について理解する。
12 回	現地演習：プロバスケットボール観戦	プロバスケットボールのホームゲームを視察し、集客戦略、先進技術の活用方法、ファンの特性などについて学ぶ。
13 回	現地演習：プロアイスホッケー観戦	プロアイスホッケーのホームゲームを視察し、集客戦略、先進技術の活用方法、ファンの特性などについて学ぶ。
14 回	総括	事前に受講した講義と現地での視察を通して得た発見、知識、語学力、意識変化などについて自らまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
注意事項の多い海外演習ですので、課される準備学習を着実に行うとともに、事前の講義にはすべて出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
実習前の課題レポート（目標設定）： 10%
現地での英語による視察内容の理解度テスト： 10%
実習後の課題レポート（大学スポーツやプロスポーツに関する内容）： 80%

【学生の意見等からの気づき】
授業では米国スポーツビジネスの理論と実践を基に参加者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
現地での演習ではランニング・クリニックに参加するプログラムがあります。運動できる格好を準備してください。

【その他の重要事項】
現地は日本と全く異なる法律、社会規範、民族性によって秩序づけられていますので、教員と現地スタッフの指示に従ってください。

【Outline and objectives】
This course is an international sport business seminar in the United States. Students will learn (1) the theoretical and practical bases of professional and collegiate sport businesses and (2) cultural, ethnic, and racial diversity in the American society. Upon successful completion of this course, students will be able to synthesize and apply theories, concepts, and practices related to American sport businesses and develop ideas that are useful, appropriate, and novel in Japan.

SOC100IA

トップアスリート論

増島 みどり

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリンピックイヤーの 2020 年、メダリストや世界記録保持者といったトップアスリートたちを中心に、彼らが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素にフォーカスし、自分たちで検証していく。

【到達目標】
トップアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。選手を、メディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
一流を超えた「超」一流選手たちの思考，技術，肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトップアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストに呼んで授業を行ってもらい、「トップアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トップアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トップアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトップアスリートを発表してもらう。
3	トップアスリートの「心技体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトップアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トップアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	２代に渡るトップアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、２代競技者を考える。
6	女性アスリートの台頭と活躍	日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた１９８０年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する２０００年後半までの歴史と進歩の詳細について。２０１６年W杯で連覇を狙うなでしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。
7	オンリーワン思考と技術	日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらう。
8	怪我とリハビリ、復帰への道程	一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。
9	オリンピックムーブメント	IOC（国際オリンピック委員会）、JOC（日本オリンピック委員会) の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020 年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。
10	トップアスリートを支える環境	不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。
11	トップアスリートのメンタルトレーニング	大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。
12	薬物問題とパフォーマンス	過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終らない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらう。
13	トップアスリート長寿の理由	近年、３０代、４０代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考える。
14	グループでの討論、発表など	グループでの討論、発表など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：新聞を読む。ニュースの中でもトップアスリートについて情報を持って授業に臨む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材は、トップアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席率）（50 %）、授業での意欲（25 %）、レポート（25 %）の３点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
未実施のため、特になし

【その他の重要事項】
※過去のゲストスピーカー
０９年＝サッカー元日本代表・名波浩氏
１０年＝バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏
１１年＝大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手
１２年＝陸上男子四百㍍障害世界陸上メダリスト・為末大選手
１３年＝パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手
１３年＝プロサッカーリーグ「Ｊリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏
１４年＝競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手
１５年＝成立学園コーチ・山郷のぞみ氏
１６年＝リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び４位・鈴木徹選手
１７年＝世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリスト・鈴木徹選手
１８年＝W杯取材のため、なし。
１９年＝電動車椅子サッカー日本代表・永岡真理選手

【Outline and objectives】
We learn the physical of top athletes, technique, strength of mental. In addition, We consider it what kind of factor they have other than these.

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅱ

平野　裕一

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツトレーニング論Ⅰではスポーツトレーニングの理論、フィジカルおよびスキル要素のトレーニング内容・方法を学んだ。そこでスポーツトレーニングⅡでは、幼児から中高年までのライフステージごとのトレーニング実施者、および女性や競技者といった成人男性とは異なるトレーニング実施者のトレーニング内容・方法を紹介し考察する。一方で自分の身体についてトレーニング内容・方法、その効果の測定方法を計画し、8 週間のトレーニングを実践する。

【到達目標】
・ライフステージおよび体力レベルごとに、トレーニング実施者に応じたトレーニングの内容、方法を理解する。
・自身の身体についてのトレーニングデータを 8 週間継続的に取得・分析すること
を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
幼児〜思春期前児童、思春期、女性、中高年者、ジュニア競技者、シニア競技者とトレーニング実施者ごとの心身の特徴およびトレーニング内容・方法を紹介し検討する。一方で自身の身体についてのトレーニングとその効果を測定する方法を計画し、８週間にわたって各自実施してレポートを学期末に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で扱うトレーニング実施者の紹介 トレーニング計画、測定法の提示
2	幼児〜思春期前の児童のトレーニング①	形態の変化 スキルトレーニング トレーニング計画、測定法の考案
3	幼児〜思春期前の児童のトレーニング②	子どもの筋力トレーニング トレーニング計画、測定法の考案
4	思春期のトレーニング	思春期の特徴 全身持久力および筋持久力トレーニング
5	女性のトレーニング①	骨格、身体組成の性差 女性の有酸素性、無酸素性能力のトレーニング
6	女性のトレーニング②	女性ならではの特徴を考えたトレーニング
7	中高年者のトレーニング①	加齢にともなう身体能力の変化 中高年者の有酸素性、無酸素性のトレーニング
8	中高年者のトレーニング②	中高年者の” こころ” が運動に及ぼす影響 運動が” こころ” に及ぼす影響
9	ジュニア競技者のトレーニング①	競技者育成プログラム ジュニアトップ選手の追跡調査（陸上競技）
10	ジュニア競技者のトレーニング②	ジュニアトップ選手の追跡調査（テニス、ウエイトリフティング） トレーニングと栄養
11	ジュニア競技者のトレーニング③	ジュニアトップ選手の追跡調査（スピードスケート、体操） サッカートップ選手のの体力測定とトレーニング
12	シニア競技選手のトレーニング①	マラソン選手のトレーニングの変遷 高強度間欠的運動トレーニングの効果
13	シニア競技者のトレーニング②	スキージャンプ選手のトレーニング 反動動作の特徴 腱のトレーニング
14	シニア競技者のトレーニング③	サッカー選手のトレーニング 血中乳酸濃度を活用したトレーニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内あるいは外の時間に計画したトレーニングを８週間実践し、測定する。考察を含めたレポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して提示する）

【参考書】
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングの科学的基礎」宮下充正、ブックハウスＨＤ

【成績評価の方法と基準】
トレーニング実践のレポート４０％、期末試験６０％

【学生の意見等からの気づき】
各自のトレーニングを動機づけられるようなデータ、出来事を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
トレーニング効果をグラフ化するためのソフトウエア（エクセルなど）。
トレーニング実践や測定で使う用具、機器など。

【その他の重要事項】
自己責任で実施できるトレーニング、測定項目を選択すること。
トレーニングを実践できない者に対しては相談に応じる。

【Outline and objectives】
This class deals with the physical training on the female, the subjects from infant to middle and old age, and the junior and senior athletes. Training variables on each subject are compared from those on the healthy male subject. In pararell, 8 weeks physical training program is planned and implemented individually during the semester.

HSS100IA

スポーツ運動学

工藤 裕仁

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し，運動および動きの評価の基礎を学習することによって，実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ．
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する．

【到達目標】
運動の質的評価の方法について，その流れ，手続き，注意点の概要を理解し，学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し，動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する．学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は，5 月 11 日（月）になります．
身体運動を構成する要素について概説し，身体構造と発達，身体構造と機能，動きのとらえ方（主観と客観）を理解し，その評価方法とストラテジーを学ぶ．運動指導のための評価として，モルフォロギーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り，その概要を学ぶ．またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態，種類，原理，局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の評価	モルフォロギーとバイオメカニクスによる評価を知る
8	評価から運動技術指導へ	モルフォロギー，バイオメカニクス的評価に基づく運動指導 走運動，投運動における運動評価と運動指導
9	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
10	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた走動作の運動学的観察
11	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎を学ぶ 映像を用いた跳動作の運動学的観察
12	打動作・衝突動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
13	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
14	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

【成績評価の方法と基準】
試験　100%

【学生の意見等からの気づき】
具体例の提示を出来るだけ多くとり，理解を助ける．
web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
To learning the basics of evaluation for sports movement and exercise. To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

HSS200IA

スポーツ運動学Ⅱ

工藤 裕仁

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し，そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクス的観点での検討・学習をする．またこれは，種々の競技動作について検討・学習する

【到達目標】
学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し，その特徴を身体構造，あるいはバイオメカニクス的観点から，具体的に抽出できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は，5 月 11 日（月）になります．
授業は講義形式で行い，適宜動画資料も用いる．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	授業の流れを概説	授業の流れを概説
2	動きの解剖学	筋と骨格の構造を知る
3	運動学の基礎知識 1	機能解剖と力学的基礎を知る
4	運動学の基礎知識 2	機能解剖学的・身体力学的観点と他の運動生理学的視点との接点を学ぶ
5	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎を学ぶ
6	走動作の運動学 1	走動作の運動学的基礎を学ぶ
7	走動作の運動学 2	映像を用いた走動作の運動学的観察
8	投動作の運動学	投動作の運動学的基礎を学ぶ
9	跳動作の運動学 1	跳動作の運動学的基礎を学ぶ
10	跳動作の運動学 2	映像を用いた跳動作の運動学的観察
11	打動作の運動学	打動作の運動学的基礎を学ぶ
12	泳動作の運動学	泳動作の運動学的基礎を学ぶ
13	スポーツ外傷・障害発生の運動学	スポーツ競技動作と外傷・障害の関係を知る
14	種々のスポーツ動作の運動学	バイオメカニクス的解析に基づく検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をもとにした復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします．

【テキスト（教科書）】
授業ごとに資料を配付．他，必要に応じ授業中に適宜指示する．

【参考書】
「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版
「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院　他

【成績評価の方法と基準】
試験　100 %

【学生の意見等からの気づき】
web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる．

【その他の重要事項】
※授業の展開によって若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
To understand the structure and mechanism of physical movement (functional anatomy).To learning from a biomechanical point of view the structure of the physical movement, the actions of the sports movement.

HSS200IA

スポーツコーチング論Ｂ

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】
年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・ 科学の活用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング学概論、コーチングとは	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	様々なコーチング現場④	コーチングの原理・哲学
7	様々なコーチング現場⑤	指導の目的と設定
8	様々なコーチング現場⑥	コーチングスタイル
9	様々なコーチング現場⑦	選手とのコミュニケーション　1
10	様々なコーチング現場⑧	選手とのコミュニケーション　2
11	様々なコーチング現場⑨	選手のモチベーション向上
12	様々なコーチング現場⑩	ゲーム形式のコーチング方法
13	コーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外と国内の取組み
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし (講義形式の回には資料を作成して提示する)

【参考書】
コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
宿題（20%とテスト 2 回（15 % ×2 回）を提出し、試験（50 %）をしてもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】
Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology.

HSS200IA

スポーツコーチング論Ⅱ

Nemes Roland

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】
年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中でのスポーツ医・ 科学の活用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング学概論、コーチングとは	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	様々なコーチング現場④	コーチングの原理・哲学
7	様々なコーチング現場⑤	指導の目的と設定
8	様々なコーチング現場⑥	コーチングスタイル
9	様々なコーチング現場⑦	選手とのコミュニケーション　1
10	様々なコーチング現場⑧	選手とのコミュニケーション　2
11	様々なコーチング現場⑨	選手のモチベーション向上
12	様々なコーチング現場⑩	ゲーム形式のコーチング方法
13	コーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外と国内の取組み
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし (講義形式の回には資料を作成して提示する)

【参考書】
コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
宿題（20%とテスト 2 回（15 % ×2 回）を提出し、試験（50 %）をしてもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】
Students will learn about various aspects of coaching and coach characteristics. The course starts with the psychological elements, then coaching methodology, followed by basic knowledge of training physiology.

HSS200IA

スポーツ戦略・戦術論

平野　裕一、Nemes Roland

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツで戦略・戦術を立てるためには、そのスポーツのパフォーマンスを分析する必要がある。パフォーマンスには意欲・動機づけといった心理的要因、それに応じたエネルギーの発揮といった生理的要因、そしてエネルギーをパフォーマンスに変換していく技術的要因が関与するが、この授業ではこれらの要因によって表出されたパフォーマンス自体を分析するために必要な知識を理解し、分析するための技法を習得する。

【到達目標】
スポーツのパフォーマンスを分析する意義と目的、パフォーマンスを分析する方法を理解し、いくつかの方法については技法までも習得することによって、スポーツにおける戦略・戦術を立てる際にそれらを活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は前後半に分ける。前半では、映像撮影とＧＰＳデータ収集およびそれらの編集を紹介する。その中で、いくつかの技法についてはそれらを用いて実際にデータの収集・分析を試みてもらう。後半では、球技における量的分析と質的分析について学び、ゲーム分析を試みてもらう。
春学期前半はオンラインでの開講となる。
各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2	スポーツパフォーマンス分析の意義と目的	・これまで実践されてきた例を紹介しながら意義と目的を説く ・量的分析と質的分析の整理 ・記述的分析と自動分析の整理
3	スポーツ映像データの収集①	ノーマル撮影によって映像データを収集する際の知識を説き、実際にデータ収集を試みる
4	スポーツ映像データの収集②	ハイスピード撮影によって映像データを収集する際の知識を説く
5	スポーツ映像データの編集	映像データ編集ソフトウエアの原理と活用を紹介する
6	ＧＰＳによるデータの収集	ＧＰＳの原理を説き、スポーツの中でのデータ収集例を紹介する
7	ＧＰＳデータの収集と編集	実際にデータ収集と編集を試みる
8	球技におけるデータを得る前に	スポーツ競技の背景を考え、どのような視点でデータを取得するのかを学ぶ
9	球技における量的分析と質的分析①	球技の分析で用いられている、量的な分析と質的な分析について学ぶ
10	球技における量的分析と質的分析②	自身が選んだスポーツ競技を用いて、そのスポーツ競技の背景と明らかにしたい内容についての考慮して、量的分析指標と質的分析指標を作成する
11	球技における量的分析と質的分析③	前回講義で作成した量的・質的分析指標を用いて、実際にゲーム分析を行い、ゲーム分析手法を学ぶ　1
12	球技における量的分析と質的分析④	前回行った分析について発表する　1
13	球技における量的分析と質的分析⑤	自分で作成した量的・質的分析指標を用いて、前回と違う方法、又はソフトを使用し、実際にゲーム分析を行う　2
14	まとめと発表	前回行った分析について発表する　2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で収集したデータの分析を試みる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業時間に資料を配布する。

【参考書】
・「スポーツパフォーマンス分析入門」ピーター・オドノヒュー、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】
春学期前半はオンラインでの開講としたために、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ラーニングの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
データ分析に用いるソフトウエア（エクセルなど）
映像を取り込める携帯電話

【Outline and objectives】
This class asks the students to understand the knowledge on paformance analysis of sports and to learn several skills required to do the analysis.

PSY200IA

スポーツ心理学Ｂ

本郷　由貴

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業はアスリートに対する心理的援助活動の理論と応用について学習することを目的とする。具体的にはメンタルトレーニング技法の基礎を学び，体験を通してメンタルスキルを向上させる方法を学ぶ。

【到達目標】
最終的には各受講生がメンタルスキルを身につけ，尚且つそのスキルを実践場面で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は演習形式で展開されるため，受講生には積極的な授業参加を期待する。実際には心理技法の体験やワークの活用，設定された議題内容についてグループディスカッションも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や授業内容の概要について説明する。メンタルトレーニングの歴史と意義，その役割について解説する。
2	アスリートとの関係づくり	アスリートと支援に携わる者との関係性を深めるといった視点で「特異な三者関係」「専門性」「学ぶ姿勢」「場の設定」といった側面から解説する。
3	メンタルトレーニングの留意点	アスリートの心理サポートの必要性やメンタルトレーニングを実施する際の留意点等を説明する。
4	心理検査の実施及びその評価	心理検査の目的，心理検査実施上の留意点を説明し，アスリートの心理的特徴を把握する各種心理検査を紹介する。実際に心理検査を利用し，解釈やフィードバックの仕方を学ぶ。
5	コミュニケーション技法の実施及びその評価	他者と良好なコミュニケーションをとるために必要とされる，メッセージの送り手のスキルとメッセージの受け手のスキルについて解説する。コミュニケーション・スキルを向上させるための有効な手法を学ぶ。
6	モニタリング技法の実施及びその評価	モニタリングは心理的コンディショニングの一貫として利用されることが多い心理技法である。代表的なモニタリングの技法を紹介し，実践的な活用方法について学ぶ。
7	認知行動療法の実施及びその評価	認知行動理論および介入の実践方法を解説し，問題解決行動を促すアプローチの仕方をワークを活用して実践する。そこでは「認知」と「行動」の変容過程について評価する方法を学ぶ。
8	目標設定技法の実施及びその評価	目標設定理論およびその実践方法を解説し，有効な目標設定を行うための具体的な方法とその評価法を学ぶ。
9	リラクセーション技法の実施及びその評価	リラクセーションの各種技法を紹介し，各場面での利用法やその効果について解説する。体験を通してリラクセーションの方法とその評価法を学ぶ。
10	注意集中技法の実施及びその評価	「注意」や「気持ち」の切り替え等に活用される各種心理技法を紹介し，その実践方法と評価法について学ぶ。
11	イメージ技法の実施及びその評価	イメージトレーニングの科学的根拠を解説し，イメージの種類，イメージトレーニングの手順・展開方法を説明する。体験を通してイメージトレーニングの基礎を学ぶ。
12	心理臨床技法のスポーツへの応用	臨床心理学の領域では心理的援助のツールとして “心理療法” が利用されることがある。スポーツの心理的諸問題について心理臨床技法の適応事例を解説する。
13	チームビルディングを活用した集団マネジメントの理論と実践	チームワークを高めるためのスポーツ心理学の手法にチームビルディングがある。チーム状況のアセスメント，プログラムの立案と実施，振り返りといった計画的で系統的な具体的方法について解説し，グループワークを取り入れる。
14	まとめ	これまで行った授業の総復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントを主として復習してください。また各回の授業で参考にした書籍や論文等を記載します。それを基に，興味のあるトピックについてさらに知識を深めていってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回，プリントを配布する予定です。

【参考書】
・「スポーツメンタルトレーニング教本　三訂版」（大修館書店，著：日本スポーツ心理学会）

【成績評価の方法と基準】
（1）配分：平常点 50 %（出席カードには講義の感想や意見を書き、その理解度も評価する），試験： 50 %
（2）成績評価：（1）の配分に基づき，総合的に判断・判定します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートやリアクションペーパー等を活用し，受講者の感想，意見を取り入れながら授業を展開します。

【その他の重要事項】
授業の展開や受講者のニーズによって，多少の変更があり得えます。また，メンタルトレーニングに関する近年の研究やトピックについても随時提示します。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the theory and application of psychological support activities for athletes. Specifically, learn the basics of mental training techniques and learn how to improve mental skills through experience.

HSS100IA

保健体育概論

永木　耕介

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方についての思考力を培う。

【到達目標】
保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は 4 月 24 日 (金)2 限から開始します。コロナ virus の影響により、当面の間、毎授業において学習支援システムに「課題」を設定し、受講者のみなさんはそれに応える方法で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバリゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体つくり運動」の内容と特性	「体つくり運動」の実際的内容と特性について、知識および運動、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
9	「水泳」+「野外活動」の内容と特性	「水泳」+「野外活動」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、知識および技能、主体的態度、思考力・判断力・表現力の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎授業において「課題」に対する感想やコメント（リアクションペーパー）の提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版＋平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版・体育科教育学入門　（大修館書店）他

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度（４０％）、リアクションペーパー（レポート）による理解度（６０％）

【学生の意見等からの気づき】
今年度もリアクションペーパーによる振り返りを行い、各学生の主体的な学習への取り組みを図る。

【学生が準備すべき機器他】
（できるだけ）パソコン。スマートフォンだけでは画面が小さいので苦しい。

【その他の重要事項】
教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
This class is for students requiring the study of Physical Education teaching materials and their purpose in schools, with a particular focus on sports history and recent trends in teaching as well as thoughts into how Physical Education should be in the future.

HSS200IA

スポーツ戦術論（サッカー）

川田　尚弘

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技力向上を目指した実践現場・指導現場において、自身が戦術を科学的に理解・実践できる競技者になるため、また、戦術を科学的に観察・分析でき合理的に指導できる指導者になるための基礎知識を身につける。

【到達目標】
サッカーにおける様々な戦術を多角的に理解し、さらに競技者・指導者としてもいかせる指導方法も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
サッカーに関する戦術を講義・発表・実習形式を通し多角的に理解していく。また、国内外のサッカー戦術の現状や年齢・レベルの相違に関係するサッカー戦術についても学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方など）	講義の進め方・聴講に際して留意すべき点・評価の方法を確認する
第 2 回	戦術とは何か	戦術の語源・サッカー戦術に関する用語等の理解
第 3 回	サッカーにおける個人戦術（攻撃）	サッカーにおける個人戦術（攻撃）について理解する
第 4 回	サッカーにおける個人戦術（守備）	サッカーにおける個人戦術（守備）について理解する
第 5 回	サッカーにおけるグループ戦術（攻撃）	サッカーにおけるグループ戦術（攻撃）について理解する
第 6 回	サッカーにおけるグループ戦術（守備）	サッカーにおけるグループ戦術（守備）について理解する
第 7 回	サッカーにおけるチーム戦術（攻撃）	サッカーにおけるチーム戦術（攻撃）について理解する
第 8 回	サッカーにおけるチーム戦術（守備）	サッカーにおけるチーム戦術（守備）について理解する
第 9 回	近代サッカー戦術の傾向①	近代サッカー戦術の傾向（国内）を理解する
第 10 回	近代サッカー戦術の傾向②	近代サッカー戦術の傾向（国外）を理解する
第 11 回	近代サッカー戦術の傾向③	近代サッカーの戦術の傾向（国内指導者・選手の影響）
第 12 回	近代サッカー戦術の傾向④	近代サッカーの戦術の傾向（海外指導者・選手の影響）
第 13 回	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法	サッカー戦術の実践現場・指導現場への活用方法（コーチング方法）を学ぶ
第 14 回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカー戦術に関し、異なるレベルや年齢や性別、国内外のサッカー事情を含め情報を収集しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 60 %、平常点 40 %で評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The objective of this class is to know about the practice and theory and to improve the performance in football.

HSS200IA

スポーツ戦術論（ハンドボール）

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハンドボール競技の歴史から始め、現代のハンドボール全体的な発展を学ぶ。また、ハンドボールの様々な局面について具体的に理解する。

【到達目標】
ハンドボールの歴史や戦術を理解しながら、他球技の考え方、又はルール変更の影響も理解する。戦術を理解した上で、ゲーム分析を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ハンドボール競技の歴史	映像を利用して、ハンドボールの歴史を紹介する
2	コーチングフィロソフィー	様々なコーチング哲学の紹介
3	ゲームの局面構造	球技の試合における学習
4	オフェンスにおける技術と戦術の構造	オフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
5	ディフェンスにおける技術と戦術の構造	ディフェンスにおける個人、グループ、チーム基本考え方を学習する
6	技術・戦術の発達	技術と戦術の関係性を学習する
7	ルールの変更と技術・戦術の発達との関係	ルール変更の影響について分析し、理解する
8	個人戦術力 (技術力と戦術的思考力) の構造	個人に求められているオフェンスとディフェンス技術と戦術
9	グループ戦術とチーム戦術の構造	2 − 3 人の協力によるグループプレー
10	セットオフェンスにおける技術力と戦術力の養成	セットオフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
11	セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成	ディフェンスにおける典型的なオフェンスを紹介する
12	速攻における技術力と戦術力の養成	速攻における典型的なオフェンスを紹介する
13	ゲームパフォーマンスの分析と評価	ゲーム分析における基本考え方を紹介する
14	まとめ	ハンドボールの試合を視察しながら戦術におけるディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
未定
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
未定

【参考書】
日本ハンドボール協会 編 『ハンドボール指導教本』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること

【Outline and objectives】
The course will introduce handball's development through history, and the tactical elements in detail. Theoretical and practical lessons are planned.

HSS100IA

ダンス実習

町田　樹

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習では「音と戯れる身体」をテーマに、舞踊（ダンス）を「する」、「みる」、「つくる」、「つたえる」といった多角的な観点から総合的に愉しむことができる享受能力を養っていく。

【到達目標】
1）クラシック・バレエの基礎を理解し、実践することができる。
2）自己の感情や意思、想像を身体動作に込めて表現することができる。
3）音楽やコンセプトを理解した上で、ダンスを創作することができる。
4）他者の踊りや舞踊作品を観て、自分の言葉で評釈することができる。
5）ダンスを多角的に楽しむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「するダンス」＝舞踊の基本とされるクラシック・バレエの基礎を実践しながら、自身の身体やバレエ・スキルに関する理解を深めていく。
「みるダンス」＝ダンスの鑑賞術を学び、舞踊作品の楽しみ方を身に付ける。
「つくるダンス」＝担当教員が提示する音楽に合わせて動作を構成する。具体的には担当教員が創作した振付の一部にアレンジを加えたり、自身の表現を取り入れたりすることに挑戦する。最終的に出来上がった振付を発表し、お互いのダンスを評釈し合う。
「つたえるダンス」＝授業で得た気付きや舞踊作品の良さをディスカッションやレポート等を通じて、自分の言葉で表現できるように訓練する。
【重要】
新型コロナウイルスによる感染症問題により、少なくとも春学期の前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日（火曜日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や内容を説明するとともに、ストレッチや初歩的なバーレッスンを通して、踊るための身体を準備する。
2	クラシック・バレエの基礎 1 —ストレッチとバーレッスン	身体の仕組みを理解しながら、基本的なバレエのバーレッスンを体験する。
3	クラシック・バレエの基礎 2 —バー〜センターレッスン	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作を反復し、身体に覚え込ませていく。
4	舞踊作品の鑑賞術 1 —グランド・バレエ他	クラシック・バレエの作品を観ながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
5	クラシック・バレエの基礎 3 —バー〜センターレッスン	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作に自己の感情や意思、想像力を込めて、身体表現へと洗練させていく。
6	クラシック・バレエの基礎 4 —初歩的なヴァリエーション	バーレッスンとセンターレッスンの基本動作を組み合わせた簡単なヴァリエーションを実践し、自身の動作に感情をより一層込められるように練習する。
7	舞踊作品の鑑賞術 2 —モダン・コンテンポラリー他	モダンダンスやコンテンポラリーダンスをはじめ様々なジャンルの作品を鑑賞しながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
8	コンタクト・インプロヴィゼーション	言葉ではなく、ダンスや身体運動を用いた他者とのコミュニケーションを体験する。即興で動きを構成したり、相手の動作に応じながら自身の身体をコントロールすることに挑戦していく。

9	クラシック・バレエの基礎５ ―総集編	これまで実践してきたクラシック・バレエの基礎を復習しながら、音楽から想起される感情やイメージを動きで表現することを目指す。
10	ダンスの振付とその実践１ ―音楽とコンセプトの理解	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、担当教員が準備する振付を習得する。また振付のコンセプトや音楽を理解しながら、「振付」という創作活動について深く考えてみる。
11	ダンスの振付とその実践２ ―動作の構成	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、担当教員が準備する振付を習得する。また振付の一部に自身のアレンジや表現を取り入れる創作活動を行う。
12	ダンスの振付とその実践３ ―作品の創作と練習	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、前回の授業で構成した振付を練習し仕上げていく。
13	The Exhibition ―作品の上演	「ダンスの振付とその実践１～３」を通して創作した振付を一人ずつ発表する。参加者はそれぞれの踊りを見て評釈し合う。
14	まとめ	本実習のまとめを行い、ダンスを「する」、「みる」、「つくる」、「つたえる」ことの重要性についてディスカッション形式で考察していきたい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に要求しないが、必要に応じてレポートの作成を指示する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じて担当教員がテクストを配布する。

【参考書】
・ヴァレリーグリーグ『インサイド・バレエテクニック――正しいレッスンとテクニックの向上』上野房
子訳, 大修館書店, 1997.
・尼ヶ崎彬『ダンス・クリティーク――舞踊の現在 / 舞踊の身体』勁草書房, 2004.
・鈴木晶『バレエとダンスの歴史――欧米劇場舞踊史』平凡社, 2012.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
・レポートおよびリアクションペーパー（30%）：定期的に提出するリアクションペーパーやレポートの内容を評価する。
・実技（30%）：自身の身体や舞踊文化、音楽に対する理解を深めながら踊ることができているかを評価する。
【重要】
少なくとも春学期の前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も今後変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
基本的にダンス（バレエ）を実践する授業ですので、動きやすく踊ることに適した服装で受講してください。また受講するに際してバレエシューズを準備することが望ましいですが、難しければ厚手の靴下を用意してください（なお靴下は汚れたり破れたりして痛んでしまいますが、ご了承ください）。バレエシューズに関しては、ダンス用品店や通販サイトで 1,000 ～ 3,000 円程度の値段で購入することができます。ただし数回ほど座学形式の授業を実施しますが、その際の服装は自由です。授業全 14 回を通して毎回必ず筆記用具を持参してください。その他の注意事項については初回の授業にて説明します。

【その他の重要事項】
バレエやダンス経験の無い方、自分を表現することに対して苦手意識を持っている方、誰でも大歓迎です。参加者全員でコミュニケーションをとりながら、楽しくダンスを学びましょう。
なお本実習は定員が決まっていますので、受講希望者が多い場合は抽選となります。
【2020 年 4 月 19 日付お知らせ】
新型コロナウイルスによる感染症問題により、今学期の授業方針が大きく変更されます。現在、本授業を履修してくださっている学生の皆様と有意義な学び の時間を共有できるような授業方針を策定中です。4 月 28 日までに授業支援 システムにて、今後の授業予定と方法をお知らせいたしますが、現段階では、① Zoom や WebEx などのオンラインセッションアプリを使用した「オンライン講義授業」や、②講義動画の配信による「オンデマンド型授業」、③課題文献を読み込んでレポートを作成する「課題取組型授業」を構想しております。
いずれにせよ、受講者全員に安定した学びの環境と教材を提供すべく最大限努めていきますので、どうかご安心ください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire comprehensive abilities needed to enjoy dances.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川　洋子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
旧うか科目名：**舞踊論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント〜ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見ることにより、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての身体の動き	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法 日常の動作を使って	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	表現活動における振り付け方法 スピードの変化	スピードの変化や止まることで、動きに変化を付ける。見え方がどのように変わるかを作品の鑑賞から知る。
5	表現活動における振り付け方法 イメージの表現	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法 集団の動き	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
7	学習指導案の作成	2 ~ 3 名のグループに分かれ、指導案を作成。 作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 1 年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。
10	中学 3 年生、または高校 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 3 年生または高校 1 年生の対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校 1 年。または 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校 1・2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：学習指導要領　体育領域「ダンス」を読んでおく。
第 2 回目以降は、毎回の授業内容を復習し、レポートを書く。次回授業で使用する言葉について調べるなど。毎時間レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】
『表現運動系及びダンス指導の手引き　』　文部科学省　　東洋館出版

【成績評価の方法と基準】
ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。
・平常点（参加態度・出席回数を含む）50 %
・レポート（授業の理解度）30 %
・技術点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さや、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
提出されたレポートの内容から、授業内容への理解が個人により差が大きいと感じた為、授業内容の説明を更に分かりやすく行うことにします。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はありませんが、最後の創作活動において、必要があれば録音・録画を行いグループワークに役立てることもあります。（個人の機器を使用）

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline and objectives】
In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of seif expression and commiunication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川　洋子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4
旧うか科目名：**舞踊論** [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育における『ダンスの授業』とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント〜ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】
①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。
ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見ることにより、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての身体の動き	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法 日常の動作を使って	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	表現活動における振り付け方法 スピードの変化	スピードの変化や止まることで、動きに変化を付ける。見え方がどのように変わるかを作品の鑑賞から知る。
5	表現活動における振り付け方法 イメージの表現	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
6	表現活動における振り付け方法 集団の動き	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない動き、「集団による表現方法」について学ぶ。
7	学習指導案の作成	2 ~ 3 名のグループに分かれ、指導案を作成。 作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 1 年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。
10	中学 3 年生、または高校 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 3 年生または高校 1 年生の対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校 1 年。または 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校 1 ・2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：学習指導要領　体育領域「ダンス」を読んでおく。
第 2 回目以降は、毎回の授業内容を復習し、レポートを書く。次回授業で使用する言葉について調べるなど。毎時間レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】
『表現運動系及びダンス指導の手引き　』　文部科学省　　東洋館出版

【成績評価の方法と基準】
ダンス表現の基礎力を身につけ理解を深めることと、実技の向上を目標としているので、下記のように評価します。
・平常点（参加態度・出席回数を含む）50 %
・レポート（授業の理解度）30 %
・技術点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さや、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
提出されたレポートの内容から、授業内容への理解が個人により差が大きいと感じた為、授業内容の説明を更に分かりやすく行うことにします。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要はありませんが、最後の創作活動において、必要があれば録音・録画を行いグループワークに役立てることもあります。（個人の機器を使用）

【その他の重要事項】
教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かそうという意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

【Outline and objectives】
In this class,the students will learn to express feelings and images through dance,improve the ability of seif expression and commiunication skills, as well as deepen their understanding of self representation ,in dancs. Also,they will acquire leadenship through mock teaching demonstrations.

HSS100IA

剣道実習

山﨑　廣道

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半 4 時間でに模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】
①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
②指導法・評価方法等について習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は 4 月 28 日とする。具体的な指示は、学習支援システムで提示する。
①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り ｛一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）｝ ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1 （切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 3 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 4 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度
②模擬授業評価
③授業への貢献度（役割分担等）
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。
・竹刀、竹刀袋、鍔（つば）、鍔止めは 1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】
The goal my class
1. To reskill knowledges and skills for phyisical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道実習

山﨑　廣道

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半 4 時間でに模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】
①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
②指導法・評価方法等について習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は 4 月 28 日とする。具体的な指示は、学習支援システムで提示する。
①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り ｛一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）｝ ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1 （切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 3 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 4 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度
②模擬授業評価
③授業への貢献度（役割分担等）
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。
・竹刀、竹刀袋、鍔（つば）、鍔止めは 1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】
The goal my class
1. To reskill knowledges and skills for phyisical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論実習

山﨑　廣道

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半 4 時間でに模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】
①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
②指導法・評価方法等について習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は 4 月 28 日とする。具体的な指示は、学習支援システムで提示する。
①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り ｛一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）｝ ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1 （切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 3 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 4 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度
②模擬授業評価
③授業への貢献度（役割分担等）
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。
・竹刀、竹刀袋、鍔（つば）、鍔止めは 1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】
The goal my class
1. To reskill knowledges and skills for phyisical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論実習

山﨑　廣道

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「武道」の 1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「剣道実習」なので、前半で実技演習、後半 4 時間でに模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】
①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
②指導法・評価方法等について習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始は 4 月 28 日とする。具体的な指示は、学習支援システムで提示する。
①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために後半 模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。
②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・基本指導法①の反復 ・素振り ｛一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）｝ ・対人動作での素振り、打ち込み練習
4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、 小手 → 面、 小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・互角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・互角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・互角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 1 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・互角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1 （切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 互角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 3 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 4 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法等を詳細に記したレジュメを配布する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度
②模擬授業評価
③授業への貢献度（役割分担等）
①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。
・竹刀、竹刀袋、鍔（つば）、鍔止めは 1 時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

【Outline and objectives】
The goal my class
1. To reskill knowledges and skills for phyisical education class through Kendo(japanese fencing) ,a field of japanese traditonal military arts.
2. To develope one's educational ability through trial lessons of Kendo practice to evaluate each other with my instruction and mentoring.

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤　伸晃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業１ 基本指導法①の反復 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③	模擬授業２ 基本指導法①②の反復 間合、踏み込み足
5	基本指導法④	模擬授業３ 基本指導法①②③の反復 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤（しかけ技①）	模擬授業４ 基本指導法①②③④の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥（しかけ技②）	模擬授業５ 基本指導法①②③④⑤の反復 払い技、引き技、出ばな技、
8	基本指導法⑦（応じ技①）	模擬授業６ 基本指導①②③④⑤⑥の反復 抜き技
9	基本指導法⑧（応じ技②）	模擬授業７ 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復 返し技
10	基本指導法⑨（応じ技③）	模擬授業８ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 すり上げ技、打ち落とし技
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	模擬授業９ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	模擬授業１０ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8 〜 10 名で構成するグループ 1 により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし検討する。
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	模擬授業１１ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし検討する。
14	試験・解説	基本技を中心とした実技試験を実施する。 剣道授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし
ただし、授業において資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①実技試験
②模擬授業評価
③授業への参加態度
①〜③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】
実務経験〜皇宮護衛官
警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤　伸晃

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業１ 基本指導法①の反復 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③	模擬授業２ 基本指導法①②の反復 間合、踏み込み足
5	基本指導法④	模擬授業３ 基本指導法①②③の反復 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （しかけ技①）	模擬授業４ 基本指導法①②③④の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （しかけ技②）	模擬授業５ 基本指導法①②③④⑤の反復 払い技、引き技、出ばな技、
8	基本指導法⑦ （応じ技①）	模擬授業６ 基本指導①②③④⑤⑥の反復 抜き技
9	基本指導法⑧ （応じ技②）	模擬授業７ 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復 返し技
10	基本指導法⑨ （応じ技③）	模擬授業８ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 すり上げ技、打ち落とし技
11	基本指導法⑩ （総合演習指導法①）	模擬授業９ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	基本指導法⑪ （総合演習指導法②）	模擬授業１０ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8 〜 10 名で構成するグループ 1 により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし検討する。
13	基本指導法⑫ （総合演習指導法③）	模擬授業１１ 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし検討する。
14	試験・解説	基本技を中心とした実技試験を実施する。 剣道授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし
ただし、授業において資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①実技試験
②模擬授業評価
③授業への参加態度
①〜③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】
実務経験〜皇宮護衛官
警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS200IA

器械運動実習

佐藤　彩乃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症によるオンライン授業について、初回授業は 4 月 21 日より開始する。
授業方法は学習支援システムに参考資料を提示する。第 1 回目の授業は本授業についてのオリエンテーションとし、2 回目以降は提示された課題提出で出席したとする。
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に参加状況と授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動実習

佐藤　彩乃

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症によるオンライン授業について、初回授業は 4 月 21 日より開始する。
授業方法は学習支援システムに参考資料を提示する。第 1 回目の授業は本授業についてのオリエンテーションとし、2 回目以降は提示された課題提出で出席したとする。
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に参加状況と授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論実習

佐藤　彩乃

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症によるオンライン授業について、初回授業は 4 月 21 日より開始する。
授業方法は学習支援システムに参考資料を提示する。第 1 回目の授業は本授業についてのオリエンテーションとし、2 回目以降は提示された課題提出で出席したとする。
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に参加状況と授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論実習

佐藤　彩乃

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。
技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身に付ける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルス感染症によるオンライン授業について、初回授業は 4 月 21 日より開始する。
授業方法は学習支援システムに参考資料を提示する。第 1 回目の授業は本授業についてのオリエンテーションとし、2 回目以降は提示された課題提出で出席したとする。
本授業では 2 つの運動について実技学習する。
＜マット運動＞マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。
＜跳び箱運動＞切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
加えて、＜鉄棒運動＞の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	器械運動の特性を理解する。授業の進め方、評価方法、注意事項について
2	マット運動①	器械運動に必要な基本運動の習得を目指す
3	マット運動②	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動③	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動④	マット運動における基本的な技と発展的な技の組み合わせの方法を理解し、技の習得を目指す
6	マット運動⑤	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
7	マット運動⑥	これまで習得したマット運動における各技能を、小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動	鉄棒運動における支持回転系の基本技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動①	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動②	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	跳び箱運動③	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	跳び箱運動④	これまで習得した跳び箱運動における、各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	まとめ①	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	まとめ②	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学習した、技のコツや自身の感覚は書き留めておくなど忘れないよう努力すること。次回の授業には前回の授業でつかんだコツや感覚をよく思い起こして望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008
金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に参加状況と授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。
試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】
学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge about gymnastic skills, floor exercise and vaulting box.
The students will get to know gymnastic terminology, correct technique, and experience the fun and joy of performance.
Students will learn practical training for the methods of teaching skills.This course also provides skill building about safety on the floor.

HSS200IA

器械運動指導論演習

小野田　桂子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
器械運動のマット運動・跳び箱運動等における技能・知識・安全面を復習し、中学生・高校生を指導する際に必要な段階的な指導と安全な幇助方法について、主体的に関わる演習形式を通して学習する。

【到達目標】
1) 中学校・高等学校において器械運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を習得できる。2) 学習者の特性に応じた上達の可能性を発見し、指導法を改善することを習慣化することができる。3) 安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本学習　①	身体感覚をつかむ（バランス）マット運動、慣れの運動（ゆりかご、よちよち歩きなど）、接転系技群の基本技（前後転、開脚前後転、伸膝前後転、側転、背倒立）
2	基本学習　②	身体感覚向上（バランス、柔軟）マット運動、慣れの運動（四つ這い、ブリッジなど）、接転系技群の基本技（前後転、開脚前後転）、三点倒立、倒立練習、はねおき練習導入
3	基本学習　③	身体感覚向上（ジャンプ）マット運動 慣れの運動（ブリッジ歩行、体幹トレーニングなど）、倒立練習、接転系技群の基本技おさらい、倒立練習、ほん転系基本技１（はねおき、倒立前転、前方倒立回転、側方倒立回転、後方倒立回転）
4	基本学習　④	身体感覚向上（コーディネーショントレーニング）、マット運動　倒立練習、ほん転系基本技（基本技１おさらい、側方倒立回転とび、後方倒立回転とび）
5	基本学習　⑤	身体感覚向上（コーディネーショントレーニング）、倒立練習、とび箱慣れの運動　とふみきりについて、切り返し系とび箱運動（開脚とび、かかえこみとび）
6	基本学習　⑥	身体感覚向上（コーディネーショントレーニング）、倒立練習、とび箱慣れの運動とふみきりについて、回転系とび箱運動（台上前転など　）
7	基本学習　⑦ 指導案計画作成	鉄棒運動基本技・理論学習、グループ分け・指導計画・相談
8	模擬授業（マット運動１）	「マット運動 慣れの運動・接転系技群の基本技 1」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（マット運動 2）	「マット運動 接転系技群の基本技 2」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業　（マット運動 3）	「マット運動 ほん転系技群の基本技」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（跳び箱 1）	「跳び箱　切り返し系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（跳び箱 2）	「跳び箱　回転系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
13	模擬授業（鉄棒 1）	「鉄棒　支持系」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」「技能」について何を学べたかをディスカッションする。
14	模擬授業まとめ	模擬授業のまとめと振り返り、倒立練習成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナロゴン）運動体験を積極的に実践する。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間 とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省 動画サイト
http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24

【参考書】
①高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店,2008 ②金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱, 平均台, 鉄棒運動）, 大修館書店,1984 ③高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店,2009 ④高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店,2009

【成績評価の方法と基準】
参加態度点 50 点、模擬授業点 20 点、倒立成果発表 10 点、模擬授業の振り返りレポート点 20 点

【学生の意見等からの気づき】
器械運動の実技力を高める為に欠かせない逆位の感覚を身につけられるよう、練習成果発表を評価に加える。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・シューズ・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
To review skills and to learn knowledge and safety in instrument exercises like mat gymnastics and jumping box exercises, and also to review the step-by-step instruction necessary for teaching junior high and high school students the safe assisting method.

HSS200IA

体つくり運動実習

新海　萌子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
なお、前期授業はオンラインでの開講が大半を占めると予想されている。本授業は、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。よって、授業開始は 4 月 28 日（火）とする。
学習支援システムを確認の上、受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（参考：当初の成績評価基準）
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動実習

新海　萌子

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
なお、前期授業はオンラインでの開講が大半を占めると予想されている。本授業は、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。よって、授業開始は 4 月 28 日（火）とする。
学習支援システムを確認の上、受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（参考：当初の成績評価基準）
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動指導論実習

新海　萌子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
なお、前期授業はオンラインでの開講が大半を占めると予想されている。本授業は、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。よって、授業開始は 4 月 28 日（火）とする。
学習支援システムを確認の上、受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（参考：当初の成績評価基準）
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動指導論実習

新海　萌子

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体つくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体つくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体つくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】
新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体つくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。 そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。
自らの動きの世界を広げていくことで、「体つくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性と役割を確認する。 新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。
なお、前期授業はオンラインでの開講が大半を占めると予想されている。本授業は、動画やパワーポイントでの資料配信の他、課題提示などにより、授業を進める予定である。よって、授業開始は 4 月 28 日（火）とする。
学習支援システムを確認の上、受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体つくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体つくり運動」の意義	学校体育における体つくり運動の特性を理解した上で，その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付く・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズミカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	縄を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて，その特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで，指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの生活に体つくり運動を採り入れ実践することを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（参考：当初の成績評価基準）
成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしてきたい。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In the National Curriculum Standards 'Gymnastics' has been renamed 'Exercise for Releasing Body and Mind'. It is comprised of two types of exercise which are 'Exercise for Physical Release' and 'Exercise for Physical Fitness'.
The purpose of this class is to understand the two Gymnastics's types and teaching methods.
Specifically, by using music, tools, and interacting with people, we will do activities to broaden the range of movement while enjoying.

HSS200IA

体つくり運動指導論演習

小野田　桂子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修者は体育授業において、生徒を体つくり運動に親しませることができる指導力を身に付ける。体つくり運動には「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。中学生・高校生を指導する際に運動をすることの楽しさを実感させることを基本に学習する。

【到達目標】
!) 履修者が、中学校・高等学校において体つくり運動の体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付けることができる。
2) 学習者の特性に応じた上達の可能性を発見し、指導法を改善することを習慣化することができる。
3) 安全に配慮することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、グループワークによる協働的な演習を行いアクティブラーニングによる授業展開をしていく。主体的に学習に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進める。毎授業でのリアクションペーパー提出あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本学習　①	授業ガイダンス、体ほぐし運動、コーディネーショントレーニング
2	基本学習　②	グループコーディネーショントレーニングを取り入れた体ほぐし運動 、柔軟 1、体つくり運動理論
3	基本学習　③	模倣運動や道具を使った運動（輪）での体ほぐし運動、筋力 1
4	基本学習　④	鬼ごっこでの体ほぐし運動・道具を使った運動（ボール）、筋力 2
5	基本学習　⑤	音楽を使った体ほぐし運動、道具を使った運動（長縄）、バランス
6	基本学習　⑥	表現運動を取り入れた体ほぐし運動、持久力
7	指導案計画確認	布を使った体ほぐし運動・グループ分け・指導計画・相談
8	模擬授業（グループコーディネーショントレーニング・柔軟）	「グループコーディネーショントレーニングを取り入れた体ほぐし運動・柔軟」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
9	模擬授業（長縄・柔軟）	「道具を使った（長縄）体ほぐし運動・柔軟」の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
10	模擬授業（表現運動・調整力）	「表現運動を取り入れた体ほぐし運動・調整力」の指導を中心と下模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
11	模擬授業（ボール・持久力）	「道具を使った（ボール）体ほぐし運動・持久力」の指導を中心と下模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
12	模擬授業（音楽・瞬発力）	「音楽を使った体ほぐし運動・瞬発力」の指導を中心と下模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
13	模擬授業（模倣運動・筋力）	「模倣を取り入れた体ほぐし運動・筋力」の指導を中心と下模擬授業を行う。終了後に生徒役が「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の知識・理解」等について何を学べたかをディスカッションする。
14	まとめ	模擬授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模擬授業の指導案づくりに際する調べ学習等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 とする。アナロゴンを積極的にとりいれる。自らの生活に運動をとり入れ実践することを推奨する。世界の諸問題について体力や生涯スポーツとしての側面から、自身との関係を考える習慣を身につけていただきたい。

【テキスト（教科書）】
①新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm
②高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体つくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】
文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体つくり運動－ 授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】
【参加態度】50 点
①仲間と協力し、能力を高あう授業への取り組み姿勢と指導方法習得のための積極的な「態度」を評価する。
②自己の指導に問題意識を持ち、改善しようとする「態度」を評価する。
③自己の体調管理ができ、体調不良による不参加を防ぐ「態度」を評価する。
【模擬授業点】30 点
①体つくり運動の指導案作成により、「理解と知識」を評価する。
②体つくり運動の模擬授業により、指導力と実技力の「実践力」を評価する。
③動機付けについての工夫に対して「取り組む力」を評価する。
【振り返りレポート】20 点
振り返りレポートにおける「知識・理解」「考える力」「気づき」「独創性」「伝える力」を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実技力の向上や履修者の体力向上にもつながる内容を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】
日頃から、自身の体力向上や体調管理に努めていただきたい。水分やタオルは各自用意してください。

【Outline and objectives】
There are two types of “Karadatukuri undou" (Physical Training Exercises): "karadahogushiundou" (body relaxation exercise) and “Tairyokuwotakameruundou" (physical fitness enhancing exercise).The former aims at awareness, coordination, and interaction, while the latter aims at knowing how to improve physical fitness.When teaching junior high and high school students, it is essential to realize the joy of exercising.This will allow students to get involved in physical education and exercise.

HSS200IA

サッカー実習

川田　尚弘

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 6 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識 (講義) 2、発育発達と一貫指導 (講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
指導テスト (70%)，実技テスト (30%) により評価する。
授業がグラウンドで行うことが出来るようになったら、指導実践・実技など上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

サッカー実習

川田　尚弘

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 6 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識 (講義) 2、発育発達と一貫指導 (講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
指導テスト (70%)，実技テスト (30%) により評価する。
授業がグラウンドで行うことが出来るようになったら、指導実践・実技など上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

サッカー指導論実習

川田　尚弘

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**サッカー指導論 (実習)**[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 6 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識 (講義) 2、発育発達と一貫指導 (講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
指導テスト (70%)，実技テスト (30%) により評価する。
授業がグラウンドで行うことが出来るようになったら、指導実践・実技など上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

サッカー指導論実習

川田　尚弘

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3
旧うか科目名：サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で, 試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら，教えることをやめなくてはならない』
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 6 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応 (個人) 2、対敵での対応 (グループ)
4	コミュニケーションの重要性 (実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス＆サポート (実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション (実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識 (講義) 2、発育発達と一貫指導 (講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本 (リカバーと強化)	●リカバーリングの方法 ●フィジカル強化の方法 (スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション (実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ● 3 人目の動き (オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム (実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける (体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う (個人・グループ)	アプローチ (インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う (個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論 (講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング I	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】
指導テスト (70%)，実技テスト (30%) により評価する。
授業がグラウンドで行うことが出来るようになったら、指導実践・実技など上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

サッカー指導論演習

井上　尊寛

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)〜ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス (実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導実践Ⅰ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
13	指導実践Ⅱ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践Ⅲ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認Ｃ級コーチ）(公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践 (60%)，レポート (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

サッカー指導論演習

川田　尚弘

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
旧うか科目名：**サッカー指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、サッカーにおける基本的な理論と実践について学び、自ら指導を行うことによってそれらの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(財) 日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
サッカーの指導者は世界で今何が起こっているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた，技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニアー (U-12) からユース (U-18) レベル (女子も含む) の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。
春学期の少なくとも前半はオンラインの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システム（HOPPII）でその都度掲示します。
本年度（2020 年）春学期の授業は、開始を 5 月 7 日とします。
学習支援システムを通じて課題を提示しますので確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方 (講義)	●ジュニア (U-12)〜ユース (U-18) までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング (実技) ②ワンタッチ・コントロール (実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践 (テーマ：ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック (実技) ②ヘディング (実技) ③リ・スタート (実技)	●シュート・パス・クリアーの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践 (テーマ：リ・スタート)(実技)	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の３割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック＆ディフェンス (実技)	ゲーム・フリーズ
7	個人戦術Ⅰ	１対１のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション (アイコンタクト・コーチング・ボディーアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲームⅠ	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲームⅡ	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導実践Ⅰ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が攻守の切り替えをテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う
13	指導実践Ⅱ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が攻撃をテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う
14	指導実践Ⅲ	学生が３名 (監督１名、コーチ２名) が守備をテーマとした指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)
① (財) 日本サッカー協会 U-12 指導指針〜U18 指導指針内容を理解しておく。
② (財) 日本サッカー協会指導教本で予習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(財) 日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】
・日本代表コーチ・J クラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)
・サッカー指導教本２０１２（ＪＦＡ公認Ｃ級コーチ）(公) 日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】
指導実践 (60%)，レポート (40%) により評価する。
授業がグラウンドで行うことが出来るようになったら、指導実践など上記の条件の一部が適用されます。
オンライン授業に伴って適用される具体的な方法と成績評価の基準は授業開始日に、学習支援システム（HOPPII）で掲示します。

【学生の意見等からの気づき】
指導実践の充実 (受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く

【Outline and objectives】
This course is to learn about the practice and theory of football. Students will be able to understand how they conduct coaching of football.

HSS200IA

バレーボール実習

山田　稔

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。
バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
【技能】
状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開できるようにする。
【態度】
バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全を確保できるようにする。
【知識、思考・判断】
バレーボールの歴史的変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンラインでの授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
・指導のコツやポイントを受講者の指導現場で言語化できるよう、受講者間の言語能力の向上を目指す。
・バレーボールの指導に必要な知識を講義やワークシート、課題レポートを通して習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の練習（パス、レシーブ、サービス）	授業の概要と目的、到達目標、評価とその方法について説明する。 基本技術（パス、レシーブ、サービス）の練習。
2	バレーボールの歴史的変遷①について理解する。 基本技術の練習（パス、レシーブ、サービス） 簡易ゲーム（4 対 4）	バレーボールの歴史的変遷①について説明する。 グループ分け、自己紹介、係分担の決定。 相手コートの守備のいない空間に緩急をつけて打ち返す方法についてグループで考える。
3	バレーボールの歴史的変遷②について理解する。 基本技術の練習（ディグ） 簡易ゲーム（4 対 4）	バレーボールの歴史的変遷②について説明する。 1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行う。その際、ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることについてできるようにする。
4	バレーボールのルール①について理解する。 基本技術の練習（スパイク） ゲーム (6 対 6)	バレーボールのルール①について説明する。 ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることができるようにする。
5	バレーボールのルール②について理解する。 基本技術の練習（レセプション） ゲーム (6 対 6)	バレーボールのルール②について説明する。 変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレセプションすることができるようにする。
6	基本技術の練習（ブロック） ゲーム (6 対 6) 課題レポート①の説明	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。 課題レポート①の説明を行う。
7	実技試験①（基本技能の試験） ゲーム (6 対 6) 課題レポート①の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようにする。 ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることを理解できるようにする。 課題レポート①の提出を行う。
8	チームの課題解決のための練習 リーグ戦①	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動けるようにする。
9	チームの課題解決のための練習 リーグ戦②	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにする。
10	チームの課題解決のための練習 リーグ戦③	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
11	チームの課題解決のための練習 リーグ戦④ 課題レポート②の説明	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。 課題レポート②の説明を行う。
12	実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） リーグ戦⑤ 課題レポート②の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 リーグ戦を行う。 課題レポート②の提出を行う。
13	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑥	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにする。
14	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑦ 本講義のふり返りレポートの作成	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。 本講義のふり返りレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に対するふり返りを行うため、毎時リアクションペーパーを提出すること。
・講義期間中 2 回の課題レポート提出は、期日厳守で提出すること。
・講義中に実技試験を 2 回行うため、技能の定着を図っておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とすること。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
バレーボールの基本技能　実技試験　５０％
授業中の活動に対する参画状況　１５％
授業への積極的な貢献度　１５％
課題レポート及び毎回の授業レポート　２０％
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。

教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】
本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準して、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
Learn the basic theory and skills of volleyball and teaching method based on the guidelines for teaching of junior high school and high school.
To understand the history, the name of the technology, the way of rules and games, the strategy and tactics, the principle of operation and teaching method of skills, the practice method and acquire skills necessary for instruction as necessary for teaching volleyball

HSS200IA

バレーボール指導論実習

山田　稔

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
旧うか科目名：**バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの基礎理論及び技能、指導方法について中学校・高等学校学習指導要領を基に学ぶ。
バレーボールの指導を行う上で必要な歴史、技術の名称、ルールや試合の行い方、作戦や戦術、技能の動作原理や指導法、練習方法について理解するとともに指導に必要な技能を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
【技能】
状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開できるようにする。
【態度】
バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全を確保できるようにする。
【知識、思考・判断】
バレーボールの歴史的変遷、技術の名称、技術の構造や動作原理、体力の高め方、試合の仕方、作戦や戦術等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンラインでの授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
・到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。
・チーム内での学生同士の学び合いを中心として講義を進める。
・指導のコツやポイントを受講者の指導現場で言語化できるよう、受講者間の言語能力の向上を目指す。
・バレーボールの指導に必要な知識を講義やワークシート、課題レポートを通して習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の練習（パス、レシーブ、サービス）	授業の概要と目的、到達目標、評価とその方法について説明する。 基本技術（パス、レシーブ、サービス）の練習。
2	バレーボールの歴史的変遷①について理解する。 基本技術の練習（パス、レシーブ、サービス） 簡易ゲーム（4 対 4）	バレーボールの歴史的変遷①について説明する。 グループ分け、自己紹介、係分担の決定。 相手コートの守備のいない空間に緩急をつけて打ち返す方法についてグループで考える。
3	バレーボールの歴史的変遷②について理解する。 基本技術の練習（ディグ） 簡易ゲーム（4 対 4）	バレーボールの歴史的変遷②について説明する。 1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行う。その際、ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることについてできるようにする。
4	バレーボールのルール①について理解する。 基本技術の練習（スパイク） ゲーム (6 対 6)	バレーボールのルール①について説明する。 ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができるようにする。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることができるようにする。
5	バレーボールのルール②について理解する。 基本技術の練習（レセプション） ゲーム (6 対 6)	バレーボールのルール②について説明する。 変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレセプションすることができるようにする。
6	基本技術の練習（ブロック） ゲーム (6 対 6) 課題レポート①の説明	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。 課題レポート①の説明を行う。
7	実技試験①（基本技能の試験） ゲーム (6 対 6) 課題レポート①の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きができるようにする。 ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることを理解できるようにする。 課題レポート①の提出を行う。
8	チームの課題解決のための練習 リーグ戦①	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動けるようにする。
9	チームの課題解決のための練習 リーグ戦②	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにする。
10	チームの課題解決のための練習 リーグ戦③	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
11	チームの課題解決のための練習 リーグ戦④ 課題レポート②の説明	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができるようにする。 課題レポート②の説明を行う。
12	実技試験②（チーム内における連携技能の習得状況を評価する） リーグ戦⑤ 課題レポート②の提出	評価規準に基づき、技能評価を行う。 リーグ戦を行う。 課題レポート②の提出を行う。
13	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑥	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に攻撃面）仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きができるようにする。
14	チームの課題解決のための練習 リーグ戦⑦ 本講義のふり返りレポートの作成	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。（主に守備面）ラリーの中で、相手の攻撃の変化や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。 本講義のふり返りレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に対するふり返りを行うため、毎時リアクションペーパーを提出すること。
・講義期間中 2 回の課題レポート提出は、期日厳守で提出すること。
・講義中に実技試験を 2 回行うため、技能の定着を図っておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とすること。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
バレーボールの基本技能　実技試験　５０％
授業中の活動に対する参画状況　１５％
授業への積極的な貢献度　１５％
課題レポート及び毎回の授業レポート　２０％
この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義の学生からの評価はおおむね良い状況であった。

教職免許の取得を希望する履修者にとっては、学習指導要領に基づき発達段階に応じた系統的な指導方法について理解する場となるよう指導することが必要である。
教職免許の取得を希望しない履修者にとっては、学習指導要領に基づいた指導を行うことにより、将来スポーツ指導に関わる場合や職場のスポーツリーダーとして、役立つ知識や指導方法を理解する場となるよう指導することが必要である。

【その他の重要事項】
本講義は、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編に準して、バレーボールの「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を発達段階に応じて系統的に学ぶ講義である。本講義及び秋に開講される『バレーボール指導論演習』を一体として受講することを前提として内容が設定されていることを理解した上で履修すること。単なるバレーボールのゲームを中心とした講義ではないことを理解して履修すること。将来、保健体育科教員として、またスポーツリーダーとなることを希望する学生が履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
Learn the basic theory and skills of volleyball and teaching method based on the guidelines for teaching of junior high school and high school.
To understand the history, the name of the technology, the way of rules and games, the strategy and tactics, the principle of operation and teaching method of skills, the practice method and acquire skills necessary for instruction as necessary for teaching volleyball

HSS200IA

バレーボール指導論演習

山田　稔

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火 2/Tue.2**
旧うか科目名：**バレーボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習活動を中心に行い、教員からの講義（評価）を受け、自らの課題を把握し、これからの授業づくりに役立つようにする。
教員として必要な、学習指導力、生徒指導力等の現状を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。

【到達目標】
・教職免許を取得する学生は、これまで学んだ教職に関する基礎科目や自らの学習経験をもとに、自身の教員としての資質能力を確認し、課題を自己発見することができるようにする。
・教職免許を取得しない学生は、模擬授業を通して、人に指導することの難しさを知ることやリーダーシップの発揮の仕方、計画づくりや評価の大切さについて学び、自らの課題を自己発見することができるようにする。
・グループでの共同研究に参画し、自らの役割を的確に果たし、他者の意見を取り入れながら、より良い授業づくりに貢献することができるようにする。また、授業を受けた学生からの多様な意見を受け止め、自らの授業を的確に省察できる力をつけることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・バレーボールの動作原理及び指導の方法論について、専門的知識を学べるよう順序だてて講義を進めていく。
・毎時、講義内容についてのリアクションペーパーを作成し、知識の定着を図る。
・バレーボールの実践的指導力を身に付けるため、グループ単位で、バレーボールの学習指導案を作成し模擬授業を行う。
・模擬授業の省察を行い、より良い授業づくりやスポーツ指導のための課題把握と改善方法を考える。
・模擬授業を受ける側は、授業をふり返り、授業者に対して適切なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・状況に応じたボール操作や安定したボール操作について ・ゲーム	・講義の概要と目的、到達目標、評価とその方法、講義の概要について説明する。 ・仮チーム分け
2	・チーム本編成 ・状況に応じたボール操作や安定したボール操作について（サービス、レセプション） ・ゲーム	・チームメンバーの決定（キャプテン・副キャプテンの決定） ・ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることについて説明する（サービス、レセプション）。 ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きについて説明する（ディグフォーメーション）。
3	・状況に応じたボール操作や安定したボール操作について（レセプションからの攻撃） ・ゲーム	・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブする練習（レセプションからの攻撃）。
4	・状況に応じたボール操作や安定したボール操作について（つなぎの練習） ・連携した動きについて（クイックスパイク） ・ゲーム	・移動を伴うつなぎのボールに対応して、面を合わせて返球したりすることについて説明する（つなぎの練習）。 ・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることについて説明する（クイックスパイク）。
5	・連携した動きについて（ポジションとフォーメーションの仕方について） ・学習理論①（全習法の原則）について ・模擬授業へ向けてのチームディスカッション ・ゲーム	・基本的なフォーメーションを図示し、その動き方について説明する。 ・学習理論①として全習法を取り上げ、その理論と実際について説明する。 ・模擬授業へ向けて、指導案を検討する。(1 回目)
6	・連携した動きについて（レフト・センター・ライトからの攻撃に対するフォーメーション） ・運動理論②を活かした指導を行うことについて（ランダム練習の理論と指導法） ・模擬授業へ向けてのチームディスカッション ・ゲーム	・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することについて説明する（レフト・センター・ライトからの攻撃に対するフォーメーション）。 ・学習理論②として、ランダム練習（多様な技術を一括して練習する方法）を取り上げ、その理論と方法について説明する。 ・模擬授業へ向けて、指導案を検討する。(2 回目)
7	・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることについて（ブロックとダイレクトスパイク） ・模擬授業へ向けてのチームディスカッション ・ゲーム	・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることについて説明する（ブロックの理論及びその練習）。 ・模擬授業へ向けて指導案を検討する。(3 回目)
8	・模擬授業① 70 分授業（1・2 班が実施）ねらいに応じた授業をチームとして行う。 ・模擬授業のふり返りディスカッション ・リフレクションシートの提出（次週）	・授業の全体の流れ及び各自が行う箇所の指導案を作成し、模擬授業当日提出する。 ・模擬授業を行い、終了後は授業者側と授業を受けた側でディスカッションを行い、教授行動や授業内容をふり返る。 ・模擬授業終了後、次週に、リフレクションシートを各自提出する。
9	・模擬授業② 70 分授業（3・4 班が実施）ねらいに応じた授業をチームとして行う。 ・模擬授業のふり返りディスカッション ・リフレクションシートの提出（次週）	・授業の全体の流れ及び各自が行う箇所の指導案を作成し、模擬授業当日提出する。 ・模擬授業を行い、終了後は授業者側と授業を受けた側でディスカッションを行い、教授行動や授業内容をふり返る。 ・模擬授業終了後、次週に、リフレクションシートを各自提出する。
10	・模擬授業③ 70 分授業（5・6 班が実施）ねらいに応じた授業をチームとして行う。 ・模擬授業のふり返りディスカッション ・リフレクションシートの提出（次週）	・授業の全体の流れ及び各自が行う箇所の指導案を作成し、模擬授業当日提出する。 ・模擬授業を行い、終了後は授業者側と授業を受けた側でディスカッションを行い、教授行動や授業内容をふり返る。 ・模擬授業終了後、次週に、リフレクションシートを各自提出する。
11	・模擬授業④ 70 分授業（7・8 班が実施）ねらいに応じた授業をチームとして行う。 ・模擬授業のふり返りディスカッション ・リフレクションシートの提出（次週）	・授業の全体の流れ及び各自が行う箇所の指導案を作成し、模擬授業当日提出する。 ・模擬授業を行い、終了後は授業者側と授業を受けた側でディスカッションを行い、教授行動や授業内容をふり返る。 ・模擬授業終了後、次週に、リフレクションシートを各自提出する。
12	・グッドコーチ 7 つの提言を通して、バレーボール指導を考える。 ・ゲーム（トーナメント戦①）	・グッドコーチ 7 つの提言から現状のバレーボール指導について説明する。 ・バレーボールの競技特性を踏まえた指導の重要性について説明する。
13	・ジュニア期のバレーボール指導を考える。 ・ゲーム（トーナメント戦②）	・発育発達と運動能力、体力との関係、発育発達とトレーニングとの関係について、バレーボールの指導を行う際の留意点について説明する。
14	・ジュニア期の心理を考える。 ・ゲーム（トーナメント戦③） ・本講義のまとめ	・子供の心理面の発育発達、運動経験と子供の成長、子供の心理面の発育発達と運動指導上の留意点について説明する。 ・本講義をふり返り、学びの内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎時間に行う理論について、学んだ内容をふり返る。
・チームごとに行う、模擬授業の実践へ向けての指導案作成を行う。
・模擬授業を受けた側の学生とのディスカッションを行い、リフレクションシートを作成する。
・本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 29 年 7 月
高等学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省）平成 30 年 7 月

【参考書】
特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】
バレーボール指導案及びリフレクションシートの作成　２０％
模擬授業の内容（グループとしての評価）　１０％
模擬授業の内容（個人としての評価）　２０％
授業への積極的な貢献度　３０％
毎時の授業レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度の講義については学生よりおおむね良い評価をもらうことができた。しかし、課題はまだ多くある。教職を目指す学生にとっては、模擬授業のねらいに即した授業が確実にできるよう授業マネジメントや教授方法について丁寧に指導していく必要がある。教職を取らない学生にとっても有意義な講義となるよう、指導講評の中にリーダーシップの重要性や運動・スポーツと健康の繋がり、生きる術を学ぶ保健体育の授業であることについて理解させたり体験する中で、将来社会に出て役立つ講義内容にしていかねばならない。

【その他の重要事項】
バレーボール実習では、バレーボール基礎理論及び技術の習得及びバレーボールの指導方法について、学習指導要領を基に丁寧に指導していく。したがって、バレーボール実習とバレーボール指導論演習を同時に履修することにより深い学びが実現すると考える。両方の講義を履修すること原則とすることを求めたい。

【Outline and objectives】
Mainly on exercise activities, receive lectures (evaluations) from faculty members, grasp their problems and make them useful for future class creation.
Confirm the present conditions of learning leadership skills, student leadership skills, etc. necessary for faculty members, and clarify the teacher image he / she wants.

HSS200IA

バスケットボール実習

清水　貴司

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。
※内容を下記に変更します※
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日（選抜した履修学生を学習支援システムにて通知）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）
※下記に変更します※
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore,instantaneous power,endurance,instantaneus judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball,the history of basketball.

HSS200IA

バスケットボール実習

山口　良博

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。
【追記】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 30 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）
【追記】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore,instantaneous power,endurance,instantaneus judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball,the history of basketball.

HSS200IA

バスケットボール指導論演習

清水　貴司

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3
旧うか科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。
また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム（運営）展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。）
2	模擬授業（ボールハンドリング・ドリブルについて）	グループ及び 1 名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業（パス・シュートについて）	グループ及び 1 名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業（ディフェンス・ボールマンに対する守り方について）	グループ及び 1 名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業（オフェンス・カッティングプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業（オフェンス・スクリーンプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業（オフェンス・アウトナンバープレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業（マンツーマンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がマンツーマンチームディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業（ゾーンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業（戦術・チームオフェンス、セットプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスの戦術（セットプレー）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業（戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて）	グループ及び 1 名がディフェンスの戦術（ローテーション）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
12	模擬授業（授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて）	グループ及び 1 名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる（レポート作成）
14	まとめ　各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表（レポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜12 回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）
第 13 回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく
第 14 回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店
バスケットボール用語辞典　監修　小野修二　小谷究　廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】
参加態度 40 点　指導案の評価 20 点　模擬授業の評価 20 点　レポート 20 点

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】
※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大 40 名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール指導論実習の受講後の学生を優先とする。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Students first understand this characteristic. And we aim to learn how to teach basketball in this exercise. It also learns the ability to manage lessons and learns skills as teachers and coach.

HSS200IA

バスケットボール指導論演習

山口　良博

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧うか科目名：**バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。
また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム（運営）展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力と知識を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明（指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。）
2	模擬授業（ボールハンドリング・ドリブルについて）	グループ及び 1 名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業（パス・シュートについて）	グループ及び 1 名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業（ディフェンス・ボールマンに対する守り方について）	グループ及び 1 名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業（オフェンス・カッティングプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業（オフェンス・スクリーンプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業（オフェンス・アウトナンバープレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業（マンツーマンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がマンツーマンチームディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業（ゾーンディフェンスについて）	グループ及び 1 名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業（戦術・チームオフェンス、セットプレーについて）	グループ及び 1 名がオフェンスの戦術（セットプレー）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業（戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて）	グループ及び 1 名がディフェンスの戦術（ローテーション）の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
12	模擬授業（授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて）	グループ及び 1 名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる（レポート作成）
14	まとめ　各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表（レポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜12 回：模擬授業の準備（担当の学生は指導案の作成）
第 13 回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく
第 14 回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店
バスケットボール用語辞典　監修　小野修二　小谷究　廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】
参加態度 40 点　指導案の評価 20 点　模擬授業の評価 20 点　レポート 20 点

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたのでゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】
※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限（最大 40 名）があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール指導論実習の受講後の学生を優先とする。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Students first understand this characteristic. And we aim to learn how to teach basketball in this exercise. It also learns the ability to manage lessons and learns skills as teachers and coach.

HSS200IA

バスケットボール指導論実習

清水　貴司

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3
旧うか科目名：バスケットボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。
※内容を下記に変更します※
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日（選抜した履修学生を学習支援システムにて通知）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）
※下記に変更します※
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore,instantaneous power,endurance,instantaneus judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball,the history of basketball.

HSS200IA

バスケットボール指導論実習

山口　良博

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧うか科目名：**バスケットボール指導論 (実習)**[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】
バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレーヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。
【追記】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 30 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、 履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス＆ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー　4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習
11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ルールの確認。
授業で配布した資料を読み返すこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
実技試験による評価（50 %）
【追記】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】
履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。
※履修人数によって授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Everyone at the court is an offense player and a defense player for basketball. Therefore,instantaneous power,endurance,instantaneus judgment power are required. It aims at improving those abilities and acquiring the basic ability of basketball. Also learn about the way of refereeing in basketball,the history of basketball.

HSS200IA

テニス実習

植村　直己

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス実習

植村　直己

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村　直己

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 1/Wed.1
旧うか科目名：**テニス指導論 (実習)**[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
　春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論実習

植村　直己

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2
旧うか科目名：テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本 6 ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブ段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターンの基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルスの応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊専門誌

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

テニス指導論演習

植村　直己

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 2/Wed.2**
旧うか科目名：**テニス指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、履修生が将来、中学校、高等学校での体育授業などにおいてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの基礎技術を学習して個人の実技力を高め、初心者・初級者を対象としたテニスの技術指導、指導方法を学習する事が目的である。
また、本実習では、生徒をテニスに親しませるようなコミュニケーション能力や指導力を養成すると共に、テニスのルール、マナー、歴史、授業中の安全管理など専門知識を学習する。

【到達目標】
履修者が、将来、中学校・高等学校において体育授業でのテニス指導を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
① テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考に学習し、テニスの専門知識を学ぶことができる。
② 段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶことができる。
③ テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチング能力の基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サーブの基本動作を学び、応用技術として各ショットの連続プレーを練習する。
②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
③応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。
④将来、初心者、初級者を指導するための、テニスの楽しさを伝えられる様な指導法を自分なりに構築できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基本６ストロークの説明	授業全体の説明、ストロークのグリップ・スウィング法、安全管理
第 2 回	フォアハンドストローク	グリップ、スウィング法、打点
第 3 回	バックハンドストローク	両手打ちと片手打ちのグリップ、スウィング法、打点
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストローク段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法、打点
第 6 回	ボレーの指導法	ボレー段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サーブ	グリップ、スウィング法、打点、サーブの種類
第 8 回	スマッシュ、サーブの指導法	スマッシュ、サーブの段階的指導法の実践
第 9 回	サーブ、リターンの基礎技術	サーブの種類、サーブ・リターン基礎技術練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合形式、安全管理
第 11 回	ダブルスのフォーメーションと戦術	雁行陣と平行陣のポジション、戦術
第 12 回	ダブルス指導法	試合の進め方、スコアの数え方、試合形式
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践、安全対策
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルス応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
実技の前日は体調を整えるように心がける。
毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界の事を学習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】
「新版テニス指導教本」「JTA テニスルールブック」（日本テニス協会）
「テニスマガジン」「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】
本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。
この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
なお、遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
ダブルスが上達できる様な効果的な練習方法を、取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】
春学期科目のテニス実習を併せて履修することが臨ましい。

【Outline and objectives】
In this lesson, students will learn the basic skills of tennis required when teaching tennis in junior high school and high school physical education lessons in the future, to enhance individual skill of practical skills, It aims to learn technical guidance and teaching methods for biginners.
In this laboratory, we will develop communication skills and leadership skills to make students familiar with tennis, and learn tennis rules, manners, history, safety management during classes,etc. in order to acquire expert knowledge.

HSS200IA

バドミントン実習

升　佑二郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識，技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編	オールロング
9	基本技術　応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン指導論実習

升　佑二郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧うか科目名：**バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編	オールロング
9	基本技術　応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

バドミントン指導論演習

升　佑二郎

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧うか科目名：**バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論	講義と実技　「基本ストローク」
3	バドミントン技術論	講義と実技　「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論	講義と実技　「フットワーク」
5	バドミントン競技指導	講義と実技　「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導	講義と実技　「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論	講義と実技　「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論	講義と実技　「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技　「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技　「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技　「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析	講義と実技　「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析	講義と実技　「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】
Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

ソフトボール実習

佐藤　理恵

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として，ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける．また，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し，正しく安全に指導できる力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術を習得するため，屋外での実技を基本とする．ただし，ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には，室内での講義も実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．
屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：特になし．
第２～１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：春学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
「中学校学習指導要領」
「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
その他は授業内で適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・テスト（５０％）から評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通して履修すること．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

ソフトボール指導論実習

佐藤　理恵

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業/Spring**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木 2/Thu.2**
旧うか科目名：**ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として，ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける．また，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し，正しく安全に指導できる力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術を習得するため，屋外での実技を基本とする．ただし，ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には，室内での講義も実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．
屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術①	フライ捕球
第 5 回	捕球の基本的技術②	ゴロ捕球
第 6 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 7 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 8 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 9 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：特になし．
第２～１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：春学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
「中学校学習指導要領」
「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
その他は授業内で適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・テスト（５０％）から評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通して履修すること．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

ソフトボール指導論演習

大田　穂

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
旧うか科目名：**ベースボール指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し，ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって，ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする．

【到達目標】
中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として，ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける．また，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し，正しく安全に指導できる力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技，ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための室内での講義を実施する．また，天候等による急な変更もあり得る．指導方法を習得するための実技では，小グループでの相互指導（模擬授業）を行う．
屋外での実技授業の場合には小グループでの学習シートの提出，室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	さまざまな練習方法（守備・ピッチング）	守備とピッチングについての練習方法の紹介とその意図
第 3 回	さまざまな練習方法（打撃・走塁）	打撃と走塁についての練習方法の紹介とその意図
第 4 回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリーへの指導方法と留意点
第 5 回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第 6 回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第 7 回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 8 回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 9 回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 10 回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 11 回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 12 回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 13 回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第 14 回	学期末まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第１回：春学期の復習（基本的な技術およびルールの理解）．
第２～１３回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）．
第１４回：秋学期の総合的な復習．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず，必要に応じて資料を配布する．

【参考書】
「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
「中学校学習指導要領」
「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
その他は授業内で適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（３０％）・授業時の課題提出（２０％）・相互指導（模擬授業）レポート（２０％）・学期末レポート課題（３０％）から評価する．

【学生の意見等からの気づき】
説明の際などの話をするスピードが速いので，ゆっくりと話すように留意する．

【学生が準備すべき機器他】
特になし．

【その他の重要事項】
秋学期授業を理解するためには，春学期の授業を理解することが前提となる．
秋学期のみの履修は基本的には認めない。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge needed to coaching softball.
It also enhances basic skills of “throwing, catching, hitting, running” and knowledge of rules and safety in softball.

HSS200IA

陸上競技実習

苅部　俊二

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。
また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基礎的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。
本授業の開始は 5 月 6 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎Ⅰ	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅰ	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
第 4 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅱ	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
第 5 回	走運動の理論と実技ハードル走Ⅰ	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
第 6 回	走運動の理論と実技 ハードル走Ⅱ	ハードル走の実践および指導法を学習する.
第 7 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅰ	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
第 8 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅱ	リレー競技の実践および指導法を学習する。
第 9 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅰ	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
第 10 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅱ	走幅跳の実践から指導法を学習する。
第 11 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅰ	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅱ	走高跳の実践から指導法を学習する。
第 13 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅰ	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
第 14 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅱ	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（30 %）と提出物（リポートなど）（50 %）、小テスト（20 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.

HSS200IA

陸上競技指導論実習

苅部　俊二

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。
また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基礎的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。
本授業の開始は 5 月 6 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
第 2 回	陸上競技の基礎Ⅰ	陸上競技の生理学、力学について学習する。
第 3 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅰ	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
第 4 回	走運動の理論と実技短距離走Ⅱ	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
第 5 回	走運動の理論と実技ハードル走Ⅰ	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
第 6 回	走運動の理論と実技 ハードル走Ⅱ	ハードル走の実践および指導法を学習する.
第 7 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅰ	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
第 8 回	走運動の理論と実技 リレー競技Ⅱ	リレー競技の実践および指導法を学習する。
第 9 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅰ	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
第 10 回	跳躍運動の理論と実技 走幅跳Ⅱ	走幅跳の実践から指導法を学習する。
第 11 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅰ	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
第 12 回	跳躍運動の理論と実技 走高跳Ⅱ	走高跳の実践から指導法を学習する。
第 13 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅰ	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
第 14 回	投運動の理論と実技 砲丸投Ⅱ	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（30 %）と提出物（リポートなど）（50 %）、小テスト（20 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
The aim of this practice course is to develop a theoretical understanding, then master theories and techniques of track-and-field.

HSS200IA

陸上競技指導論演習

苅部　俊二

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧うか科目名：**陸上競技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】
陸上競技の走・跳・投について，理論、実技を通じて学習し，これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を身につける。
教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達，運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案，コーチング法を学び，陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導法を学習する。 また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案法について学習する。
第 2 回	跳躍運動の理論と実技 三段跳	三段跳の実践から指導法を学習する。
第 3 回	跳躍運動の理論と実技 棒高跳Ⅰ	棒高跳の実践から指導法を学習する。
第 4 回	跳躍運動の理論と実技 棒高跳Ⅱ	棒高跳の実践から指導法を学習する。
第 5 回	短距離走の指導実習 ハードル走	ハードル走の実践から指導法を学習する。
第 6 回	歩運動の指導法概論 競歩	競歩種目の実践から指導法を学習する。
第 7 回	投運動の理論と実技 円盤投	円盤投の実践から指導法を学習する。
第 8 回	投運動の理論と実技 やり投	やり投の実践から指導法を学習する。
第 9 回	投運動の理論と実技 ハンマー投	投運動の実践から指導法を学習する。
第 10 回	走運動の理論と実技 長距離Ⅰ	走運動の実践から指導法を学習する。
第 11 回	走運動の理論と実技 長距離Ⅱ	走運動の実践から指導法を学習する。
第 12 回	走運動の指導案作成と指導実習	走運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 13 回	跳躍運動の指導案作成と指導実習	跳躍運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。
第 14 回	投擲運動の指導案作成と指導実習	投擲運動の指導理論から指導案を作成し、模擬授業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業への取り組みについて復習
本授業の準備・復習時間は合わせて各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編　　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー 16・19 レベルアップの陸上競技 上級編　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（30 %）、提出物（リポートなど）（50 %）及び小テスト（20 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn and master the training theories and coaching methods of track-and-field.

HSS200IA

野外教育実習（スノー）

高見 京太

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 1 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウインタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウインタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】
ウインタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウインタースポーツの技術と指導及び野外教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメーキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上と野外教育指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前学習	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
2	開講式、１日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レッスンを行う。
3	１日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
4	２日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の練習を行う。
5	２日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の到達状況を確認する。
6	２日目夜の講義	課題レポートを基にしたグループワークを行う。
7	３日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の練習を行う。
8	３日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の到達状況を確認する。
9	３日目夜の講義	2 日目のグループワークの成果を発表する。
10	４日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の練習を行う。
11	４日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の到達状況を確認する。
12	４日目夜の講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
13	５日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、実技練習のまとめを行う。
14	実技テスト・閉講式	ＳＡＪの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】
・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟 (スキージャーナル社)

【成績評価の方法と基準】
・実習前講義を、正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点 (16%)
・レポート課題 (10%)
・実習の平常点 (42%)
・ワークショップの平常点 (12%)
・実技テスト (10%)
・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.

HSS200IA

野外教育指導論演習（スノー）

高見 京太

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 3 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
旧うか科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウインタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウインタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】
ウインタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウインタースポーツの技術と指導及び野外教育のあり方について学ぶ。
具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディシジョンメーキング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上と野外教育の指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	スポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけを学習する。
2	野外活動としてのウインタースポーツの特性	野外活動としてのウインタースポーツの特性を学習する。
3	ウインタースポーツの歴史	ウインタースポーツの歴史の古代から隆盛期について学習し、スキーの現代における状況を理解する。
4	ウインタースポーツ活動環境	ウインタースポーツフィールドの自然環境、人文環境、社会環境について学習する。
5	スキー・スノーボードの身体運動学	スキー、スノーボードを解剖学、バイオメカニクス、生理学、心理学的からアプローチする。
6	スキー・スノーボード技術の発達と用品・用具の関係	スキー技術の発達と用品・用具の関係を理解する。
7	スキー技術と方法論（プルークターン	スキーのプルークターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
8	スキーの技術と方法論（シュテムターンとパラレルターン）	スキーのシュテムターンとパラレルターンのメカニズムを学習する。
9	スノーボードの技術と方法論 (ロングターン)	スノーボードのロングターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
10	スノーボードの技術と方法論 (ショートターン)	スノーボードのショートターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
11	スキー・スノーボードの指導法について (装備)	スキー・スノーボードの装備について学習する。
12	スキー・スノーボードの指導法について (学校教育)	学校教育におけるスキー・スノーボードの授業のあり方について学習する。
13	スキー・スノーボードの指導法について (リスクマネジメント)	スキー傷害への対応について学習する。
14	ウインタスポーツキャンプのオーガナイジング―実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方	スキーキャンプのオーガナイジング―実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方を学習する。
15	現地実習の準備	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
16	開講式、１日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。
17	１日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
18	２日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の練習を行う。
19	２日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基礎または基本技術の到達状況を確認する。
20	２日目夜の種目別講義	基本技術のワークショップを行う。
21	３日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の練習を行う。
22	３日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、基本または初級技術の到達状況を確認する。
23	３日目夜の種目別講義	ストレッチ、マッサージのワークショップを行う。
24	４日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の練習を行う。
25	４日目午後の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、初級または中上級技術の到達状況を確認する。
26	４日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
27	５日目午前の実技講習	種目および技術別のグループに分かれて、実技練習のまとめを行う。
28	実技テスト・閉講式	ＳＡＪの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】
・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟 (スキージャーナル社)

【成績評価の方法と基準】
・実習前講義を、無断または正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。
・事前学習の平常点 (16%)
・レポート課題 (10%)
・実習の平常点 (42%)
・ワークショップの平常点 (12%)
・実技テスト (10%)
・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】
現場からの学びを大切にすることを心がける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to acquire knowledge and skills to enjoy skiing and snowboarding throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of winter sports.

HSS100IA

柔道実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢　40 %
・受け身テスト　20 %
・技能テスト　40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：1〜4 年次／1 単位
曜日・時限：土 2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢　40 %
・受け身テスト　20 %
・技能テスト　40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
旧うか科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢　40 %
・受け身テスト　20 %
・技能テスト　40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

柔道指導論実習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
旧うか科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】
学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加姿勢　40 %
・受け身テスト　20 %
・技能テスト　40 %

【学生の意見等からの気づき】
自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Learn the basic movements of Judo, throwing techniques and ground techniques.

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
旧うか科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　50 %
・平常点　50 %

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

武道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2
旧うか科目名：**総合格闘技指導論 (実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　50 %
・平常点　50 %

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　50 %
・平常点　50 %

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が３０名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS100IA

柔道指導論演習

佐藤　伸一郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**土** 2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】
・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】
・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業試験　50 %
・平常点　50 %

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の柔道実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が 3 0名を超える場合は人数制限する場合があります。

【Outline and objectives】
Practice on making martial arts lessons in health and physical education classes at junior and senior high schools.

HSS200IA

スイミング実習

金田　和也

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法 (クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ) 固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせるになることを目指す

【到達目標】
自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目 (例　25m バタフライ+25m 自由形) で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。
4 月 30 日から順次 4 種目毎の動画を公開する。動画を視聴し、4 種目の課題を提出する。
学校施設が使用可能になった場合は授業の予定通りプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　大修館書店

インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」日本水泳連盟　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト　50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】
水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
見学は実習にならないので出席扱いにはしない

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング実習

八塚　明憲

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
4/23 はガイダンスとして受講者を確認する。4/30 からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論演習

金田　和也

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 1/Thu.1**
旧うか科目名：**スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者 (大学生) がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。４泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方:８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と 100 ｍ個人メドレーのタイム測定を行う）

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】
将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論実習

八塚　明憲

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3
旧うか科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4 泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
4/23 はガイダンスとして受講者を確認する。4/30 からは自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの初心者指導について、どのように指導していくかをレポート形式で作成する。5/28 からはビデオを見て感じたことをメモしてもらいたい。コロナの影響でプールに入っての指導ができなかった場合は最終日にレポートを提出して評価とします。
生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実にともない年間を通じて計画されるスポーツになった。
スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。
水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法
6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ
12	実技 バタフライ②	ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 授業内の取り組み方
20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。
水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を
学んで欲しい。

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論実習

金田　和也

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1
旧うか科目名：スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。各種泳法 (クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ) 固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせるになることを目指す

【到達目標】
自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの 4 種目を公式の泳法で 25m 泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された 2 つの種目 (例　25m バタフライ+25m 自由形) で 50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。
4 月 30 日から順次 4 種目毎の動画を公開する。動画を視聴し、4 種目の課題を提出する。
学校施設が使用可能になった場合は授業の予定通りプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足 (呼吸付き)/コンビ (呼吸付き) スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック (背泳ぎ足)/コンビ (手を回す・呼吸付) スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足) を学ぶ
9	実技・平泳ぎ②	壁キック (平泳ぎ)/ビート板使用 (平泳ぎ足)/ビート板不使用 (平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック (バタフライ)/ビート板使用 (バタフライ足) を学ぶ
12	実技・バタフライ②	ビート板使用 (バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ (無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ 2 種目で (25m+25m)50m 完泳する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
「水泳指導教本」日本水泳連盟　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
80% 平常点・授業内の取り組み方
20% 泳力実技テスト　50m(25m+25m)2 種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】
水温と室温には充分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う

【学生が準備すべき機器他】
ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】
見学は実習にならないので出席扱いにはしない

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

スイミング指導論演習

八塚　明憲

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
旧うか科目名：**スイミング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者 (大学生) がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。４泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】
履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目 (自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ) の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る
模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた (実習) すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。
体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本 技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・怪我等についての説明。自由形の基本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	１回目の授業・自由形での指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	３回目の授業・背泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	５回目の授業・平泳ぎでの指導法の復習。模擬授業として先生役と生徒役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	７回目の授業・バタフライの指導法の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分かれバタフライを指導する。
9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授業	９回目の授業・個人メドレーの指導法の復習。各ターンを先生役と生徒役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6〜8 名のグループに分かれ先生役と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフライの模擬授業を行う。終了後に指導の反省会を行う。
13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の指導について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習と次回授業の予習
テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「水泳指導教本」　日本水泳連盟　　大修館書店

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業内の取り組み方:８０％
泳力テスト：２０％（各泳法の評価と 100 ｍ個人メドレーのタイム測定を行う）

【学生の意見等からの気づき】
履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導に役立てる。

【その他の重要事項】
将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

【Outline and objectives】
Swimming practice will follow courses necessary to be learned in preliminary stage, getting used to water, floating , then breathing.
Then on to each swimming methodologies, which cultivates necessary swimming levels for coaches.
Also through such lessons people learn safety concerns and target to utilize that in actual lessons

HSS200IA

ハンドボール実習

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
積極的に参加しながらハンドボールの基礎技術・戦術・ルールを習得する

【到達目標】
ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し，ハンドボールの各ポジション・ゲームに求めらる技術や戦術を理解できる。ハンドボール試合にてプレーできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
GSA(game sense approach), 様々なサイドゲームを導入し, 常に戦術的な課題解決しながら必要な技術とルールを学ぶ。学生によるグループディスカッション形式にて課題解決を行う。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・ミニゲーム	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認
2	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム①	ハンドボールボールの投げ方、キャッチ
3	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム②	基本的なシュート（ランニング、ステップ、ジャンプ）を学ぶ
4	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム④	オフザボール動きを学ぶ
5	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑤	ディフェンスの基本技術を習得する
6	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑥	各ポジションにおけるシュート技術を習得する
7	コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑦	各ポジションにおけるディフェンスの考え方、及技術を習得する
8	ゴールキーパーの基礎技術、ゲーム	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
9	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム①	２〜３人で連携してプレーする。スペースの作り方。
10	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム②	２〜３人で連携してプレーする。クロス。
11	攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム③	防御における２〜３人の連携、及ゴールキーパーとの連携
12	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム①	基本的な攻撃と防御システムを学ぶ。マンツーマンディフェンスとそれに対する攻撃
13	攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム②	ゾーンディフェンスとそれに対する攻撃
14	まとめ、ハンドボール紅白試合	学生達が運営したハンドボール試合を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ハンドボール試合視察
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
未定

【参考書】
未定

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Students will obtain the basic techniques and tactics of handball and understand the rules through active participation.

HSS200IA

ハンドボール指導論演習

Nemes Roland

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハンドボールの指導では年齢とレベルに応じて課題が異なる。本授業では、ハンドボールの種目特性と、特に中学生・高校生を指導する際の課題を認識させ、生徒をハンドボールに親しませることができるような体育授業を行える指導力を養成する。また、ルール、審判法、安全等に関する知識およびフェアプレイを遵守する態度についても理解を深めさせる。

【到達目標】
中学校や高等学校において、ゲームを中心にしたハンドボールの授業を展開し，生徒に基礎的な技術および戦術，知識，態度を習得させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることができる模擬授業を中心に進めていく。また、グループワークによる協働的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認、指導に関する原理・原則の解説
2	ハンドボールの歴史と現況	ハンドボール競技の発展、ルール・戦術の発達
3	ハンドボールの特性及び指導理論	ハンドボールのゲーム構造 攻撃と防御の技術と戦術、一貫指導、年代別指導、学校体育での指導
4	個人技能の習得	コートプレーヤーの基礎技術とゲーム
5	個人戦術力の習得	コートプレーヤーの個人戦術とゲーム
6	グループ戦術力の習得	コートプレーヤーのグループ・チーム戦術とゲーム
7	ゴールキーピング技能の習得	ゴールキーパーの基礎技術と個人戦術、審判法およびゲーム
8	まとめとテスト 指導案作成	ルールのテスト ２〜３名のグループに分かれ、担当する模擬授業の指導案を作成する
9	模擬授業 1	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
10	模擬授業 2	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
11	模擬授業 3	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
12	模擬授業 4	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
13	模擬授業 5	担当グループが「コートプレーヤーの基礎技術」をテーマとした模擬授業を行う。終了後に、生徒役の履修生が技能・態度・知識等の観点から学べた内容について発表し、ディスカッションする。
14	まとめ、紅白試合	模擬授業のまとめと振り返り ・試合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
未定本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
未定

【参考書】
未定

【成績評価の方法と基準】
テスト 25%、課題 25%、模擬授業の総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
ハンドボールコートに適したシューズ を準備すること

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Students will learn and practice the teaching methodology of handball, specially focused on the 10-16 years old age group.Beside learning the methodology, they will be able to refereeing and organizing handball game.

HSS200IA

青少年指導実習（サッカー）

川田　尚弘

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
成長期の子どもの指導を目指す者として、運動の獲得、体力の向上において適切な指導ができるため、ヒトの身体の発育と機能の発達、発育発達に及ぼす運動の影響、発育発達期の運動指導について学習する。

【到達目標】
子どもの発育・発達の過程を理解し、動きの発達を促す運動の影響を説明できる。
発育発達期の運動指導の在り方が説明でき、時効果的に指導できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
発育発達に応じた青少年のサッカー指導に関し、講義・発表・実習形式を通し多角的に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、受講に際し留意すべき点、評価の方法の確認
第 2 回	発育発達による身体変化①	発育による身体の変化（神経・形態）について理解する
第 3 回	発育発達による身体変化②	発育による身体の変化（筋系・呼吸循環器系）について理解する
第 4 回	動きの発達と運動①	動きの発達と運動（幼年期・少年期）について理解する
第 5 回	動きの発達と運動②	動きの発達と運動（青年期）について理解する
第 6 回	発育発達期の運動指導①	発育発達の運動指導（幼年期・少年期）について理解する
第 7 回	発育発達期の運動指導②	発育発達の運動指導（青年期）について理解する
第 8 回	発育発達期の運動指導③	発育発達の運動指導（女子）について理解する
第 9 回	発育発達期の運動指導④	発育発達の運動指導（コーディネーション）について理解する
第 10 回	発育発達に応じた指導実践①	発育発達に応じたコーディネーショントレーニングを計画し指導実践を行う
第 11 回	発育発達に応じた指導実践②	幼年期に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 12 回	発育発達に応じた指導実践③	少年期に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 13 回	発育発達に応じた指導実践④	青年期に応じたサッカートレーニングを計画し指導実践を行う
第 14 回	まとめ	本講義に関する総括・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身が青少年期に経験してきたサッカー指導方法等を振り返り多角的に分析しておくことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のレポート 60 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The goal is that students know different ways of training methods according to the age of the people.

HSS200IA

青少年指導実習（陸上）

苅部　俊二

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実験・実習**
開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では学童期から少年期のスポーツ指導の方法について理論を実践の両面から学んでいく。

【到達目標】
本講義では，学童期から少年期のスポーツ指導の方法について理論を実践の両極面から学んび、青少年スポーツ（陸上運動）の指導者に必要な知識を深める．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
発育発達やトレーニング論，学童期から少年期の障害や心理について知識を養い，さらに少年アスリートの倶楽部チームに参加し，実際に指導を体験することで理解を深めていく。また，クラブチームに帯同するにあたり，指導の計画，方法について検討し，体験終了後にはその成果や反省点，改善点について発表を行う。
本授業の開始は 5 月 4 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	発育発達①	身体の発育発達
第 3 回	発育発達②	心理の発育
第 4 回	発育発達③	トレーニング法
第 5 回	キッズの指導法①	指導法①体力要素
第 6 回	キッズの指導法②	指導法②技術要素
第 7 回	スポーツクラブの実際	スポーツクラブの現状
第 8 回	指導実習①	幼児の指導①導入
第 9 回	指導実習②	幼児の指導②運動の基礎
第 10 回	指導実習③	学童（低学年）の指導①導入
第 11 回	指導実習④	学童（低学年）の指導②陸上運動の基礎
第 12 回	指導実習⑤	学童（高学年）の指導①導入
第 13 回	指導実習⑥	学童（高学年）の指導②陸上運動の基礎、陸上競技の基礎技術
第 14 回	まとめ	指導の報告と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
陸上競技指導教本アンダー 13 楽しいキッズの陸上競技　財）日本陸上競技連盟編　大修館書店

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 (50%)、実習 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
These practice sessions introduce the methods and practices of sports training for schoolchildren and preadolescents. Students will learn how to apply coaching theories to practice.

HSS200IA

野外教育実習（マリン）

井上　尊寛

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材についてダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1 ボードセイリング	機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深め、操作技術について学習する
10	現地実習 2 スキューバダイビング	水中で自由に移動する技術の獲得 (中性浮力)、さらに、教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
11	現地実習 3 シーカヤック	カヤックやパドルの形状や機能、および潮の満ち引きや川の流れ、風との関係についても理解し、自由に操れるような操作技術について学習する
12	現地実習 4 ウェイクボード	器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解し、水面に立ち、ボードをコントロールするための技術について学習する
13	現地実習 5 スタンドアップパドル	用具の理解や特徴を捉え、自由に海面を進めるような技術について学習する
14	総括	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて資料を配布する
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports.

HSS200IA

野外教育指導論演習（マリン）

井上　尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学び、指導者として活動できるための基盤を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する
6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材についてダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1	ウィンドサーフィンの機材について 機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深める
10	現地実習 2	ウインドサーフィンの技術について ボードに立ち、風を受けながら進むための技術の獲得
11	現地実習 3	ウィンドサーフィンの技術について 2 ある程度自由にボードを操れるような操作技術の獲得
12	現地実習 4	スキューバダイビングの技術について 1 実際に海中にて活動し、プールとの違いを理解する
13	現地実習 5	スキューバダイビングの技術について 2 バディシステムについて理解を深め、お互いの状況に配慮しながら潜行する
14	現地実習 6	スキューバダイビングの技術について 3 海中の状況に応じた泳法や、中性浮力を保つ
15	現地実習 7	スキューバダイビングの技術について 4　水中で自由に移動する技術の獲得の他に、 海中でのリスクについても検討する
16	現地実習 8	スキューバダイビングの技術について 5 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
17	現地実習 9	シーカヤックの技術 1 カヤックの形状や機能、パドルの形状や、推進力を得るための構造について理解する
18	現地実習 10	シーカヤックの技術 2 自由に艇を操縦するためのパドリングや、舵の取り方を学習する
19	現地実習 11	シーカヤックの技術 3 １人乗りと２人のりそれぞれを操り、それぞれの違いについて理解する
20	現地実習 12	シーカヤックの技術 4 潮の満ち引きや、川上もしくは川下への移動におけるカヤックの状態について理解する
21	現地実習 13	シーカヤックの技術 5 教育的な側面から、指導の意義とリスクについて理解する
22	現地実習 14	ウェイクボードの技術 1 器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解する
23	現地実習 15	ウェイクボードの技術 2 水面に立ち、ボードをコントロールするための技術の獲得
24	現地実習 16	ウェイクボードの技術 3 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
25	現地実習 17	スタンドアップパドルの技術 1 用具の理解や、特徴を捉える
26	現地実習 18	スタンドアップパドルの技術 2 自由に海面を進めるような技術の獲得
27	講義	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義に ついて検討する
28	総括	終了後、活動の内容をそれぞれでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて資料を配布する
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course is to acquire knowledge and skills to enjoy marine sports throughout life and to acquire the foundation for being able to act as a leader of marine sports.

HSS200IA

野外教育実習（キャンプ）

永木　耕介、井上　尊寛、鬼頭　英明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近郊に豊かな自然を有する多摩キャンパスの立地を活かし、自然に親しみ、自然環境への理解と関心を深めることを目的とした野外教育実習を実施する。

【到達目標】
自然に親しむゲーム・アクティビティを通して自然環境への理解と関心を深めるとともに、今日の野外教育の動向や自然に潜む危険性に対する認識も高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
事前学習として、大学校内において野外教育に関する講義と簡易な実習、野外における衛生管理に関する講義を受ける。その後、校外において宿泊を伴う野外実習を行い、自然に親しみ、自然に対する理解や認識を深め、自己の気付きや変化等に対するレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	校内学習および校外学習に関する説明、服装等の準備物、健康上の諸注意、授業評価について、等
2	野外教育について（講義）	社会環境の変化等による自然への理解や認識の不足、自然への対応力の不足が指摘される中で、今日に求められる野外教育について学習する。
3	野外での健康・衛生管理について	怪我・疾病に対する応急処置、細菌性及び自然毒食中毒発生防止のための衛生管理の配慮事項等について学習する。
4	自然に親しむ簡易ゲーム①	大学校内で「自然を観る」ゲームを実践する。
5	自然に親しむ簡易ゲーム②	大学校内で「自然を探す」ゲームを実践する。
6	自然に親しむ簡易ゲーム③	大学校内で「生態系を感じる」ゲームを実践する。
7	校外実習①-「自然を観る」	多摩近郊の野外において「自然を観る」活動やゲームを実践する。
8	校外実習②-「自然を触る」	多摩近郊の野外において「自然を触る」活動やゲームを実践する。
9	校外実習③-「自然を味わう」	多摩近郊の野外において「自然を味わう」活動を実践する。
10	校外実習④-「自然を聴く」	多摩近郊の野外において「自然を聴く」活動を実践する。
11	校外学習⑤−「自然を探す」	多摩近郊の野外において「自然を探す」活動を実践する。
12	振り返り①「グループ・ディスカッション」	自然への気づき、認識、理解という点から、感得したものや学習成果についてグループ・ディスカッションを行う。
13	校外実習⑤-「自然への対応」	自然を利用した冒険教育系の野外活動を実施。
14	振り返り②「レポート提出」	自己の自然への気づき、認識、理解の深まり等について振り返りを行い、レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は 2 時間、復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度配付する。

【参考書】
自然体験活動研究会編『野外教育の理論と実践』
熊條歩『学校教育を活かす自然体験教育』

【成績評価の方法と基準】
積極的な体験活動への参加とその態度（60 %）、振り返り・レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
記載不要

【学生が準備すべき機器他】
野外での活動に適した服装、シューズ等

【その他の重要事項】
体調を整えて参加すること。

【Outline and objectives】
Taking advantage of the location of the Tama campus, which has abundant nature in the suburbs, conduct outdoor education with the aim of raising understanding and interest in the natural environment.

HSS200IA

スポーツコーチング海外演習

井上　尊寛、川田　尚弘

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
欧州のトップスポーツクラブ (サッカーを中心とするが他の競技も扱う) を実際に現地視察し、コーチングの観点を持ちながら多角的に学ぶ。履修者は (1) 欧州サッカーのレベルを直に感じ、選手の強化・育成 (トップチームや下部組織)・普及について、コーチングや指導方法だけでなく、トレーニング環境やスタジアムなどの周辺的な環境についても理解を深める。(2) 欧州のスポーツに対する考え方、文化、国としての制度・政策についても理解を深める。(3) プロスポーツという事業が指導現場といかにかかわっているのか、多角的な視点からの理解も深めていくことも目的とする。

【到達目標】
・海外のトップレベルのコーチング方法やモデルを理解する。
・強化・育成・普及といったクラブ構造やクラブ哲学に関して理解する。
・ヨーロッパの総合型スポーツクラブ・スポーツシューレをはじめとした、スポーツ環境などについて多角的な視点から学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は（1）現地スポーツ系の大学ないしはクラブでの講義と（2）現地での現場実習に区分される。現地スポーツ大学ないしはクラブの講義においては、欧州スポーツの特徴や選手の強化・育成・普及構造システム、指導方法、クラブフィロソフィーなどを学ぶ。また現地で実際に活躍されている海外の指導者やスタッフなどの専門家との講義・ディスカッションも行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方、留意すべき点、評価の方法
2	事前指導①	指導者の役割についての国際比較について
3	事前指導②	欧州におけるスポーツ文化と指導の実際
4	事前指導③	指導現場で用いられる用語についての解説
5	現地実習①	トップチームトレーニング視察
6	現地実習②	アカデミートレーニング視察
7	現地実習③	普及現場におけるトレーニング視察
8	現地実習④	関係周辺施設視察
9	現地実習⑤	スタジアム視察
10	現地実習⑥	海外の指導者、スタッフ、専門家とのディスカッション（コーチングプログラム・タレント養成発掘プログラム等について）
11	現地実習⑦	現地での試合観戦 (事前のスカウティングも含む)
12	現地実習⑧	スカウティングレポートの作成
13	報告会・総括	海外演習での経験・体験を総括し、共有することで、今後のコーチング現場への活用を見出す
14	事後指導	現地での体験から得たものなどの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海外の文化・習慣・言語などについ情報をまとめておき、実際に自身がこの演習を通して何を学び、今後にいかすか目的を明確にしておくことが望ましい
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【参考書】
特定の参考書は使用しない、
必要であればその際に資料等を配布する

【成績評価の方法と基準】
本演習の事前講義・海外演習・事後演習、報告会への全出席したうえで、理解度、平常点等を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき特になし

【Outline and objectives】
The goal of this stay is to know and to understand the football system in Europe live from Germany.
We will focus on:
- Training methods, coaching approach (visit of a Bundesliga team)
- Relationship with sport, differences between Asia and Europe
- Not only coaching approach but also sports management.

HSS200IA

専門演習 I

安藤 正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ
健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める

【到達目標】
上級生あるいは教員と協同して課題に取り込むことで、身体機能の測定やメンテナンスを指導できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し自ら学ぶ課題解決型学習と実習形態である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	歩行分析 1（時間空間的分析実習）	共同で実験を行いデーターをとる
3	歩行分析 1（実習報告）	歩行分析 1（時間空間的実習の報告を行う）
4	まとめ	まとめ
5	姿勢分析 1（実習）	姿勢分析 1（姿勢の視覚的分析実習を行いデーターをとる）
6	姿勢分析 1（実習報告）	姿勢分析 2（前回のデーターをまとめ報告を行う）
7	まとめ	まとめ
8	運動残効（実習）	運動残効（実習）
9	運動生理学分析（実習）	運動生理学分析（実習）
10	まとめ	まとめ
11	筋力評価 1（実習）	筋力評価 1（ダイナモメーターで実習を行いデーターを取る）
12	筋力評価 2（実習で得たデーターを報告する）	筋力評価 2（前回のデーターをまとめ報告する）
13	まとめ	まとめ
14	感覚検査（実習）	感覚検査（実習）

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	グループワーキング	課題ごとのワーキング
17	課題報告会（合宿）	課題報告会（合宿）
18	グループ学習	グループ学習
19	実験 1　応用実習	実験 1　テーマ―を決めて機器を使用しデーターを得る
20	実験 2　応用実習	実験 2　前回と同じくメンバーを入れ替えてデーターを得る
21	実験 3　データー集計	実験 3　得られたデーターを集計する
22	中間報告	中間報告
23	データ分析法	データ分析法 集計表、平均値、標準偏差など
24	データ分析	データ分析 t 検定、相関分析、分散分析など
25	発表資料作成	発表資料作成
26	最終課題発表 5 名	最終課題発表
27	最終課題発表 5 名	最終課題発表
28	学会参加（合宿） 日程未定	学会参加（合宿） 日程未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の調査、報告書のまとめなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点：積極的発言や態度、小テストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】
より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

【Outline and objectives】
Learn functional anatomy
Learn about stretching technology
Learn training techniques
Learn massage technology

HSS200IA

専門演習 I

飯村　周平

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ心理学に関する文献の講読を通して当該領域の動向を理解するとともに、体験的学習や調査によって収集したデータを分析し、結果を報告することを通して調査方法について総合的に学習する。

【到達目標】
1. スポーツ心理学領域の動向について説明することがきる。
2. スポーツ心理学に関するデータを収集し、分析することができる。
3. 分析した結果について考察し、発表できる。
4. 研究テーマを抄録にまとめ、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ場面に求められるパーソナリティやスキルを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告の内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深めるとともに各自の研究テーマを絞り込んでいく。また、講義、グループワーク、体験的学習などにより、卒業研究の遂行に不可欠となる基礎的な調査方法について学習する。※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	スポーツ心理学で用いられるグループワークへの参加を通して、その方法、意義などについて学習する。
3	体験的学習によるデータ収集	スポーツを用いた体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	データの入力・分析	収集したデータをエクセルに入力し、統計ソフトを用いて集計・分析する。
5	データの整理	集約したデータを基礎集計としてまとめ、図表を作成する。
6	発表用資料の作成	整理したデータをパワーポイントにまとめて発表する。
7	パーソナリティ検査	パーソナリティ検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
8	心理的競技能力の診断	心理的競技能力診断検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
9	チームワークの診断	チームワークを診断する心理検査を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
10	対人関係能力の診断	対人関係能力を診断する質問紙を用いた実習を通じて、その実施方法、解釈の仕方等について学習する。
11	実践報告を読む	スポーツ心理学に関する実践報告の講読を通して研究論文のまとめ方について学習する。
12	研究構想と抄録のまとめ方	ゼミ内の研究構想報告会に参加し、抄録のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究内容の発表	今後取り組む予定の研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。
15	研究内容の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	文献の収集	スポーツ心理学に関する先行研究、図書、雑誌等の文献の収集方法について学習する。
17	研究倫理	研究倫理、同意書、調査概要の説明の仕方等について学習する。
18	調査の方法	個別調査におけるインタビューガイドの作成や調査方法等について学習する。
19	質的研究の理論と方法	スポーツ心理学領域における質的研究の理論と方法について学習する。
20	心理統計法の理論と実践（1）	欠損値の処理や新しい変数の作成など、データハンドリングの方法を学習する。
21	心理統計法の理論と実践（2）	2 変数間の相関関係を分析する方法を学習する。
22	心理統計法の理論と実践（3）	2 群間の平均値差を分析する方法を学習する。
23	効果的なプレゼンの技術	相手に「伝わる」プレゼン資料の作成と発表の方法を学習する。
24	体育授業による心理的効果	体育授業による心理的効果について実践報告を通じて学習する。
25	調査研究の流れを知る	ゼミ内の研究計画発表会に参加し、研究計画のまとめ方や発表の仕方について学習する。
26	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文発表会に参加し、卒業論文について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
27	研究内容の発表（第 1 グループ）	第 1 グループが、研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。
28	研究内容の発表（第 2 グループ）	第 2 グループが、研究内容を抄録にまとめるとともに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は各 4 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 各自が興味のある研究内容を抄録にまとめ発表する機会が与えられますので、日頃から関連資料を読み準備を整えてください。
2. スポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 中澤　史　「アスリートの心理学」日本文化出版　2016
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房　2004
3. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 抄録： 40 %（春学期・秋学期各 20 %）
2. プレゼンテーション： 40 %（春学期・秋学期各 20 %）
3. グループワークによる報告書： 10 %
4. 授業への参画状況、リアクションペーパー、各種課題等の提出物： 10 %。
※抄録、グループワークによる報告書、リアクションペーパー、各種課題では、授業やグループでの取り組みの内容を踏まえて適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
本演習では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、教育実習や介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline and objectives】
Through reading the literature on sports psychology, students understand trends in the field, analyze data collected through experiential learning and surveys, and comprehensively learn about survey methods by reporting the results.

HSS200IA

専門演習 I

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける 2 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】
本ゼミにおける 2 年次の到達目標は以下の 3 点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対して HOPS に基づいた評価ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際 1	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際 2	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学 1（筋骨格系／上肢）	機能解剖学（筋骨格系／上肢）の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学 2（筋骨格系／下肢）	機能解剖学（筋骨格系／下肢）の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学 3（筋骨格系／体幹）	機能解剖学（筋骨格系／体幹）の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学 4（神経系）	機能解剖学（神経系）の演習・小テストを行う。
8	実技演習 1（テーピング・下肢）	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・下肢）を習得する。
9	実技演習 2（テーピング・上肢）	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・上肢）を習得する。
10	実技演習 3（テーピング・体幹）	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（テーピング・体幹）を習得する。
11	実技演習 4（ストレッチング）	スポーツ現場におけるコンディショニング手法（ストレッチング）を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価 1	HOPS および SOAP について学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価 2	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価 3	ロールプレイを通して HOPS を実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価 4 ／夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。
16	肩関節の外傷・障害／抄読会 1	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害／抄読会 2	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
18	頚部の外傷・障害／抄読会 3	頸部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習 5（肩関節の評価）	これまでの肩関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
20	実技演習 6（膝関節の評価）	これまでの膝関節の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
21	実技演習 7（頸部の評価）	これまでの頚部の評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
22	実技演習 8（総合演習）	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
23	腰部の外傷・障害／抄読会 4	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害／抄読会 5	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害／抄読会 6	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害／抄読会 7	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習 9（総合演習）	これまでの評価について、実技による実践練習・試験の練習を行う。
28	実技演習 10（実技試験とフィードバック）	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行うとともにフィードバックをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】
1. 日体協公認アスレティックトレーナーテキスト 1 ～ 9
2. 坂井建雄，松村譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
3. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館．2011
4. 小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
5.Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
6. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
7. 中村千秋編：ファンクショナルトレーニング―機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング．文光堂．2010
8. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %），ゼミ内容や課外活動への取り組み（30 %）
出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等も鑑みながら、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
アスレティックトレーナーはスポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で、受講生は一生懸命頑張ってくれている。今後も継続してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
The purposes of the athletic training seminar 1 are as follows, first, learning knowledge and skills necessary as an athletic trainer. Second, To have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible.

HSS200IA

専門演習 I

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての基本となる知識を総合的に学習する。「マネジメント（基本と原則）」を読み、マネジメントの基本を学修した後、スポーツマネジメント並びにスポーツ組織行動論の基礎知識を学習する。

【到達目標】
1．マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2．「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグランドを踏まえた上で、説明できる。
3．スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 4 月 22 日（水）より開始します。
学習支援システムならびに Drop Box に授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
前期の授業では、マネジメントならびにスポーツマネジメントに関わる基礎理論について講義を行い、スポーツマネジメント学についての基本となる知識を習得する。後期の授業では、スポーツ組織行動論に関する講義を行い、総合的にスポーツマネジメントを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ マネジメントの誕生：マネジメントの生成と発展について学習する。 マネジメントの生成から現代までの一連の流れを学習する。
3	マネジメントとは　2 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
4	マネジメントとは　3 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5	マネジメントとは 4 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
6	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　1	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
7	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　2	スポーツとメディアの関係について学習する。
8	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　3	スポーツとダイバーシティについて学習する。
9	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　4	スポーツと人的資源（Human Resource）の関係について学習する。
10	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　5	スポーツリーグのマネジメントについて学習する。 スポーツチームのマネジメントについて学習する。
11	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得　6	日本のスポーツ政策とマネジメントの課題について学習する。
12	プレゼンテーションの方法について	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	後期授業オリエンテーション	後期の授業の進め方について説明を行う。次年度に向けた授業方針の確認を行う。
16	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得　1	スポーツ組織のマネジメントについて学習する。
17	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得　2	スポーツ組織のガバナンスについて学習する。
18	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得　3	スポーツ組織の経営戦略について学習する。
19	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツ組織における組織開発に向けたマネジメントについて学習する。
20	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツ組織における組織文化について学習する。
21	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツ組織における組織の外部環境分析と市場分析方法について学習する。
22	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 4	スポーツ組織における組織、個人属性および成果について学習する。
23	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 5	スポーツ組織における問題の解決と意思決定について学習する。
24	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 6	スポーツ組織における競争優位を構築するための基本戦略について学習する。
25	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 7	スポーツ組織におけるリーダシップについて学習する。
26	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得　8	スポーツ組織におけるイノベーションについて学習する。
27	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 9	スポーツ組織における多様性マネジメントについて学習する。
28	ケーススタディー	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では必ず予習として教科書「マネジメント－基本と原則」や「スポーツマネジメント」を読んでから授業に参加して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「マネジメント」[エッセンシャル版]」基本と原則（ピーター・F・ドラッカー上田惇生）ダイヤモンド社「スポーツマネジメント」(改訂版)（原田宗彦・小笠原悦子編著）大修館書店
「経営組織論」　鈴木竜太著　東洋経済新報社

【参考書】
特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（100 %）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Comprehensively learn the basic knowledge about sports management studies through management science, social psychology, and sociology. After studying the fundamentals of management by reading " Principle of Management)", you will study the basic knowledge of sports management and sports organization behavior theory.

HSS200IA

専門演習 I

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第 3 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第 4 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 5 回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 8 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 9 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 10 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第 11 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリー変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法ついて学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検証の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
（1）みるスポーツのマーケティングに関するレポート（10 点、前期）
（2）質問項目の作成（10 点、前期）
（3）データ収集（20 点、前期）
（4）結果の分析（図表およびスライド資料）（30 点、後期）
（5）結果の報告（プレゼンテーション）（30 点、後期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】
This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research.

HSS200IA

専門演習 I

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　|　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月 5**/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義で修得した理論を主体的に受けとめ，実践する姿勢を育てる。

【到達目標】
2 年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
学術論文や先行研究を読み，理解することを目的とし，体育学，コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成，研究の方法，分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。
本授業の開始は 5 月 4 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
第 2 回	情報・文献の検索　1 図書館	図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
第 3 回	情報・文献の検索　2 インターネット検索	インターネットなど様々な手法での情報収集、文献検索の方法について学習する。
第 4 回	統計解析　1 統計の基礎	実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
第 5 回	統計解析　2 データの収集	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。 データの収集法。
第 6 回	統計解析　3 データの解析	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。 データの解析方法。
第 7 回	研究法　1 研究法	スポーツ科学に関する研究法を学習する。
第 8 回	研究法　2 実験法	スポーツ科学に関する実験法を学習する。
第 9 回	研究法　3 調査法	スポーツ科学に関する調査法を学習する。
第 10 回	文献の検索と輪読　1 文献検索	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。
第 11 回	文献の検索と輪読　2 文献輪読	興味のあるテーマを選択し、文献を検索、輪読する。
第 12 回	文献の検索と輪読　3 文献の要約・レジュメの作成	興味のあるテーマを選択し、文献を要約しレジュメを作成する。
第 13 回	文献の検索と輪読　4 発表	興味のあるテーマを選択し、レジュメを使用し、発表を行う。
第 14 回	文献の検索と輪読　5 グループワーク	興味のあるテーマを選択し、ディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期授業のまとめを行う。 夏休み期間の課題研究について話し合う。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。 夏期研究のまとめを行う。
第 17 回	実験・調査の方法：予備実験　1 実験機器	研究・実験に必要な機器について理解を深める。
第 18 回	実験・調査の方法：予備実験　2 機器の使用	実験方法に基づき、実際に機器を使用する。
第 19 回	実験・調査の方法：予備実験　3 社会調査法	社会調査の方法を学習する。
第 20 回	実験・調査の方法：予備実験　4 データの収集	予備実験からデータを収集、整理の方法を学習する。
第 21 回	実験・調査の方法：予備実験　5 データの解析	予備実験からデータの解析方法を学習する。
第 22 回	実験・調査の方法：予備実験　6 データの解釈	予備実験からデータの解釈方法を学習する。
第 23 回	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールを学習する。
第 24 回	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
第 25 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション　1 研究テーマの検討	各自の研究テーマを模索し検討する。
第 26 回	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション　2 研究テーマの発表	各自の研究テーマについて発表を行う。
第 27 回	今後の研究課題の方向性発表　1 研究課題の発表	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討する。
第 28 回	今後の研究課題の方向性発表　2 研究計画の発表	演習Ⅱに向けた各自の研究課題についての実験・調査の計画を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）とプレゼンテーション（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.

HSS200IA

専門演習 I

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、授業実践や文献輪読を通じて学校保健や公衆衛生上の健康課題について理解を深めることである。
いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど学校保健上の課題を取り上げ、全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】
専門演習を通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、講義により基本的事項について理解を図る。その後、参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	専門演習の進め方について確認する。
2	文献と検索	保健に関する専門雑誌を紹介し、論文の構成について理解する。
3	まとめ方	レポートのまとめ方について理解する。
4	子どもの健康課題	現代的な健康課題について理解する。
5	子どもの生活習慣病の課題	子どもの基本的生活習慣の重要性について理解する。
6	性の逸脱行動	子どもの性に関する健康課題について理解する。
7	喫煙	子どもの喫煙に関する健康課題について理解する。
8	飲酒	子どもの飲酒に関する健康課題について理解する。
9	薬物乱用	子どもの薬物乱用に関する健康課題について理解する。
10	メディアと健康	子どものメディアから受ける健康課題について理解する。
11	子どもが身につけるべきミニマム	保健において子どもが身につけるべきミニマムとは何か理解を深める
12	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について理解を深める
13	学校におけるライフスキル教育の進め方	学校でのライフスキル教育の進め方について理解を深める
14	学習指導要領の組み立て	保健に関する学習指導要領の組み立てについて理解する
15	学習指導要領の系統性	発達段階を踏まえた学習指導要領の校種間での系統性について理解する
16	保健に関する教材の考え方	保健の教材について既存の資料の内容の考え方について理解を深める
17	学習指導要領各論 感染症について	学習指導要領で示される感染症の指導内容について理解する
18	学校安全の教育内容	学校安全に関する指導内容について理解する
19	性に関する指導	学習指導要領における性に関する指導内容について理解を深める
20	喫煙防止教育	学習指導要領における喫煙と健康に関する指導内容について理解を深める
21	飲酒防止教育	学習指導要領における飲酒と健康に関する指導内容について理解を深める
22	薬物乱用防止教育	学習指導要領における薬物乱用と健康に関する指導内容について理解を深める
23	医薬品に関する指導	学習指導要領における医薬品に関する指導内容について理解を深める
24	食育と食品安全	学習指導要領における食に関する指導及び食品安全に関する指導内容について理解を深める
25	心の健康	学習指導要領における心の健康に関する指導内容について理解を深める
26	環境と健康	学習指導要領における環境と健康に関する指導内容について理解を深める
27	がんに関する指導	がんに関する指導内容について理解を深める
28	科学的根拠とは	科学的根拠に基づいて指導することの重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題による準備を基本とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配付資料による。

【参考書】
適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見は積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】
授業計画は授業の進展により変更がありうる

【Outline and objectives】
The purpose of this course is for students to deepen their understaning of school health, public health.

HSS200IA

専門演習 I

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「見る・聞く・体験する」から始めて「読む・分析する・評価する」へ

【到達目標】
科学的分析および論理的思考能力を獲得するための基礎を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
① 2 年時においては、3 年時以降に本格的に取り組む研究テーマの探求と、実践的体験に必要な知識とスキルの習得を目的として講義・実習を行うが、3 年生、4 年生のプレゼンテーションとその指導からも学ぶ機会を得る。
② 扱う内容は、プレゼンテーション、インタビューやコミュニケーション、科学的研究の方法論、スポーツ医科学の理解に必要な統計学、英語論文・文献の解読法、体力の重要な構成要素である「持久力」、「体組成」、「筋力・パワー」についての正確な理解、スポーツ栄養などである。
③ スポーツ医学やスポーツ科学分野の学会・研究会に参加し、研究テーマと関連した、または興味のあるテーマについて学習・取材する。
④ 文章を読み、理解し、評価する能力を養うための抄読会式セッションも定期的に設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）
3	プレゼンテーション・スキル②	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
6	研究報告会①	[演習] 3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LT の測定①	[実習] LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] LT を測定する。
18	LT の測定③	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
20	ヒューマンカロリメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	[演習] 3 年生による研究発表会-2。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養①	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）**※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習 I ・ II を通して本書を読破することを強く勧める**
・本多勝一.『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社.（2004）**※研究室収蔵**
・福澤一吉.『議論のレッスン』. 生活人新書.（2002）**※資料室収蔵**
・小笠原 喜康、片岡 則夫.『中高生からの論文入門』. 講談社現代新書.（2019）**※資料室収蔵**

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室収にあり**
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) **※資料室収蔵**
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※研究室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
② 抄読会（20 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
④ 実習参加（20 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20 %）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge and skills of critical reading, scientific analysis, and logical thinking.

HSS200IA

専門演習 I

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】
①運動器疾患についての知識の獲得。
②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際 1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際 2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会 9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	頭頚部について/抄読会	頭頚部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会 1	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会 2	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会 1	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会 2	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と 3 年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
· Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
·坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
·臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】
In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.

HSS200IA

専門演習 I

高見 京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**月 5**/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業への参加 (40%) ：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2) 課題の提出および発表 (60%) ：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習 I では研究テーマを探索するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline and objectives】
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.

HSS200IA

専門演習Ⅰ

永木　耕介

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月 5/Mon.5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】
学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校の『学習指導要領解説・保健体育編』および体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解く。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域＋体育理論の演習（模擬授業）に参加し、体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する。
2	「体つくり運動」の理論的検討	「体つくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
3	「体つくり運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体つくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
5	「器械運動」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
7	「陸上競技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
9	「球技」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
11	「武道」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
13	「ダンス」の実際的検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	「体つくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
16	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
17	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
18	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
19	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
20	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
21	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
22	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
23	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
25	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
27	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
28	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は 6 時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）、プレゼンテーション・模擬授業（３０％）、レポート点（２０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline and objectives】
This seminar is for students wishing to study Physical Education pedagogy through an examination of fundamental theories, and looking at the design of lesson plans.

HSS200IA

専門演習 I

成田 道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや健康など分野にとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する。

【到達目標】
各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始は５月４日とする。
レポート中心に連絡はメールで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画と自己紹介を行う
2	指導者について	各自これまでに出会った指導者について発表する
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ
4	グループ別調査１ 研究テーマの決定	グループに分かれて関心がある研究テーマを決める
5	グループ別調査２ 役割分担	グループ別に調査方法と各自の役割分担を明確化する
6	グループ別調査３ 調査・情報収集	グループ別に研究テーマに沿ってインターネット等から調査・情報収集を行う
7	グループ別レジュメの作成	グループ別に収集した調査・情報をもとにレジュメを作成する
8	グループ別レジュメの発表	グループ別に作成したレジュメを発表する
9	プレゼンテーション１ 作成	グループ別に研究テーマをもとにプレゼンテーショを作成する
10	プレゼンテーション２ 発表	グループ別に前回作成したものを発表する
11	プレゼンテーションの総括	各グループのプレゼンテーションの総括を行う
12	プレゼンテーションの修正	総括で出された意見をもとにプレゼンテーションの修正を行う
13	小論文の作成	グループ別に修正したプレゼンテーションをもとに小論文を作成する
14	春学期まとめ	春学期の反省点を確認し秋学期に備える

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の授業計画について説明する
16	個人別研究テーマの検討	各自興味ある研究テーマを検討する
17	個人別研究テーマ１	各自研究テーマを決定しこれからの計画を発表する
18	個人別研究テーマ２	各自の研究テーマについてディスカッションする
19	情報収集	各自の研究テーマについてインターネットで情報収集する
20	文献の検索	各自研究テーマについて文献を検索する
21	文献の講読	各自研究テーマについて文献を要約し発表する
22	レジュメの作成	各自文献とインターネット等の情報を整理しレジュメを作成する
23	レジュメの発表	各自前回作成したレジュメを発表する
24	プレゼンテーション１	各自の研究テーマについてプレゼンテーションを作成する
25	プレゼンテーション２	前回作成したものを発表する
26	プレゼンテーション３	各自の発表の総括を行う
27	小論文の執筆	各自の発表と総括からの意見を取り入れ小論文を執筆する
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し、次年度へ備える。反省点・問題点を認識する。小論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間
を標準とします。
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
レポート（毎回）６０％　最終レポート４０％
積極的な取り組みを総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
発表した内容についてもっと幅広い議論が必要だったように思えるので改善していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In this course students make a research on a topic which they wish to study in any field which is related or unrelated to sports and health.

HSS200IA

専門演習 I

Nemes Roland

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
球技におけるトップレベッルの選手やコーチに求められていることについて知識を深めることを目標とする。年齢・性に応じた育成、又はトップレベルでのコーチングを学習する。

【到達目標】
各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
学術論文や先行研究を読み，理解することを目的とし，体育学，コー チ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構 成，研究の方法，分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。本演習について説明と意見交換を行う。 情報収拾について学習する
2	スポーツコーチングについて	国際的なスポーツコーチに求められている様々な能力
3	国際的なコーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外の取組み
4	トップレベルまでの選手育成	年齢・性に応じたコーチング、長期的なアスリート開発（LTAD）、一貫指導
5	ジュニア期の育成について	海外で行う一貫指導における論文を紹介する
6	ジュニア期の育成について	国内の一貫指導における情報をグループ別発表を行う
7	ジュニア期の育成について	球技における様々なコーチング方法、Game Centred Approach に着目して
8	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディーベート
9	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディーベート
10	実技	Game Centred Approach を実践的に学習する
11	トップレベル・国際レベルコーチング	トップアスリートのコーチングに求められている能力、環境
12	トップレベル・国際レベルコーチング	アスリートのパーフォマンスにおける情報収拾、研究法論
13	トップレベル・国際レベルコーチング	現場視察
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表。
16	選手育成・コーチングについて①	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
17	選手育成・コーチングについて②	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
18	選手育成・コーチングについて③	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
19	選手育成・コーチングについて④	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
20	選手育成・コーチングについて⑤	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
21	ゲーム分析	試合分析用のソフトを利用し、ゲーム分析について学習する。
22	コーチング評価方法論	コーチ人・コーチングの成果を評価法について学習する。
23	指導案の検討①	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の 観点から検討する。
24	指導案の検討②	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の 観点から検討する。
25	指導案の検討③	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の 観点から検討する。
26	大会、又は指導現場の見学①	コーチングが行われている現場の視察を行う。
27	大会、又は指導現場の見学 ②	現場視察における評価発表、ディスカッションを行う。
28	まとめ	1 年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度、用意する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ワード、エクセル、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】
The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching.

HSS200IA

専門演習 I

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】
スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
測定法ごとにグループをつくる。２グループ並行で測定を進める。
測定法の原理、使い方を調べてプレゼンテーションする。
測定法を使った課題をクリアーする。
事前の測定から実際の測定を計画する。
実際の測定を実施し、参加者にフィードバックする。
測定に関する先行研究を紹介する。
春学期前半はオンラインでの開講となる。
各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	ＶＴＲとフォースプレートの原理と使用法	ＶＴＲの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	ＶＴＲとフォースプレートの課題測定①	２グループに分けての課題測定の説明、実施
4	ＶＴＲとフォースプレートの実際の測定①	課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、実施
5	ＶＴＲとフォースプレートの測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	ＶＴＲとフォースプレートの課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、実施
7	ＶＴＲとフォースプレートの実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用法	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、実施 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	ＶＴＲとフォースプレートの測定分析結果② バイコンと筋電図の事前測定①	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック ２グループに分けての課題測定の説明、実施
9	ＶＴＲとフォースプレートの先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、実施
10	バイコンと筋電図の測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、実施
12	バイコンと筋電図の実際の測定②	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、実施
13	バイコンと筋電図の測定分析結果②	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行研究	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
16	酸素摂取量と筋力測定の原理と使用法	酸素摂取量測定の原理と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定の課題測定①	２グループに分けての課題測定の説明、実施
18	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定①	課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、実施
19	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定の課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、実施
21	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定② 身体組成とＧＰＳの原理と使用法	２グループに分けての実際の測定の説明、実施 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション ＧＰＳの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果② 身体組成とＧＰＳの課題測定①	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック ２グループに分けての課題測定の説明、実施
23	酸素摂取量と筋力測定の先行研究 身体組成とＧＰＳの実際の測定①	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、実施
24	身体組成とＧＰＳの測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とＧＰＳの課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、実施
26	身体組成とＧＰＳの実際の測定②	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、実施
27	身体組成とＧＰＳの測定分析結果②	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とＧＰＳの先行研究	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。
測定の準備（消耗品の確認、充電、授業前の電源）をする。
測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。
先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して提示する）

【参考書】
・「スポーツバイオメカニクス」深代千之ほか、朝倉書店
・「バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎」金子公宥、福永哲夫、杏林書院
・「バイオメカニクス　人体運動の力学と制御」D.A.Winter、ラウンドフラット

【成績評価の方法と基準】
春学期前半はオンラインでの開講としたため、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングになるように進める

【学生が準備すべき機器他】
分析ソフト（エクセルなど）、プレゼンソフト（パワーポイントなど）。

【Outline and objectives】
Knowledges on sports biomechanics and sports physiology are necessary for the students to explore the effective utilization of sports sciences in sports coaching. In this class, mastery is aimed on the how to use of the sports biomechanics and sports physiology machines. Reading comprehension for the references are also necessary for the students to design their researches for the graduation thesis.

HSS200IA

専門演習 I

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション，研究・実験計画の基礎，文献のレビュー，実験・測定・調査の具体的方法，統計解析，研究仮説の設定などの各方法を学び，研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応
○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価，運動中のエネルギー代謝
○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 23 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	発表方法の実際（1）	複数のグループを設定し，設定テーマに関して調査した上で，この週の担当グループがレジュメを用いて発表しする。
第 4 回	発表方法の実際（2）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 5 回	発表方法の実際（3）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 6 回	発表方法の実際（4）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 7 回	研究計画を学ぶ（1）	文献を利用した研究の着想，計画立案の方法について学ぶ。
第 8 回	研究計画を学ぶ（2）	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ。
第 9 回	先行研究の調査（1）	個人の研究テーマについて，担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 10 回	先行研究の調査（2）	前回に続き，個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ（1）	尺度の判定（名義・順位・間隔・比率尺度データ），相関・予測の分析について学ぶ。
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ（2）	実験計画法と分散分析（一要因の分散分析）を学ぶ。
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ（3）	実験計画法と分散分析（二要因の分散分析）を学ぶ。
第 14 回	測定方法を学ぶ（1）	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 15 回	測定方法の実際（1）	骨格筋活動（筋電図）の測定方法を学ぶ。
第 16 回	測定方法を学ぶ（2）	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 17 回	測定方法の実際（2）	エネルギー代謝（呼気ガス分析）の測定方法を学ぶ。
第 18 回	測定方法を学ぶ（3）	身体の動作解析についてグループで調査して発表し，論議する。
第 19 回	測定方法の実際（3）	動作解析の測定方法を学ぶ。
第 20 回	測定方法を学ぶ（4）	質問紙調査についてグループで調査して発表し，論議する。
第 21 回	測定方法の実際（4）	質問紙調査の方法について学ぶ。
第 22 回	測定方法を学ぶ（5）	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し，論議する。
第 23 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 24 回	研究計画の立案（1）	担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 25 回	研究計画の立案（2）	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 26 回	研究の実践（1）	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。
第 27 回	研究の実践（2）	グループごとに，ミニ研究のデータ分析・考察を行う。
第 28 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏，山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】
評価は，1) 実験・調査・発表の内容： 60%，2) 授業への参画状況（出席・発言など）： 40%，で行います。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度担当していないため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising their research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys, and data analysis.

HSS200IA

専門演習 I

山本 浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生主体で進む 100 分間。ジャーナルな視点を大切にし「スポーツの中の社会」「社会の中のスポーツ」の両方を意識しながら、さまざまな問題やスポーツ組織のありよう、アスリートの環境などを綿密に調べ上げていく。卒論につながる専門演習Ⅲまでを視野に入れて進める。基本的な手法も身につけなければならない。①資料を選択しポイントをいかに取り出すか②複数の情報源に当たり取り出した材料の重複部分を探す③素材の断片をどう組み合わせて自分の論理に重ねるか④理解促進や論理強化のための写真やデータをどう配剤するか。世論を意識しながらも世論に流されない、自分なりの世界観を身につけてもらいたい。そのために法の定めるところ、経済の原則に倣うところ、社会の求めに応じるところをわきまえて自分の意見表明を構成する。演習では、3 年生が中心となってディベートを回す時間が増える。自分の思考だけに集中せず、視野を広くして演習に臨もう。

【到達目標】
専門演習 I のポイントは、示されたテーマに対しさまざまな体験と知見をもとに焦点を定め、くまなく見回し、深く考えて持論をまとめ上げること。求めるのは論理立てた表現だ。
スポーツの世界でおきるさまざまな出来事を「私はこう思う」というのではなく「こう主張する以外に手立てがないではないか」と強く説得できるような素材を集め、それを提示する力。
伝える際の根本原則、①わかりやすい構成②新鮮な情報③魅力的な提示④説得力のある論理立て⑤第三者の意見の尊重、そして⑥他人にはない個性があってなお均整のとれたものの見方を把握する。
そうした手法を自らのものにしながら、社会を貫く世界観を人前で提示できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の基本原則は、教員の指導に頼りきることなく学ぶ姿勢だ。折に触れて提示されたテーマに対し、自分なりの視点を設定するところから始まる。
中でも今年のポイントは、ディベート。目前の対象に対する評価を求められたとき、心の中で意見が分かれることは珍しくない。良いように見える自分がいる一方で「良くないぞ」とささやく自分がいたりもする。そんなときに取るべき姿勢は、二つの自分を戦わせてみることだ。それをあえて片方の意見に重心を置いて、別の人間と対峙する。自分の置いた重心を大切にしながら、言辞、映像、資料を使って持論を展開する。やがて、自分の思考の及ばなかったところ、情報の欠落していた部分がわかるようになる。この段階で既に論理をめぐる貴重な経験を自分の中に積み始めているのだ。ディベートを大切にした演習を展開したい。
※今年度当初は、ウィルスの影響下でウェブを使った演習となる。そのため、教室における演習に比べて、参加者個々の考え方、主張などを出す機会が増えるものと予想される。考え方によっては、通常のゼミの 1.2 倍の濃さにしていきたい。積極的な取り組み、発信を期待している。
ウェブでの参加者相互の意見表明など、できるだけのことを試していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと自己紹介 ゼミ長選定	これからの演習の進め方をガイドするとともに新たな参加者の自己紹介を口頭で受ける。2 年生のゼミ長、副ゼミ長を決定する。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、読み方 ディベートの基礎	専門演習Ⅱのゼミ生のプレゼンテーションを見て、そのあり方を分析し、どうとらえたかをディベートに昇華。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料がどんなところにあるのか。具体的なテーマを巡って選択肢やアプローチの方法を知る。
4	プレゼンテーション制作①	他人のプレゼンテーションを参考にしながら、あるべきスタイルやその構成を知る。アニメーションの使い方、スライドの構成を実際に作って体験する。
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンをスクリーンで発表し、意見交換。それぞれの過不足を論じる。
6	調査・インタビュー・素材抽出	自分の主張を構成する素材を集めるに当たって、自ら方向付けをするのがインタビューやアンケードだ。その考え方を学び取る。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章だてなど論文の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーションからディベート①	近年、社会で話題になったスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。
9	プレゼンテーションからディベート②	前週の制作 PPT を発表。参加者の批評を元に、新たな方向付け、深みの取り方をディベート形式の議論で学ぶ。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で文献検索の方法を受講する（予定）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。
12	プレゼンテーション制作③	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
13	※カウントしない	ウィルスの影響下で実施はキャンセル。
14	※カウントしない	ウィルスの影響下で実施はキャンセル。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括③	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	プレゼンテーション制作④	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作。それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション⑤	前週制作したものを発表する。
20	プレゼンテーション⑥	前々週から制作にかかっていたものを発表する。
21	プレゼンテーション制作⑤	過去 2 週の間に演習で受けた批評をもとに、自作のプレゼンテーションを改訂する。
22	プレゼンテーションとディベート	前週の改訂版をプレゼンする。
23	プレゼンテーションとディベート	前々週から改訂してきたプレゼンを披露する。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	二次研究発表＝夏以降作った研究の改訂版と批評。
25	論文発表①	総括研究発表。
26	論文発表とプレゼンテーション①	総括研究発表。
27	論文発表とプレゼンテーション②	総括研究発表。
28	小論文により研究､執筆、PPT 制作の力量試験	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①情報取得のために信頼の置ける情報源に対する接触を怠らないこと。特にその際の出典元を誤らないようにしっかりメモしておく。
②自分自身の体験を取り込んで、そこにある普遍性を大切にすること。自分の口で訊ね、自分の耳で聞き、自分の手で書き残すことが重要。
③気になったシーンは写真に撮っておく。自分の発表に利用すると効果的なスライドになることがある。写真の撮影時期、対象、場所などの記録も必要。
④専門演習Ⅱの受講生とも密に情報交換し、その手法や視点を学ぶこと。
⑤テレビのプレゼンテーションをよく分析する。流れ、展開、材料の引き出し方。参考になるものがたくさんある。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。スパンを区切って 2 週間かけて制作するようなリズムを作りたい。

【テキスト（教科書）】
なし (必要に応じその都度、用意する)。

【参考書】
求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（批評の内容/スライドを使った発表）70 %、 最終小論文 30 %。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど。
最終演習日の小論文は、演習の総括として大きな意味がある。
※プレゼンテーションは、ウェブ上でも可能な範囲でチャレンジしてもらう。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の発表できるチャンスをさらに増やす。
学生主体のアクティブな時間を有効に組み立てる。
ディベート形式の時間に軸足を移す。そこから意見や見解の相違が世界観を広げるのに役立つよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンでスライド制作ソフトを使用する。携帯できる自分のパソコンがある場合は持参すること。パワーポイント、Keynote、DVD 、映像資料などは頻繁に使用する。

【その他の重要事項】
［研究室］担当教員の研究室は 456（来訪の機会は少ないだろうから Line は Yamamotora28。分からないこと、新しいアイデア、何かを抱えていたら一人で閉じこもらず、コミュニケーションの機会を増やすこと。
［外部講師］どんなジャンルの人物をどのタイミングで招くのか。盛んな意見を出してもらいたい。
［ゼミ合宿］休みを利用したゼミ合宿が予定されている。関東近県をターゲットに予定を検討する（ウィルス問題が不安のない状態になった場合）。演習室で獲得できない時間を過ごす。

【特記事項】
今年 10 月から 11 月にかけてドイツ人教員のスポーツメディアに関する特別講義（英語による特講/英語が母国語でない分、分かりやすい）がある。今年のテーマは「オリンピック報道」。2020 大会が終わった直後のホットな内容が、欧州の視点で講じられる。週 2 回ベースの講義だ。登録し思い切ってチャレンジしようという学生を求めている。ドイツに行かなくてもドイツ人教員の講義を直に受けられる滅多にない機会だ。強く推薦する。

【Outline and objectives】
The participants should stand on their own feet. You should keep journalistic views, especially under the consciousness of the society in the sports world and the sports world in the society. The two structures will be good and well aware that the athletes live in it. The fundamental technique must be mastered, to collect material for your own theory, to find out the essential parts which overlap on two different sources, to combine several materials up to the stuff, to organize some appropriate pictures on your slides. You would be expected to maintain reliable viewpoints.

HSS200IA

専門演習 I

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。
春学期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、春学期の終わりには実際にデータを収集する。秋学期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	調査ガイダンス	春学期に実施する調査の目的、実施方法、意義について理解する。
第 3 回	スポーツマネジメントの考え方	スポーツマネジメントについて、定義、独自性、基本特性などについて理解を深める。
第 4 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する。
第 5 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 6 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 7 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 8 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 9 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する。
第 10 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる。
第 11 回	卒業論文を知る	卒業論文の中間報告会に参加し、研究について理解を深める。
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ。
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	春学期から夏休み期間にかけて実施したスタジアム観戦者調査の目的および内容を再確認するとともに、秋学期の学習内容と流れを理解する。
第 16 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：構想の作成	春学期から夏休み期間に実施したスタジアム観戦者調査で視察した内容をグループで話し合い、プレゼンテーションの構想を練る。
第 17 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：役割分担およびドラフトの作成	プレゼンテーションの構想に基づき、役割を分担し、発表資料の作成を進める。
第 18 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：資料作成	プレゼンテーションの資料を完成させる。
第 19 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの方法について説明を受け、発表の練習を行う。
第 20 回	スポーツマーケティングに関する実践的学習	スポーツマーケティングの実務担当者を招き、現場の問題点、注目すべき視点、最新の理論について学ぶ。
第 21 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：発表 1	スポーツマーケティング現場演習の結果を、グループで協力して発表する：前半グループ
第 22 回	スポーツマーケティング現場演習の報告：発表 2	スポーツマーケティング現場演習の結果を、グループで協力して発表する：後半グループ
第 23 回	スポーツ界の時事問題：テーマの選択	スポーツ界の最新の時事問題の中から興味のあるテーマを一つ選び、その問題点を特定する。
第 24 回	スポーツ界の時事問題：理論の選択	スポーツマーケティングに関する理論をいくつか学習し、その中から自分のテーマに合うものを選ぶ。
第 25 回	スポーツ界の時事問題：理論の応用	選んだ理論を自分のテーマに応用し、そこに潜む原理や原則を説明する。
第 26 回	スポーツ界の時事問題：レポートの作成	スポーツ界の時事問題について、理論的に考察した内容をレポートしてまとめる。
第 27 回	スポーツ界の時事問題：レポートの提出	スポーツ界の時事問題に関するレポートを完成させ、提出する。
第 28 回	まとめ	1 年間に渡って取り組んできたゼミの専門的な学習を振り返り、まとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外のグループ学習の課題として、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備、レポートの作成などがあります。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
（1）スポーツメーカー分析：データ収集（20 点、春学期）
（2）スポーツメーカー分析：結果の集計と報告（20 点、前期）
（3）スポーツマーケティング現場演習：結果分析（20 点、秋学期）
（4）スポーツマーケティング現場演習：結果報告（20 点、秋学期）
（5）学期末レポート（20 点、秋学期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。
40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。
20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
ゼミナールは学生の主体的な学びの場です。伸び伸びと積極的学習してください。

【Outline and objectives】
This seminar is an introduction to the basic elements of sport marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct sport marketing research.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

安藤 正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
検査測定学分野：種々の検査器具を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ。また課題をもち課題を解決する力を身につける。
健康科学分野、運動療法分野、健康科学分野の科学論文を抄読することで科学論文の読解力を高める。

【到達目標】
各自研究テーマを持ち実験しデーターを処理し報告するまでを学ぶ。
自ら科学論文を収集し、読解し、報告する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
少人数グループに分かれ課題を定め課題解決のために実験を実施しデーターをまとめ報告する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　1 タイムスケジュールの検討	グループに分かれ課題決定
2	オリエンテーション　2 検討結果を報告し決定する	各課題発表。オリエンテーションを行う
3	クラス別課題	クラスに分かれ文献を探す
4	調査・まとめ・発表のしかた	検索方法・調査方法について教員の助言を受けながら列挙し確認する。また調べた事項をまとめる方法や発表の方法を確認する。
5	クラス別課題 健康科学を課題にしたグループを中心に報告や実習をする	クラスに分かれ報告や実習 健康科学関係
6	クラス別課題 機能解剖学を課題にしたグルーを中心に報告する	クラスに分かれ報告や実習 機能解剖関係
7	クラス別課題 トレーニング科学を課題にしたグループを中心に報告する	クラスに分かれ報告や練習 トレーニング関係
8	クラス別課題 ストレッチ・マッサージを課題にしたグループを中心に報告する	クラスに分かれ報告や練習 ストレッチ・マッサージ関係
9	全体課題 積み残した課題を整理する	積み残しあるいは未修得の知識や技術を復習する
10	クラス別課題 健康科学グループの実験	実験計画に基づき簡単な実験を行う
11	クラス別課題 機能解剖学グループの実験	実験計画に基づき簡単な実験を行う
12	クラス別課題 トレーニング科学グループの実験	実験計画に基づき簡単な実験を行う
13	クラス別課題 ストレッチ・マッサージグループの実験	実験計画に基づき簡単な実験を行う
14	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する

秋学期

回	テーマ	内容
15	全体オリエンテーション	秋学期課題タイムスケジュールを発表。オリエンテーションを行う
16	知識の確認 機能解剖知識の検定試験	あらかじめ出された練習問題が試される
17	知識の確認 健康科学知識の検定試験	あらかじめ出された練習問題が試される
18	技術の確認 ストレッチ技術の検定試験	あらかじめ出された練習問題が試される
19	技術の確認 マッサージ技術の検定試験	あらかじめ出された練習問題が試される
20	技術の確認 検査測定技術の検定試験	あらかじめ出された練習問題が試される
21	JSST トレーナー資格についての説明と不足部分の補足	JSSR トレーナー資格を得るための説明と練習問題を解く
22	中間報告会参加	４年生の卒業研究の中間報告会に参加し、研究の進め方を学ぶ
23	実験計画 健康科学グループ	次年度に向けて各自が計画をたて報告する
24	実験計画 機能解剖グループ	次年度に向けて各自が計画をたて報告する
25	実験計画 トレーニング科学グループ	次年度に向けて各自が計画をたて報告する
26	実験計画 マッサージ・ストレッチグループ	次年度に向けて各自が計画をたて報告する
27	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
28	学会参加	学会参加（日程未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：配付資料を持参する
第 4 回：ディスカッションで決まった事項をまとめる
第 5～6 回：翌週までに発表の準備をする
第 7～8 回：翌週までに課題について調べまとめる
第 9 回：報告資料をコピーし配布しておく
第 16 回：配付資料を持参する
第 18～22 回：発表原稿のコピーと配布
第 23～27 回：資料のコピーと配布
第 28 回：プレゼンテーション資料の作成第、意見をまとめ整理する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて教員が資料を配付する

【参考書】
特に定めず、学生が課題解決のため決定する

【成績評価の方法と基準】
平常点：積極的発言や参加態度や小テスト（40%）、課題評価：発表資料のできばえあるいは仕方（60%）

【学生の意見等からの気づき】
少人数で進める必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
課題報告のためプレゼンスライドを作成し持参する
パソコンなど

【その他の重要事項】
専門演習Ⅰを履修済みであるものが対象

【Outline and objectives】
Learn functional anatomy
Learn physical function evaluation
Learn to stretch
Learn massage technology
Learn training

HSS300IA

専門演習Ⅱ

飯村　周平

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰにおいて習得したスポーツ心理学に関する知識や調査手法についてより深く学び、卒業論文作成に向けた研究テーマを確定するとともに研究計画書を作成する。演習の後半では学生は予備調査に取り組み、その結果を基に研究計画を精査する。

【到達目標】
1. 数量的・質的分析法を習得し、活用できる。
2. 予備調査から得たデータを分析し、その結果について発表できる。
3. 予備調査から明らかとなった課題を整理し、発表できる。
4. 先行研究や予備調査の結果を基に研究テーマを設定し、研究計画書を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
先行研究の講読や実践的な調査手法に関する学びを通して、専門演習Ⅰで習得した知識の向上を図る。仮説検証に向けた予備調査の結果を発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツ心理学に関する専門的な学びに向けた動機づけおよび授業概要について理解する。
2	グループワーク	グループワークが自己理解・他者理解を深める一手段となることを体験的に学習する。
3	体験的学習を通したデータ収集	スポーツを用いた体験的学習を通してデータ収集の方法について学習する。
4	研究の仕方・データの整理	スポーツ心理学に関する調査・研究の進め方およびデータの整理の仕方について学習する。
5	データの比較	統計ソフトを用いた分析方法（t 検定、分散分析等）について学習する。
6	データの関係性	統計ソフトを用いた分析方法（相関関係等）について学習する。
7	質的研究法	スポーツ心理学における質的研究の理論と方法について学習する。
8	質問紙法	質問紙を用いた調査方法およびそのまとめ方について学習する。
9	チームを対象とした事例検討	チームを対象とした事例報告を通して競技活動によるチームワークの変化について学習する。
10	個人を対象とした事例検討	個人を対象とした事例報告を通して競技活動による心理社会的能力の変化について学習する。
11	対人関係に焦点付けた事例検討	対人関係に焦点付けた事例報告を通して競技活動による対人関係能力の変化について学習する。
12	研究計画書	研究計画書のまとめ方や発表の仕方について学習する。
13	卒業論文を知る	ゼミ内の卒業論文中間報告会に参加し、卒業論文の進め方について理解を深めるとともに発表の仕方について学習する。
14	研究計画の発表	今後取り組む予定の研究計画（案）を抄録にまとめ発表する。
15	研究計画の再確認	調査研究の目的・内容を再確認するとともに秋学期の流れを理解する。
16	先行研究の検討（第 1 グループ）	第 1 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
17	先行研究の検討（第 2 グループ）	第 2 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
18	先行研究の検討（第 3 グループ）	第 3 グループが、数量的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
19	先行研究の検討（第 1 グループ）	第 1 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
20	先行研究の検討（第 2 グループ）	第 2 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
21	先行研究の検討（第 3 グループ）	第 3 グループが、質的観点から論じた先行研究を要約し、課題を指摘する。
22	研究課題の選定	各自のテーマについて（1）研究の背景、（2）研究目的、（3）学術的な意義について検討する。
23	研究の背景	先行研究によってどこまで解明されており、何が未解明の研究課題なのかを特定することによって各自の研究テーマを絞りこむ。
24	研究の目的・意義	研究の目的を設定し、その研究の社会的な意義を明確にする。
25	研究の枠組み	各自の研究で扱う対象者、分析方法などの枠組みを明確にするとともに、予想される結果についての仮説を立てる。
26	予備調査の研究計画	仮説検証を目的とした予備調査に関する準備状況を踏まえた研究計画を発表する。
27	予備調査の実施準備	予備調査の準備を整え、調査を実施し、その結果をまとめる。
28	研究計画の発表	先行研究および予備調査の結果を踏まえて研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は各 4 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 先行研究の講読、調査の実施、データの収集・分析、結果に対する考察といった予備調査に関わる課題が与えられますので、授業外においてその作業に取り組んでください。
2. ゼミで担当するスポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられますので、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 中澤　史　「アスリートの心理学」日本文化出版　2016
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房　2004
3. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 研究計画書： 40 %（春学期・秋学期各 20 %）
2. プレゼンテーション： 40 %（春学期・秋学期各 20 %）
3. グループワークによる報告書： 10 %
4. 授業への参画状況、リアクションペーパー、各種課題等の提出物： 10 %。
※研究計画書、グループワークによる報告書、リアクションペーパー、各種課題では、授業やグループでの取り組みの内容を踏まえて適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
本演習では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、教育実習や介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to help students enhance the knowledge and research methods acquired in Seminar Ⅰ. In the second half of the class, students work on a preliminary survey and review the research plan based on the results.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミにおける 3 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】
アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、活動ができることが 3 年次の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
　2 年時から引き続き、春学期では事前準備の上で発表・実践が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定および発表、可能な限り予備実験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3 年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹部全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	研究の方法/抄読会 1	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
16	機器の操作方法確認 1/抄読会 2	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。
17	機器の操作方法確認 2/抄読会 3	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法確認 3/抄読会 4	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法確認 4/抄読会 5	トレッドミル・ハートレートモニターの使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法確認 5/抄読会 6	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
21	研究計画の作成 1/抄読会 7	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
22	研究計画の作成 2/抄読会 8	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	現場実習報告 1/抄読会 9	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
24	現場実習報告 2/抄読会 10	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
25	予備実験 1/抄読会 11	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
26	予備実験 2/抄読会 12	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
27	研究計画発表会	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	3 年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習
第 16 回：春学期の復習
第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
１．日体協公認アスレティックトレーナーテキスト１～９
２．ドナルド・A．ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー．医歯薬出版．2012
３．坂井建雄，松村譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系．医学書院．2011
４．日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編．大修館書店．2011
５．小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング．医歯薬出版．2013
６．Starkey. C., Brown. S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
７．臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド第 2 版．文光堂．2015
８．中村千秋編：ファンクショナルトレーニング―機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング．文光堂．2010
９．広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%、種々の活動への取り組み 40%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などを通して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
アスレティックトレーナーは体育・スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場の経験が大変重要である。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
The purposes of the athletic training seminar 2 are as follows, first, to learn knowledge and skills necessary as an athletic trainer. Second, to have an opportunity experiencing the student trainer as much as possible. Third, to review the study along a graduation study theme and set a problem to reach the graduation thesis.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年度の授業は 4 月 22 日（水）より開始します。
学習支援システムならびにゼミ用 Drop Box に授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
前期の授業では、スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。後期の授業では、コミュニケーション能力を高めるために、毎回プレゼンテーション行う。専門演習 I ならびに専門演習 II の講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】
1．スポーツマネジメントを深く学ぶこと。
2.4 年次に挑戦することとなる卒業研究のテーマを把握すること。
3. 受講者は専門演習 I ならびに専門演習 II の講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定すること。
4. 自身が選んだ研究を実行するために必要な先行研究を読み、適切な研究方法を他の受講者と共に検討すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 4 月 22 日（水）より開始します。
学習支援システムならびにゼミ用 Drop Box に授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
3年次を対象に、少人数でのプレゼンテーション・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した基礎的な理論を理解し、2年次の専門演習 I において学んだ知識ならびに本講義で学んだ理論をもとに卒業研究テーマの決定を目標とし、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究に向けた準備の進め方、調査の手法などについて説明する
2	マネジメントとは１ マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは２ マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは 3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	組織とは スポーツの組織化 スポーツ組織の文化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）ならびに、組織文化ついて学習する。
6	スポーツ組織のコントロールシステム 組織コミットメント	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
8	スポーツ組織におけるモチベーションマネジメント	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する
9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
11	プレゼンテーションの方法について　1	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
12	プレゼンテーションの方法について　2	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	後期演習の概説	後期の演習の概要及び卒業研究の意義を理解する。
16	研究の進め方について１	量的研究の手法について解説する。
17	研究の進め方について２	質的研究の手法について解説する。
18	情報・文献の検索について１	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
19	情報・文献の検索について２	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
20	過去の卒業研究の検討１	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
21	過去の卒業研究の検討２	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
22	過去の卒業研究の検討３	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
23	先行研究の検討１	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
24	先行研究の検討２	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う
25	先行研究の検討３	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う
26	研究課題の選択１	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
27	研究課題の選択２	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
28	研究課題発表	秋学期の総括をおこない、各自来年度に向けた卒業研究案を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関する過去の卒業論文と一般論文

【成績評価の方法と基準】
毎授業時に課すレポート課題（70 %）、卒業研究のプロポーザル内容（30 %）で判断します。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの行う機会を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In the 1st semester, we will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.) in order to understand the basic theory to effectively manage sports organizations. In the 2nd semester, presentation will be required every time to enhance communication skills. We will read up previous graduation research and preceding studies in order determine the research subjects that can be developed into graduation research from the contents learned through the lectures of seminar I and seminar II class lectures.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
(2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
(3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第 3 回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第 4 回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第 5 回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第 6 回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第 7 回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第 8 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 9 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わりの強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 10 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 11 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第 12 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤルティ	スポーツにおける顧客ロイヤルティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第 13 回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16 回	過去の卒業研究の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 17 回	過去の卒業研究の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 18 回	過去の卒業研究の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、過去の卒業研究ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 19 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 1 グループ	第 1 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 20 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 2 グループ	第 2 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 21 回	先行研究（一般の研究）の検討：第 3 グループ	第 3 グループが、一般の研究論文ついて（1）文献の要約、(2）研究群の整理、(3）問題点の特定を行う。
第 22 回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1）研究の背景、(2）研究目的、(3）学術的な重要性、(4）実践的な重要性をまとめ、発表する。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 28 回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
(1）研究手法に関するレポート： 10 点（前期）
(2）研究テーマの発表： 10 点（前期）
(3）過去の卒業研究のレビュー： 10 点（後期）
(4）一般の先行研究のレビュー： 10 点（後期）
(5）序論（緒言、問題の所在）の執筆： 20 点（後期）
(6）序論（目的、重要性）の執筆： 20 点（後期）
(7）序論（概念的枠組み）の執筆： 20 点（後期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
専門演習は論文を作成することを最終的な目標とし、専門演習Ⅰから Ⅲまでの 3 年間、理論だけでなく、多くのフィールドワークや課題に取り組む必要があります。よって、専門演習Ⅱを履修するためには以下の条件を満たすことが求められます。授業への参加だけでなく、課外活動に対する取り組みや各課題に対する一定以上の評価が得られていること。

【Outline and objectives】
This course is a seminar of sport marketing research. Students will learn how to conduct sport marketing research based on their own interests and research questions. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育学，コーチ学などといった運動科学分野における文献分析から，自分の取り組みたいテーマを選択していく。

【到達目標】
自らの研究テーマについて，研究方法や実験方法，分析方法など研究に必要なスキルを高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
３年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ，２年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第 2 回	情報収集 1	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
第 3 回	情報収集 2	演習合同で行うテーマについて文献検索を行い、プレゼンする。
第 4 回	演習合同研究テーマの検討	演習合同で行う研究についてテーマを決定する。
第 5 回	文献検索	演習合同テーマに関する文献の検索を行う。
第 6 回	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
第 7 回	予備実験	演習合同テーマについて予備実験を行う。
第 8 回	データ解析	演習合同テーマ予備実験のデータの解析を行い、プレゼンする。
第 9 回	実験実習	演習合同テーマの実験・調査を行う。
第 10 回	論文作成 1	演習合同テーマの論文の構成を行う。
第 11 回	論文作成 2	演習合同テーマの論文の執筆を行う。
第 12 回	論文作成 3	演習合同テーマの論文を推敲・校正を繰り返す。
第 13 回	論文の完成	演習合同テーマの論文を完成させる。
第 14 回	研究成果の発表	演習合同テーマの論文を発表する。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。 夏期研究テーマを検討する。
第 16 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
第 17 回	ポスター発表作製	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスターを作製する。
第 18 回	ポスター発表	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスター発表を行う。
第 19 回	ポスター発表のフィードバック	合同研究もしくは春期、夏期の研究についてポスター発表のフィードバックを行う。
第 20 回	論文計画書作成	各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う。
第 21 回	研究テーマの検索	各自の研究テーマを模索する。
第 22 回	研究テーマの発表	各自の研究テーマを発表する。
第 23 回	研究テーマのディスカッション	各自の研究テーマについてディスカッションする。
第 24 回	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
第 25 回	予備実験 1	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
第 26 回	予備実験 2	各自研究テーマの予備実験の解析を行う。
第 27 回	予備実験の発表	各自研究テーマの予備実験の結果を発表する。
第 28 回	今後の研究課題の方向性発表	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）とプレゼン（50 %）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn how to conduct research in the field of physical education (and sports science), looking at things such as physical fitness and coaching methods. Students will learn how to read the precedent studies, analyze data and write an academic paper.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、いじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなどの学校保健上の課題、公衆衛生上の課題について論文輪読などの活動を通じて全般的に理解を深め、研究課題をもてるようにするとともに、特に教職希望者は授業実践を通じて実践力を高められるようにする。

【到達目標】
専門演習Ⅱを通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習 1 を振り返り、Ⅱの演習計画について確認する。
2	子どもの健康課題	現代的な健康課題についてデータを読みとく。
3	子どもの生活習慣病の課題	子どもの健康課題、生活習慣病の課題に関わる文献を読みとく。
4	性の逸脱行動	性の逸脱行動に関わるデータの意味を理解する。
5	性の逸脱行動の文献を読む	性の逸脱行動に関する文献を読み解く。
6	性に関する指導	指導案を作成する。
7	未成年喫煙に関する知見	未成年喫煙に関するデータを理解する。
8	未成年喫煙の健康影響	文献を読み解く。
9	未成年喫煙に関する指導案作成	指導案を作成する。
10	未成年飲酒に関する知見	未成年飲酒に関するデータを理解する。
11	未成年飲酒の健康影響	文献を読み解く。
12	未成年飲酒の健康影響に関する指導案作成	指導案を作成する。
13	薬物乱用と健康	薬物乱用に関するデータを理解する。
14	薬物乱用の健康影響－覚せい剤－	関連薬物の実態と課題について理解する。
15	薬物乱用の健康影響－大麻と危険ドラッグ－	関連薬物の実態と課題について理解する。
16	薬物乱用に関する文献	文献を読み解く。
17	薬物乱用に関する指導案作成	指導案を作成する。
18	メディアによる影響	文献を読み解く。
19	広告分析	広告分析により批判的思考を養う指導案を作成する。
20	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について専門演習Ⅰの理解を踏まえ、さらに理解を深める。
21	ライフスキル教育	危険行動を防ぐための意義について構成スキルとの関連性を踏まえ理解を深める。
22	ライフスキル教育の指導案作成	指導案を作成する。
23	医薬品に関する指導	関連文献を読みとく。
24	医薬品に関する指導案作り	医薬品に関する指導案を作成する。
25	安全教育に関する領域構造	安全教育に関する領域と系統性について理解を深める。
26	安全教育に関するデータ解析	安全教育に関するデータを読み解く。
27	安全教育に関する指導案作成	安全教育に関する指導案を作成する。
28	環境と健康に関するデータ	環境を健康に関するデータを読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導案の作成、文献を読みレポートを作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説保健体育編
高等学校学習指導要領保健体育編

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見は積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】
授業計画は授業の進展により変更がありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is for students to deepen their understanding of school health and public health.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】
春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿って調査活動を行う。
研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。
英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。
各学生の研究に必要な実験・測定を行う。
ヒューマンカロリメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーション・スキル②	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会①	[演習] 3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
16	LT の測定①	[実習] LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] LT を測定する。
18	LT の測定③	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	[演習] 3 年生による研究発表会-2
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
26	スポーツ栄養①	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の２月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
· 近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院. (2018) **※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める**
· Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵**

【参考書】
· Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室収にあり**
· Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 6th ed. (2015) **※研究室収蔵、ただし第 4 版は資料室にあり**
· McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
· Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※研究室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。**専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の 2 月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。**
②参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
③ 抄読会・Book Club（5 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
④ プレゼンテーション（10 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
⑤ 実習参加（10 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑥ 演習およびレポート作成（10 %）：科学的分析能力。
⑦ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】
①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3 年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	研究方法の学習１/抄読会	リサーチクエスチョンの重要性について講義する。
12	研究方法の学習２/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	研究方法の学習３/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodex など）/抄読会	主に Biodex の操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMG など）/抄読会	主に EMG の操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXA の原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）
21	研究計画の作成１/抄読会	リサーチクエスチョンの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の作成２/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の作成３/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験１	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験２	予備実験の結果の報告。
26	予備実験３	予備実験の limitation について討議する。
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	１： 3 年時のまとめ ２：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
· Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
·坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
·臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】
In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

高見 京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**3 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**月 5**/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。
17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業への参加 (40%) ：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2) 課題の提出および発表 (60%) ：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱでは研究デザインを策定するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline and objectives】
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

永木　耕介

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**月 5**/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】
指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体つくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体つくり運動」の模擬授業の実施	担当者が「体つくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当者が「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当者が「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当者が「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当者が「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当者が「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の模擬授業の実施	担当者が「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講者に対する指導的役割の確認を行う。
16	「体つくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
17	「体つくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
18	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
19	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
21	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
22	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
23	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
25	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
26	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
27	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
28	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外で指導案を作成する必要がある。本授業の準備学習は 6 時間、復習時間は 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　平成 20 年版・平成 29 年版（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）

【参考書】
体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法　（大修館書店）
新版体育科教育学入門　（大修館書店）
保健体育科教育法　（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（６０％）、レポート点（４０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
授業計画は展開によって変更があり得る。

【Outline and objectives】
This seminar is for students wishing to study Physical Education pedagogy through teaching theory and practice.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

成田 道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**月 5/Mon.5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点、問題点を整理し４年次演習Ⅲの卒業論文作成に備える。

【到達目標】
２年次秋学期の演習Ⅰで研究発表したテーマを参考に秋学期各自の演習Ⅲに向けて研究テーマを決定し、４年次の卒論に向けて準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始は５月４日とする。
２年秋学期で設定したテーマに沿ってさらに調査研究する。
連絡はメールを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画と自己紹介を行う
2	演習Ⅰを振り返る	各自演習Ⅰの研究を振り返り検討する
3	論文について	レポートと論文の違いについて学ぶ
4	グループ別調査１ 研究テーマの決定	グループに分かれ関心のある研究テーマを決める
5	グループ別調査２ 役割分担	グループ別に調査方法と各自の役割分担を明確化する
6	グループ別調査３ 調査・情報収集	グループ別に研究テーマに沿ってインターネット等で調査・情報収集を行う
7	グループ別レジメの作成	グループ別に収集した調査・情報をもとにレジュメを作成する
8	グループ別レジュメの発表	グループ別に作成したレジュメを発表する
9	プレゼンテーション１ 作成	グループ別に研究テーマをもとにプレゼンテーションを作成する
10	プレゼンテーション２ 発表	グループ別に前回作成したものを発表する
11	プレゼンテーションの総括	発表したプレゼンテーションの総括を行う
12	プレゼンテーションの修正	総括で出された意見をもとにプレゼンテーションの修正を行う
13	小論文の作成	グループ別に修正したプレゼンテーションをもとに小論文を作成する
14	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し秋学期に備える

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の授業計画について説明する
16	個人別研究テーマの再検討	各自演習Ⅰの研究テーマを再検討する
17	個人別研究テーマの決定１	各自の研究テーマ発表する
18	個人別研究テーマの決定２	各自の研究テーマについてディスカッションする
19	小論文計画書作成	各自の研究テーマについて小論文作成計画を立てる
20	文献の検索	各自の研究テーマについて文献を検索する
21	文献の講読	各自の研究テーマについて文献を購読、要約し発表する
22	レジュメの作成	各自の研究テーマについて文献・インターネット等で資料を収集しレジュメを作成する
23	レジュメの発表	前回作成したレジュメを発表する
24	プレゼンテーション	各自の研究テーマについてプレゼンテーションを作成・発表する
25	小論文作成１	各自研究テーマについて発表したプレゼンテーションをもとに小論文を執筆し発表する
26	小論文作成２	前回発表の総括を行う
27	小論文作成３	総括の意見を取り入れ小論文を完成させる
28	秋学期まとめ	年間の授業を総括し次年度に備える。年間を振り返り反省点・問題点を確認する。小論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
レポート（毎回）６０％　最終レポート４０％
授業に対する積極的な取り組みを総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今後の目標を明確に把握し指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Students investigate their topics, elucidate doubtful points and problems and develop a research.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

Nemes Roland

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**3 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
少人数グループに分かれ、国内外の文献を検索と発表することを通じ、コーチングに関連している様々な研究法と論文の書方について学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められ，連絡系統の確認をする
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討
3	文献検索の方法と実際①	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検 索の方法に習熟する。
4	プレゼンテーション制作①	演習生Ⅰの制作をサポートする
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表し、意見交換から過不足の検討
6	統計解析の基礎	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
7	研究法①	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケートとその考え方を議論する
8	研究法②	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する
9	研究法③	スポーツコーチング科学の特徴に関する研究法について学習する
10	プレゼンテーション方法	パワーポイントプレゼンテーションについて学習する。
11	プレゼンテーション方法②	前週制作のパワーポイントを演習生Ⅱの代表数人が提示、議論する。
12	文献検索と輪読①	国内のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
13	文献検索と輪読②	海外のコーチングテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
17	研究計画書の書き方①	緒言，目的，方法の記載の仕方について学ぶ
18	研究計画書の書き方②	期待される結果、研究の意義
19	研究計画書の書き方③	進み方・フローチャートにおける考え方
20	研究計画作成①	小人数のグループでコーチング現場におけるテーマを設定し、研究計画を作成する
21	研究計画作成②	前回グループで設定した研究計画を発表し、意見交換する
22	論文作成①	研究計画に基づいて、小論文を作成する（目的と方法）
23	論文作成②	研究計画に基づいて、論文を作成する（結果と考察）
24	論文作成③	研究計画に基づいて、論文を作成する（目次と参考文献含め、全文）
25	発表①	グループごと論文発表を行う①
26	発表②	グループごと論文発表を行う②
27	発表③	グループごと論文発表を行う③
28	総括	演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随 時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。 ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50 %) とプレゼン (50 %) によって評価する

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコ ン、マイクロソフト・オフィス (ワード、エクセル、パワーポイント)

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The main objective is to learn about coaching in a practical and theoretical way. Students will be required to search and present issues they are interested in sports coaching.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】
自分自身の研究課題を見出し、それを解決するために用いる測定法に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
自身の研究課題を考案し、研究計画にまとめてプレゼンする。
習熟すべき測定法を選択し、２年生に測定法を指導する。
研究課題をトライアルとして実行し、そのデータを分析、プレゼンする。
習熟した測定法の既存マニュアルを更新する。
春学期前半はオンラインでの開講となる。
各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	ＶＴＲとフォースプレートの原理と使用法	ＶＴＲの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	ＶＴＲとフォースプレートの課題測定①	２グループに分けての課題測定の説明、指導
4	ＶＴＲとフォースプレートの実際の測定①	課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、指導
5	ＶＴＲとフォースプレートの測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	ＶＴＲとフォースプレートの課題測定②	２グループ交替しての事前測定の説明、指導
7	ＶＴＲとフォースプレートの実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用法	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、指導 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	ＶＴＲとフォースプレートの測定分析結果② バイコンと筋電図の課題測定①	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック ２グループに分けての課題測定の説明、指導
9	ＶＴＲとフォースプレートの先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、指導
10	バイコンと筋電図の測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、指導
12	バイコンと筋電図の実際の測定②	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、指導
13	バイコンと筋電図の測定分析結果②	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行研究	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
16	酸素摂取量と筋力測定の原理と使用法	酸素摂取量測定の原理と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定の課題測定①	２グループに分けての課題測定の説明、指導
18	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定①	課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、指導
19	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定の課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、指導
21	酸素摂取量と筋力測定の実際の測定② 身体組成とＧＰＳの原理と使用法	２グループに分けての実際の測定の説明、指導 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション ＧＰＳの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定の測定分析結果② 身体組成とＧＰＳの課題測定①	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック ２グループに分けての課題測定の説明、指導
23	酸素摂取量と筋力測定の先行研究 身体組成とＧＰＳの実際の測定①	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 課題測定の結果報告 ２グループに分けての実際の測定の説明、指導
24	身体組成とＧＰＳの測定分析結果①	２グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とＧＰＳの課題測定②	２グループ交替しての課題測定の説明、指導
26	身体組成とＧＰＳの実際の測定②	課題測定の結果報告 ２グループ交替しての実際の測定の説明、指導
27	身体組成とＧＰＳの測定分析結果②	２グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とＧＰＳの先行研究	２グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。
２年生に指導できるように測定法に習熟する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし（資料を作成して提示する）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期前半はオンラインでの開講としたので、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングになるように進める。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤ、映像資料を使うことがある。

【Outline and objectives】
Knowledge on sports biomechanics and sports physiology are necessary for the students to explore the effective utilization of sports sciences in sports coaching. In this class, mastery is aimed on the how to use of the sports biomechanics and sports physiology machines. Reading comprehension for the references are also necessary for the students to design their researches for the graduation thesis.

HSS300IA

専門演習 Ⅱ

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究の調査，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション，研究・実験計画の基礎，文献のレビュー，実験・測定・調査の具体的方法，統計解析，研究仮説の設定などの各方法を学び，研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状態と心理的情報との対応
○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価，運動中のエネルギー代謝
○体型と減量行動・痩身指向・身体活動量・エネルギー代謝
なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 23 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ。
第 3 回	発表方法の実際（1）	複数のグループを設定し，設定テーマに関して調査した上で，この週の担当グループがレジュメを用いて発表しする。
第 4 回	発表方法の実際（2）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 5 回	発表方法の実際（3）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 6 回	発表方法の実際（4）	前回に引き続き，設定テーマに関して調査した内容について，この週の担当グループがレジュメを用いて発表し，全体で論議する。
第 7 回	研究計画を学ぶ（1）	文献を利用した研究の着想，計画立案の方法について学ぶ。
第 8 回	研究計画を学ぶ（2）	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ。
第 9 回	先行研究の調査（1）	個人の研究テーマについて，担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 10 回	先行研究の調査（2）	前回に続き，個人の研究テーマについて，この週の担当学生が現在の知見をまとめて発表する。
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ（1）	尺度の判定（名義・順位・間隔・比率尺度データ），相関・予測の分析について学ぶ。
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ（2）	実験計画法と分散分析（一要因の分散分析）を学ぶ。
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ（3）	実験計画法と分散分析（二要因の分散分析）を学ぶ。
第 14 回	測定方法を学ぶ（1）	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 15 回	測定方法の実際（1）	骨格筋活動（筋電図）の測定方法を学ぶ。
第 16 回	測定方法を学ぶ（2）	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し，論議する。
第 17 回	測定方法の実際（2）	エネルギー代謝（呼気ガス分析）の測定方法を学ぶ。
第 18 回	測定方法を学ぶ（3）	身体の動作解析についてグループで調査して発表し，論議する。
第 19 回	測定方法の実際（3）	動作解析の測定方法を学ぶ。
第 20 回	測定方法を学ぶ（4）	質問紙調査についてグループで調査して発表し，論議する。
第 21 回	測定方法の実際（4）	質問紙調査の方法について学ぶ。
第 22 回	測定方法を学ぶ（5）	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し，論議する。
第 23 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 24 回	研究計画の立案（1）	担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 25 回	研究計画の立案（2）	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 26 回	研究の実践（1）	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う。
第 27 回	研究の実践（2）	グループごとに，ミニ研究のデータ分析・考察を行う。
第 28 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏，山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】
評価は，1) 実験・調査・発表の内容： 60%，2) 授業への参画状況（出席・発言など）： 40%，で行います。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度担当していないため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the practical methodology for future research activities through raising their research questions and solving them by investigating previous studies, experiments, surveys, and data analysis.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

山本 浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly** ｜ 配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に専門演習Ⅰを経験した学生によるⅡは、演習Ⅰで培った力を元にさらに大きな世界観でスポーツを捉えるところに重心を置く。引き続き「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」などが柱をなす主題だ。Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲを見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出すること。となれば「何に取り組むのか」を土台に、「どう取り組むのか」に意識を置くことだろう。演習ⅠとⅡに共通する要素は、「厳しく突き詰めて得た持論を外に向かって展開する」ところにある。今年大切にするのは、意見の交換。ディベートを集中的に取り込み、持論の提示、他者の意見の理解、そしてさまざまな情報をぶつけ合いながら取るべき施策の評価に時間を費やしたい。

【到達目標】
専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論理展開を身につけること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。
目指すべきは：
矛盾のない資料の選択や抽出法の獲得。
対立意見を十分に検討し、採否の判断能力の向上。
説得力のある論理構築法の習得。
具体事例をおろそかにせず、全体を目指す力。完成度が高く力のある論文を書く能力を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
※ウィルスの影響下でやむなくウェブを利用した演習となる。とりわけ序盤は、直に会ってやり取りをする機会は相当限られるだろう。その分、これまで培ってきたプレゼンテーションやスライド制作の能力を存分に発揮するチャンスがあると言える。
※ウェブを使っての皆が参加できる方法をうまく利用しながら、専門演習らしいやり取りができることを期待している。
さて改めて専門演習Ⅱ。あくまで学生主体の授業である。参加者は専門演習Ⅰと近い思想だろうが、ステージは更に高い。授業の中で求められるのは；
①積極的なリーダーシップの発揮②後進の手本となるような研究成果の発表③幅広いジャンルに対する知見、斬新なものの見方の提示。
初めて専門演習の世界に入ってくるⅠの学生たちの期待は大きい。経験を生かして、Ⅰの学生たちにあるときは厳しくあるときは寛容に、自身の研究の成果はわかりやすくなお深く対応する。リーダーシップを随所に発揮しながら、専門演習Ⅱの学生達が軸になって演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　演習生Ⅱの自己紹介	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められる。連絡系統の確認をする。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方 ディベートの基礎	演習生Ⅱの代表者数人によるプレゼンテーション見本。意見交換。ディベートの要件把握。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討。
4	プレゼンテーション制作①	演習生Ⅰの制作をサポートする。
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表。意見交換から過不足の検討
6	調査・インタビュー・素材抽出	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケート。その考え方を議論する。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーションからディベート①	話題になっているスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。その際に、対立するアイデアを十分に取り込む技法を習得する。
9	プレゼンテーションからディベート②	前週制作の PPT を演習生Ⅱの代表数人が提示、その後、ディベート形式で議論する。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で、文献検索と論文執筆法の講習を受ける（予定）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。
12	プレゼンテーション制作③	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
13	※ウィルスのため回数としてはキャンセル	ノーカウント
14	※ウィルスのため回数としてはキャンセル	ノーカウント

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括を題材にディベート。	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	プレゼンテーション制作④	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作。それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション⑤	前週制作したものを発表する。
20	プレゼンテーション⑥	前々週から制作にかかっていたものを発表する。
21	プレゼンテーション制作⑤	過去 2 週の間に演習で受けた批評を元に、自作のプレゼンテーションを改訂する。
22	プレゼンテーションとディベート	前週の改訂版をプレゼンする。ディベートで議論を更に深める。
23	プレゼンテーションとディベート	前々週から改訂してきたプレゼンを披露する。討論で議論を更に深める。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	二次研究発表＝夏以降作った研究の改訂版と批評。
25	論文発表①	総括研究発表①
26	論文発表とプレゼンテーション①	総括研究発表②
27	論文発表とプレゼンテーション②	総括研究発表③
28	小論文により研究、執筆、スライド制作の力量試験	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※ウェブの授業で埋め尽くされる毎日だろう。こうなると情報の取り方、その読み方がそれぞれの力量によって左右される。書かれていること、伝えられていることをそのまま真に受けるか。なぜそのように伝えられるのか。演習の時間外でも、そのための力量を上げることが大いに可能だ。メディアの情報に敏感に。今年はイベントがすっかり枯れてしまいそうだ。となると、過去の振り返りが多くなる。A 紙を読んで頷き、B 画面を見てなるほどと納得するだけでは足りない。その時代の生活水準、科学の力、宗教の強さ、世界が世界を知らない時代。さまざまな論調を少し離れたところから読み解き、そこに自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の考えがどこからきたのか、足下を探っておくことも必要だ。
大学生活の次のステージを考えたとき、もう一つ大切なことは、自分の人生設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうか。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義の進捗状況に応じ、大きなテーマを 2 週間をかけて履修していく。

【テキスト（教科書）】
なし (必要に応じてその都度、用意する)。

【参考書】
求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（批評の内容/研究発表）70 %、 最終小論文 30 %。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
最終演習日には、小論文を課す。必ず対応すること。

【学生の意見等からの気づき】
専門演習Ⅰの学生に対する、アクティブな対応ができるチャンスを増やす。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートを続けたい。エントリーシートのチェックなど依頼には応じる。
参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。演習生の積極的な提案を待ちたい。
ディベートの機会を増やすが、リーディングパートを積極的に務めてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
自分のパソコンを持っている演習生は、それを持参すること。パワーポイント、キーノート、DVD 、映像資料などを頻繁に使用する。

【その他の重要事項】
自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。夏休みに、夏ゼミ合宿を検討する。万難を排して参加するよう求めたい。

オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運び、演習の際には指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。なお今年はメガイベントの年。イベントとメディア上の関わりを持つ受講生が生まれることも想定される。自分の体験を、しっかり記録にとどめ、演習に還元してもらいたい。
［実務経験のある教員授業］
過去 32 年間にわたって、放送局勤務でスポーツ報道に携わった。国内外のメディアのやりとりやスポーツ現場の成り立ちなど経験したことは少なくない。演習では、そこで獲得した知見やネットワークをフルに生かしていく。

【特記事項】
今年 10 月、11 月にドイツ人客員教授による短期集中の特別講義がある。昨年に続いての特講で、スポーツメディア論を英語で週に二回。講義は、二ヶ月で 2 単位を獲得するチャンスであるだけにとどまらず、現代ドイツスポーツメディア界の著名教授による欧州のスタンダードを学んでもらいたい。今季のテーマは「世界のオリンピック報道比較」。わかりやすい英語の授業、積極的に登録することを勧めたい。

【Outline and objectives】
A student who has already experienced the seminar Ⅰ could capture sports with a larger world view. Students who participate in Ⅱ should broaden their horizons to the seminar Ⅲ and try to extract a future theme of their studies. They find there some fundamental principles: ① introduction with good catch ② easy-to-understand composition ③ fresh information ④ development not to be got weary ⑤ convincing logic and ⑥ originality.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチでの学びを活用し、各自の卒業研究のテーマを設定する（演習前半）。本演習の後半は 4 年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する先行研究をレビューするとともに、各自の研究構想を立案し、それに基づいて卒業論文の序論を執筆する。

【到達目標】
受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
(1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
(2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
(3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性、仮説を示すことができる。
(4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。
(5) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。
3 年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をとおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2 年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第 3 回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第 4 回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第 5 回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第 6 回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第 7 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第 8 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わりの強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第 9 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第 10 回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第 11 回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的を踏まえ、テーマを設定する。その際、最も重要な概念を特定し、定義する。
第 12 回	プレゼンテーション資料の作成	各自が選んだテーマについて、研究構想をパワーポイントでまとめ資料を作成する。
第 13 回	ゼミ内プレゼンテーション 1	設定したテーマに関するプレゼンテーションを行う：前半グループ
第 14 回	ゼミ内プレゼンテーション 2	設定したテーマに関するプレゼンテーションを行う：後半グループ
第 15 回	秋学期の演習の概要の説明	秋学期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第 16-17 回	先行研究の検討：レビュー	2 週に渡り、先行研究（過去の卒業研究と一般の研究論文）ついて（1）文献の要約、(2) 研究群の整理、(3) 問題点の特定を行う。
第 18-19 回	先行研究の検討：発表	2 週に渡り、先行研究をレビューした結果を発表する。
第 20 回	研究テーマと重要概念	卒業研究のテーマを決めるとともに、その研究において最も重要な概念を定義し、その概念を起点として発表スライドで作成する。
第 21 回	研究テーマの発表 1	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 重要概念、(3) 目的、(4) 研究の重要性をまとめ、発表する：前半グループ。
第 22 回	研究テーマの発表 2	各自のテーマについて、(1) 研究の背景、(2) 重要概念、(3) 目的、(4) 研究の重要性をまとめ、発表する：後半グループ。
第 23 回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第 24 回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第 25 回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第 26 回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第 27 回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第 28 回	まとめ	1 年間に渡って取り組んできたゼミの学習を振り返るとともに、今後の研究の展望をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は予習を必要とします。春学期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。秋学期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
(1) 研究手法に関するレポート： 10 点（春学期）
(2) 研究テーマの発表： 10 点（春学期）
(3) 先行研究のレビュー： 20 点（秋学期）
(4) 序論（緒言、問題の所在）の執筆： 20 点（秋学期）
(5) 序論（目的、重要性）の執筆： 20 点（秋学期）
(6) 序論（概念的枠組み）の執筆： 20 点（秋学期）
合計： 100 点
【評価基準】
それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。
80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者が深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline and objectives】
This course is a seminar of sport marketing research. Students will learn how to conduct sport marketing research based on their own interests and research questions. Upon successful completion of this course, students will be able to (1) develop a proposal for their graduation theses and (2) write the introduction and method sections of their manuscripts.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

安藤 正志

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文，あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
4 年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見いだし，それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告，討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データーの報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行うグループ①	文献を検索しこれを報告する
5	関連した文献報告を行うグループ②	文献を検索しこれを報告する
6	関連した文献報告を行うグループ③	文献を検索しこれを報告する
7	関連した文献報告を行うグループ④	文献を検索しこれを報告する
8	関連した文献報告を行うグループ⑤	文献を検索しこれを報告する
9	中間発表会を行う	これまでの成果を報告する
10	中間発表会を行う	これまでの成果を報告する
11	論文指導を行う①	面談で論文指導を行う
12	論文指導を行う②	面談で論文指導を行う
13	論文指導を行う③	面談で論文指導を行う
14	論文指導を行う④	面談で論文指導を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	報告会	中間報告会
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会
17	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
18	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
19	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導①	協同実験 順番で面接指導
20	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導②	協同実験 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導③	協同実験 順番で面接指導
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導
24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導
25	報告会前半ふるーぷ	報告会を行い最終チェックをする
26	報告会後半グループ	報告会を行い最終チェックをする
27	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
28	学術大会への参加	学会へ参加し学術的雰囲気を体験する（日程未定） 順番で面接指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文に仕上げるまでの課程を学ぶ本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自関連した文献を１０論文以上検索し読む。

【参考書】
各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】
発表会の成績（30%）、論文の完成度（60%）、宿題等論文の作成のための課題（10%）

【学生の意見等からの気づき】
個人面接による指導を中心とする

【学生が準備すべき機器他】
研究に関する参考文献や図書を各自が検索しみつける。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

【Outline and objectives】
Individual graduation research guidance is conducted.
Think about the idea of research.
Think about the method of research.
Collect data.
Analyze and consider the data.
Finish research papers

HSS400IA

専門演習Ⅲ

泉　重樹

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
４年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】
スポーツ医学、特に運動器系のスポーツ外傷・障害予防に関する実験研究、実践的な取り組みや具体的な事例に対する報告等の研究を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
本ゼミでは実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認
2	研究テーマの立案 1	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
3	研究テーマの立案 2 ／検討	研究テーマのディスカッション結果から修正した新たな内容を検討する。
4	予備実験の準備	研究テーマに基づいた予備実験を計画する。
5	予備実験（機器の使い方）	予備実験を通して、実験機器の使用方法・注意点を学習する。
6	予備実験（測定練習）	実験に用いる機器を使用して、自身で実験を試みる。
7	予備実験実施	予備実験を行い、データをとる。
8	予備実験解析	予備実験結果を解析し、実験データから研究計画の検討を行う。
9	予備実験	修正内容を踏まえ、予備実験を通して研究の方向性を決定する。
10	これまでの振り返り	予備実験を振り返り、本実験へ向けた最終的な検討の上、実験計画を完成させる。
11	倫理書作成と本実験準備	倫理書を作成し、本実験を行う。
12	本実験開始	被験者・検者とともに実験を開始する。
13	本実験実施	引き続き、本実験を行う。
14	本実験実施と振り返り	実験を行いながら、データ解析を行い、結果を振り返る。

秋学期

回	テーマ	内容
15	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマに基づいたこれまでの活動のプレゼンテーションを行う。
16	本実験／追加実験	中間発表会の結果に基づき、本実験・追加実験を行う。
17	本実験／追加実験遂行	被験者・検者への協力の下、本実験もしくは追加で実験を行う。
18	本実験／追加実験（振り返り）	本実験・追加実験を行いながら、データを検討し方向性を確認する。
19	本実験／追加実験（再検討）	振り返りを踏まえ、本実験・追加実験のさらなる実施や終了を検討する。
20	本実験／追加実験（完成）	すべての本実験・追加実験を終了し、データ解析の準備を行う。
21	データ集計	本実験のデータの集計および分析を開始する。
22	データ解析	集計したデータをを解析するとともに、内容を検討する。
23	論文執筆開始	データ解析を継続するとともに、卒業論文の執筆を開始する。
24	結果の振り返りと考察	研究結果をまとめあげ、考察の執筆に取り掛かる。
25	考察の完成	卒業論文の考察を完成させる。
26	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
27	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を同領域のゼミ生達と合同で発表し、ディスカッションを行う。
28	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～14 回　研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。
15～28 回　先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中喜代次，西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法，NAP，2004
広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂，2019

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究計画書（10 %）
プレゼンテーション（デザイン発表・中間発表・卒業論文発表）（20 %）
卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
研究は一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生同士や大学院生である上級生・ゼミ等の下級生たちの協力なしには行えない。ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間達とのコミュニケーションをとりながら、皆で「卒業研究」に積極的に取り組んでもらいたい。

【Outline and objectives】
A purpose of the athletic training seminar 3 is to finish writing the graduation thesis of the athletic training and/or sports science field.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

伊藤　真紀

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰ・Ⅱの講義を通して学んだ内容から研究課題を決定し、学生自身が選んだ研究テーマについて先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし、計画的に研究を実施し、データ収集・分析、考察を行い、研究成果をまとめ卒業論文を執筆し、発表することを目的とします。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. 研究テーマの設定
2. 先行研究の検討
3. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説の設定
4. 研究方法を適切に設定し、データを収集
5. データを分析し、標本の特性と仮説の検証
6. 結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
2020 年度の授業は 4 月 22 日（水）より開始します。
学習支援システムならびにゼミ用 Drop Box に授業資料・課題などを載せますので必ず確認してください。
自らの興味に沿って研究テーマを設定し、1 年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に支持された点について準備し、記述・分析内容について演習で添削を受ける。各自の研究計画にあわせて、全体・個別に学指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。
2 回	研究計画の設定	研究遂行に関する講義、併せて再度論文の構成に関する講義を受け、各自 1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
3 回	研究テーマの設定	スポーツマネジメントに関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
4 回	序論:研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。
5 回	序論:研究の目的および重要性	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、卒業研究の目的を設定する。自身の研究の必要性・意義・従来の研究との差（独創性）について明確にする。
6 回	序論:概念的枠組み	卒業論文のデータを収集する卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
7 回	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
8 回	方法:研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境を設定し、対象とする母集団と標本抽出方法を特定する。
9 回	方法：調査票の作成	調査対象者の基本的属性、心理的要因を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17 回	結果：基本的属性と行動的特性の集計	対象者の基本的属性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析や重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に解釈し、そこから引き出した知見について記述する。仮説に対する答え、先行研究との比較検討、問題点を記述する。
23 回	考察:実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
24 回	結論	考察から言えること、仮説への答え、この研究で示されたことを結論として記述する。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	引用文献、巻末資料	引用文献や巻末資料を整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付, 書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
本年度が初年度となります。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
１年を通じて各自積極的にかつ計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
Student decide research theme based on the contents learned through the lectures of the specialized exercises I and II, find the direction from the research of the previous research on the research theme chosen by the student himself/herself. Student conduct the research in a systematic manner and aim at considering, summarizing research results, writing graduation thesis, and presenting it.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

井上　尊寛

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、卒業論文を作成することを目的とする。自らが選択したテーマに則した研究方法、調査および分析の方法などを踏まえた研究成果をまとめることを目的とする。

【到達目標】
本演習の到達目標は、自らが定めたテーマに沿った目的の設定、研究の重要性、仮説の設定、先行研究のレビューなどを適切に記載できること。適切な情報収集と分析の手法を用いて記述すること。最終的には得られた結果から結論を導くことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
年間を通して論文の執筆を計画的に進める。受講者は事前に資料を用意し、授業内にて添削を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義について学ぶ。また、各自研究計画を立てる。
2 回	研究の背景と問題点の整理	スポーツマネジメントの視点で、研究対象とする組織などが抱える課題を特定する。
3 回	研究の目的および重要性	研究課題を受け、目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的・実務的な貢献を果たすことができるのかについて検討する。
4 回	概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因を定義し、概念的枠組みについて検討する。
5 回	仮説の設定および導出根拠の記述	仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	研究環境および対象の決定	研究対象とする母集団およびサンプルを設定する。
7 回	調査計画	データ収集を行うための計画を立てる。
8 回	質問項目の検討①	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を検討する。
9 回	質問項目の検討②	調査対象者の心理的・行動的特性を測定するための要因を検討する。
10 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
11 回	統計的手法の検討	標本の特性を示すために必要な統計的な手法について学ぶ。
12 回	尺度の妥当性および信頼性の検討	研究に用いる尺度や分析の手法が統計的、内容的に妥当性や信頼性を担保しうるか検討する。
13 回	調査計画の発表準備	卒業論文の緒言、目的、方法、研究の意義などをまとめた抄録を作成する。併せてスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	スライドを用いて発表し、指摘された内容を踏まえ再度検討する。

秋学期

回	テーマ	内容
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認し、完成に向けた計画を立てる。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17 回	調査データの分析①	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を記述する。
18 回	調査データの分析②	対象者の心理的特性を分析した結果を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	仮説の検証①	分析結果（基礎集計）を用い、仮説を検証する文章を記述する。
21 回	仮説の検証②	分析結果（各種検定や回帰分析など）を用い、その結果を記述する。
22 回	考察①	得られた分析結果の考察をおこない、設定した仮説の検証をおこなう。
23 回	考察②	仮説検証およびより深い考察を行っていく。必要に応じて追加分析を行う。
24 回	実践的示唆	実務として貢献しうる結果について検討し、記述する。
25 回	研究の限界	取り組んできた研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述し、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。
27 回	最終発表の準備	論文発表のスライドを作成するとともに、卒業論文の抄録も併せて作成する。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として与えられた課題に取り組み、授業内にて添削を受けてください。授業で指摘された内容を修正し、次の課題へ取り組むように。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うために必要な機材やソフトウェア

【Outline and objectives】
This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

苅部　俊二

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマに関する報告書を学術的な論文を作成し、発表する。

【到達目標】
４年次を対象に，少人数で綿密な指導のもと，担当者（専任教員）の専門分野に即した，少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅰ，Ⅱで学んだ知識，方法論をベースとし，運動科学における研究を行い論文にまとめ，発表する。オリジナリティのあるテーマを選定し，研究計画の設計，研究の実施，データ処理などを行う。
本授業の開始は 5 月 4 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
第 2 回	演習Ⅰ・Ⅱの振り返り	演習Ⅰ・Ⅱで検討した各々の研究についての再確認を行う。
第 3 回	卒業研究　1 研究テーマの決定	卒業研究のテーマを検討・決定する。
第 4 回	卒業研究　2 研究テーマの構想発表	卒業研究のテーマについて構想を発表する。
第 5 回	卒業研究　3 研究方法の検討	卒業研究の研究方法を検討する。
第 6 回	卒業研究　4 実験・調査計画書の作成	卒業研究の研究方法の検討に基づき、実験・調査計画書を作成する。
第 7 回	卒業研究　5 実験計画の発表	実験の計画の発表する。
第 8 回	卒業研究　6 予備実験の実施	卒業研究の予備実験、予備調査を実施する。
第 9 回	卒業研究　7 実験の実施	卒業研究の実験、調査を実施する。
第 10 回	卒業研究　8 実験の経過発表	卒業研究の実験、調査の実施および経過を発表する。
第 11 回	卒業研究　9 データの収集と整理	卒業研究の実験、調査により、データを収集し、整理する。
第 12 回	卒業研究　10 データの解析	卒業研究の実験、調査により得られたデータを解析する。
第 13 回	中間発表　1 中間発表資料の作成	中間発表資料を作成する.
第 14 回	中間発表　2 中間発表	中間発表を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。
第 16 回	卒業研究　1 夏期の研究の経過発表	夏期休暇中の研究の経過・成果を発表する。
第 17 回	卒業研究　2 データの整理	卒業論文作成を行う。 収集されたデータを整理する。
第 18 回	卒業研究　3 論文構成の検討	卒業論文作成を行う。 論文構成を検討する。
第 19 回	卒業研究　4 ディスカッション	卒業論文の構成についてディスカッションを行う。
第 20 回	卒業研究　5 論文の執筆（先行研究）	卒業論文作成。 先行研究を整理する。
第 21 回	卒業研究 論文の執筆	卒業論文作成。 実験・調査の結果の解析をもとに緒言、研究方法を執筆する。
第 22 回	卒業研究 論文の執筆（考察）	卒業論文作成。 実験・調査の解析から考察・結論を導き出す。
第 23 回	卒業研究 論文の執筆（推敲・校正）	卒業論文作成。 論文の推敲・校正を繰り返し行う。
第 24 回	論文の執筆および中間発表の資料準備	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を準備する。
第 25 回	論文の執筆および中間発表資料の作成	論文の推敲・校正を繰り返し行うとともに中間発表の資料を作成する。
第 26 回	中間発表	卒業論文の進捗状況などを発表する。
第 27 回	卒業論文の完成 卒業研究発表会の資料作成	卒業論文を完成させ、卒業研究発表会の資料を作成する。
第 28 回	卒業研究発表会	卒業研究発表会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習
第 15 回：春学期の復習
第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
論文 (70%) と卒業研究発表会 (30%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって有意義な講義を行う。

【Outline and objectives】
In this seminar, students write a graduation thesis using investigative and analytical research methodologies on a topic which the individual students select.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

鬼頭　英明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、設定した研究課題について先行研究を踏まえて研究を進め、論文に仕上げる過程を体験し、卒業論文としてまとめあげることで、研究の流れと意義を学ぶことである。
研究課題を探索し、その課題に関して現在までに報告されている知見についてまとめる。そのうえで、新規性のある知見を得るための研究方法を検討し、調査の実施とともに得られた結果を分析・考察する。一連の成果を論文としてまとめられるようにする。この学びは社会にでてからでも役に立つことを学ぶ。

【到達目標】
学術論文を構成するそれぞれのパーツがどのように構成され、どのような研究手法があるのかを理解できるようにする。卒業論文を仕上げることにより、研究とは何かについて認識を深めるとともに、新たな知見をまとめ上げて報告することの重要性に気付くようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は、実施しようとする課題（研究テーマ）により進捗状況が異なるので個別に指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	課題の探索	学生の研究対象と考える領域について資料や論文を提供し、読み込む。
2	卒業研究の進め方	卒業研究の進め方について全体把握できるようにする
3	卒業研究の課題抽出	興味関心のある研究テーマについて意見交換し、研究対象について絞り込む。
4	研究テーマに関わる先行研究の方法の分析	研究テーマに関連する先行研究を読み込み、様々な研究方法があることを理解できるようにする。
5	新規となる研究課題の分析方法	先行研究を事例とし、統計学的手法など分析の進め方について理解できるようにする。
6	先行研究の報告	課題とする研究テーマに関連する先行研究について文献検索により入手し、読み込んでまとめる。
7	研究対象となる課題の絞り込みと研究方法の検討	得られた知見をもとに新規の研究課題を絞り込むとともに、研究方法について検討する。
8	質的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、質的調査の方法について検討する。
9	量的調査の統計手法の検討	分析方法のうち、量的調査の方法について検討する。
10	文献学的研究の検討	統計学的手法と取らない場合の文献学的研究、実践研究について理解できるようにする。
11	リサーチクエスチョンの設定と研究計画の立案	研究で明らかにしようとするリサーチクエスチョンの明確化と研究計画の立案をはかる。
12	予備調査	研究計画に基づき、本調査に先立つ予備調査の計画と実施。
13	予備調査の結果解析	得られた結果について解析するとともに課題を抽出する。
14	まとめ	調査方法を確定するとともに、これまでに得られた成果を整理する。
15	本調査実施に向けての研究計画の修正立案	これまでに得られた成果をもとに、本調査に向けての研究計画を再度作成する。
16	調査（実践）の実施	本調査又は教育実践の実施。
17	調査（実践）の進捗状況の確認と課題の確認	調査の進捗状況についてレポート作成するとともに、問題点について確認する。
18	調査及び実践結果の確認	得られた結果を整理・入力し、データの確認を行う。　実践については効果評価の進め方について検討する。
19	分析結果の解析と解釈	統計解析を実施する。実践については問題点の洗い出しとともに修正作業を行う。
20	結果の視覚化	得られた結果について図表として視覚化し、整理し、評価する。
21	結果と考察の作成	結果のまとめ方と考察の進め方について理解し、自分なりの考え方をレポートする。
22	関連する論文の整理	進めてきた研究と関連する内容の論文を整理し、まとめる。
23	剽窃	卒業論文執筆に際し、剽窃について理解できるようにする。
24	問題と目的の執筆指導	卒論の問題と目的に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
25	結果と考察の執筆指導	卒業論文の結果と考察に関する執筆をすすめ、疑問点を克服する。
26	卒業論文の修正	執筆した卒業論文の推敲と校正を加える。
27	論文完成	卒業論文の校正作業と課題の抽出。
28	プレゼンテーションにむけて	発表に向けてのプレゼンテーションの指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学術論文を要約する。
与えられた課題を仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教育実践をテーマとする場合は高等学校保健体育科教科書

【参考書】
教育実践をテーマとする場合は適宜参考資料を配布

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
テーマごとに学生個別に対応することで、適宜学生の意見を組み入れる。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this course is for students to graduation thesis for research on school or public health.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】
卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。
本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	卒業論文作成準備（1）	文献検索方法指導
2	卒業論文作成準備（2）	文献の読み方指導
3	卒業論文作成準備（3）	先行研究総括の指導
4	卒業論文作成準備（4）	問題の所在の導出の指導
5	卒業論文作成準備（5）	研究の目的導出の指導
6	卒業論文作成準備（6）	研究計画指導
7	卒業論文作成準備（7）	研究計画の確定
8	卒業論文作成準備（8）	倫理申請書作成指導
9	卒業論文作成準備（9）	実験（1）
10	卒業論文作成準備（10）	実験（2）
11	卒業論文作成準備（11）	実験（3）
12	卒業論文作成準備（12）	データ分析指導
13	卒業論文作成準備（13）	統計解析指導
14	卒業論文作成準備（14）	データ分析データ発表
15	卒業論文作成（1）	論文の構造の指導
16	卒業論文作成（2）	抄録作成指導
17	卒業論文作成（3）	緒言執筆指導（1）
18	卒業論文作成（4）	緒言執筆指導（2）
19	卒業論文作成（5）	方法執筆指導
20	卒業論文作成（6）	結果執筆指導（1）
21	卒業論文作成（7）	結果執筆指導（2）
22	卒業論文作成（8）	考察執筆指導（1）
23	卒業論文作成（9）	考察執筆指導（2）
24	卒業論文作成（10）	結論執筆指導（1）
25	卒業論文作成（11）	結論執筆指導（2）
26	卒業論文作成（12）	参考文献執筆指導
27	卒業論文作成（13）	全体確認推敲校閲
28	卒業論文発表	卒論を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 研究データ解析
② 調査活動
③ 学会・研究会参加
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にＥメールなどでアポイントメントをとり相談すること。
【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の 2 月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。
【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は 12 月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline and objectives】
The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習 II で決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
1：卒業論文完成までの作成過程の学習
2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
1：実験より得られたデータの分析
2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第 2 回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第 3 回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第 4 回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第 5 回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第 6 回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第 7 回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第 8 回	データの収集	データの収集をおこなう。
第 9 回	データの解析	データの解析をおこなう。
第 10 回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第 11 回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第 12 回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第 13 回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第 14 回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第 15 回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第 16 回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第 17 回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第 18 回	結果報告 実験の継続	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第 19 回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第 20 回	実験の limitation について	実験の limitation について検討する。
第 21 回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第 22 回	対象と方法の作成	方法について精査する
第 23 回	結果の作成	結果について精査する
第 24 回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第 25 回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第 26 回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第 27 回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第 28 回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定論文の精読
データの解析
学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文完成にいたる論理の構築　50 %
卒業論文　50 %

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターなど

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。

【Outline and objectives】
The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.

HSS300IA

専門演習Ⅲ

高見 京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。
主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。

【到達目標】
・解決すべき現象・問題・疑問事項などの研究課題を明らかにし、研究目的を明らかにできる。
・研究目的にそって研究計画をたてられる。
・研究計画にそってデータを収集し、分析を行える。
・得られた結果の意味や意義について考察できる。
・研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、受講者全員が 1 週間に 1 回集合し、進捗状況の報告およびディスカッションを行う。秋学期は研究テーマごとに個別指導により論文完成を目指し、完成後にはゼミ内で発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュールを確認する。
2	進捗状況の報告およびディスカッション 1	研究デザインの検討および先行研究の調査をする。
3	進捗状況の報告およびディスカッション 2	研究デザインの修正と検討をして、緒言の作成に取り掛かる。
4	進捗状況の報告およびディスカッション 3	研究デザイン発表し、議論する。
5	進捗状況の報告およびディスカッション 4	研究デザインを確定する。
6	進捗状況の報告およびディスカッション 5	調査・測定法の確認と練習を行う。
7	進捗状況の報告およびディスカッション 6	データ分析法の確認と練習を行う。
8	進捗状況の報告およびディスカッション 7	トライアルとしての調査・測定の実施する。。
9	進捗状況の報告およびディスカッション 8	実際の調査・測定を実施する。
10	進捗状況の報告およびディスカッション 9	実際の調査・測定を実施する。
11	進捗状況の報告およびディスカッション 10	調査・測定によって得られたデータ整理をする。
12	進捗状況の報告およびディスカッション 11	調査・測定によって得られたデータを分析をする。
13	進捗状況の報告およびディスカッション 12	分析したデータの結果を図表にする。
14	進捗状況の報告およびディスカッション 13	分析したデータを基に結果を記述を始める。、
15	結果	結果を完成させる。
16	考察 1	結果を受けての考察すべき内容を検討する。
17	考察 2	必要な個所への先行研究の引用をする。
18	考察 3	考察全体を精査する。
19	考察 4	考察を完成させる。
20	結果・考察を受けて 1	全体の構成を確認し、結論を導く。
21	結果考察を受けて 2	全体の論旨を確認する。
22	結果・考察を受けて 3	論文として完成させる。
23	推敲	完成させた論文を推敲する。
24	抄録の作成	学部へ提出する抄録を完成させる。
25	卒業論文の完成	卒業論文として学部へ提出する。
26	プレゼンテーションの準備	ゼミ内卒業研究発表会に向けて、プレゼン資料の作成に取り掛かる。
27	プレゼンテーション完成	プレゼン資料を完成させ発表練習をする。
28	ゼミ卒論発表会	2,3 年生の前で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方 出村 慎一 , 山次 俊介 (著)

【成績評価の方法と基準】
科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。
研究計画の作成（30%）、卒業論文 (50%)、発表 (20%)。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションによって仲間の進捗状況を知り、お互いに助け合ったり競争し合いながら卒業論文の作成に取り組む環境を作る。

【Outline and objectives】
This class is for creating a graduation thesis. Students will read the previous studies and conduct measurements and surveys. After writing the introduction and method of the dissertation, the student analyzes the data obtained by the measurement and survey and writes the results, considerations, and conclusions.
Students take the initiative in these tasks to understand the scientific approach to research and acquire a research attitude.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

永木　耕介

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体育科教育学・スポーツ教育学領域における卒業研究の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】
研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの紹介①	指導教員が「体育」の「目標論」に関する研究論文を紹介する。
2	研究テーマの紹介②	指導教員が「体育」の「カリキュラム論」に関する研究論文を紹介する。
3	研究テーマの紹介③	指導教員が「体育」の「教材論」に関する研究論文を紹介する
4	研究テーマの紹介④	指導教員が「体育」の「学習環境論」に関する研究論文を紹介する
5	研究テーマの紹介⑤	指導教員が「体育」の「学習指導論」に関する研究論文を紹介する
6	研究テーマの紹介⑥	指導教員が「体育」の「学習評価論」に関する研究論文を紹介する
7	研究テーマの紹介⑦	指導教員が「体育」の「国際比較論」に関する研究論文を紹介する
8	研究テーマの紹介⑧	指導教員が「運動部活動論」に関する研究論文を紹介する
9	研究テーマの紹介⑨	指導教員が「体育」の「教師養成論」に関する研究論文を紹介する
10	研究テーマの紹介⑩	指導教員が「体育」の「教師行動論」に関する研究論文を紹介する
11	研究テーマの設定と方法の選択①	「目標論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
12	研究テーマの設定と方法の選択②	「カリキュラム論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
13	研究テーマの設定と方法の選択③	「教材論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
14	研究テーマの設定と方法の選択④	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
15	研究テーマの設定と方法の選択⑤	「学習指導論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
16	研究テーマの設定と方法の選択⑥	「学習評価論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
17	研究テーマの設定と方法の選択⑦	「国際比較論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
18	研究テーマの設定と方法の選択⑧	「運動部活動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
19	研究テーマの設定と方法の選択⑨	「教師行動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
20	研究テーマの設定と方法の選択⑩	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
21	調査方法の指導①	質問紙調査法についてレクチャーする。
22	調査方法の指導②	観察法についてレクチャーする。
23	統計分析法の指導①	単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等についてレクチャーする。
24	統計分析法の指導②	T 検定、分散分析、多重比較等についてレクチャーする。
25	統計分析法の指導③	調査項目・内容の設定の仕方、因子分析等についてレクチャーする。
26	質的分析法の指導①	内容分析・カテゴリー分析等についてレクチャーする。
27	質的分析法の指導②	テキスト分析、記録法等についてレクチャーする。
28	まとめ方とプレゼンテーションの指導	まとめ方とプレゼンテーションの行い方についてレクチャーする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。本授業の準備学習・復習時間は各 6 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋建夫編著『新版・体育科教育学入門』、大修館書店

【参考書】
随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文内容（８０%）、卒業論文発表（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつも、学生が迷路に陥らないように指導していく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、記録用媒体（USB 等）

【その他の重要事項】
上記以外、特に無し。

【Outline and objectives】
This seminar is for students wishing to study the making of a Physical Education/Sports Education thesis from the viewpoint of setting a purpose, selecting appropriate methodology, analyzing data, and examining contents.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

中澤　史

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱにおいて設定した研究計画書に基づき、計画的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめて発表する。本演習では、卒業論文の目的、意義、方法、結果、考察等について総合的に学習する。

【到達目標】
1．研究の目的、意義、仮説について説明できる。
2．研究目的の解明に適した調査方法を設定できる。
3．適切にデータを収集・分析し、得られた結果に対して考察し結論を導き出せる。
4．卒業論文を完成し、卒業研究発表会において発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から得られた研究課題の解明を通して、卒業論文の完成に向けた作業に取り組む。受講者は授業時間外で収集した資料や分析結果等をまとめ、演習ではその進捗状況を発表し、個別指導やグループディスカッションを通して論文の完成度を高めていく。なお、授業開始日は 4/22（水）とし、授業はオンラインを用いた非対面方式による集団または個別指導で実施する。対面方式による授業を実施数する場合、事前にその旨を通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究計画の確認	本演習の進め方を理解するとともに、研究計画について確認する。
2	研究の背景	先行研究や予備調査から得た知見を踏まえて研究課題を導出し、研究目的について確認する。
3	研究の目的と意義	研究目的を達成することによって、どのような社会的意義があるのかについて確認する。
4	枠組みの整理	研究で扱う用語や重要概念を定義し、概念的な枠組みを整える。
5	研究仮説	調査対象となる要因間の関係性に関する仮説を立てる。
6	対象者の設定	調査の対象となる環境や対象者を設定する。
7	対象者の属性調査	対象者の属性を確認するためのフェイスシートを作成する。
8	調査方法の設定	対象者の心理的要因を測定する質問項目を精査し、質問紙を選定する。
9	事例調査の方法	対象者の心理的変容過程の詳細を解明するための調査方法を確定する。
10	調査資料の整理	フェイスシート、同意書、質問紙、インタビューガイド等の調査資料を整え、調査を開始する。
11	属性項目の整理	対象者の属性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
12	データの入力・分析	収集したデータを入力し、統計的方法を用いて分析する。
13	データの質的分析	収集した逐語データ等を質的に分析し、その結果を説明する図表および文章を作成する。
14	中間発表	これまでの研究成果を抄録にまとめて発表し、指摘を受けた箇所を中心に修正を図る。
15	オリエンテーション・今後の研究計画の確認	秋学期の流れを理解するとともに、今後の研究計画について確認する。
16	結果の修正	中間発表での指摘を修正した内容について確認する。
17	統計分析の結果の考察	統計的分析を施した結果について考察する。
18	質的分析の結果の精査	質的分析を施した結果の信頼性・妥当性を高めるためにトライアンギュレーションを行う。
19	質的分析の結果の考察	質的分析を施した結果について考察する。
20	全体の考察	これまでの結果およびその考察の内容について総合的に考察する。
21	今後の課題・研究の限界	研究方法における問題点、研究で解明できなかった課題、本研究の限界などについて記述する。
22	緒言の完成	すでに整理した研究の背景、目的、意義などをまとめて緒言の部分を完成する。
23	方法の完成	調査対象者の属性、分析方法等をまとめて方法の部分を完成する。
24	結果の完成	統計的・質的分析を通して得た結果を図表や文章にまとめて完成する。
25	考察の完成	総合考察としてまとめた内容を精査し、その内容を図表と文章にまとめて完成する。
26	結論・まとめ	本研究を通して導出された結論、今後の課題・研究の限界等について記述する。
27	引用文献・資料の整理	引用文献および巻末資料を整理し、卒業論文を完成する。
28	卒業論文の発表	卒業論文の内容を抄録にまとめ、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 4 時間であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。
1. 先行研究の講読、調査の実施、データの収集・分析、結果に対する考察、引用文献や資料の整理といった卒業論文の作成に関わる課題が与えられるため、授業外においてその作業に取り組んでください。
2. スポーツチームを対象としたデータの収集、分析およびその結果発表の機会が与えられるため、各グループで計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
適宜資料などを配布します。

【参考書】
1. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房　2004
2. マーガレット・サンデロウスキー著・谷津裕子・江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン　サンデロウスキー論文に学ぶ」医学書院 2013

【成績評価の方法と基準】
次の基準に従い総合評価します。
1. 卒業論文： 60 %
2. プレゼンテーション： 20 %（春学期・秋学期各 10 %）
3. グループワークによる報告書およびプレゼンテーション： 10 %
4. 授業への参画状況、各種課題等の提出物： 10 %。
※卒業論文、グループワークによる報告書、各種課題では、授業やグループでの取り組みの内容を踏まえて適切に記述できているかを評価します。
※プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの出来栄え等について評価します。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】
本演習では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施が求められます。そのため、教育実習や介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
卒業論文作成において使用するパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業から出席してください。
2. 上記の授業計画は変更される場合があります。

【Outline and objectives】
Based on the lessons learned in Seminar II, students set their own research themes, conduct research systematically, and present the results in a graduation thesis. In this exercise, students will comprehensively learn the purpose, significance, method, and analysis and consideration of the results of your graduation thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

成田 道彦

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各個人の研究テーマを決定し、資料収集の整理、分析し論文を作成する。

【到達目標】
３年次の専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
３年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論執筆に向けた年間計画についてガイダンスを行う
2	これまでの研究について考える	演習Ⅰ・Ⅱの研究を振り返る
3	研究テーマの決定１	演習Ⅰ・Ⅱの研究内容を再確認する
4	研究テーマの決定２	演習Ⅰ・Ⅱの研究から研究テーマを検討し決定する。
5	研究方法	卒業研究の研究方法を検討する
6	研究計画	卒業研究の研究方法の検討から研究計画を立てる
7	先行研究１収集	研究テーマに関する先行研究を図書館・インターネット等で収集する
8	先行研究２整理	収集した先行研究の整理を行う
9	先行研究３分析	収集した先行研究を分析する
10	資料収集１収集	研究テーマに関する資料を図書館・インターネット等で収集する
11	資料収集２整理	収集した資料の整理を行う
12	収集資料３分析	収集した資料を分析する
13	進行状況の確認	先行研究・収集資料の分析から卒業研究全体の流れを考える
14	夏季休暇中の計画	現在の進行状況から夏季休暇中の研究計画を立てる

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	夏季休暇中の研究報告と秋学期の計画を立てる
16	進行状況の確認	研究状況を確認し内容の検討・修正を行う
17	資料の整理	収集資料・データの整理を再度行う
18	中間報告１	中間報告の準備を行う
19	中間報告２	中間報告を行う
20	中間報告３	中間報告の内容の確認と追加資料について検討する
21	中間報告４	中間報告の修正点について検討する
22	卒業論文執筆１	中間報告をもとに卒業論文を完成させる
23	卒業論文執筆２	完成した論文の校正を行う
24	卒業論文執筆３	完成した論文の校正を繰り返し行う
25	卒業論文発表	ゼミで論文発表を発表する
26	確認１	卒業論文の内容・構成を再度検討する
27	確認２	卒業論文の再校正を行い最終確認する
28	卒業論文提出	卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文のテーマについての資料収集と分析を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
卒業論文提出（８０％）卒論発表会（２０％）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けて計画性を持って指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Students progress on their research themes, collect, organize and analyze data and materials and complete a thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

Nemes Roland

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】
3 年次の専門演習 II の研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日とし, この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間計画と進み方について
2	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する
3	研究課題の設定①	テーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する
4	研究課題の設定②	テーマに関する資料を検索し、研究課題を設定する
5	資料収集と分析①	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する
6	資料収集と分析②	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する
7	資料収集と分析③	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する
8	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受け、グループで研究計画書を作成する
9	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする
10	個人研究の発表	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する
11	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う
12	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する
13	収集データ・分析結果の発表	収集データを分析して発表し，全体で論議する
14	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	進捗状況に応じて、卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する
15	ガイダンス	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16	中間発表②	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。
17	論文の執筆:結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する
18	論文の執筆:考察	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する
19	論文の執筆:全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う
20	卒業論文作成①	個人的な課題解説
21	卒業論文作成②	前回の遂行を踏まえて卒業論文の内容・構成を再度検討する
22	卒業論文作成③	進捗状況に応じて経過報告する
23	卒業論文作成④	進捗状況に応じて経過報告する
24	卒業論文作成⑤	進捗状況に応じて経過報告する
25	卒業論文作成⑥	進捗状況に応じて経過報告する
26	論文発表	完成した卒業論文を発表し、意見交換を行う
27	最終確認①	卒業論文の内容・構成を再度検討し、抄録作成する
28	最終確認②	卒業論文の内容・構成を再度検討し、抄録作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文のテーマについての参考文献収集と分析を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス (ワード、エクセル、パワーポイント)

【Outline and objectives】
The objective is the course to learn and utilize necessary academic skills in order to write a university thesis in coaching related subject.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

平野　裕一

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、改めて研究デザインを検討、作成し、必要となる測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。

【到達目標】
・研究デザインの検討・作成
・測定・調査の実施
・先行研究の検討
・論文の緒言、方法の作成
・測定・調査の分析
・結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
個別対応で到達目標をクリアしていく。
習熟した測定法を専門演習Ⅰ、Ⅱで指導する。
春学期前半はオンラインでの開講となる。
各回の授業計画の変更については、学習支援システムに掲示する。
本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的な授業方法などを学習支援システムに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュール確認 個別対応の方法確認
2	卒業論文の作成に向けて 研究の意義と目的	各自研究デザインの意義と目的を検討してプレゼンテーションを行う
3	卒業論文の作成に向けて 研究デザインの再考	研究デザインの課題の提示を受けて、研究デザインを再考する
4	卒業論文の作成に向けて 研究デザインのプレゼンテーション	再度、各自研究デザインのプレゼンテーションを行う
5	デザインの検討を受けて 先行研究の調査と背景・意義の確認	先行研究を調査し、各自の研究の背景と意義を確認する
6	デザインの検討を受けて 緒言のプレゼンテーション	緒言を作成してプレゼンテーションを行う
7	デザインの検討を受けて 仮説の確認と緒言の完成	仮説を確認して緒言を完成させる
8	調査・測定法の原理	調査・測定法の原理を理解する
9	調査・測定法の手順理解	調査・測定法のマニュアルを理解してデータ取得の練習をする
10	調査・測定法のプレゼンテーション	調査・測定法の原理、使用法、使う指標についてプレゼンテーションを行う
11	調査・測定のための統計理解	データを分析するための統計を理解する
12	調査・測定データの分析	データを使って分析を試みる
13	調査・測定データのプレゼンテーション	分析したデータのプレゼンテーションを行う
14	事前の調査・測定の実施	トライアルとして調査・測定を実施する
15	事前の調査・測定データの分析	トライアルとしての調査・測定データを分析する
16	事前の調査・測定データのプレゼンテーション	トライアルとしての調査・測定データのプレゼンテーションを行う
17	実際の調査・測定のための方法検討	研究の方法を記述し、検討する
18	実際の調査・測定の実施	実際の調査・測定を実施し、データを取得する
19	実際の調査・測定のプレゼンテーション	実際の調査・測定のデータを分析してプレゼンテーションを行う
20	緒言と方法の再検討	改めての緒言と方法を検討する
21	方法における図表の作成	方法に使う図表を作成する
22	研究結果の記述	結果に使う図表を作成し、結果までを記述する
23	考察の内容の検討	結果を受けての考察すべき内容を検討する
24	先行研究の引用法	必要な個所へ先行研究を引用し、その整合性を確かめる
25	考察の完成	考察全体を精査する
26	結論の導出	全体の構成を確認し、結論を導く
27	研究の限界と実践への応用	研究の限界と実践への応用を記述し、全体の論旨を確認する
28	卒論の完成	緒言から結論までの整合性を確認して卒論を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別対応になるので、対応の前後には各自課題を検討して臨む本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文を作成する段階でのプレゼンテーション４０％、卒業論文のできばえ６０％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
できる限りオフィスアワーを増やして個々との対応を密にする。

【学生が準備すべき機器他】
データ分析のためのソフトウエア（エクセルなど）、プレゼンのためのソフトウエア（パワーポイントなど）。

【その他の重要事項】
研究計画を立てた段階で専門演習Ⅰ、Ⅱでプレゼンする。

【Outline and objectives】
For the graduation thesis, research design is examined again. In addition to the reading and understanding the references, measurements and/or survey are carried out several times. Thereafter, introduction, procedures, results and discussion of the thesis are created. Personal meeting on the thesis is scheduled for each student.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

林　容市

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起して，先行研究のレビューから研究の方向性を見いだし，これまでに修得した知識，経験，手法等を用いて実際に情報収集，データ収集・分析，文章作成を行い，卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
1. 研究テーマ・課題を設定でし，適切な研究計画を立案できる。
2. 妥当な方法を用いてデータ収集・分析し，適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して，論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し，グループでミニ研究を行い，論文作成に向けた準備を行います。その後，研究課題・研究仮説の設定，実験・測定・調査，統計解析方法を検討して研究計画書を作成し，全体で論議を行います。計画が立案した後は，各自でデータ収集や分析を行い，結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ，内容のプレゼンテーションを行います。

なお，春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 23 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	複数のグループを設定し，この週の担当のグループがミニ研究の計画を発表した上で，その内容に関して全体で論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	前回に引き続き，この週の担当グループがミニ研究の計画を発表し，その内容に関して全体で論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに，データ分析，結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し，まとめる。
第 15 回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第 16 回	研究計画発表	研究計画を発表し，問題点などを含めて全体で論議する。
第 17 回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に関係する機器や方法を確認し，実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第 18 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する。
第 19 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し，全体で論議する。
第 20 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し，発表する。
第 21 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 22 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 23 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し，意見交換を行う。
第 24 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う。
第 25 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ，発表する。
第 26 回	プレゼンテーション（1）	履修学生の中で順番を設定し，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第 27 回	プレゼンテーション（2）	前回に引き続き，この週の担当学生が卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う。
第 28 回	口頭発表練習	指定の時間内で卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行い，討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での予習・復習の作業が，論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って，資料作成や発表準備を行って下さい。
また，個人研究，グループ研究共に，各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など，必要な作業をしてください。これらの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
Thomas J. R. and Nelson J. K.（田中 喜代次 訳）. 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村愼一，山下秋二，佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則，脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏，山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法―方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】
1）研究実施状況・研究論文の内容： 70%，2）発表・質疑応答の内容 20%、3）発表への質問状況・論議への参加状況： 10%，として総合評価します。
なお，当面の間，オンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更します。
具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度担当していないため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・シラバスの内容については，授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to write a graduation thesis. To achieve this objective, students raise their research questions and experimental designs, as well as, collect and analyze data based on the knowledge, experience, and methods learned in previous classes.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本 浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly ｜ 配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象とした集中授業。メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、組織論。自分のテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱで掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。
自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】
テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、実際に試すという能動的なアクションを加えて、より深い成果に結びつける。
早い段階での工程表の設定。
テーマの決定と論文執筆の進め方の把握。
先行研究選択と分類、評価。
調査・研究方法の検討と確定。
調査・研究。
執筆から検証。アブストラクト。キーワード抽出。プレゼンテーション制作。
最低目標 20000 字。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
集中講義の形式で、随時指導を基本原則とする。順序立てて言えば、①テーマの設定、②工程表の設計、③先行研究のチェックと読み込み、④研究方法の構築、⑤資料や調査の方法検討、⑥執筆と進んでいく。追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもういちど見渡すこと。しかも自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れない。構築した理論に基づき予め想定したイメージと，現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない筆致で成果が示されるかを問う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	３年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋と千個研究分析	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る一方で先行研究の検証に取りかかる。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出（必須）。
4	先行研究分析	先行研究を読み込んだ結果を提示し、それを検証する。
5	調査・研究①	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。工程表チェック（必須）。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読の延長上で、文献の分析のあり方を問う。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、法・経済・政治との関わりをチェックする。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、社会の要請に目を向けた分析を行う。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、国外他研究者の論文をベースに調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、メディアの論調、国内の専門家の著作などにより調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象、新たに明らかになった点をチェックし手を加える。
14	プレゼンテーションと相互議論、夏休みの計画起案	ここまでの研究の成果をプレゼンにまとめ、卒論執筆者同士で互いに議論を深める。

秋学期

回	テーマ	内容
15	進捗状況報告①	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。
16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を論文構成の理想型を意識して継続する。
18	継続研究④	アブストラクトを中心に全体像の捉え直しをする。
19	継続研究⑤	論文に引き込んだ表やデータの論旨との整合性を意識して研究を継続する。
20	継続研究⑥	同系論文との比較で不足する軸を確かめながら、研究を継続する。
21	中間報告④	研究成果を交互に発表し、演習生同士の意見交換を行う。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
26	審査と発表②	同僚学生の意見集約をした上で研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
27	審査と発表③	批判的な指摘に答える形で研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
28	審査と発表④	最終提出に向けた研究発表の確認と質疑応答（複数名）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論執筆には、テーマの設定によって時間的なずれが生じることがある。早め早めの対応が、優れた論文執筆の基本的な要件だ。うちに籠もらず、様々な関連組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつに限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。演習の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。
ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】
主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にパワーポイントなどを使ってプレゼンテーションを求める。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼し、論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうか。一方的であったり、思い込みに資料を強引にあわせるような論法に陥らないこと。研究を待つまでもなく誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないこと。
評価配分：卒業論文 80 % プレゼンテーション作成 10 % 工程表 10 %。

【学生の意見等からの気づき】
「もっと早く取りかかっていれば良かった」専門演習Ⅲ履修生からたびたび発せられた言葉だ。「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒論執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは強い探究心とこれまでの積み重ねでそれなりの推力を発揮できる。後手後手に回りがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意しながらエンジンの回転数を上げていきたい。一人一人のテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。

【学生が準備すべき機器他】
研究室で、随時スクリーンを使っての検証ができる。必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くこと。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告すること。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については担当教官からの指示も準備しておきたい。

【その他の重要事項】
ⓐ引用に対して、必ず出典や URL を残しておくことⓑ写真や材料をことあるごとに集めておくⓒ人の声を聞いたら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておく。そうしたデータが、論文の執筆で大きな助けになる。専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。とかく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気持が傾くからだ。論文のテーマを自分の将来設計と連動させられるようであれば、これから先進む企業や組織から独自の視点を引き出すことが可能だ。その意味で、テーマ設定には熟考を求めたい。執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。
「高等教育の負担軽減制度に係る『実務経験のある教員によ授業配置』関する対応」

法政大学専任教員になる前に 32 年間にわたって放送の現場に従事。スポーツ報道、スポーツメディアの現場経験は、国の内外を問わず豊富に所持している。そこで得た知見を元に、活字や番組に現れない現実社会の構造を見据えた上での指導を実施する。

【特記事項】
10 月、11 月の 2 ヶ月間、ドイツ人客員教員が週 2 回のペースで特講を設定する。英語での講義だが、メディアに関わる卒論執筆者は、授業に参加することを強く勧めたい。広い視野から生まれた世界観を学ぶとともに滅多にないチャンスを有効に使ってもらいたい。

【研究テーマに関して】
ある時期、就活との同時並行は避けて通れない。内定を受けた場合には、その先の世界に自分の研究を重ね合わせることができるのかどうか検討してみる。少しでも重なる部分があれば、意欲的な研究を引っ張る牽引車になってくれることがある。

【Outline and objectives】
Intensive Seminar for fourth graders. Media, journalism, communication, organization theory. While setting your own theme, surveying, collecting information, analyzing, based on the methodology delved down by the research in the seminar Ⅱ, writing a graduation thesis and producing a powerpoint work as presentation.
To take up the theme that you were studying in your seminar I, repeatedly researching during the seminar Ⅱ, which has been holding since high school students, it could help you strongly with multifaceted and deeper logic on your thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

吉田　政幸

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】
本演習の到達目標は以下のとおりとする：
1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の開始日は 4 月 24 日（金）とする。
1 年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が 1 年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：研究の背景と問題点の整理	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定するとともに、未解明の研究課題を特定する。
3 回	序論：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
4 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
5 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
7 回	方法：質問項目（基本属性）	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
8 回	方法：質問項目（心理的要因）	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
9 回	方法：調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。

15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
17 回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
23 回	考察：セグメント別の考察	より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で実施し、場合によっては追加分析を行う。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】
各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
テーマ発表： 10 点
調査計画の発表： 10 点
中間発表： 10 点
最終発表： 20 点
卒業論文（①序論、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）： 50 点
合計： 100 点
【評価基準】
4 回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。
100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。
80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。
60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。
40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。
20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】
研究（research）とは、繰り返し（re）探求（search）を続けることです。1 年を通じて計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
This course is an advanced seminar to write a graduation thesis in the fields of sport management. Students will (1) understand the purpose, importance, and benefit of a graduation thesis, (2) conduct research focusing on their own interests, (3) collect and analyze data in the sport industry, and (4) interpret conclusions drawn from their findings. Upon successful completion of this course, students will be able to submit their theses that are worthy of being considered as sport management articles.

LIN200IA

英語演習 I

相馬　美明

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】
カテゴリ：専門演習・演習
開講時期：年間授業/Yearly ｜ 配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず何より数多くの問題をこなすことで問題に慣れ、その問題の傾向と対策について自ら考える。

【到達目標】
精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には教科書の順序にしたがって進められるが、教科書のみならず、学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。要は、一年かけて自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業の開始日は 4 月 21 日〜27 日までの該当の曜日とし、
この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Pre-test (1)	Pre-test (1)、テクストのやり方、使い方の確認
3	Pre-test (2)	Pre-test (2)、テクストのやり方、使い方の確認
4	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem 1964 年に制定された公民権法について
5	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem 1964 年に制定された公民権法について
6	Short Conversations	Short Conversations　大学や普段の生活に関連した会話
7	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine　ある細菌についての歴史
8	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine　ある細菌についての歴史
9	Looking for Reference books in the library	Looking for Reference books in the library　図書館での学生と司書の会話
10	American Insurance System	American Insurance System　米国の保険制度
11	American Insurance System	American Insurance System　米国の保険制度
12	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor　大学教授による授業のオリエンテーション
13	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor　大学教授による授業のオリエンテーション
14	まとめ	まとめ　春学期の総復習

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認　予習箇所確認など
16	Financial Crisis	Financial Crisis　世界の経済危機
17	Financial Crisis	Financial Crisis　世界の経済危機
18	Conversation between a Professor and a Studen	Conversation between a Professor and a Student　学生と教授の会話
19	Conversation between a Professor and a Student	Conversation between a Professor and a Student　学生と教授の会話
20	Native American	Native American　ネイティブアメリカンのカジノ経営
21	Native American	Native American　ネイティブアメリカンのカジノ経営
22	The Civil War	The Civil War　南北戦争について
23	Environmental Problem	Environmental Problem　温暖化の真相
24	Environmental Problem	Environmental Problem　温暖化の真相
25	Astronomy	Astronomy　月の誕生について
26	Astronomy	Astronomy　月の誕生について
27	Post-test (1)	Post-test (1)　既存の学習事項確認
28	Post-test (2)	Post-test (2)　既存の学習事項からの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Power-up Trainer for the TOEFL ITP (CENGAGE Learning) , およびプリント使用

【参考書】
授業内で適宜、紹介する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %），レポート（10 %），平常点（20 %），発表点（10 %）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。
出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更となる。
具体的な方法と基準に関しては、今後、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline and objectives】
This course aims to help students improve their English proficiency through reading articles on current topics and also focuses on transferable literacy skills that will assist you in academic writing. Attendance is mandatory, your active participation will be needed.

LIN200IA

英語演習Ⅱ

松下　晴彦

サブタイトル：　**【2017 年度以前入学生対象】**
カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得すること、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。
春学期の少なくとも前半はオンライで開講となる。それにともなう各回の授業計画変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とする。学習方法は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Unit 1	Introducing Yourself
3	Unit 2	Introducing Companies
4	Unit 3	Explaining Your Role
5	Unit 4	Introducing Products
6	Unit 5	Checking Information
7	Unit 6	Giving Your Opinion
8	Unit 7	Making Requests
9	Unit 8	Asking Permission
10	Unit 9	Making Invitations
11	Unit 10	Making Appointments
12	Unit 11	Canceling and Rescheduling
13	Unit 12	Describing Locations
14	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験と解説

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	授業の紹介等
16	Lesson 1	初めて会う人と待ち合わせ
17	Lesson 2	会議・商談で自己紹介する
18	Lesson 3	客先を同僚に紹介する
19	Lesson 4	電話で：ヴォイスメール
20	Lesson 5	電話で：初めての人と
21	Lesson 6	客先に訪問して
22	Lesson 7	海外出張：飛行場でチェックイン
23	Lesson 8	入国審査・通関
24	Lesson 9	ホテルで
25	Lesson 10	会議で
26	Lesson 11	アポをとる
27	Lesson 12	雑談
28	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜13 回： Web 動画を使ってリスニング、テキストの予習、前回授業の復習
第 14 回：春学期試験対策の総復習
第 15 回：特になし
第 16〜27 回：自習用 CD を使いリスニングする、およびテキストの予習、前回授業の復習
第 28 回：秋学期試験対策の総復習
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期『Go Global』Garry Pearson （成美堂:2019）税別： 2,400 円
秋学期『ビジネス会話で学ぶアメリカ文化』Todd Jay Leonard （成美堂）税別： 2,000 円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30 %
授業内小テスト： 30 %
定期試験： 40 %
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。
春学期の少なくとも前半はオンラインで開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ビジネスで役立つ英語、知識が学べた、という意見が頂いた。学生の役に立つ授業を展開できるように今後も努力します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
大学生に相応しい英語力は必須である。
受講を希望する学生、興味がある学生は必ず初回の授業に出席すること。
演習が主となるので全出席が期待されている。
なお、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The course will focus on helping students develop their command of English used in the bisiness world to communicate better with each other.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅰ

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**2〜4 年次**／**2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・ 視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・試験 40%
・小レポート・小テスト 40%
・学習指導案 10%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅰ

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　|　配当年次／単位：**2〜4 年次**／**2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり①	学習形態の考え方と 具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・ 視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/ 学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
　以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
　本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・試験 40%
・小レポート・小テスト 40%
・学習指導案 10%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	単元内容 (2)	高等学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・保健科教育の基礎 (教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・試験 35 %
・小レポート・小テスト 30 %
・学習指導案 25 %
・授業で求める発言・発表・態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand, purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health Education.In these lectures I talk about the basic knowledge of Health Education making use of ICT and teaching materials.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU200IA

保健体育科教育法Ⅱ

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領 要点 (1)	中学校 (保健分野) 目標
4	学習指導要領 要点 (2)	高等学校 (科目保健) の目標 ヘルスプロモーションの意義
5	単元内容 (1)	中学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
6	単元内容 (2)	高等学校 (4 単元) における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・保健科教育の基礎 (教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・試験 35 %
・小レポート・小テスト 30 %
・学習指導案 25 %
・授業で求める発言・発表・態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures will make you understand, purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health Education.In these lectures I talk about the basic knowledge of Health Education making use of ICT and teaching materials.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅲ

永木　耕介

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水 1/Wed.1**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業①「体つくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業②「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
14	総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
中学保健体育　(学研)
最新高等保健体育　(大修館書店)

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
保健体育科教育法（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）、プレゼンテーション（３０％）、レポート点（２０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.

EDU300IA

保健体育科教育法Ⅳ

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力，責任などを認識・理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その後、学生同士で互いに評価し振り返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。学習支援システムにおける授業開始は 4/23 とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校 1 単元　高等学校 1 単元)
7	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校 3 単元　高等学校 2 単元)
8	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校 2 単元　高等学校 3 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校 2 単元　高等学校 3 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校 3 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、空気・飲料水 (中学校 4 単元　高等学校 4 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	ごみ処理・上下水道、食品安全、保健活動 (中学校 4 単元　高等学校 4 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書 (保健部分) を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
・保健科教育の基礎　(教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案 (模擬授業前/振り返り後)40%
・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
・模擬授業者への授業評価 (コメント)20%
・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと (良かった点)、改善すべきこと (改善点) を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

【Outline and objectives】
These lectures recognize and understand the qualities, abilities, and responsibilities of teachers through the preparation of instructional plans(Health Education) and the experience of mock classes,and bring up an educational practice attitude.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】
教材研究、学習指導案の作成、教壇実習 (模擬授業) の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した４年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 (４年生とともに)
3	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成 教壇指導練習 (４年生とともに)
4	模擬授業① 体育 (体つくり運動) 及び省察	領域：体つくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業② 体育 (器械運動) 及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業③ 体育 (陸上競技) 及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業④ 体育 (水泳) 及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業⑤ 体育 (球技) 及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業⑥ 体育 (ダンス) 及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業⑦ 保健 (食事、運動・休養)	保健 (主に日常生活の在り方) 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業⑧ 保健 (喫煙、飲酒、薬物乱用)	保健 (主に嗜好品) 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業⑨ 保健 (結婚、妊娠・出産、避妊法)	保健 (主に性教育) 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業⑩ 保健 (大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み)	保健 (主に環境) 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成 (模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(40%)
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
・4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須　遅刻・無断欠席は厳禁とする
・教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU300IA

教育実習（事前指導）

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4 年次／単位**
曜日・時限：**金** 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】
教材研究、学習指導案の作成、教壇実習 (模擬授業) の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した４年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 (４年生とともに)
3	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成 教壇指導練習 (４年生とともに)
4	模擬授業① 体育 (体つくり運動) 及び省察	領域：体つくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業② 体育 (器械運動) 及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業③ 体育 (陸上競技) 及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業④ 体育 (水泳) 及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業⑤ 体育 (球技) 及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業⑥ 体育 (ダンス) 及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業⑦ 保健 (食事、運動・休養)	保健 (主に日常生活の在り方) 担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業⑧ 保健 (喫煙、飲酒、薬物乱用)	保健 (主に嗜好品) 担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業⑨ 保健 (結婚、妊娠・出産、避妊法)	保健 (主に性教育) 担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業⑩ 保健 (大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み)	保健 (主に環境) 担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成 (模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(40%)
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成 (20%)
・4 年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度 (10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野 (体育・保健) を決めるため参加必須　遅刻・無断欠席は厳禁とする
・教育実習事前指導は、○ × の評価となる (× の評価を受けると、次年度の実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用します

【Outline and objectives】
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.

EDU400IA

教育実習（高）

林　園子

カテゴリ：
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **3 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (2〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教育実習（中・高）

林　園子

カテゴリ：
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 5 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次秋学期に行われる「事前指導」において、模擬授業を中心に教職課程に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4 年次春学期 (または秋学期) に教育実習に行き、教育現場を学び、秋学期に行われる「事後指導」において、教育実習を振り返り、将来教育現場で働くために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導 (現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導 (3 年次)	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習 (3〜4 週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業 (教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会 (研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3 年次事前指導評価 (20%)
・実習校の指導教員による採点 (50%)
・事後指導 (事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート)(20%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート (10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline and objectives】
First,these classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course. Next,students go trial teaching at different schools and gain experience in the field of education. Finally,students evaluate their trial teaching experience and put it to use to improve their practical skills to work in the field of education from now on.

EDU400IA

教職実践演習

林　園子

カテゴリ：**教職講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション (人の前に立つこと) の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「生徒指導」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は 3 年生の「教育実習 (事前指導)」になっている
その場にも参加することがあるため、できる限り、教育実習 (事前指導) 及び教職実践演習を連続で参加できること
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】
4 年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【Outline and objectives】
This information is those who want become Health and Physical Education teachers at Junior High School or High School in the future.These classes make up for a deficiency of knowledge,skill,caliber and capability of teachers.The teacher training course is completed at university in a 4 year course.

法政大学
HOSEI University